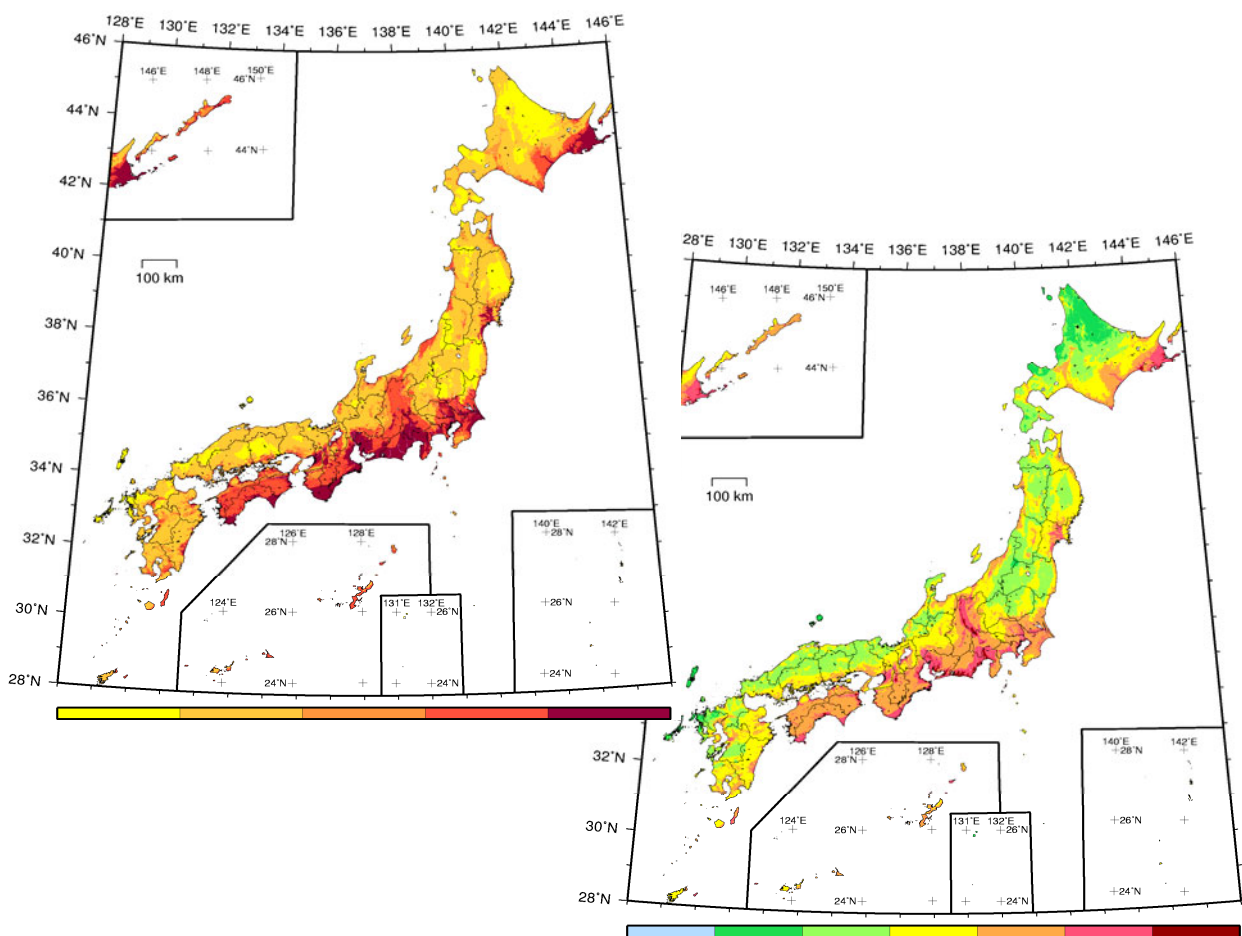


全国地震動予測地図 別冊 1

都道府県別確率論的地震動予測地図



平成 21 年 (2009 年) 7 月

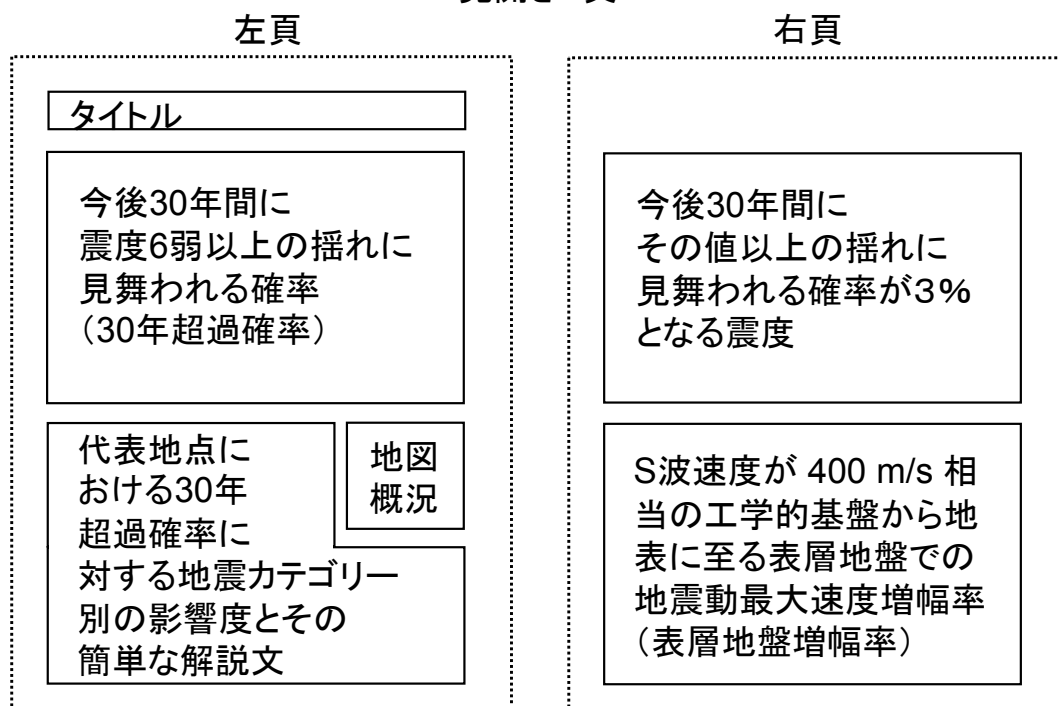
地震調査研究推進本部地震調査委員会

本書について

本書は、身近な地域ごとに「確率論的地震動予測地図」を見ていただくために用意されたものです。見開き2頁毎に、各都道府県(北海道は各支庁、一部の島嶼部は別頁)の地図と簡単な解説をまとめてあります。各見開き2頁の内容は、次のようになっています。

- ・タイトル
- ・今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率(30年超過確率)
- ・今後30年間にその値以上の揺れに見舞われる確率が3%となる震度
- ・S波速度が400 m/s相当の工学的基盤から地表に至る表層地盤での地震動最大速度増幅率(表層地盤増幅率)
- ・各都道府県(北海道は各支庁)の代表地点、すなわち
 - 東京都：都庁の位置
 - 道府県：道府県庁所在地の市役所の位置
 - 北海道各支庁：支庁の庁舎位置における、今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率(30年超過確率)に対する地震カテゴリー別の影響度の円グラフ(小数四捨五入した整数値を付記)
 - カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 - カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 - カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震
- ・地図概況
- ・影響度と支配的な地震に関するごく簡単な解説文
 - 代表地点名には確率が高い(3%以上)、やや高い(0.1%~3%)を付記

見開き2頁



- ※ 本書における地震発生確率・地震動超過確率の算定基準日は、平成21年(2009年)1月1日です。
- ※ 本書に掲載した地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(空間データ基盤)及び基盤地図情報を使用しています。(承認番号 平20業使、第638号)
- ※ 本書では、日本測地系を使用しています。
- ※ 本書に示した行政界は、平成21年(2009年)1月1日時点のものです。
- ※ 日本領土のうち、南鳥島と沖ノ鳥島では、計算に必要なデータが整備されていないため、地図を作成していません。
- ※ 湖沼・河川は、白色に表示されています。
- ※ モデル計算条件により確率がゼロのメッシュも、白色に表示されています。

索引

北海道地方	北海道	2
	石狩支庁	4
	渡島支庁	6
	檜山支庁	8
	後志支庁	10
	空知支庁	12
	上川支庁	14
	留萌支庁	16
	宗谷支庁	18
	網走支庁	20
	胆振支庁	22
	日高支庁	24
	十勝支庁	26
	釧路支庁	28
	根室支庁	30
	根室支庁(北方四島)	32

中部地方	新潟県	64
	富山県	66
	石川県	68
	福井県	70
	山梨県	72
	長野県	74
	岐阜県	76
	静岡県	78
愛知県	80	

近畿地方	三重県	82
	滋賀県	84
	京都府	86
	大阪府	88
	兵庫県	90
	奈良県	92
	和歌山県	94

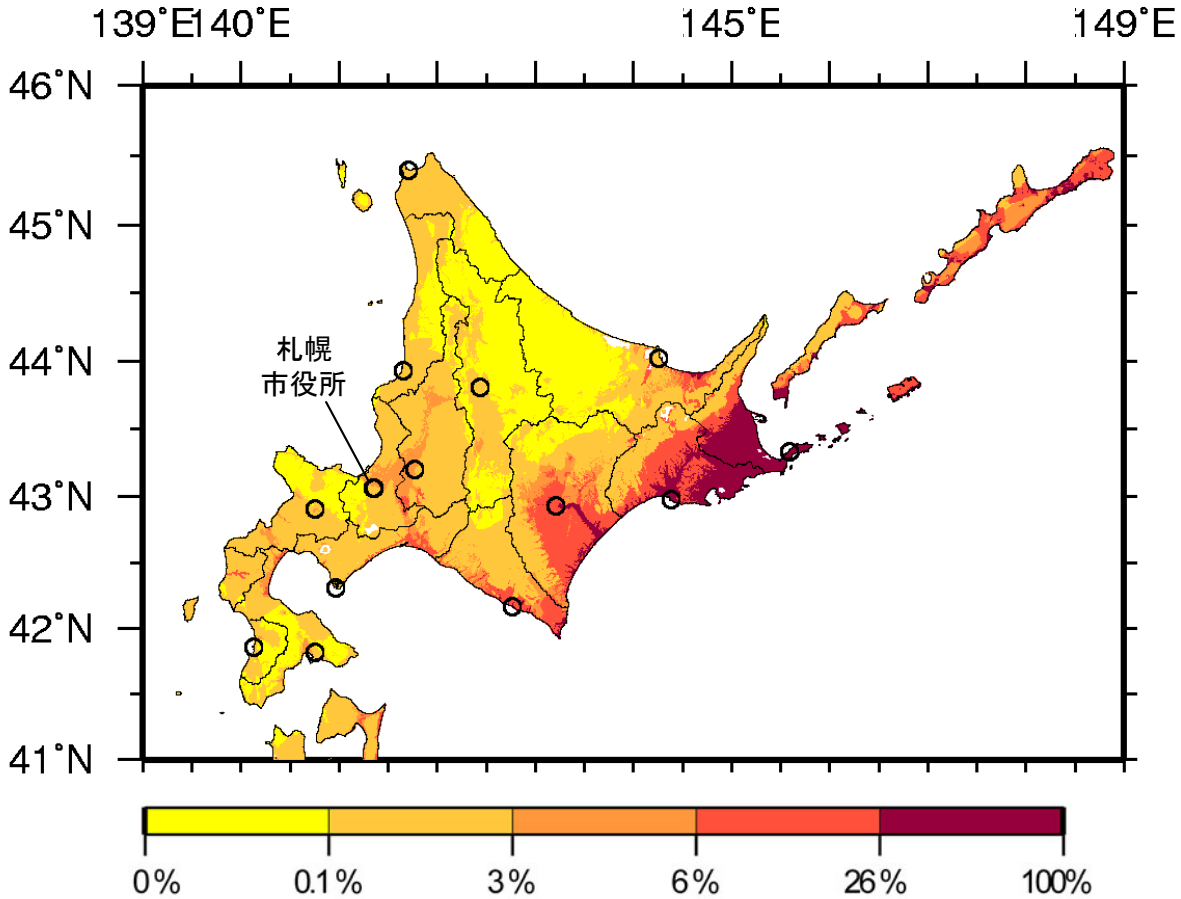
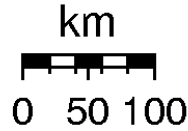
東北地方	青森県	34
	岩手県	36
	宮城県	38
	秋田県	40
	山形県	42
	福島県	44

中国・四国地方	鳥取県	96
	島根県	98
	岡山県	100
	広島県	102
	山口県	104
	徳島県	106
	香川県	108
	愛媛県	110
高知県	112	

関東地方	茨城県	46
	栃木県	48
	群馬県	50
	埼玉県	52
	千葉県	54
	東京都	56
	東京都(伊豆諸島)	58
	東京都(小笠原諸島)	60
	神奈川県	62

九州・沖縄地方	福岡県	114
	佐賀県	116
	長崎県	118
	熊本県	120
	大分県	122
	宮崎県	124
	鹿児島県	126
	鹿児島県(奄美地方)	128
	沖縄県	130
	沖縄県(宮古島・八重山地方)	132
	沖縄県(大東島地方)	134

北海道



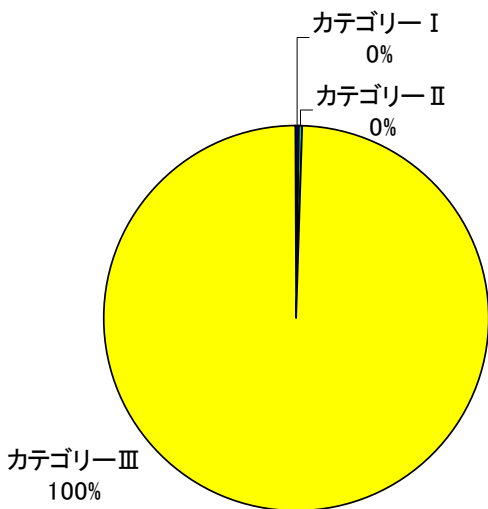
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

北海道の南東側（太平洋側）では、海溝型地震（カテゴリーⅠ、Ⅱ）の影響により、確率・震度ともに大きくなっています。また山地に比べると、盆地や平野部、河川沿いでは、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

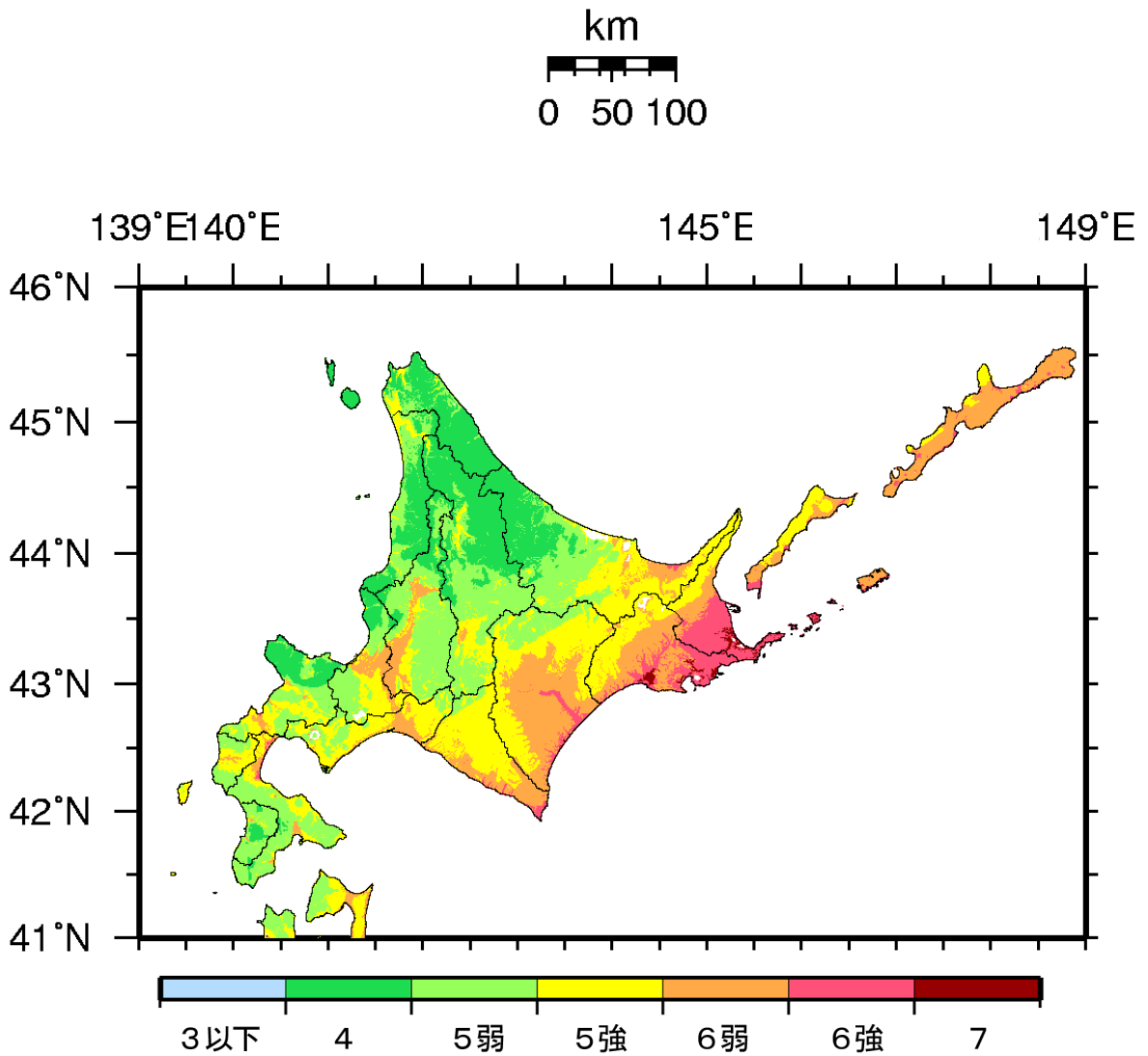
札幌市役所：やや高い。

主要活断層帯の地震（カテゴリーⅢ）の影響度が最も高くなっています。特に地震発生確率が高い石狩低地東縁断層帯による影響が大きいと考えられます。

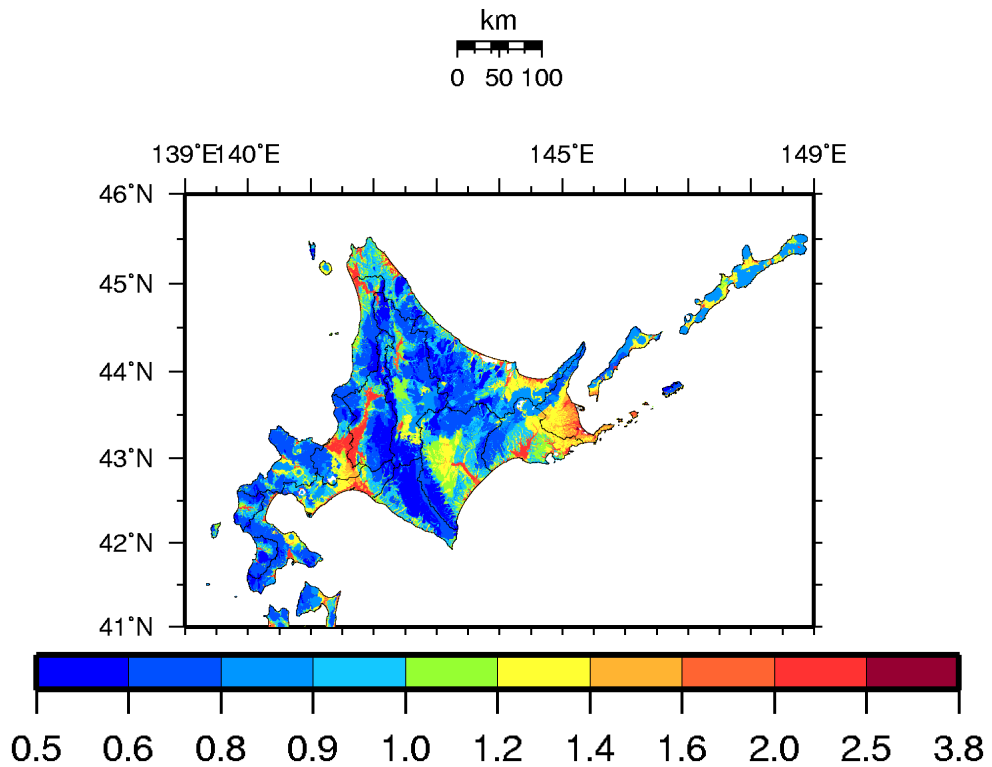


カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

札幌市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する地震カテゴリー別の影響度

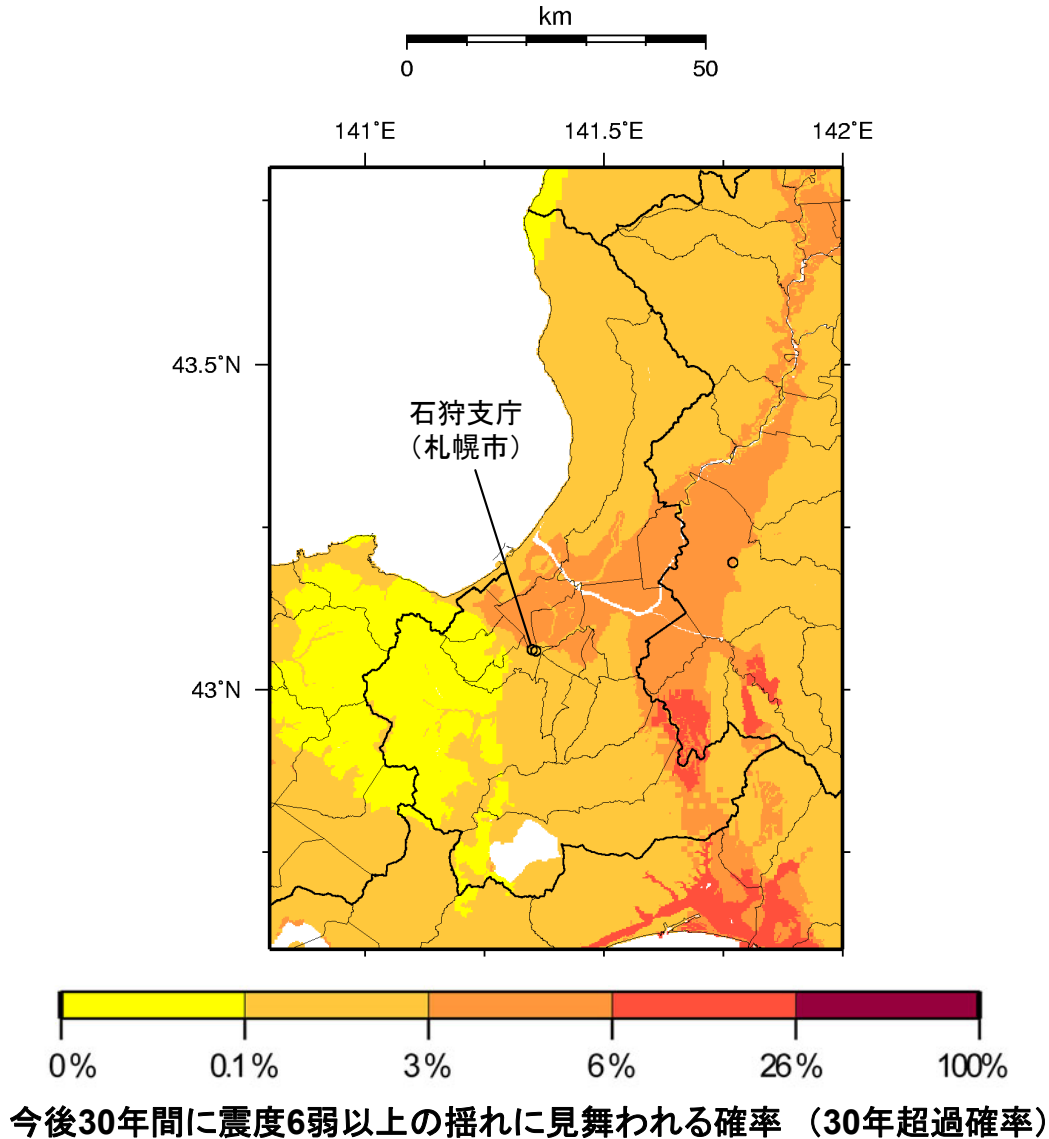


今後30年間にその値以上の揺れに見舞われる確率が3%となる震度



表層地盤増幅率

石狩支庁

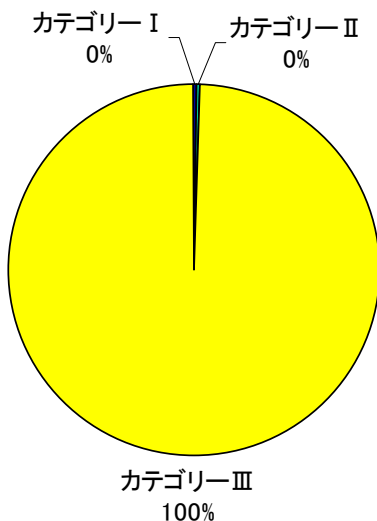


地図概況

西部や北部の山地（増毛山地など）に比べると、中央部の石狩平野では地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。東側ほど、石狩低地東縁断層帯による地震（カテゴリーⅢ）の影響が大きくなります。

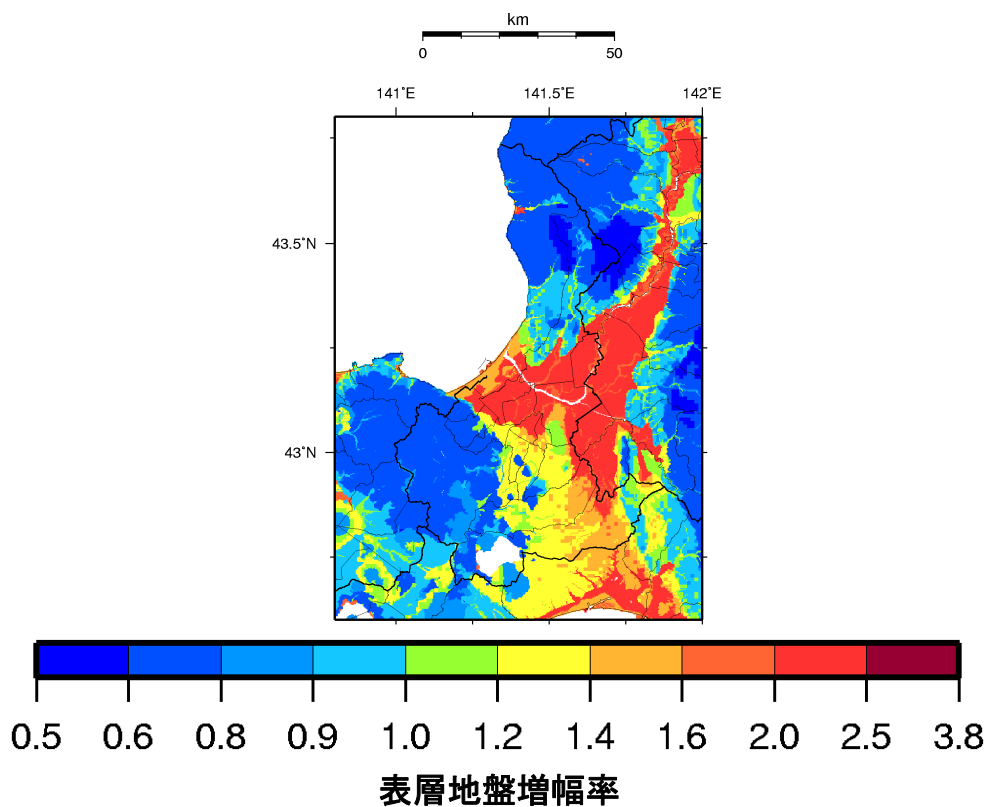
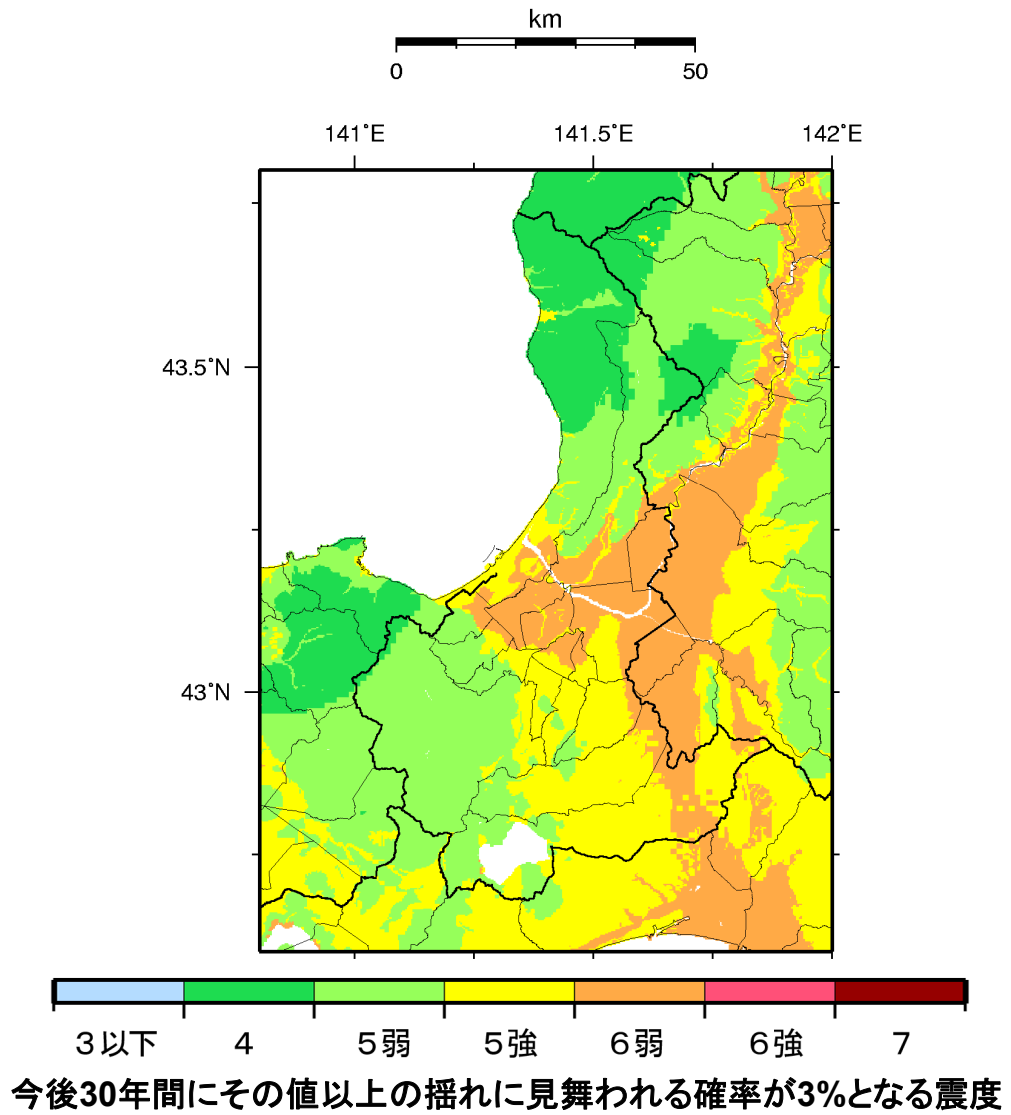
石狩支庁（札幌市）：やや高い。

主要活断層帯の地震（カテゴリーⅢ）の影響度が最も高くなっています。特に地震発生確率が高い石狩低地東縁断層帯による影響が大きいと考えられます。

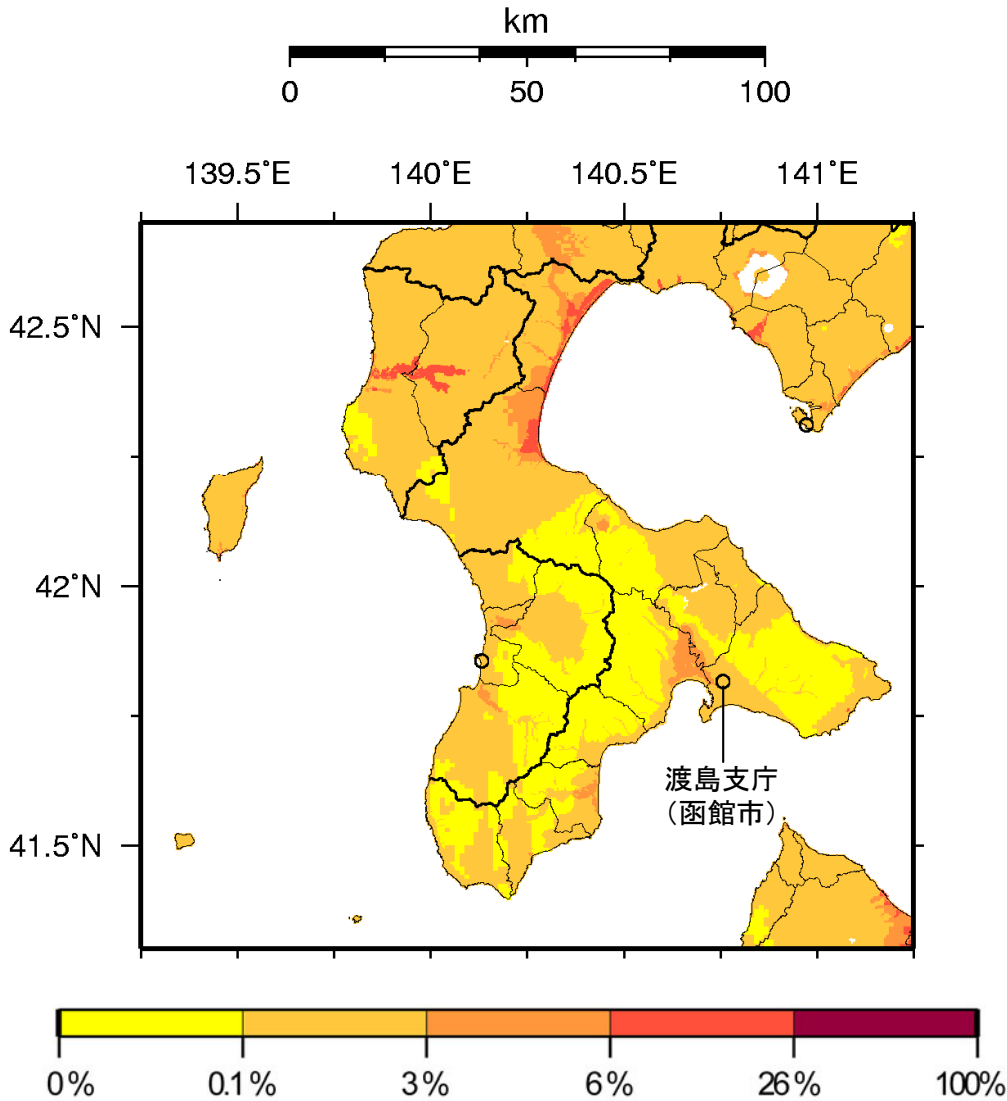


カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

石狩支庁の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



渡島支庁



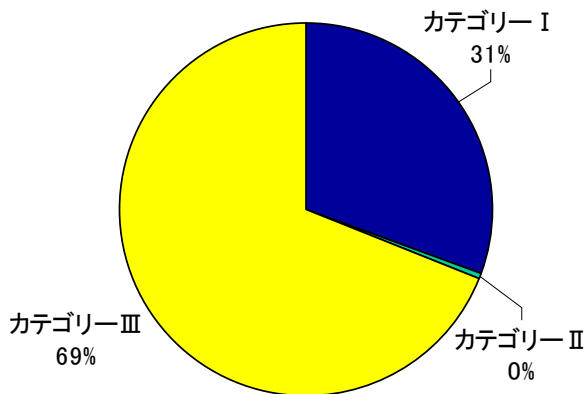
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

渡島半島の山地に比べると、沿岸の平野部（函館平野や内浦湾岸など）や河川沿いでは、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。また北部には、黒松内低地断層帯の地震（カテゴリⅢ）の影響が見られます。

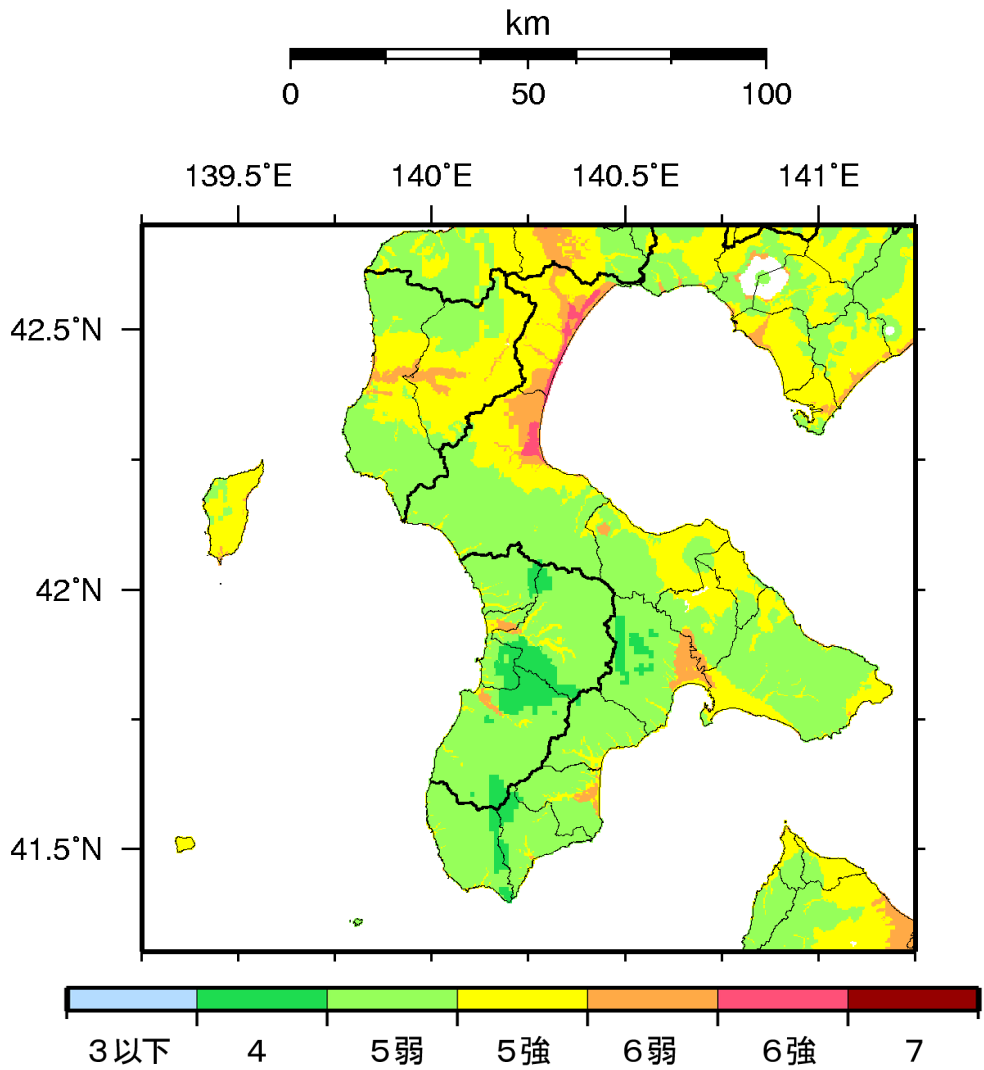
渡島支庁（函館市）：やや高い。

活断層が特定されていない場所で発生する地震（カテゴリⅢ）の影響度が最も高くなっています。また、三陸沖北部の地震（カテゴリⅠ）の影響度も高くなっています。

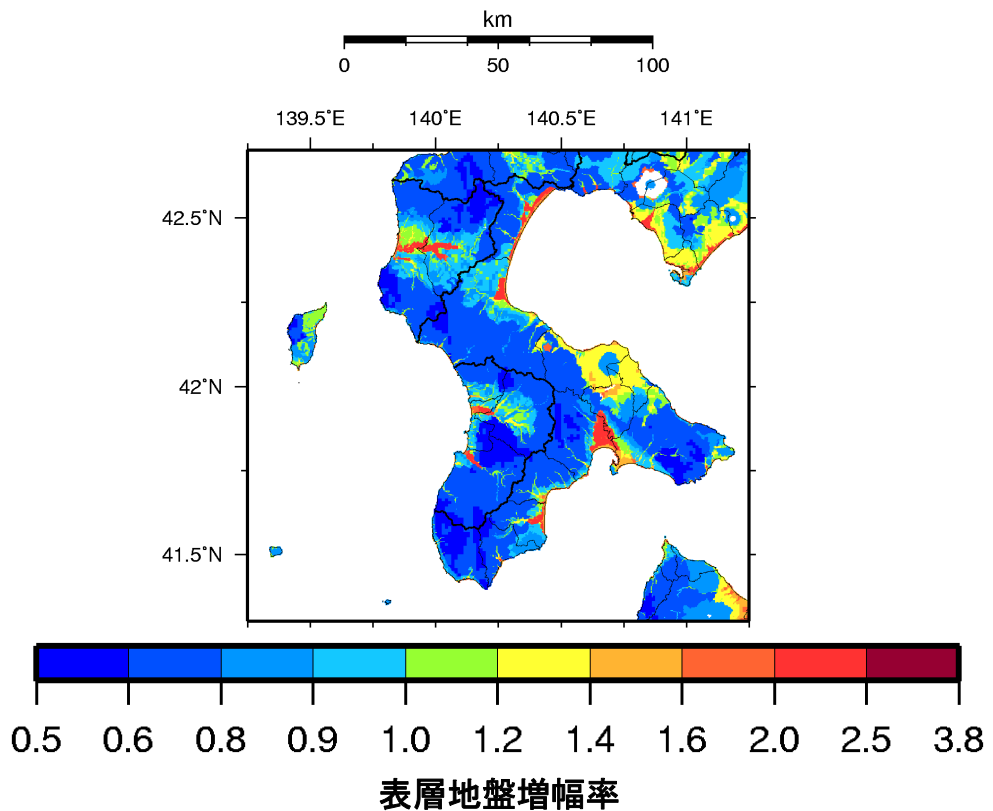


カテゴリⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

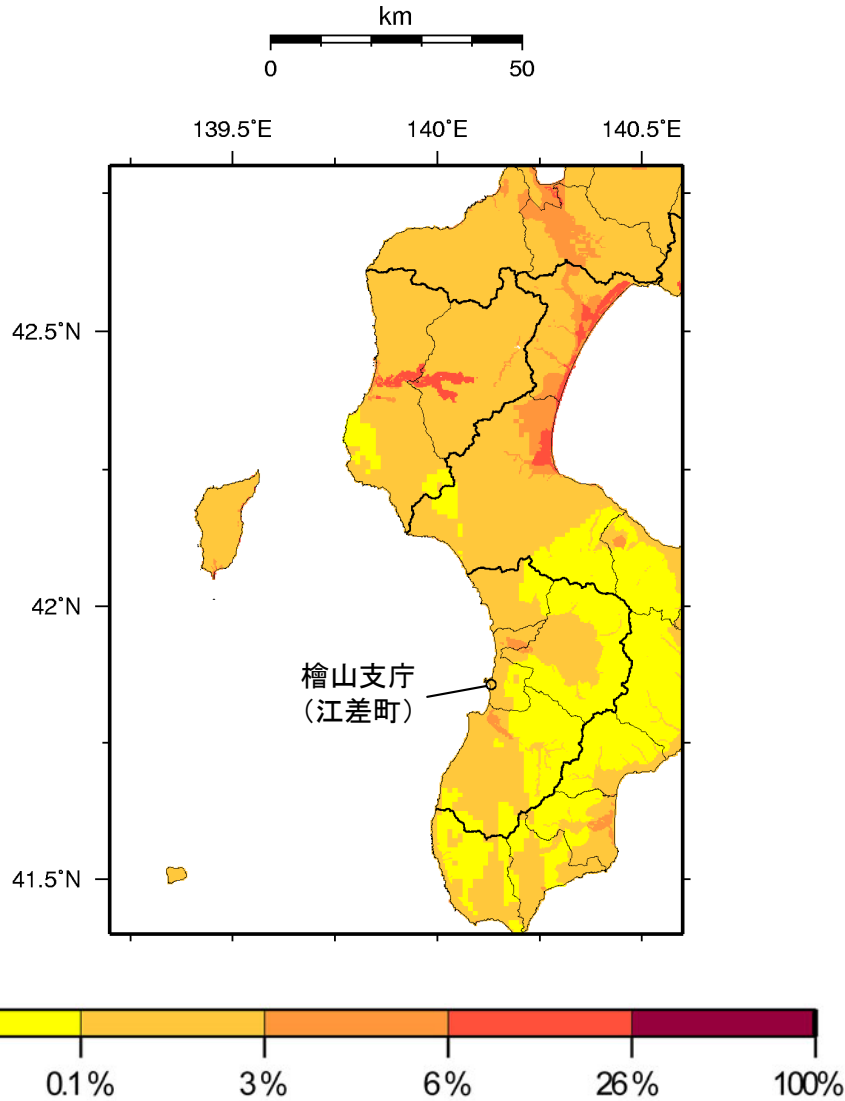
渡島支庁の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリ一別の影響度



今後30年間にその値以上の揺れに見舞われる確率が3%となる震度



檜山支庁



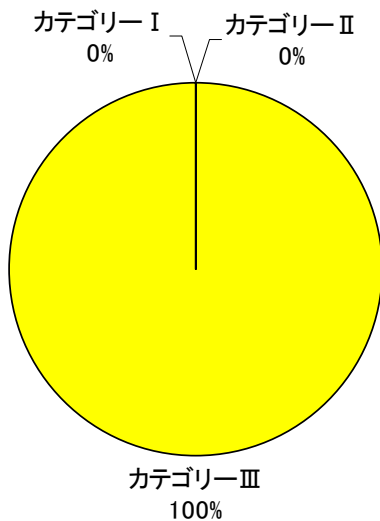
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

半島部や島嶼の山地に比べると、日本海沿岸の平野部、その中でも河川沿いでは、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。また北部には、黒松内低地断層帯の地震(カテゴリーⅢ)の影響が見られます。

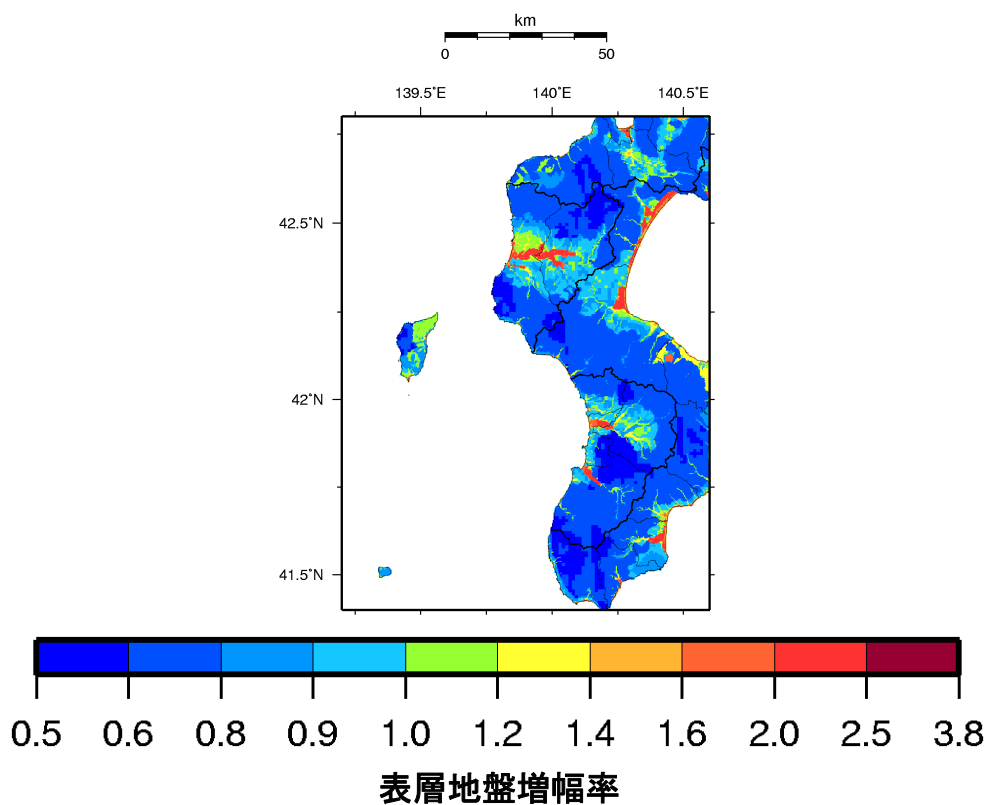
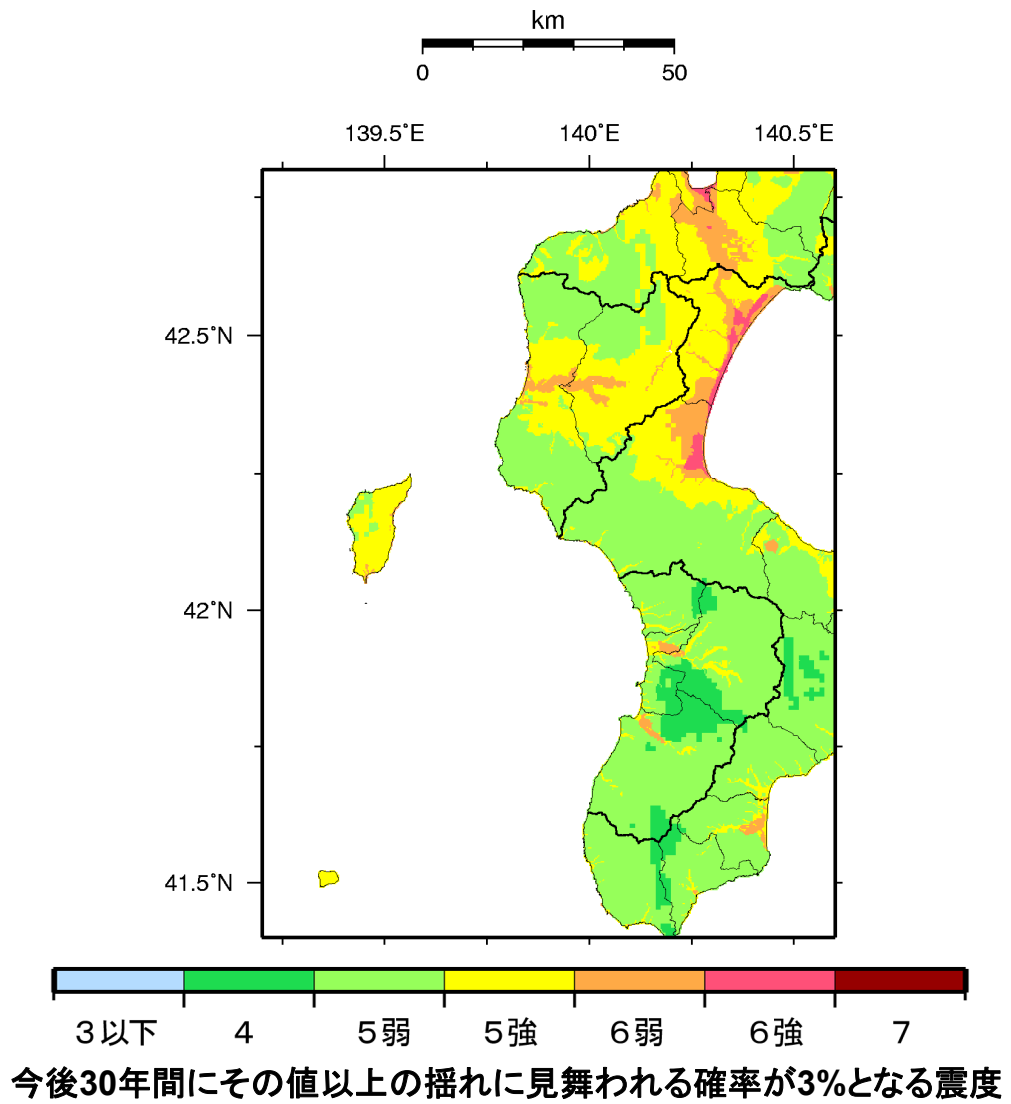
檜山支庁(江差町)：やや高い。

活断層が特定されていない場所で発生する地震(カテゴリーⅢ)の影響度が最も高くなっています。また、日本海東縁部の震源断層を予め特定しにくい地震(カテゴリーⅢ)の影響度もやや高くなっています。

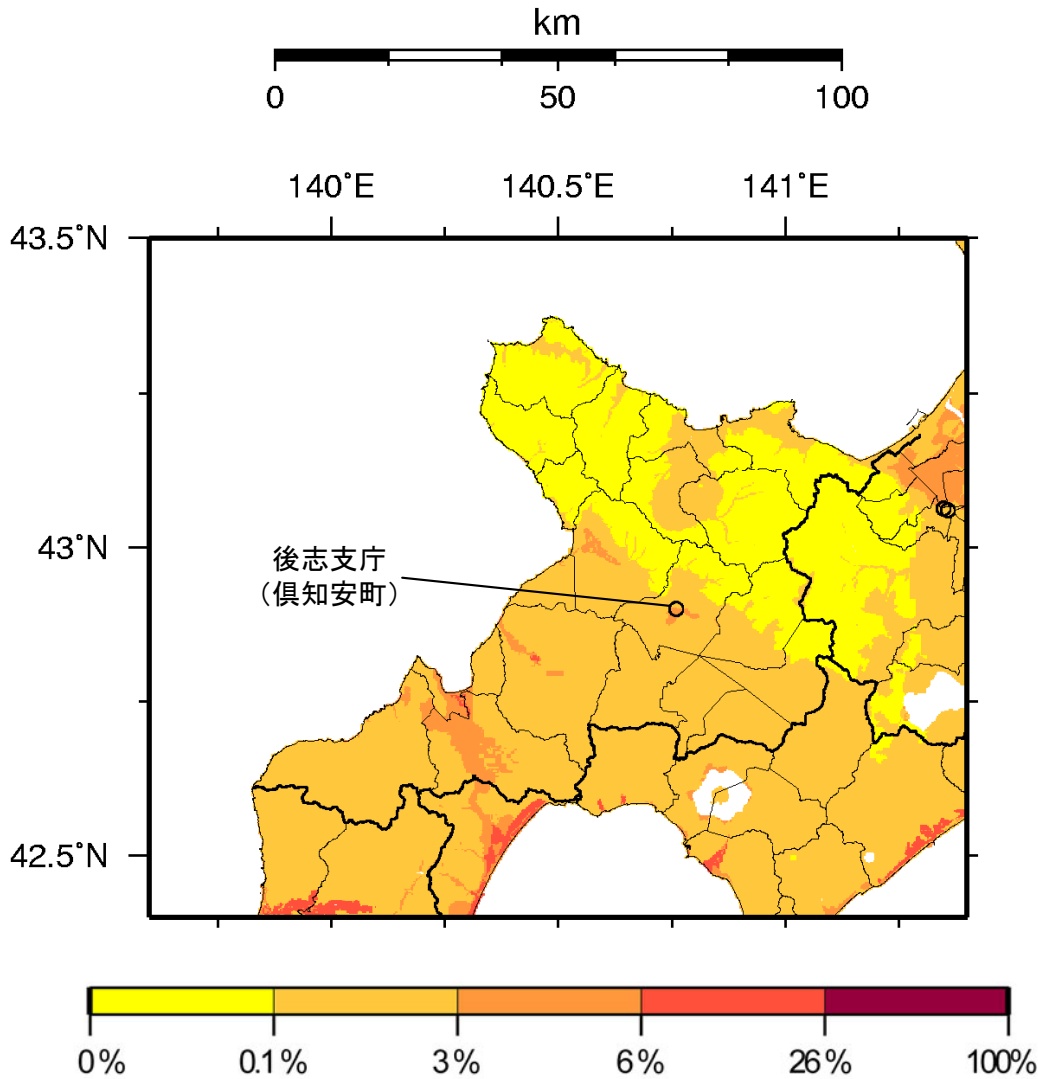


カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

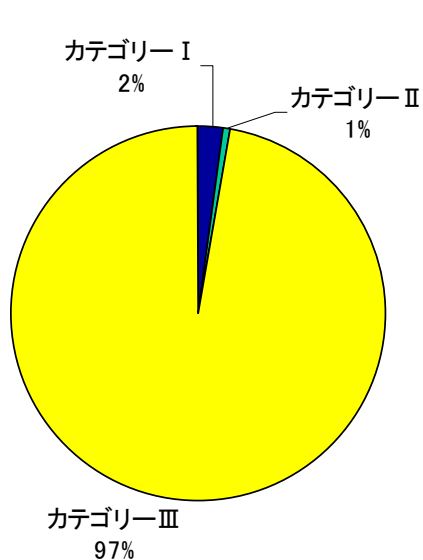
檜山支庁の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



後志支庁



今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）



地図概況

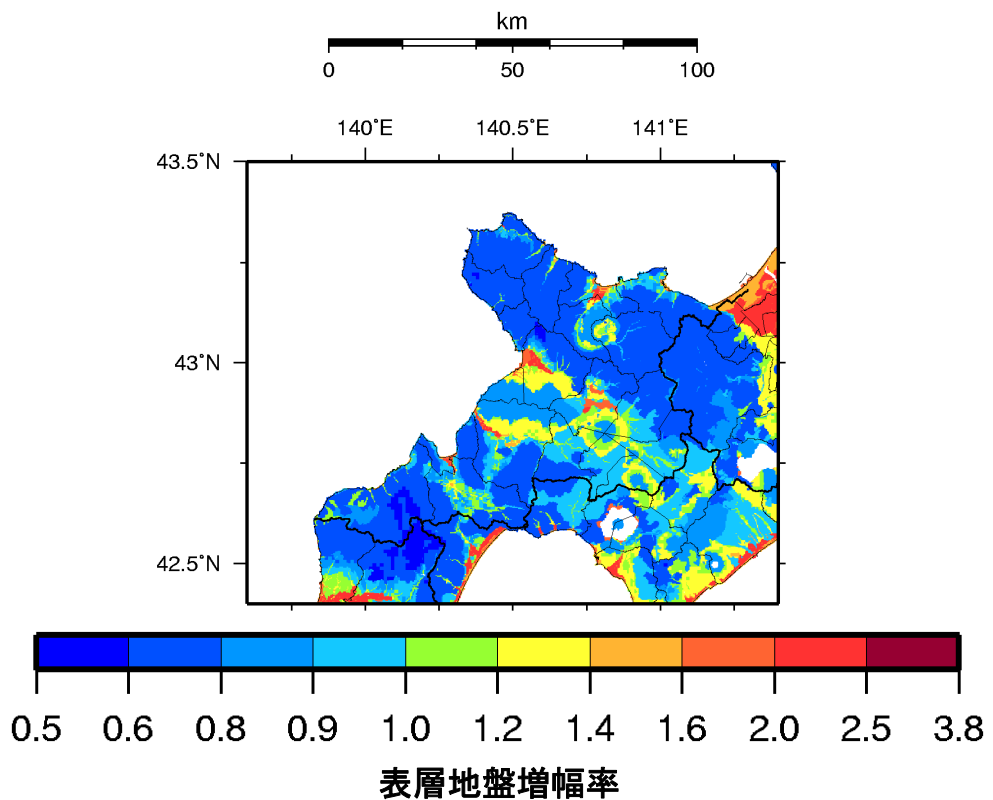
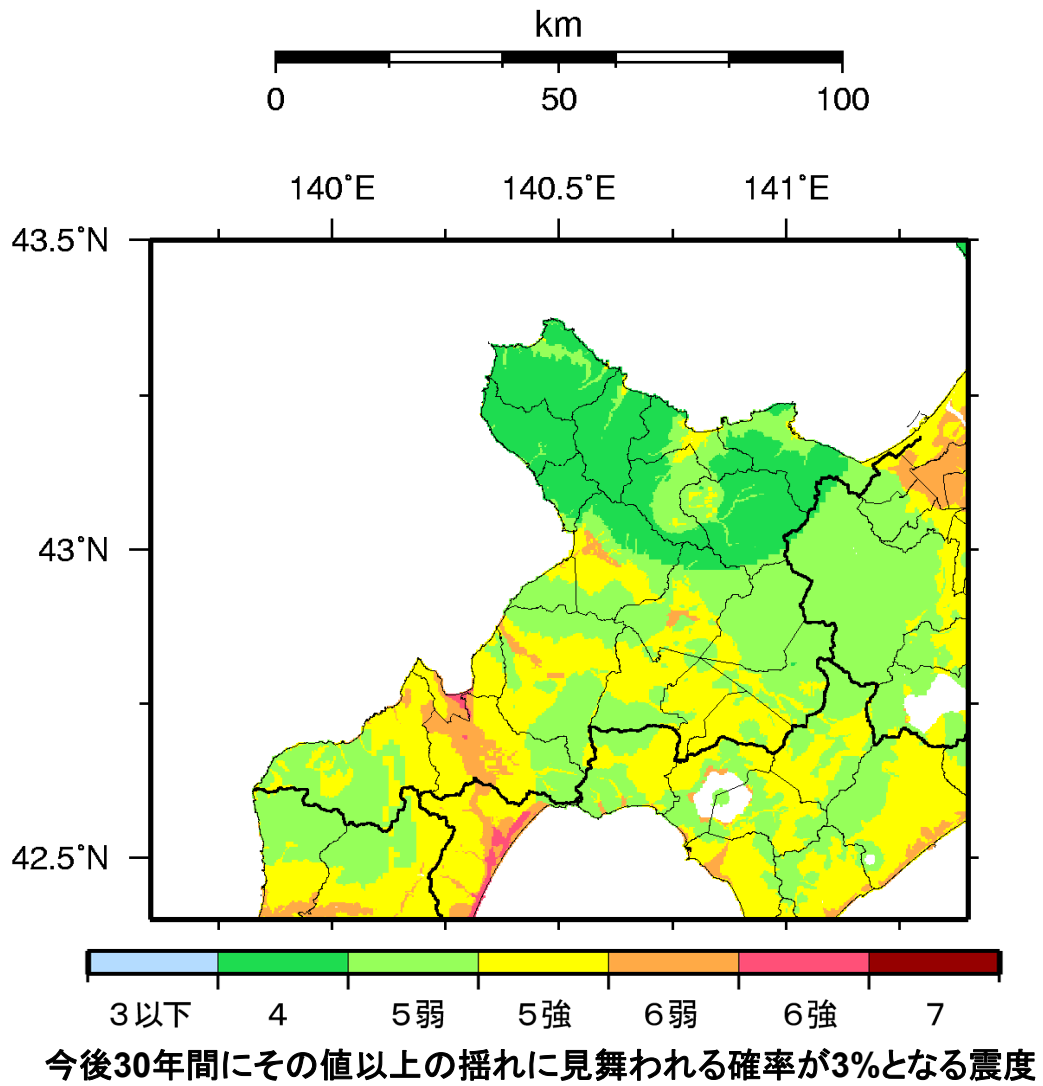
山地に比べると、沿岸の平野部（岩内平野や黒松内低地など）や河川沿い（尻別川沿いなど）では、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。また南西部には、黒松内低地断層帯の地震（カテゴリーⅢ）の影響が見られます。

後志支庁（倶知安町）：高い。

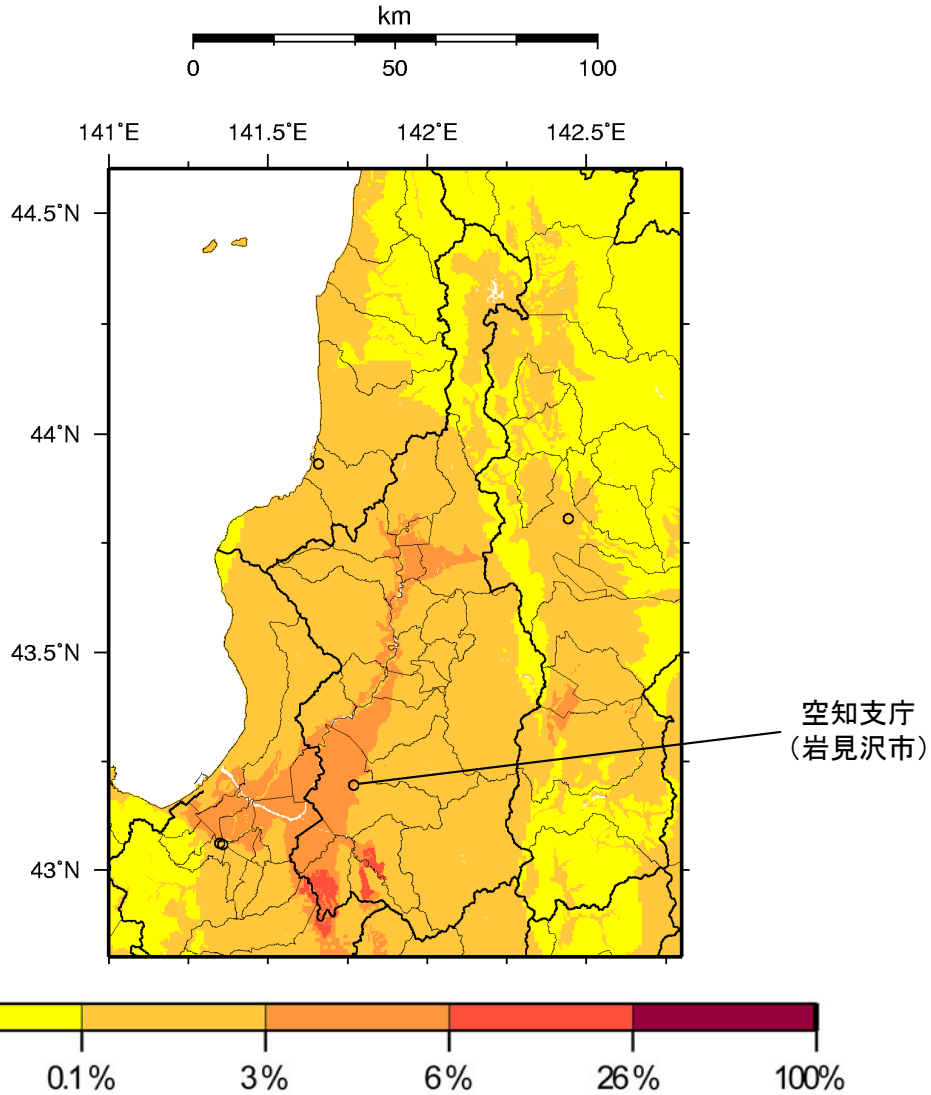
活断層が特定されていない場所で発生する地震（カテゴリーⅢ）の影響度が最も高くなっています。黒松内低地断層帯などの主要活断層帯の地震（カテゴリーⅢ）の影響度も高くなっています。

カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

後志支庁の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



空知支庁



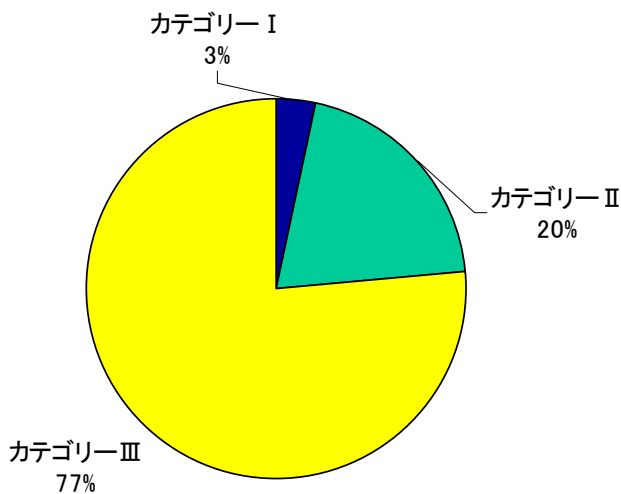
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

周辺部の山地（夕張山地、天塩山地、増毛山地）に比べると、河川沿いの盆地や平野（石狩平野など）では、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

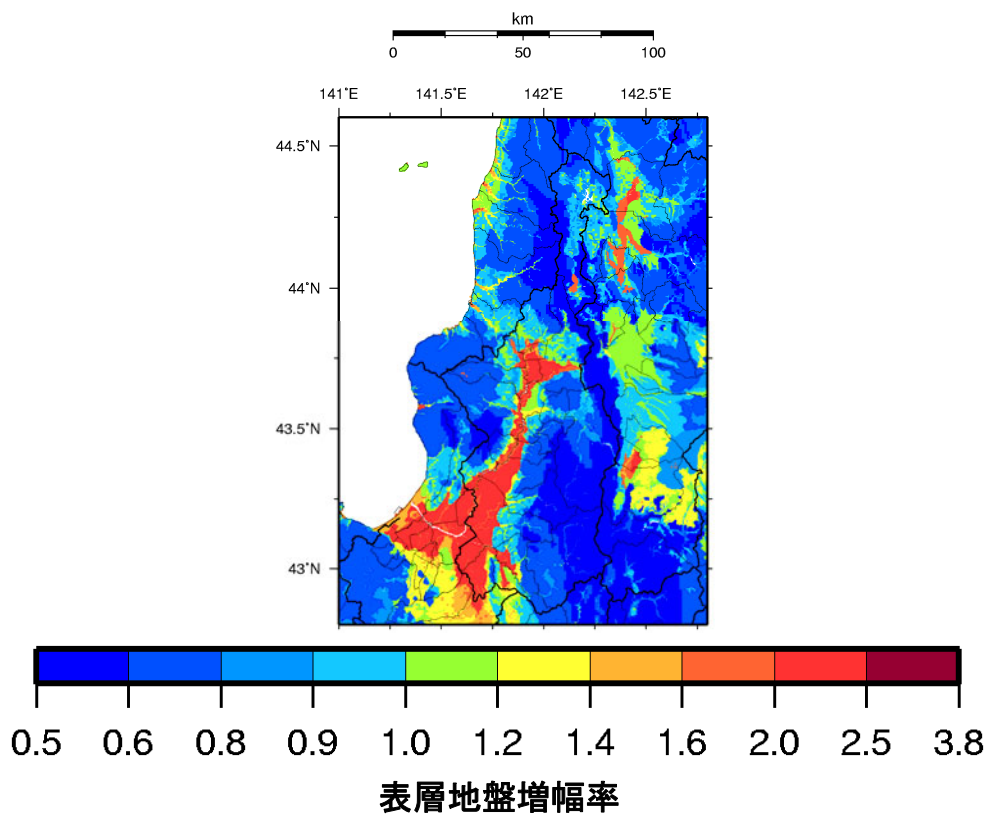
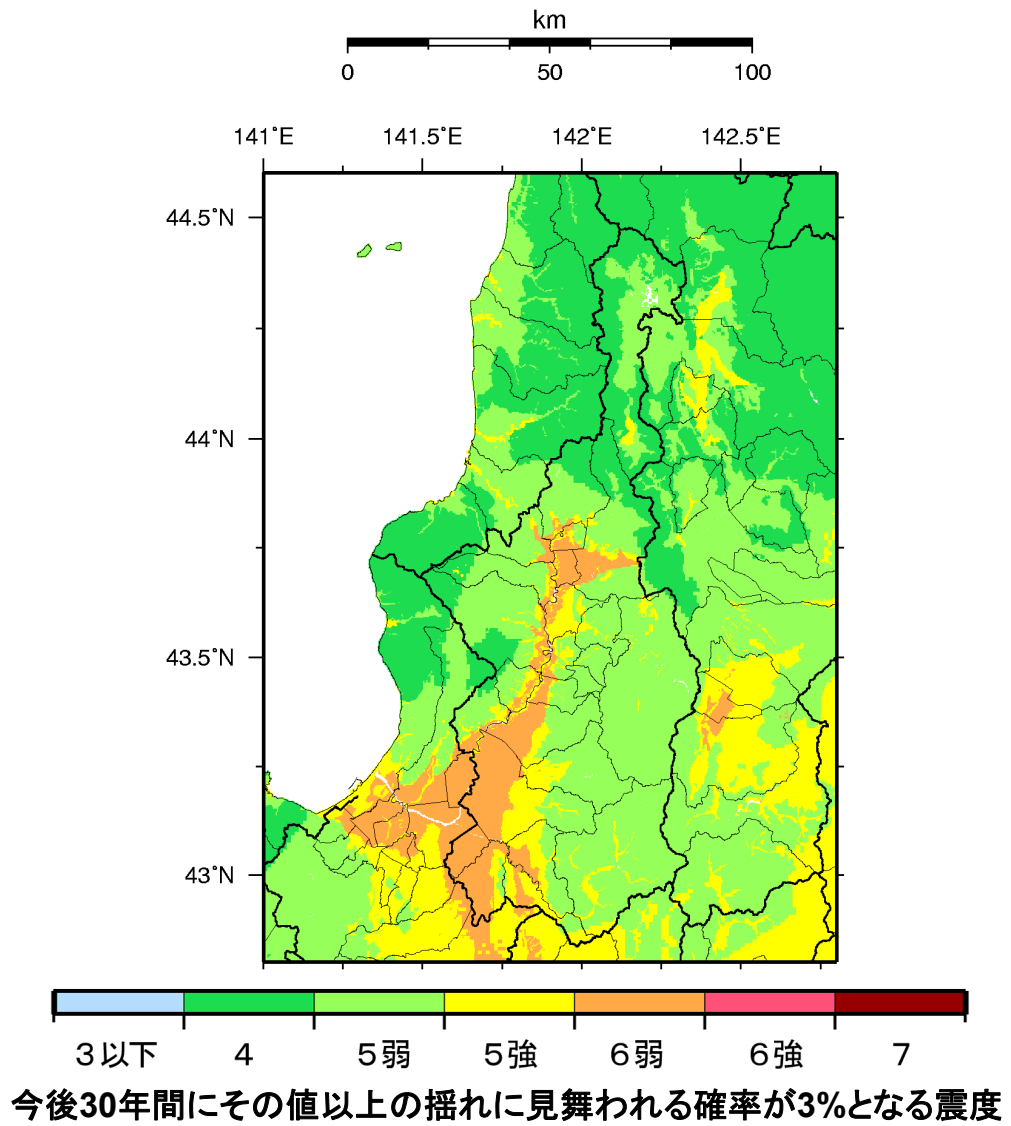
空知支庁(岩見沢市)：高い。

主要活断層帯の地震(カテゴリⅢ)の影響度が最も高くなっています。特に地震発生確率が高い石狩低地東縁断層帯による影響が大きいと考えられます。次いで、活断層が特定されていない場所で発生する地震(カテゴリⅢ)や、千島海溝沿いの沈み込んだ太平洋プレート内のやや深い地震(カテゴリⅡ)の影響が見られます。

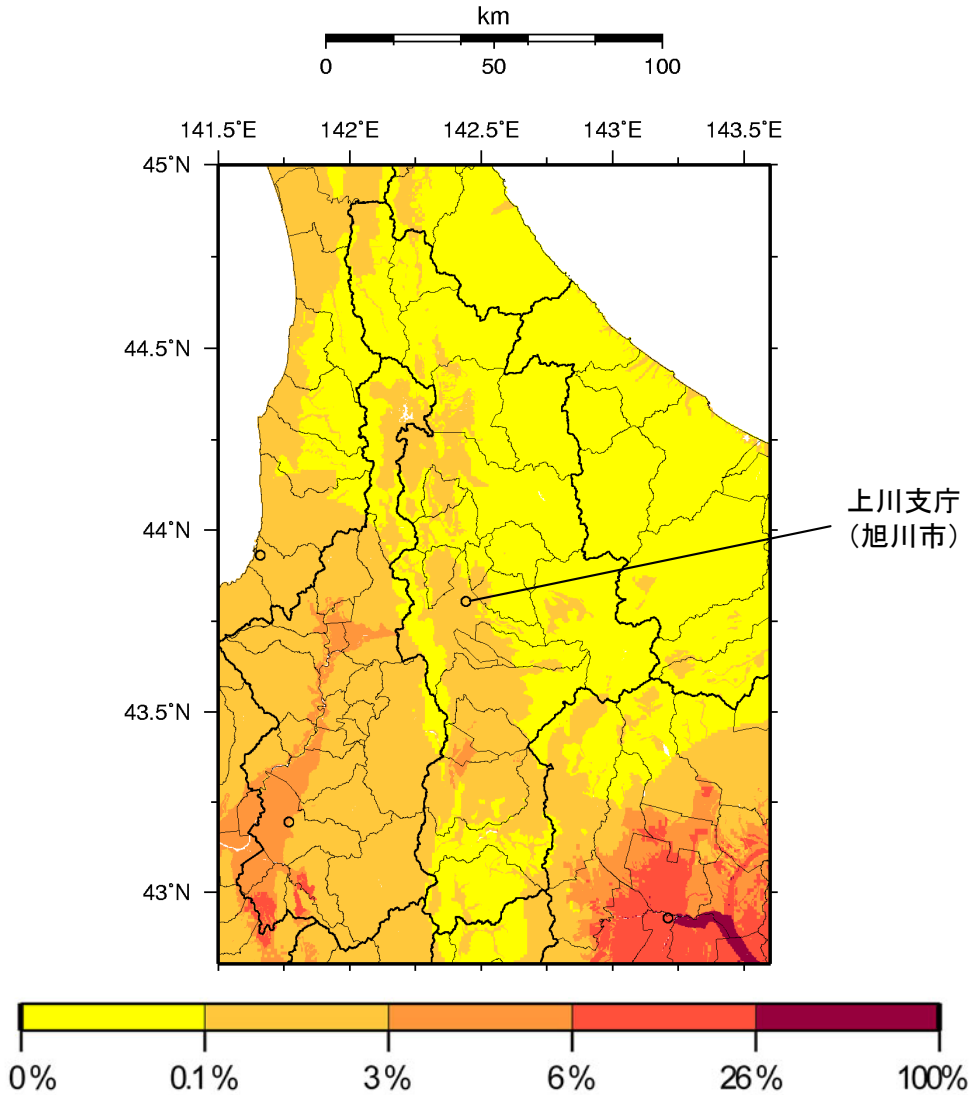


カテゴリⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

空知支庁の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリ別の影響度



上川支庁



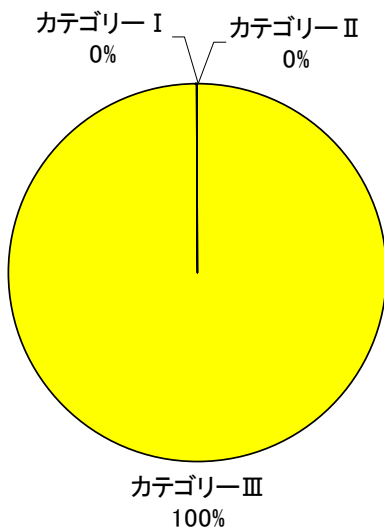
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

周辺部の山地（北見山地、石狩山地、夕張山地、天塩山地など）に比べると、山間の盆地（名寄盆地、上川盆地、富良野盆地）や河川沿いでは、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

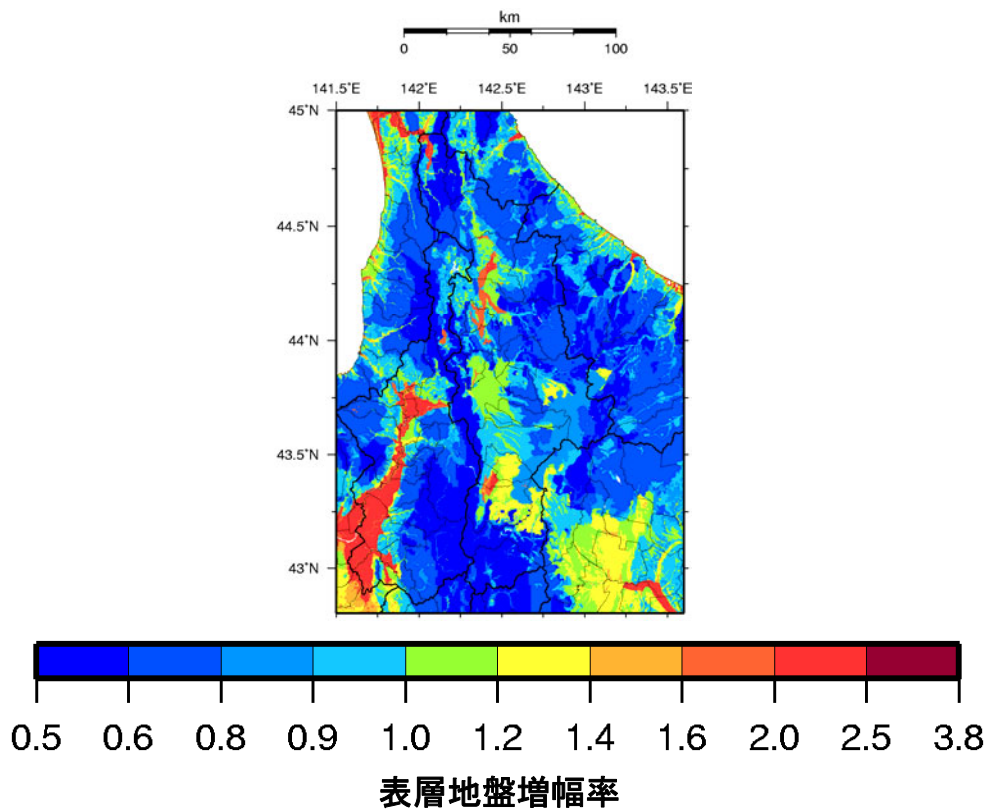
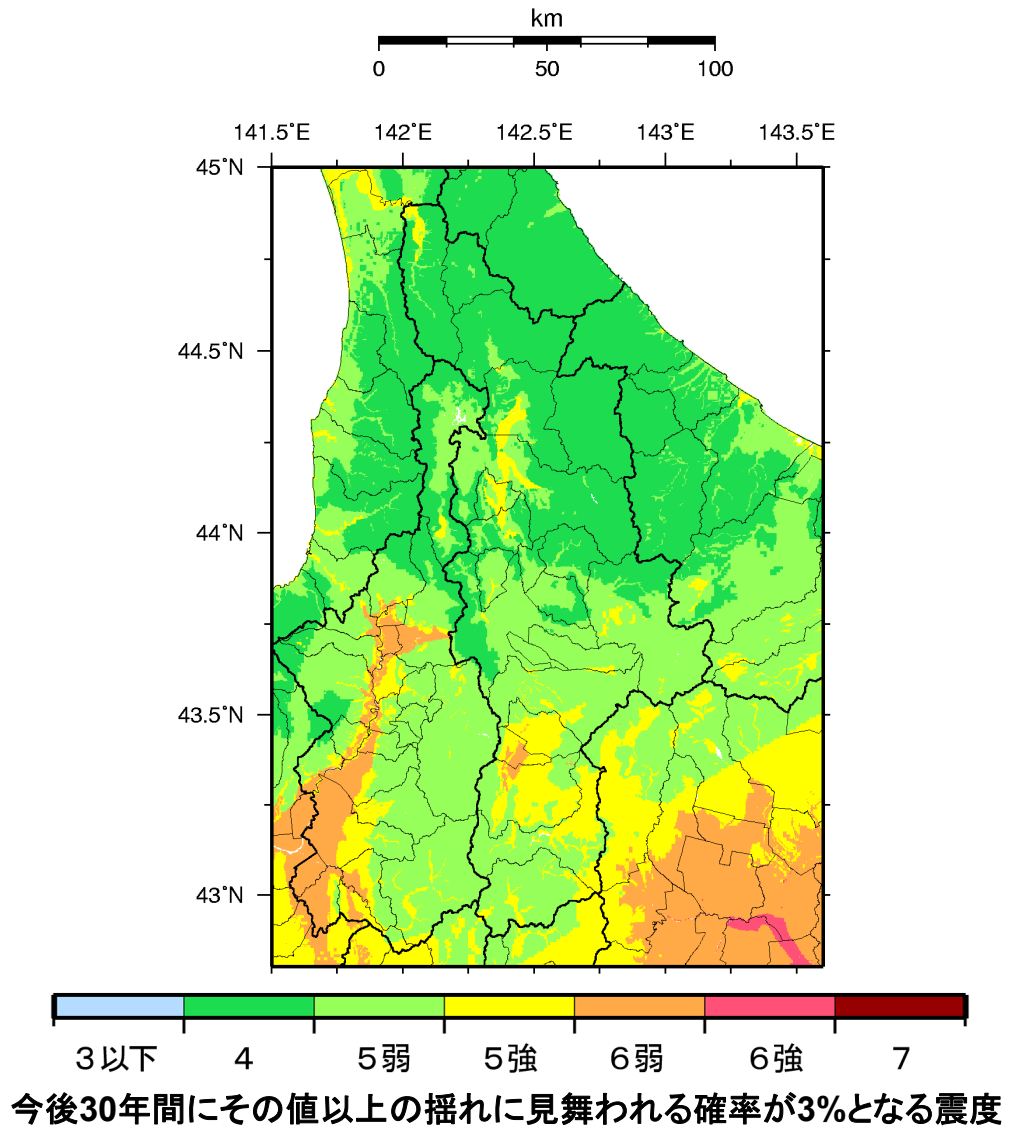
上川支庁（旭川市）：やや高い。

主要活断層帯の地震（カテゴリⅢ）の影響度が最も高くなっています。主に、増毛山地東縁断層帯・沼田－砂川付近の断層帯によるものと考えられます。活断層が特定されていない場所で発生する地震（カテゴリⅢ）の影響度も高くなっています。

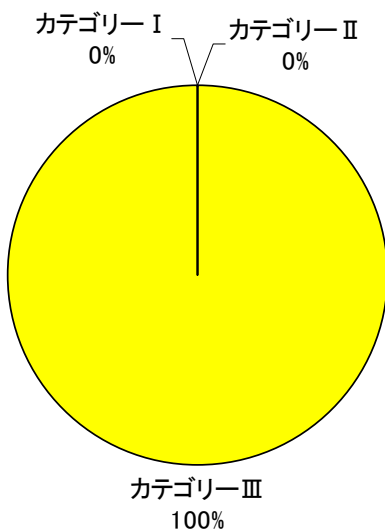
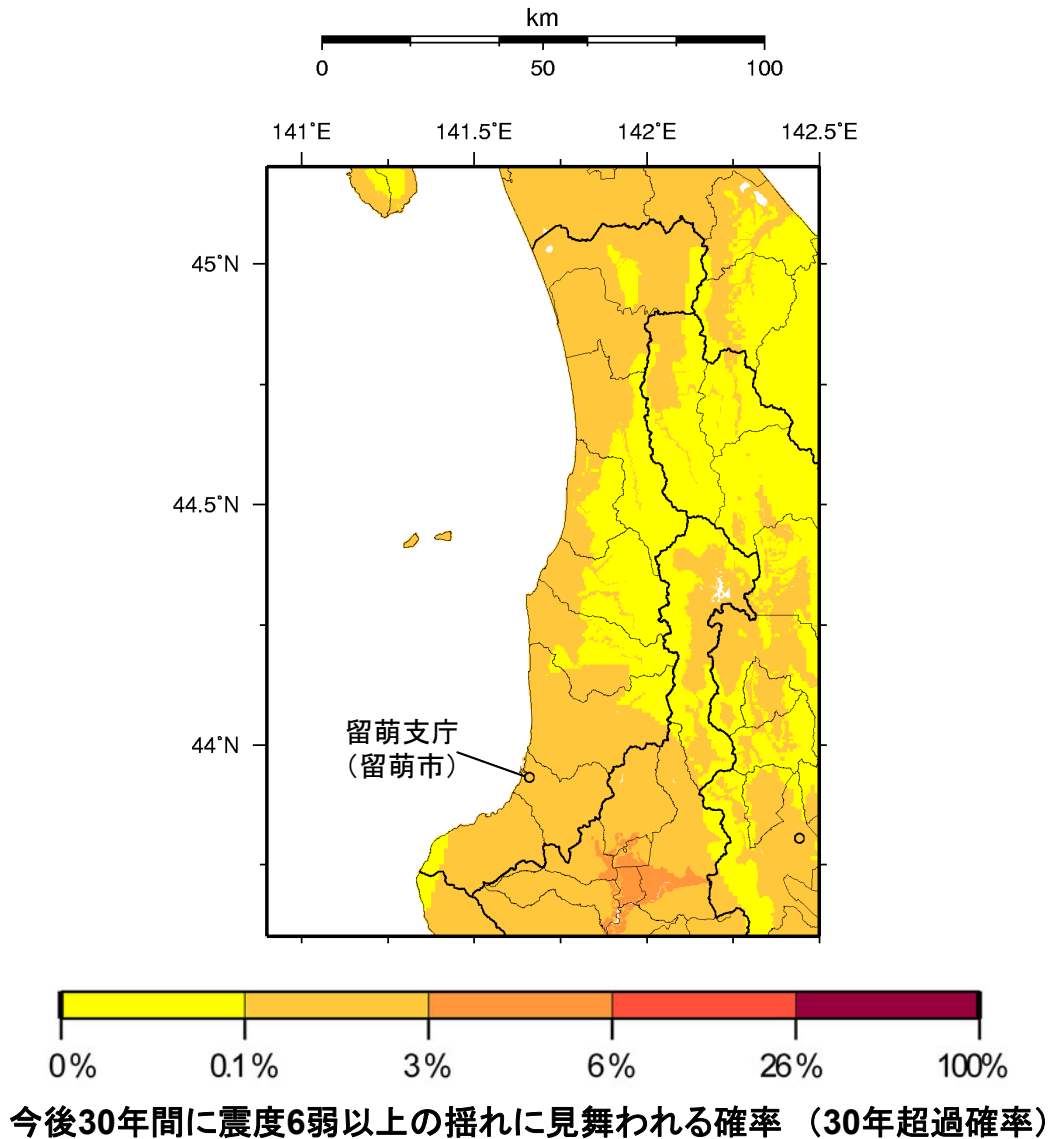


カテゴリⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

上川支庁の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリ別の影響度



留萌支庁



地図概況

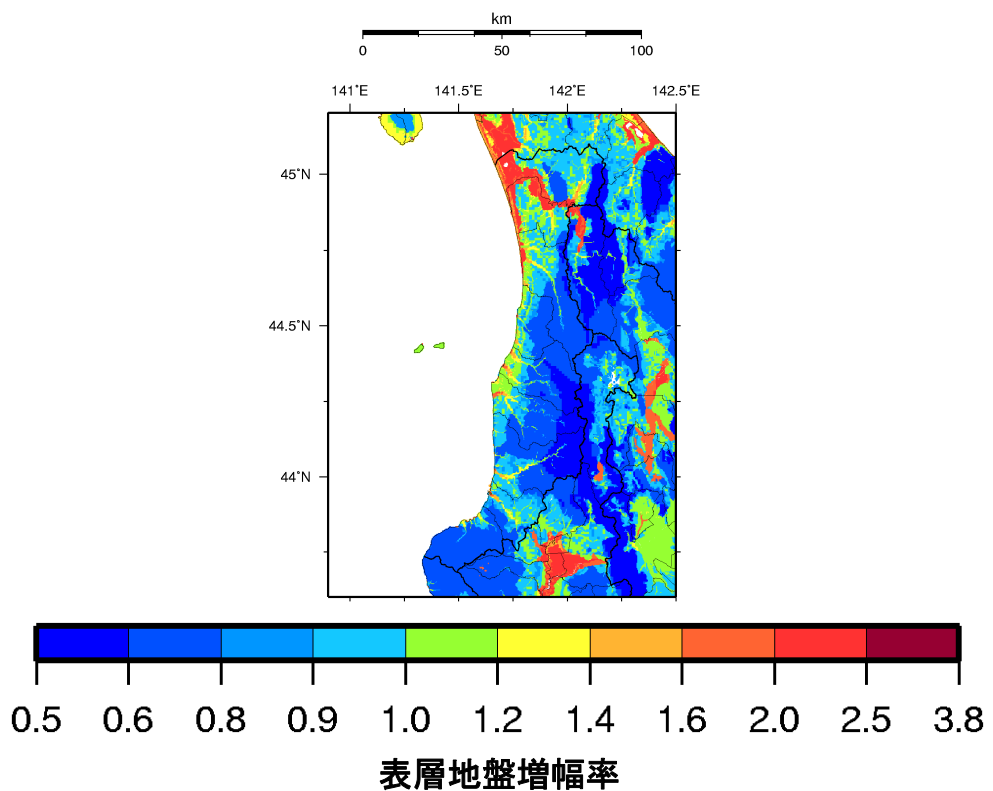
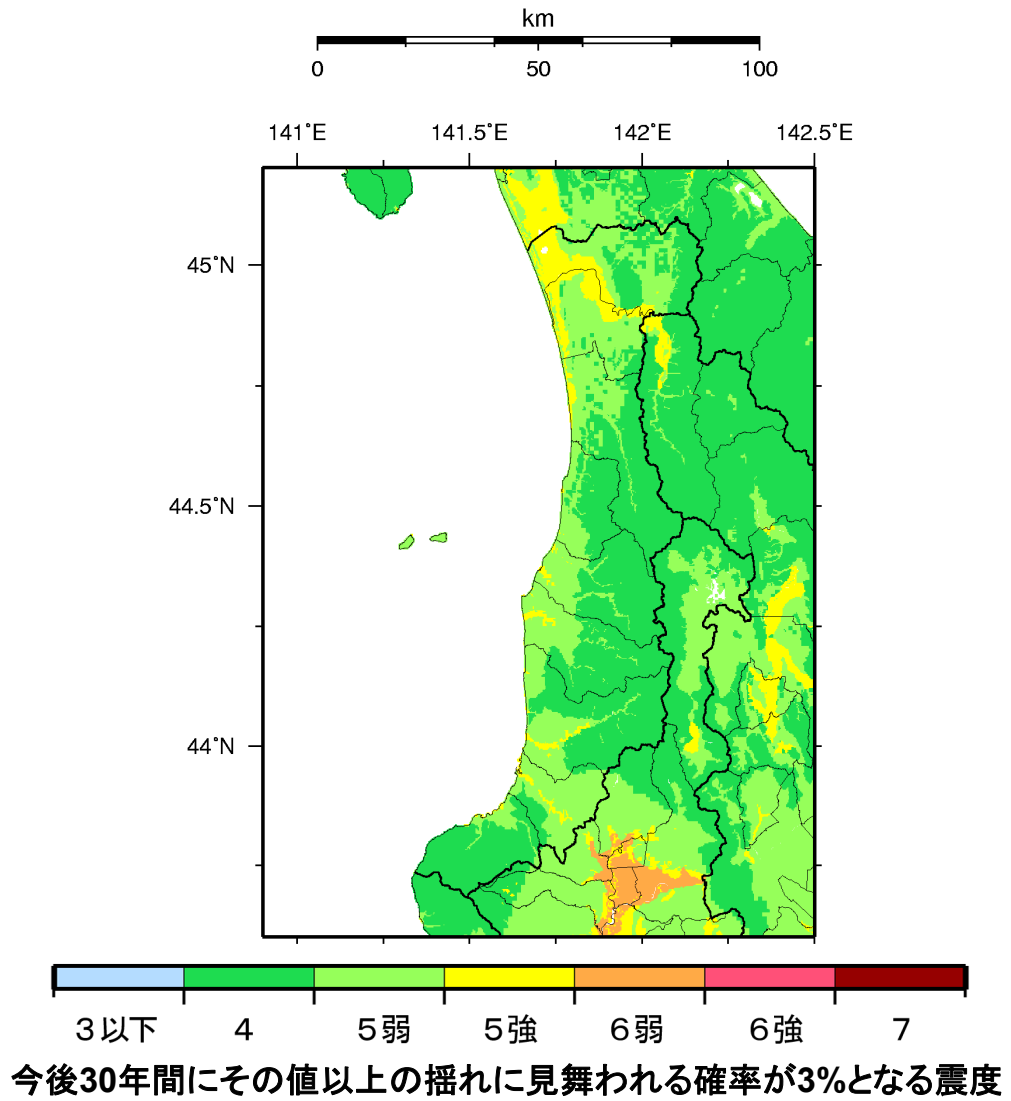
山地(天塩山地、増毛山地)に比べると、河川沿いや沿岸の平野部(特に天塩川流域から天塩平野にかけて)では、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

留萌支庁(留萌市)：やや高い。

主要活断層帯の地震(カテゴリーⅢ)の影響度が最も高くなっています。主に、増毛山地東縁断層帯によるものと考えられます。活断層が特定されていない場所で発生する地震(カテゴリーⅢ)の影響度も高くなっています。

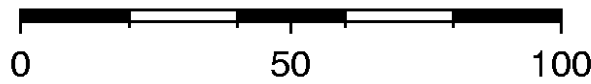
カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

留萌支庁の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度

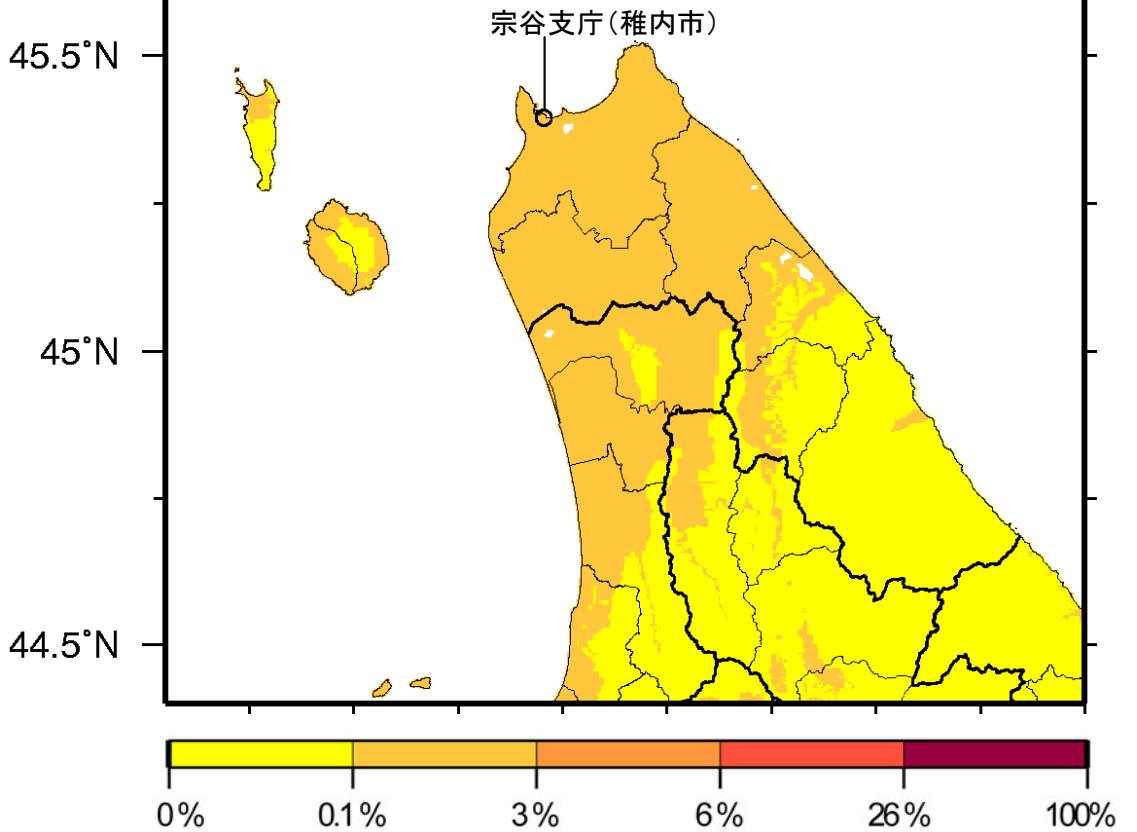


宗谷支庁

km



141°E 141.5°E 142°E 142.5°E 143°E



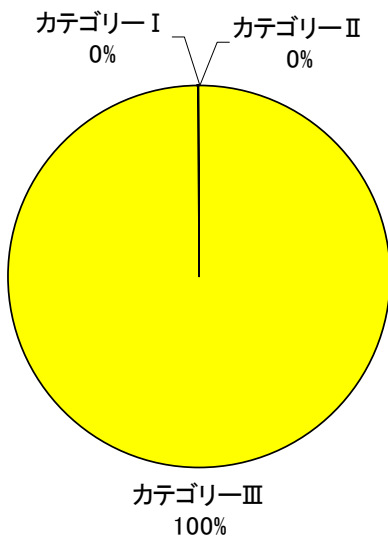
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

山地に比べると、河川・湖沼沿いや沿岸の平野部(天塩平野、幕別平野、頓別平野など)では、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなる傾向にあります。また北部には、主要活断層帯以外の活断層に発生する地震(カテゴリーⅢ)の影響が見られます。

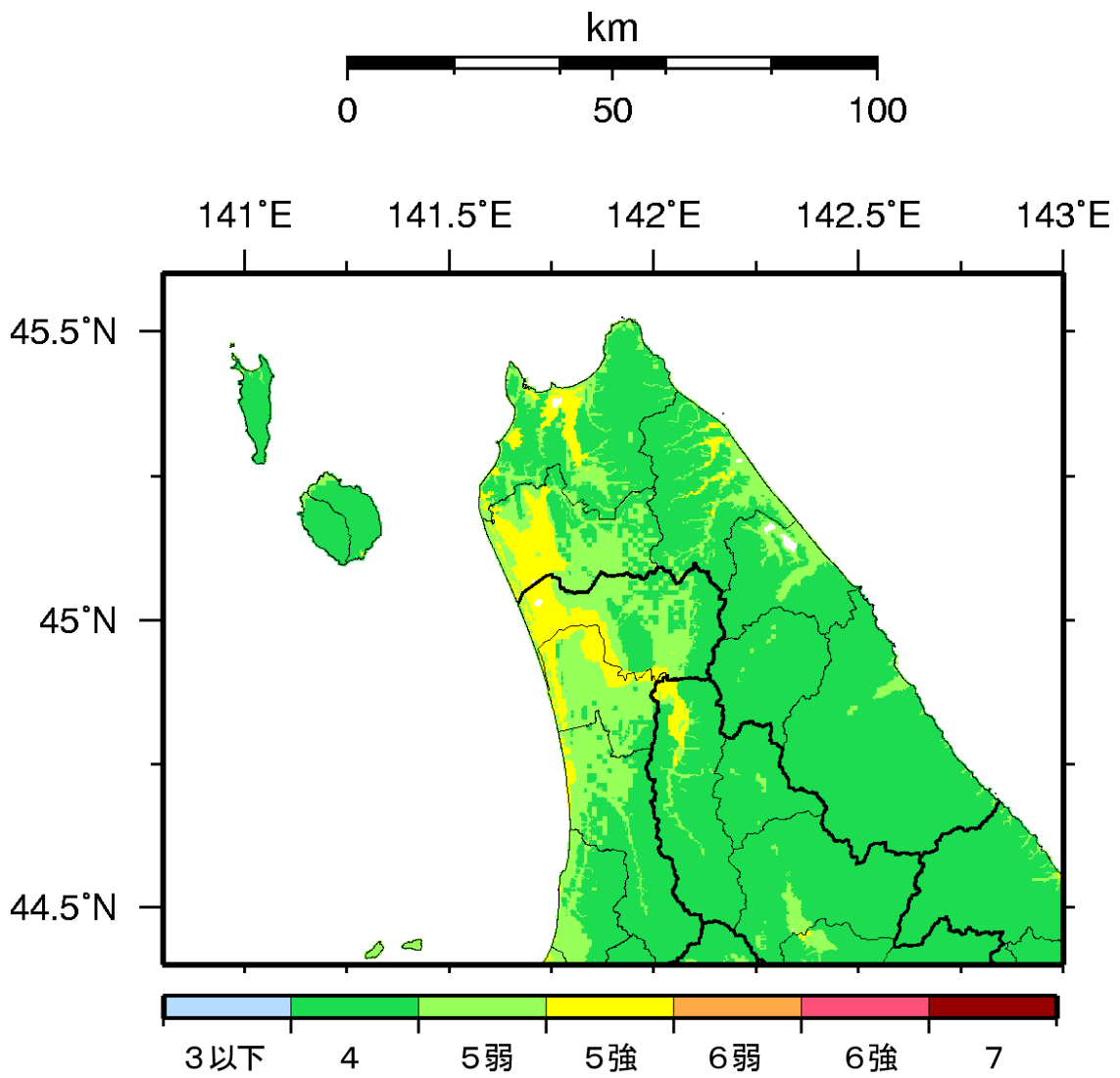
宗谷支庁(稚内市)：やや高い。

主要活断層帯以外の活断層に発生する地震(カテゴリーⅢ)の影響度が最も高くなっています。活断層が特定されていない場所で発生する地震(カテゴリーⅢ)の影響度も高くなっています。

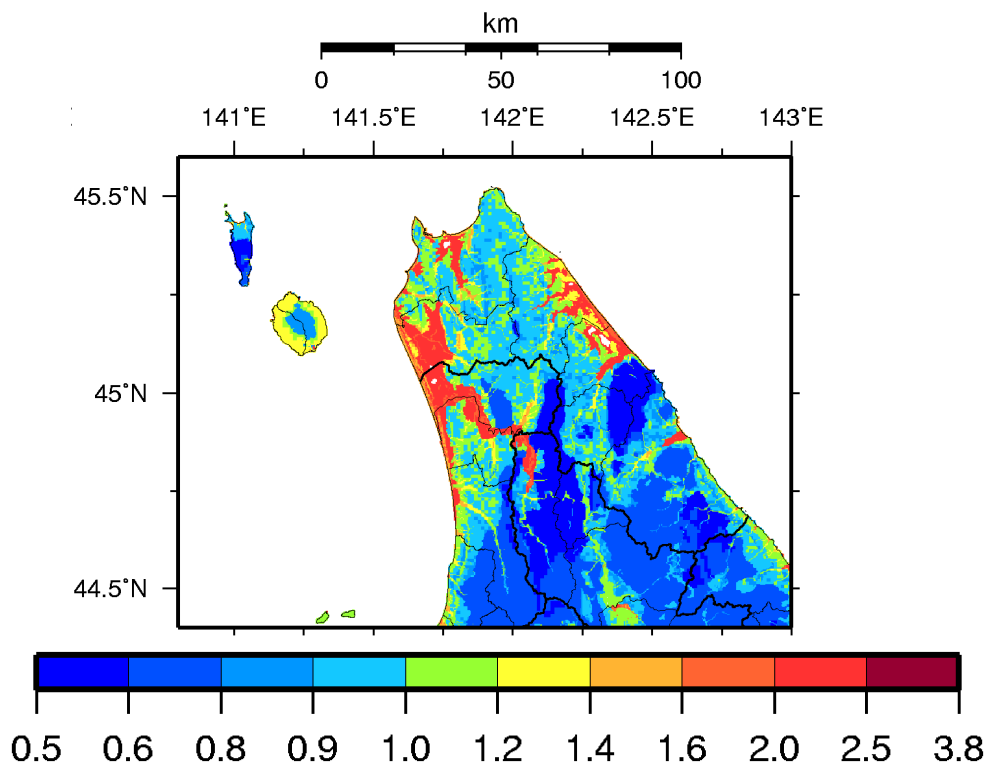


カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

宗谷支庁の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度

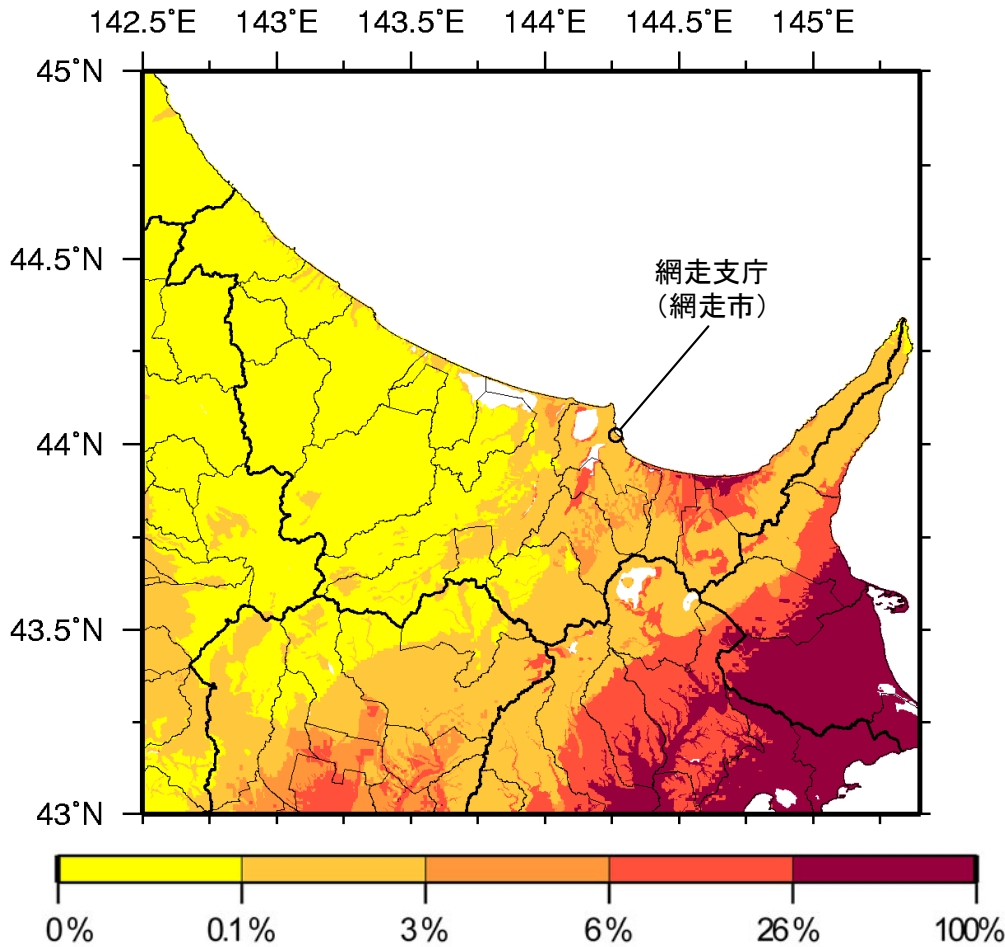
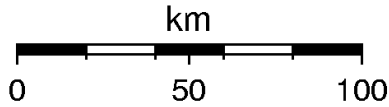


今後30年間にその値以上の揺れに見舞われる確率が3%となる震度



表層地盤増幅率

網走支庁



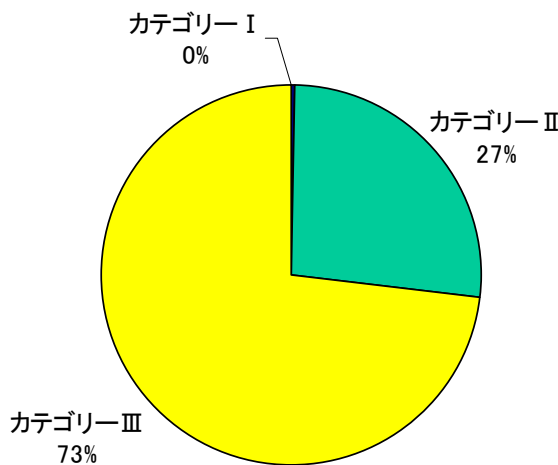
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

山地（北見山地、石狩山地など）に比べると、河川・湖沼沿いの沿岸の平野部（斜里平野など）や盆地（北見盆地）では、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなる傾向にあります。特に東部では、千島海溝沿いの沈み込んだ太平洋プレート内の地震（カテゴリーⅡ）の影響が大きくなっています。

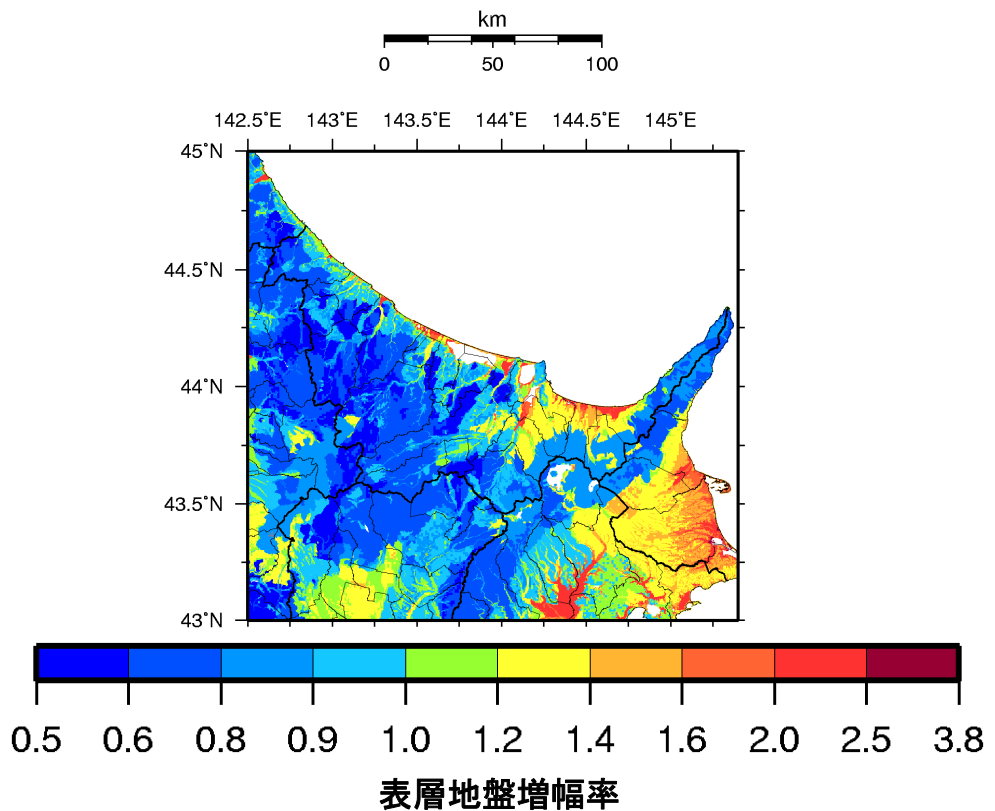
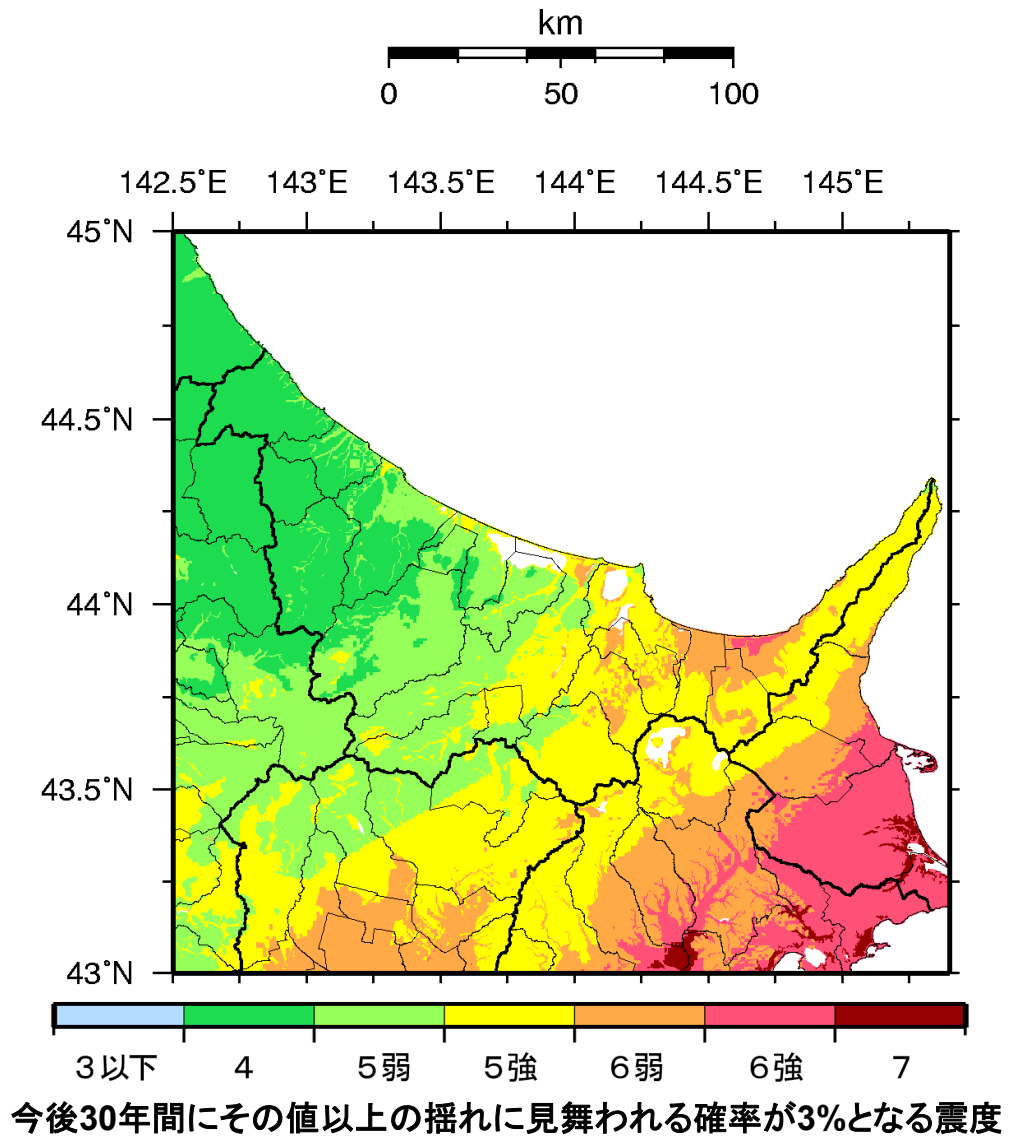
網走支庁（網走市）：やや高い。

主要活断層帯以外の活断層で発生する地震（カテゴリーⅢ）の影響度が最も高くなっています。また、千島海溝沿いの沈み込んだ太平洋プレート内のやや深い地震・やや浅い地震（ともにカテゴリーⅡ）の影響も見られます。

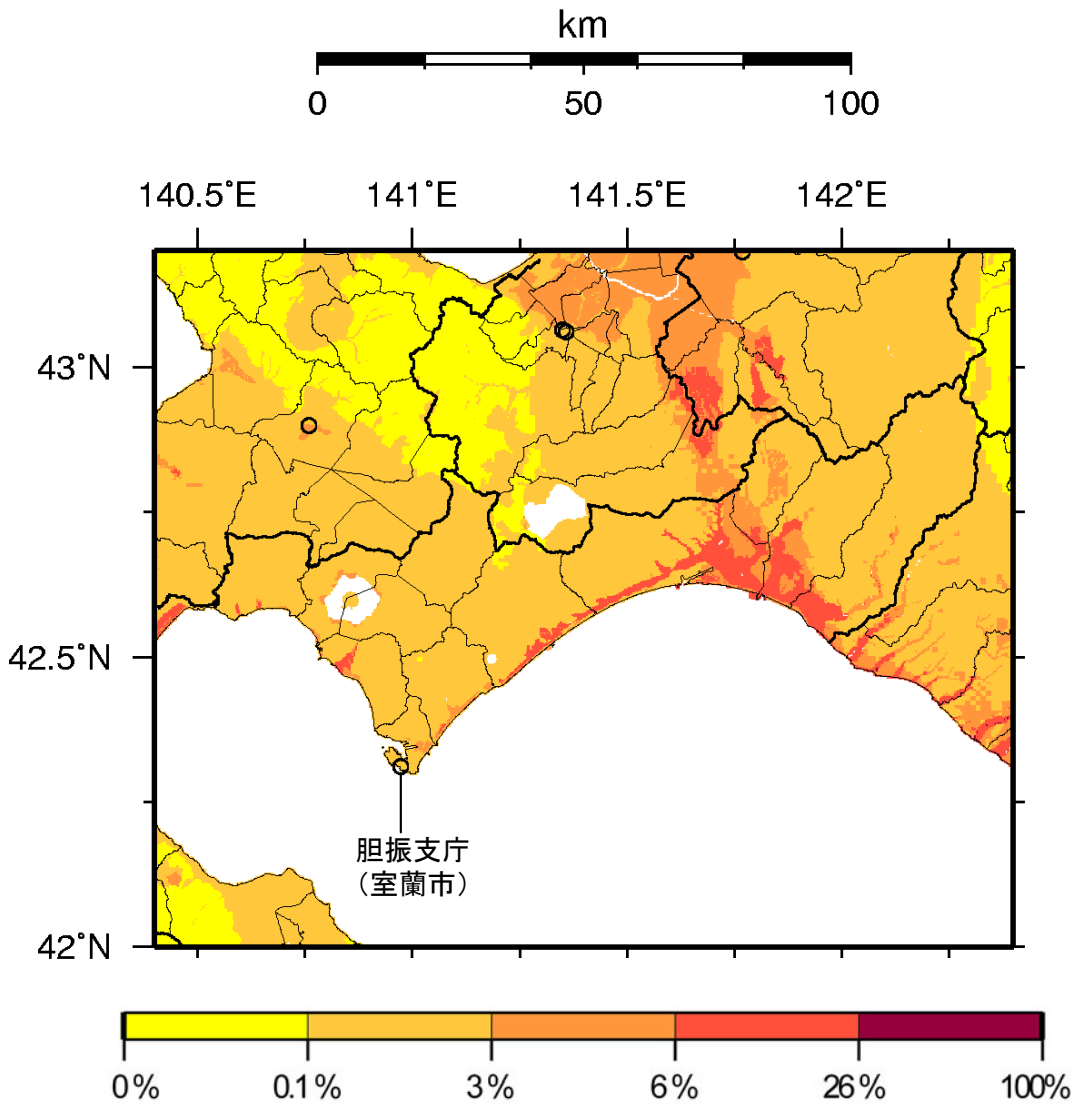


カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

網走支庁の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



胆振支庁



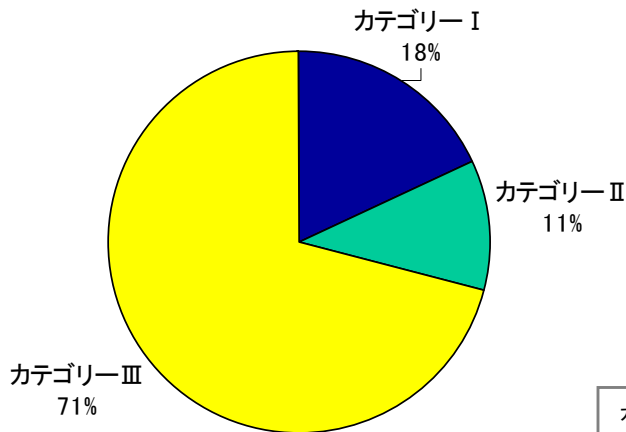
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

山地に比べると、沿岸の平野部（勇払平野など）や河川沿い、一部の湖沼沿いでは、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。また東側ほど、千島海溝沿いの沈み込んだ太平洋プレート内の地震（カテゴリーⅡ）や石狩低地東縁断層帯の地震（カテゴリーⅢ）の影響が大きくなります。

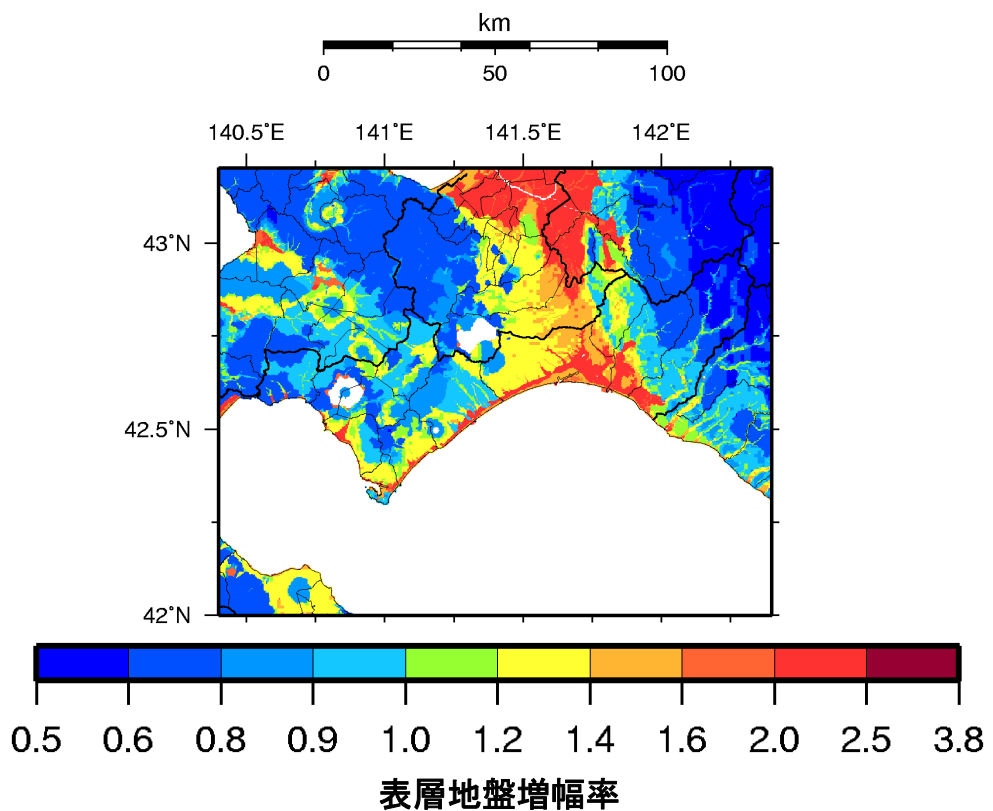
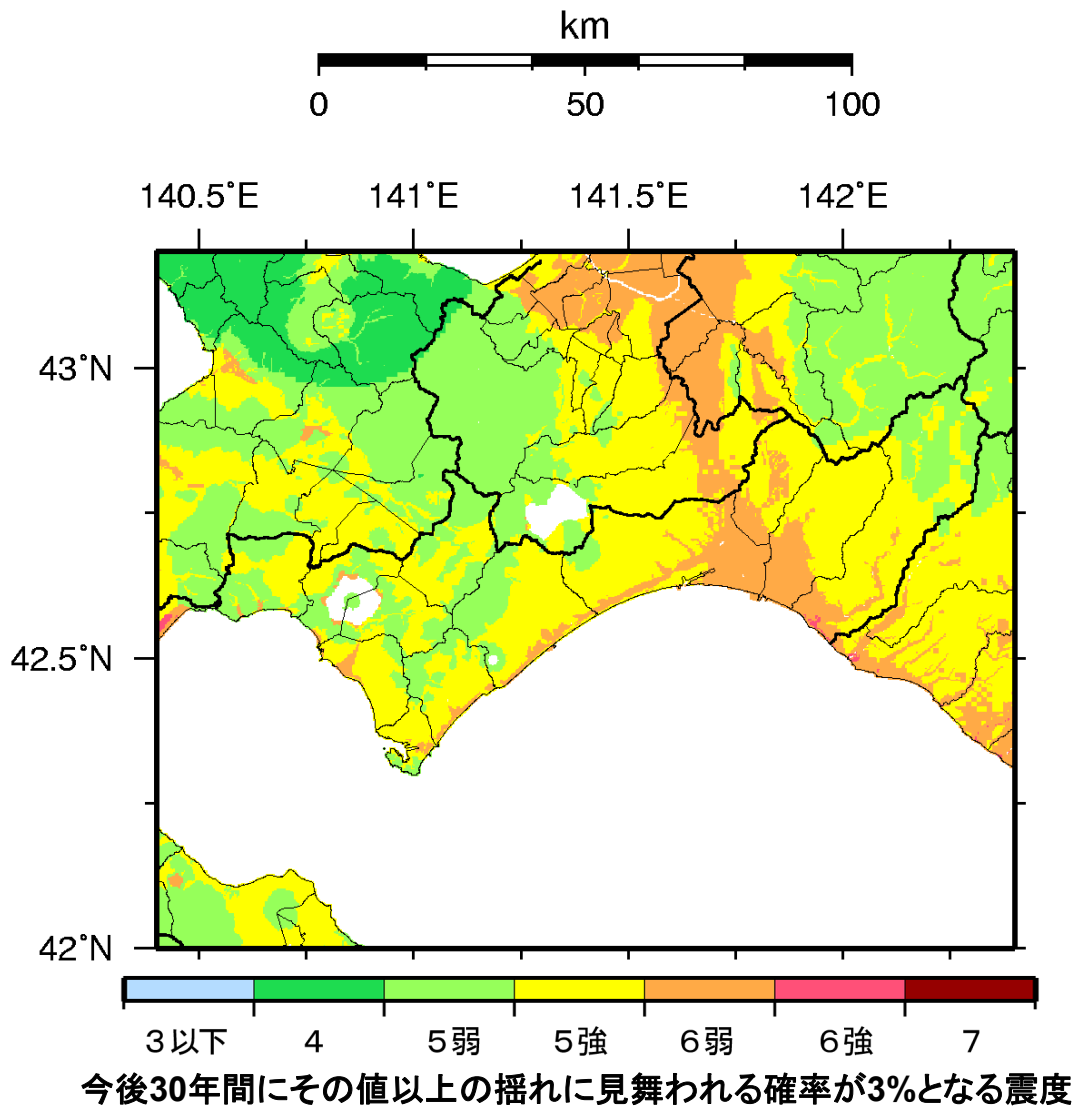
胆振支庁（室蘭市）：やや高い。

活断層が特定されていない場所で発生する地震（カテゴリーⅢ）の影響度が最も高くなっています。三陸沖北部の地震（カテゴリーⅠ）の影響も見られます。

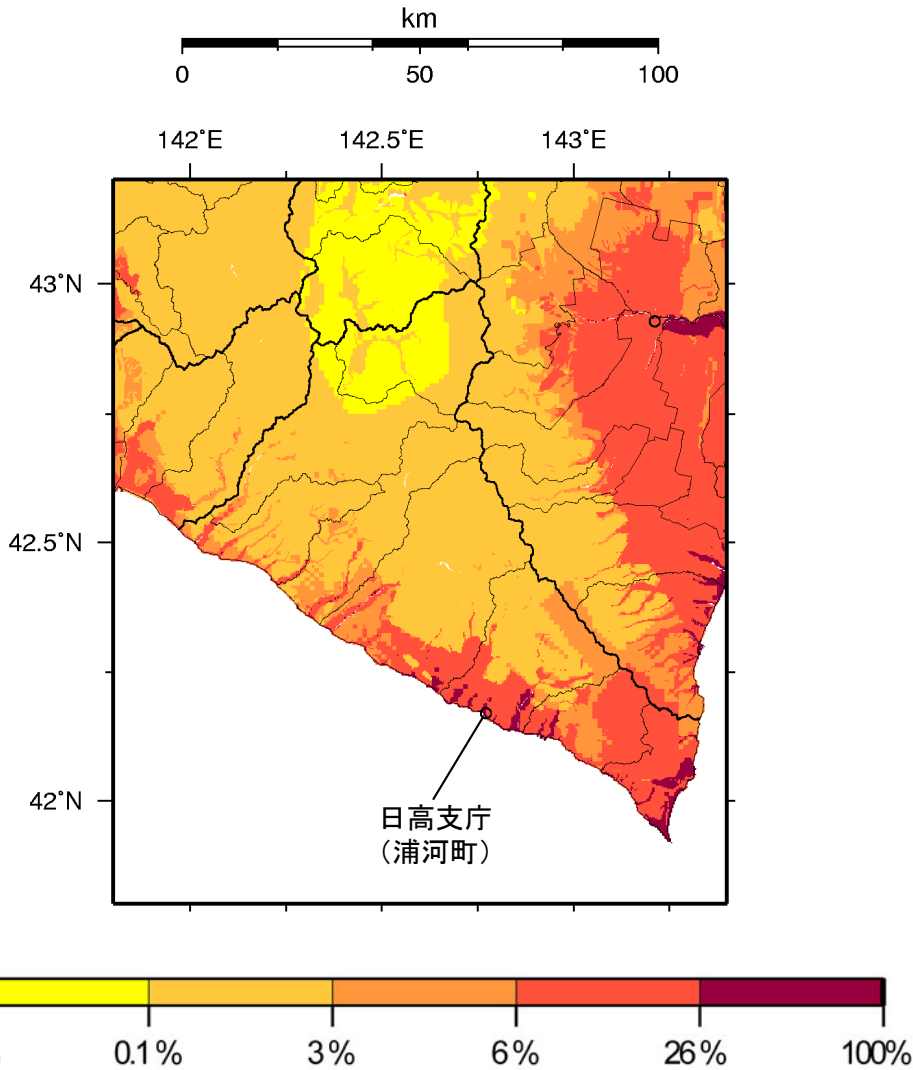


カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

胆振支庁の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



日高支庁



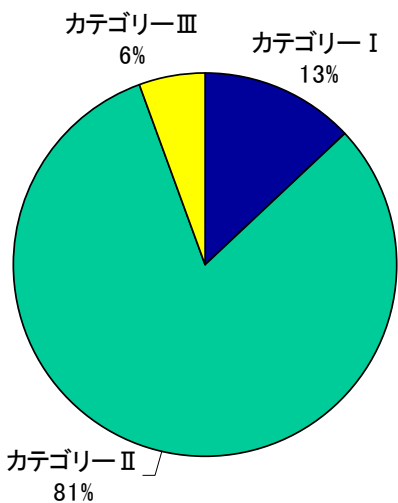
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

日高山脈に比べると、沿岸部の一部や河川沿いでは、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなる傾向にあります。また南部では、千島海溝沿いの沈み込んだ太平洋プレート内で発生する地震(カテゴリーⅡ)や太平洋プレートのプレート間およびプレート内の震源を予め特定しにくい地震(カテゴリーⅡ)の影響が大きくなります。

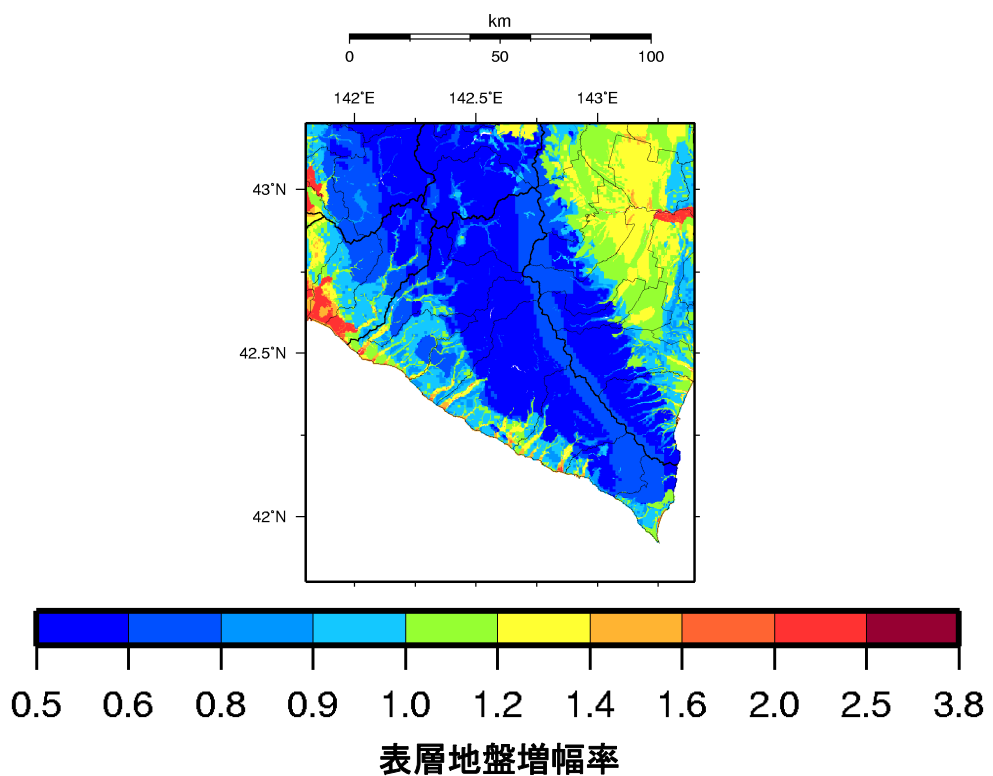
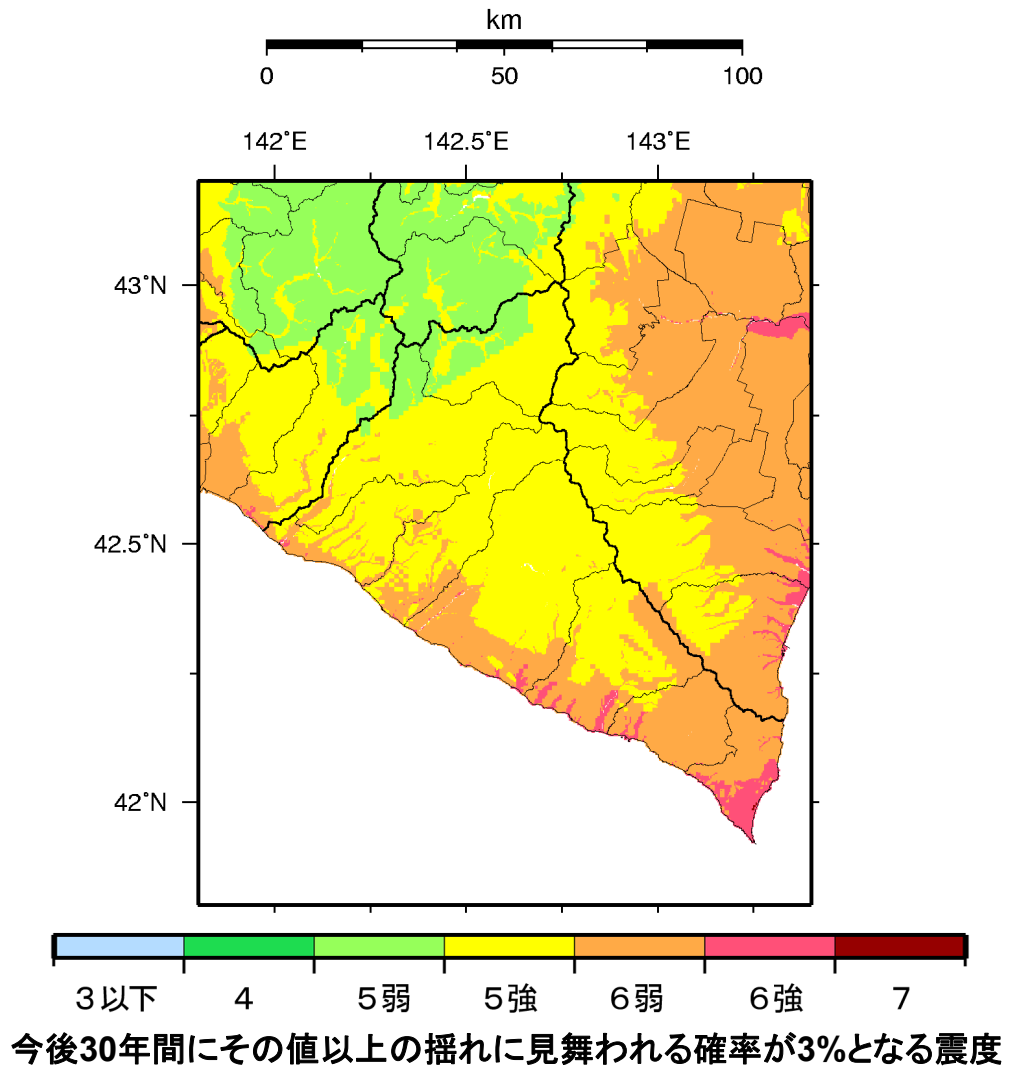
日高支庁(浦河町)：高い。

千島海溝沿いの沈み込んだ太平洋プレート内のやや深い地震・やや浅い地震(ともにカテゴリーⅡ)の影響度が高くなっています。太平洋プレートのプレート間およびプレート内の震源を予め特定しにくい地震(カテゴリーⅡ)や、三陸沖北部の地震(カテゴリーⅠ)の影響も見られます。

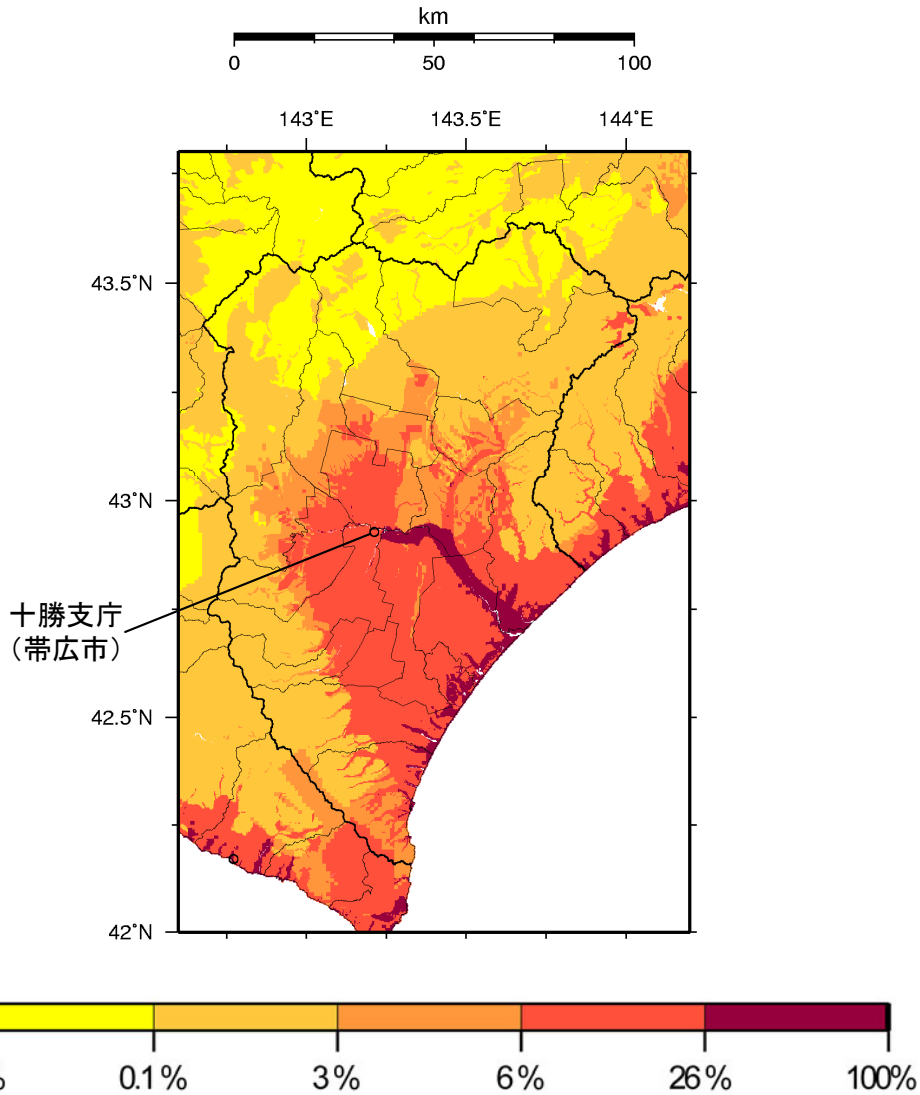


カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

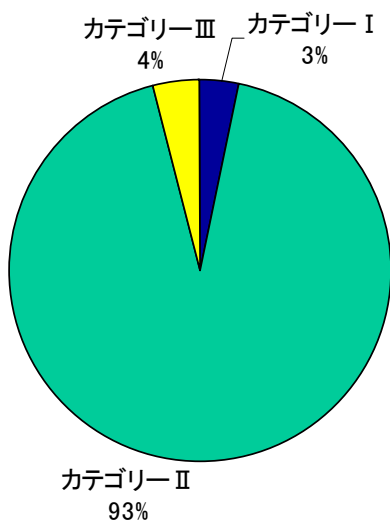
日高支庁の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



十勝支庁



今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）



地図概況

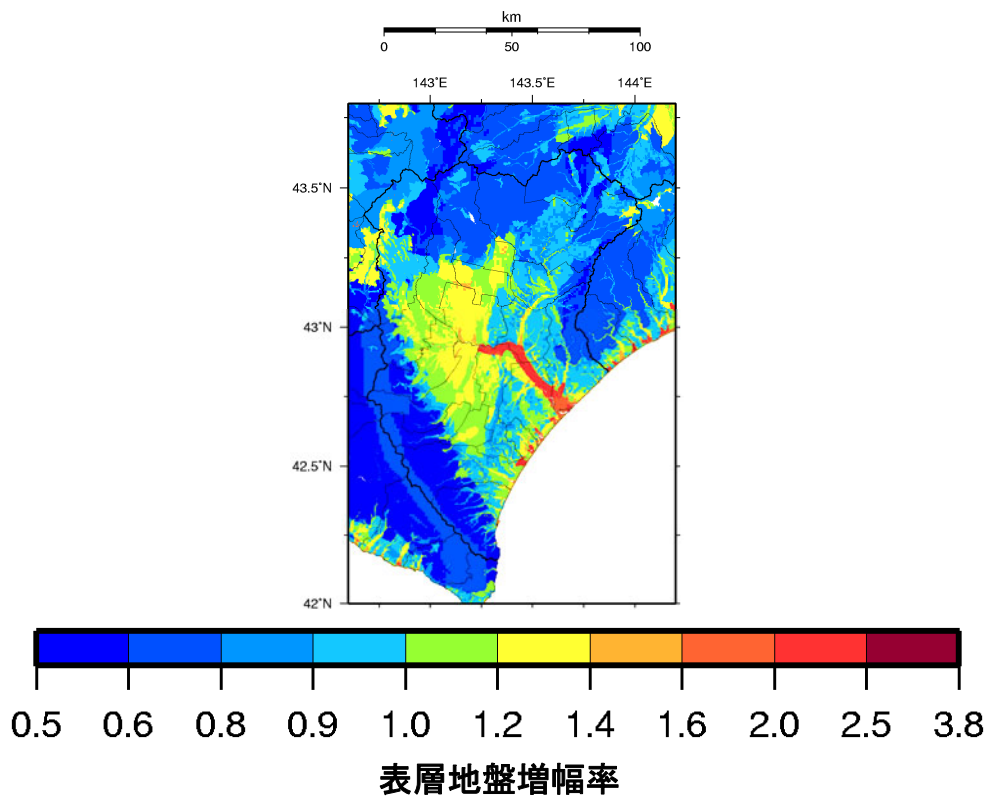
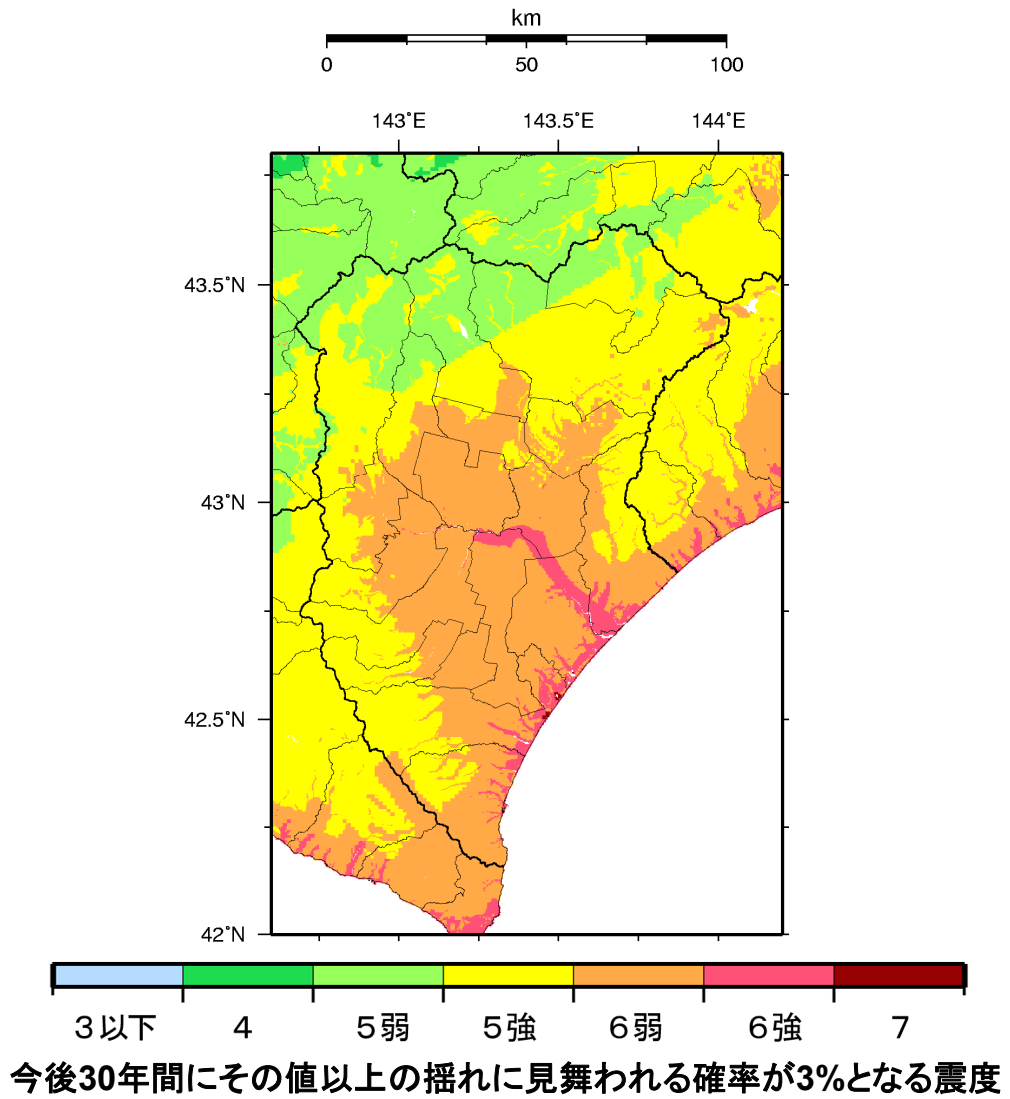
周辺部の山地（日高山脈、石狩山地など）や丘陵（白糠丘陵）に比べると、十勝平野、その中でも特に河川沿いや沿岸部では、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

十勝支庁（帯広市）：高い。

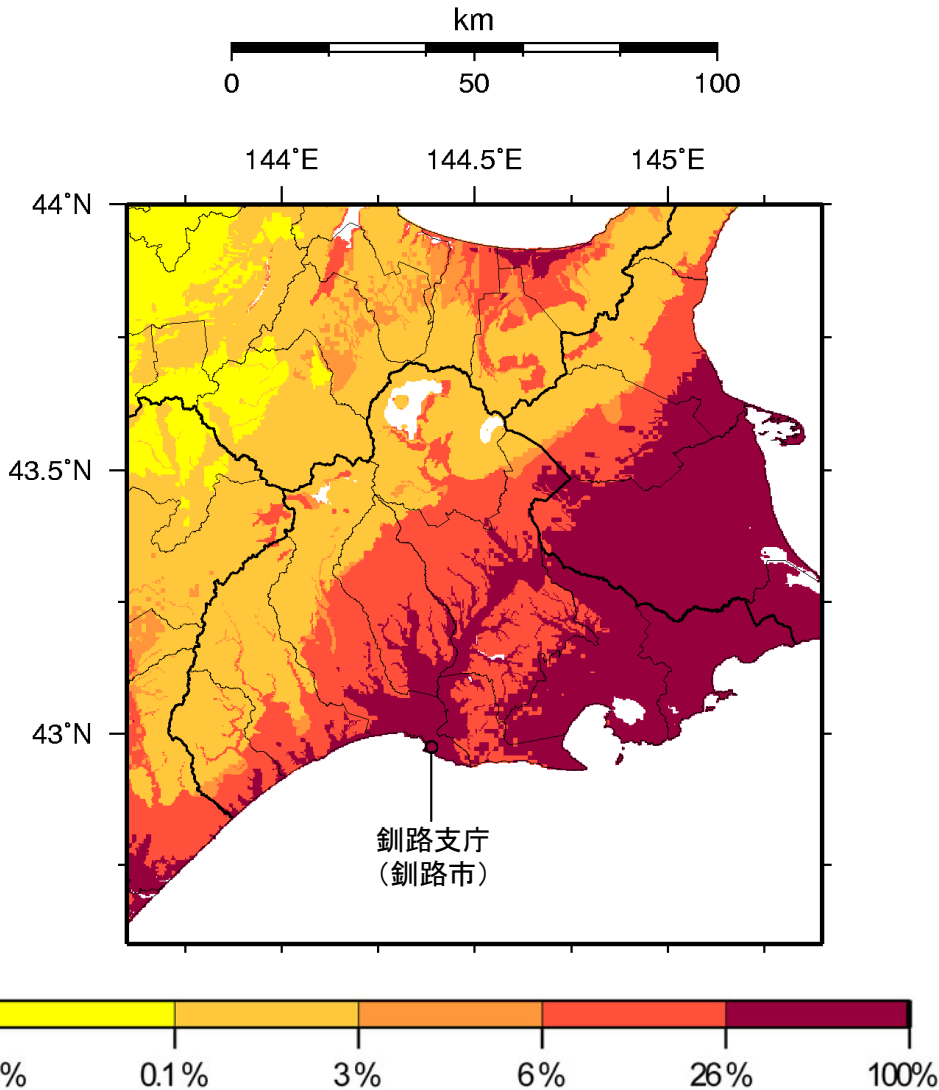
千島海溝沿いの沈み込んだ太平洋プレート内のやや深い地震（カテゴリーⅡ）の影響度が最も高くなっています。次いで、同プレート内のやや浅い地震（カテゴリーⅡ）の影響度が高くなっています。

カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

十勝支庁の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



釧路支庁



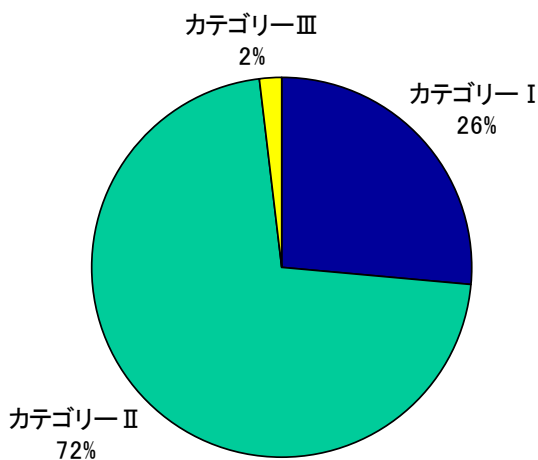
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

南東側ほど、海溝型地震(カテゴリーⅠ、Ⅱ)の影響が大きくなります。また北西部の山地や丘陵(白糖丘陵)に比べると、南東部の釧路平野や根釧台地、その中でも特に河川沿いや低湿地、沿岸部では、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

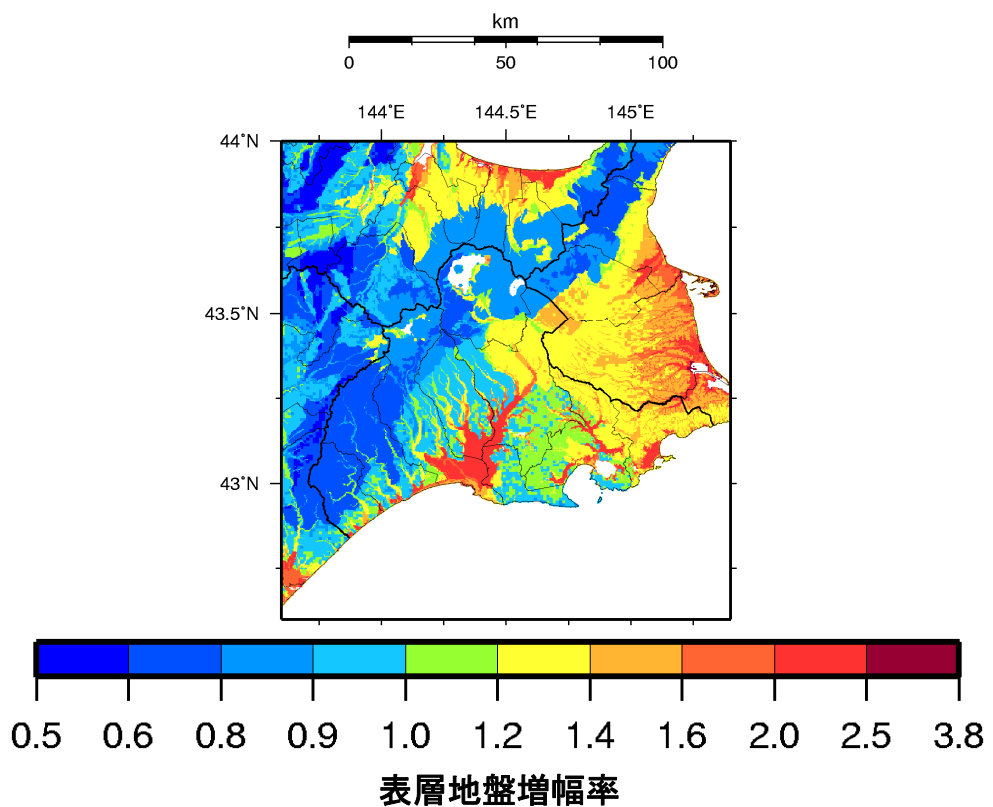
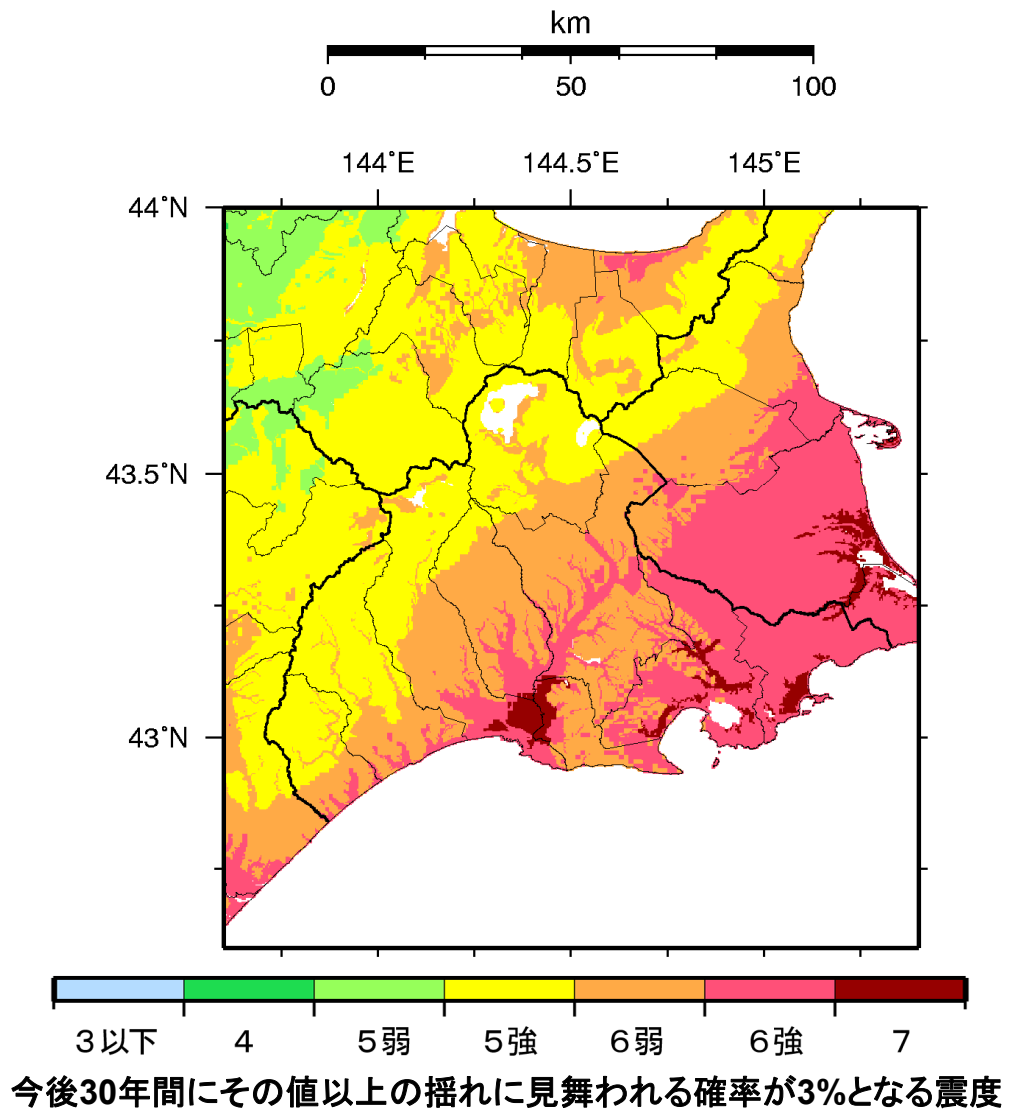
釧路支庁(釧路市)：高い。

千島海溝沿いの沈み込んだ太平洋プレート内のやや深い地震・やや浅い地震(ともにカテゴリーⅡ)の影響度が高くなっています。また、十勝沖・根室沖の地震(カテゴリーⅠ)の影響度も高くなっています。

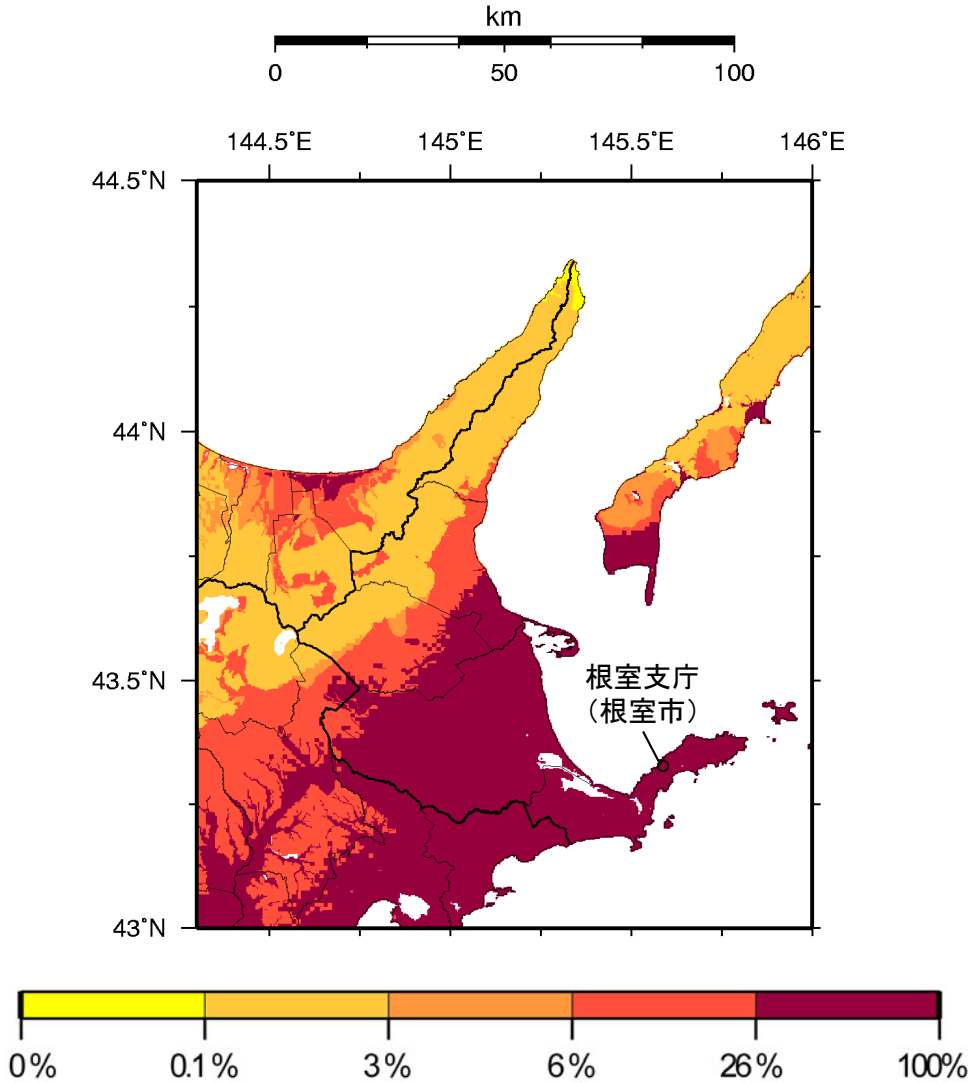


カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

釧路支庁の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



根室支庁(北方四島を除く)



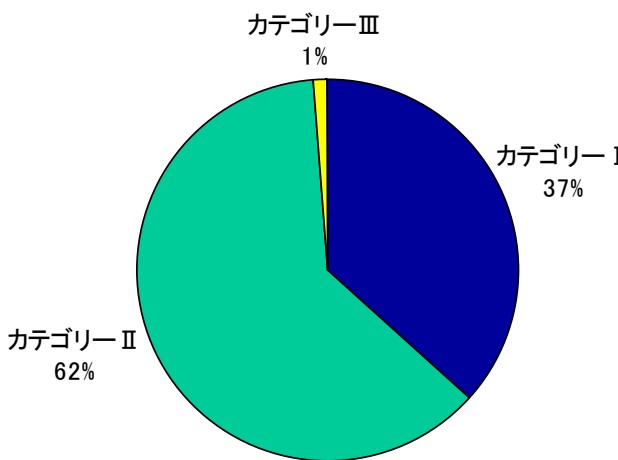
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率 (30年超過確率)

地図概況

南東側ほど、海溝型地震(カテゴリーⅠ、Ⅱ)の影響が大きくなります。また北部の山地に比べると、南部の根釧台地や沿岸部、それらの中でも特に河川・湖沼沿いや低湿地では、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

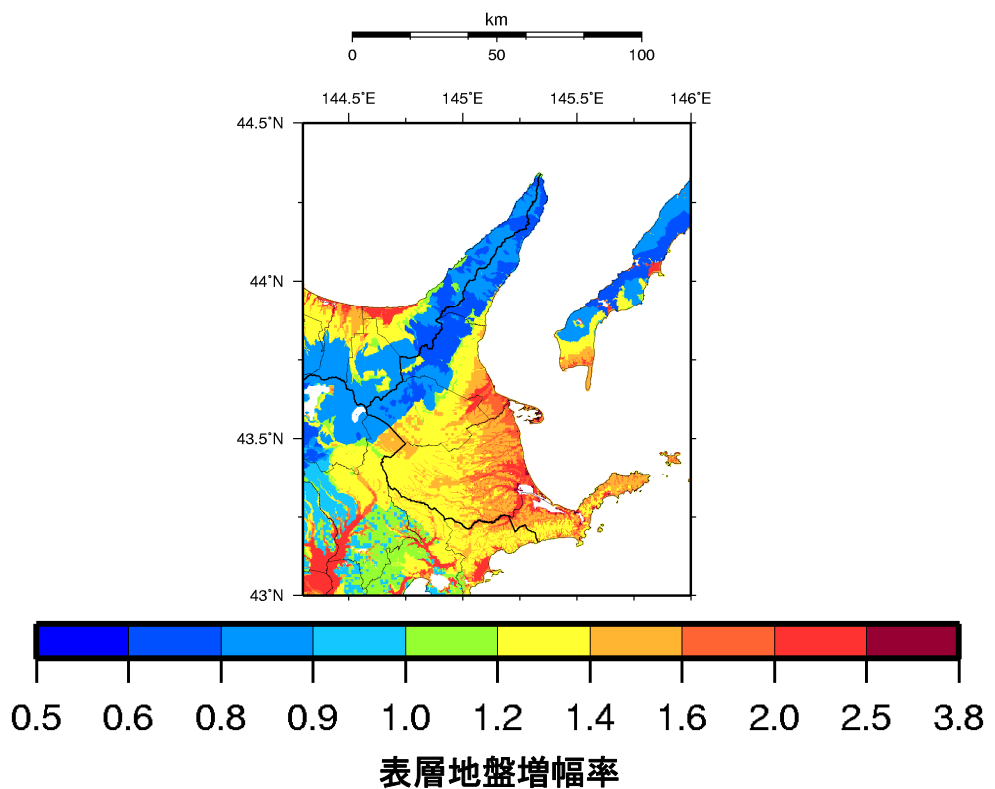
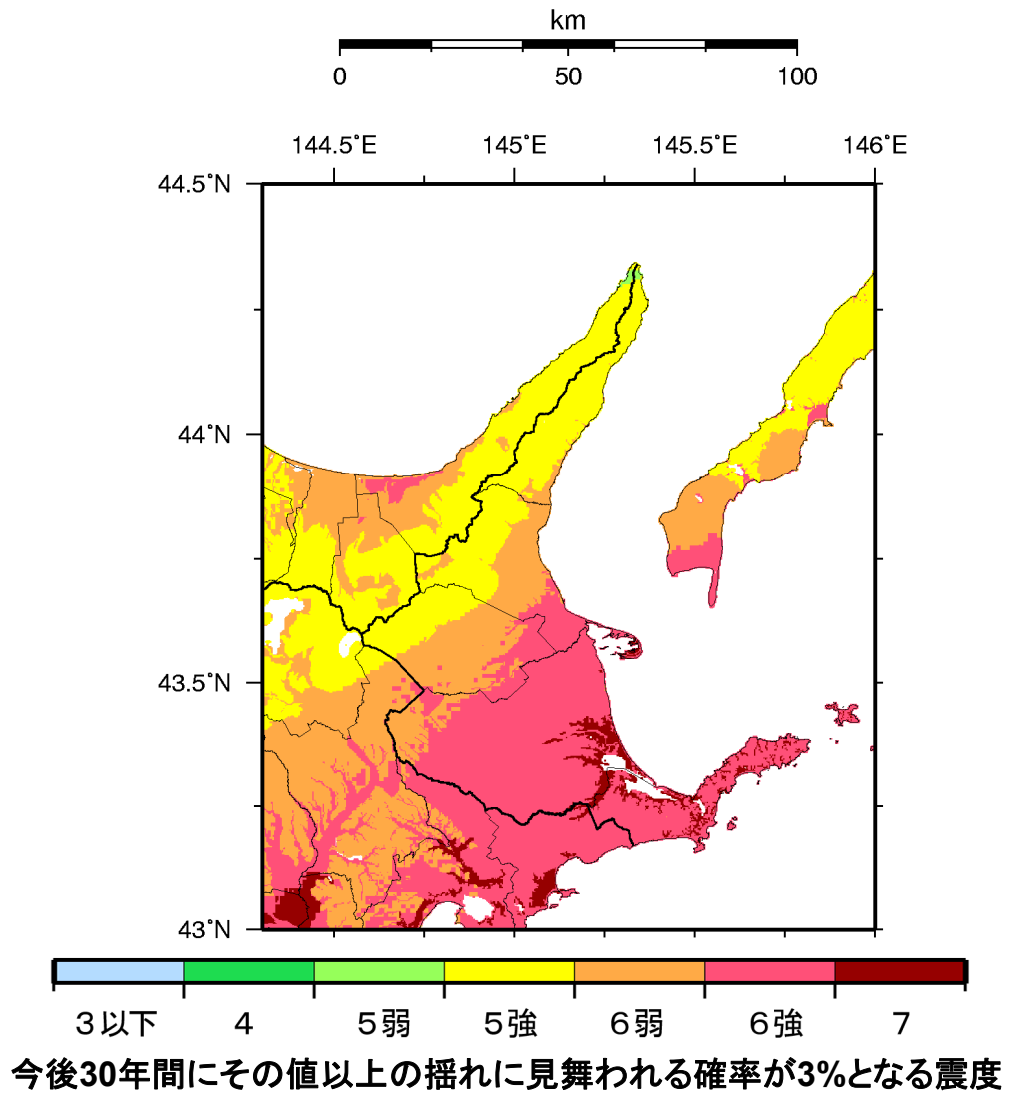
根室支庁(根室市)：高い。

カテゴリーⅡの地震の影響度が最も高くなっています。これは、千島海溝沿いの沈み込んだ太平洋プレート内のやや深い地震・やや浅い地震や、沈み込んだ太平洋プレート内の震源を予め特定しにくい地震によるものと考えられます。また、十勝沖・根室沖の地震(カテゴリーⅠ)の影響度も高くなっています。

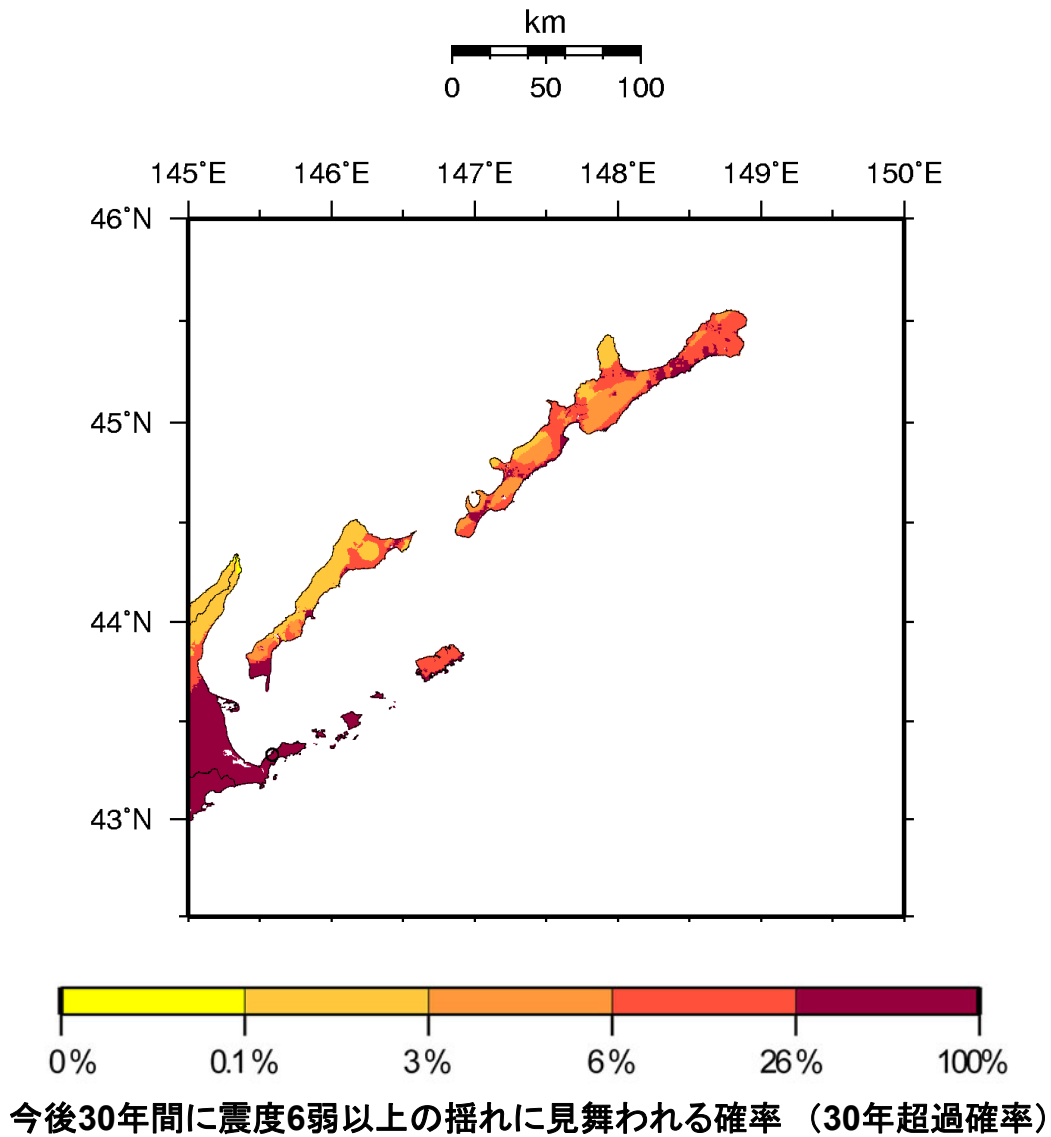


カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

根室支庁の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度

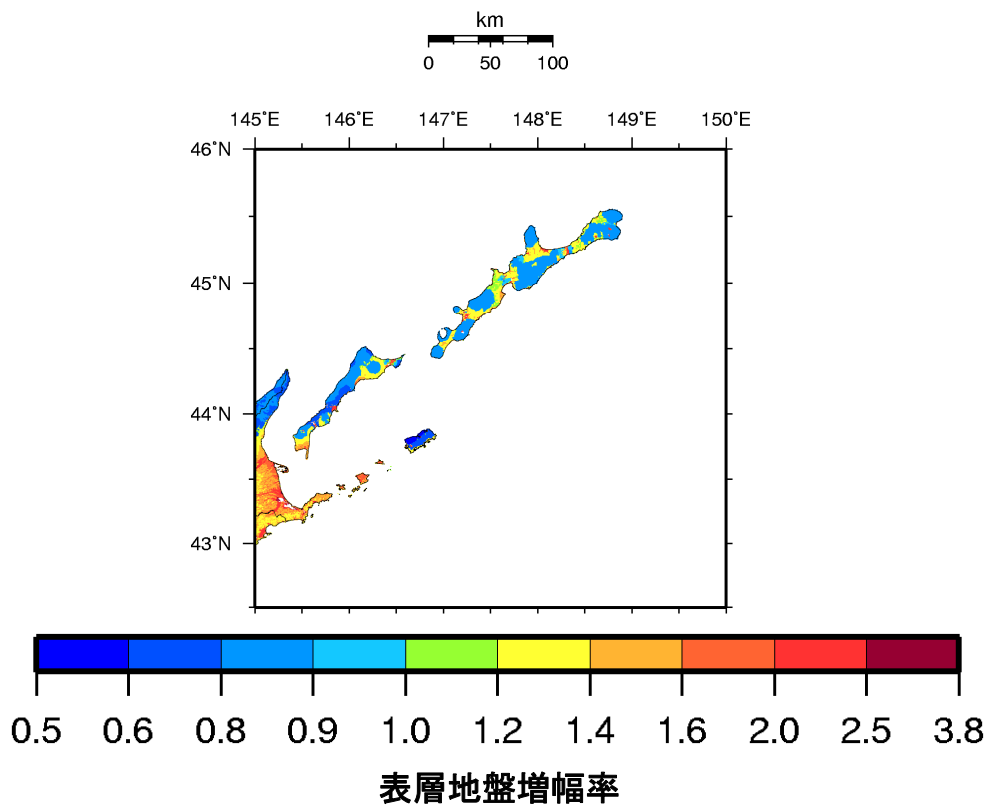
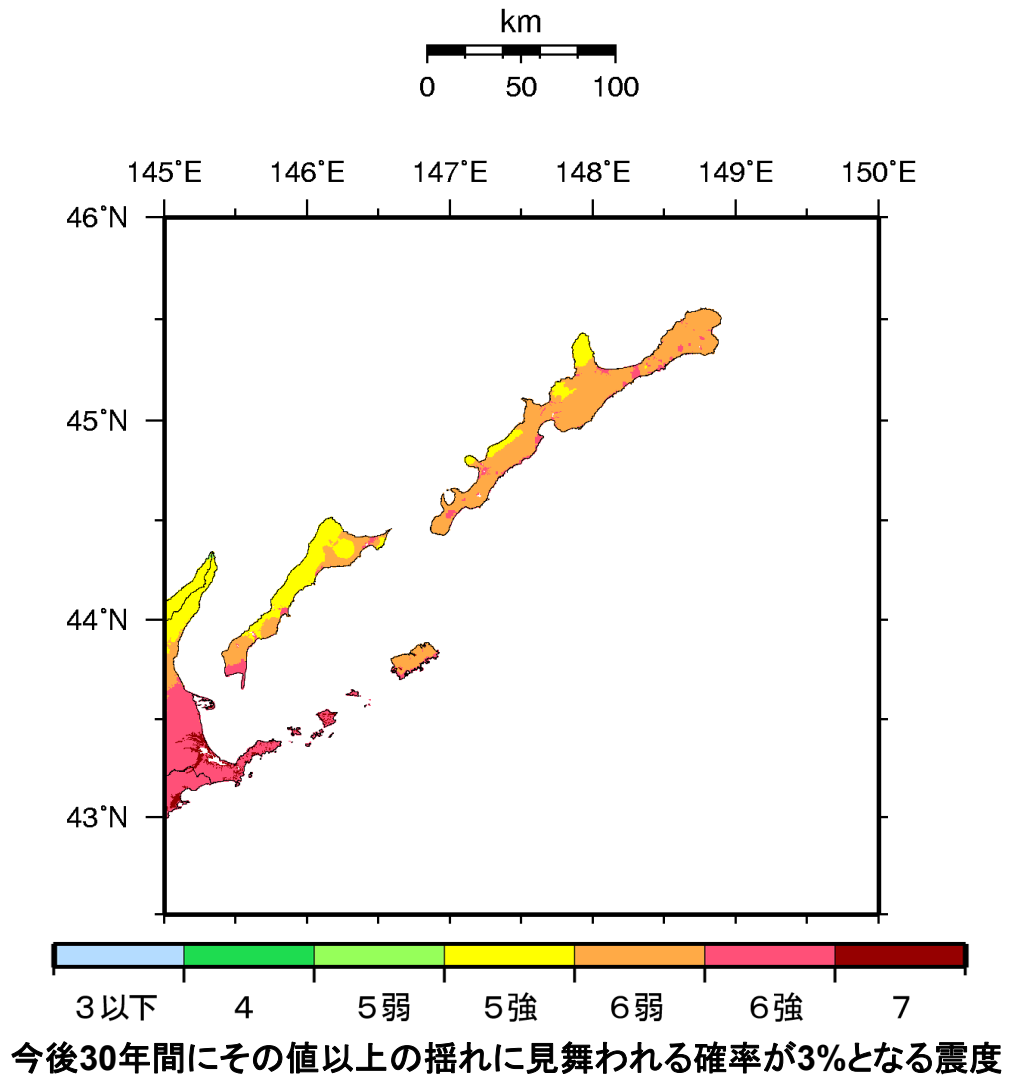


根室支庁(北方四島)



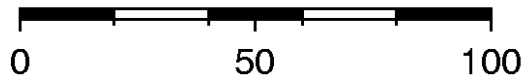
地図概況

千島海溝に沿う列島という地理的条件から、海溝型地震(カテゴリーⅠ,Ⅱ)の影響が大きく、特に低湿地や沿岸部では、確率・震度ともに大きくなると考えられます。



青森県

km

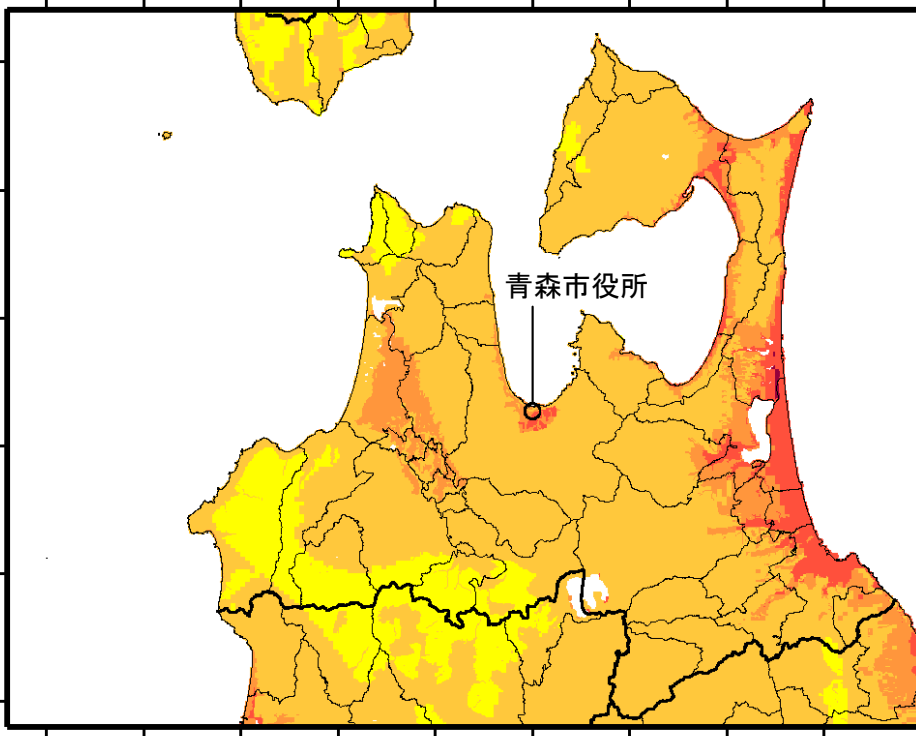


139.5°E 140°E 140.5°E 141°E 141.5°E

41.5°N

41°N

40.5°N



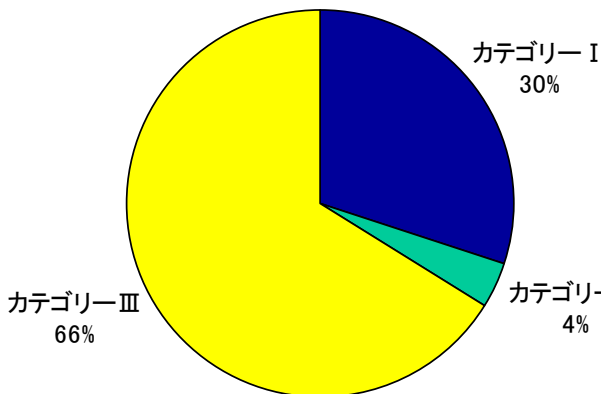
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

平野部(津軽平野、青森平野、三本木原など)や沿岸部では、周囲の山地に比べると地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。また東部では、海溝型地震(カテゴリーⅠ、Ⅱ)の影響が大きくなります。

青森市役所：やや高い。

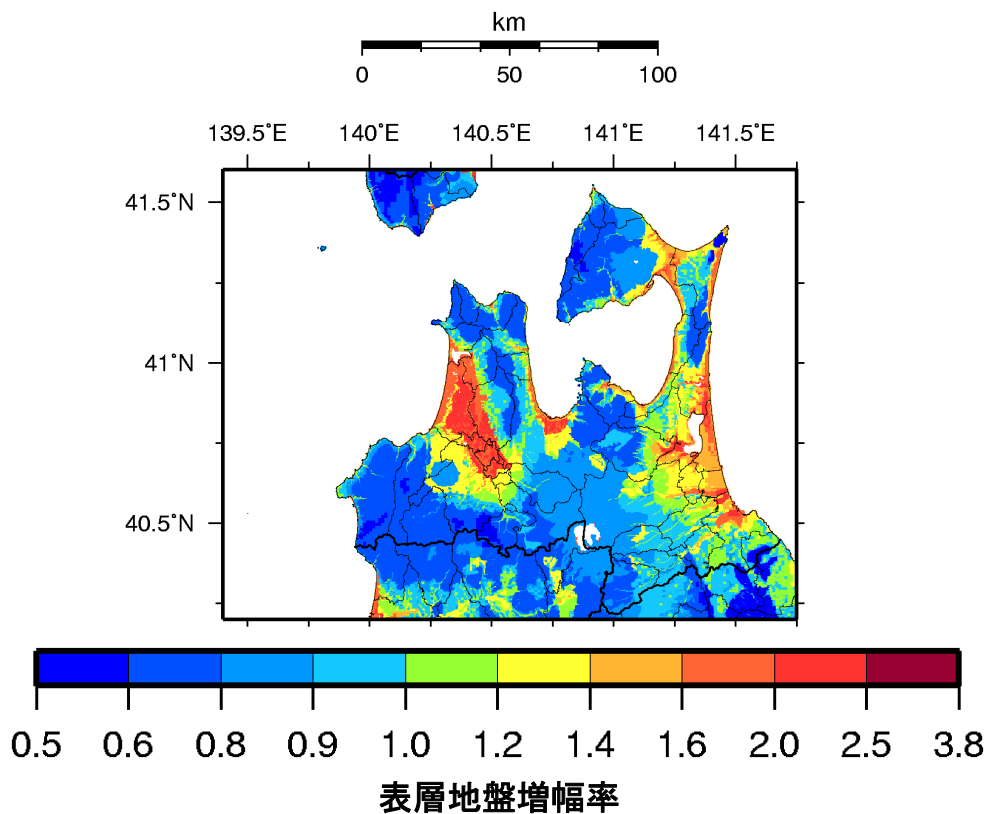
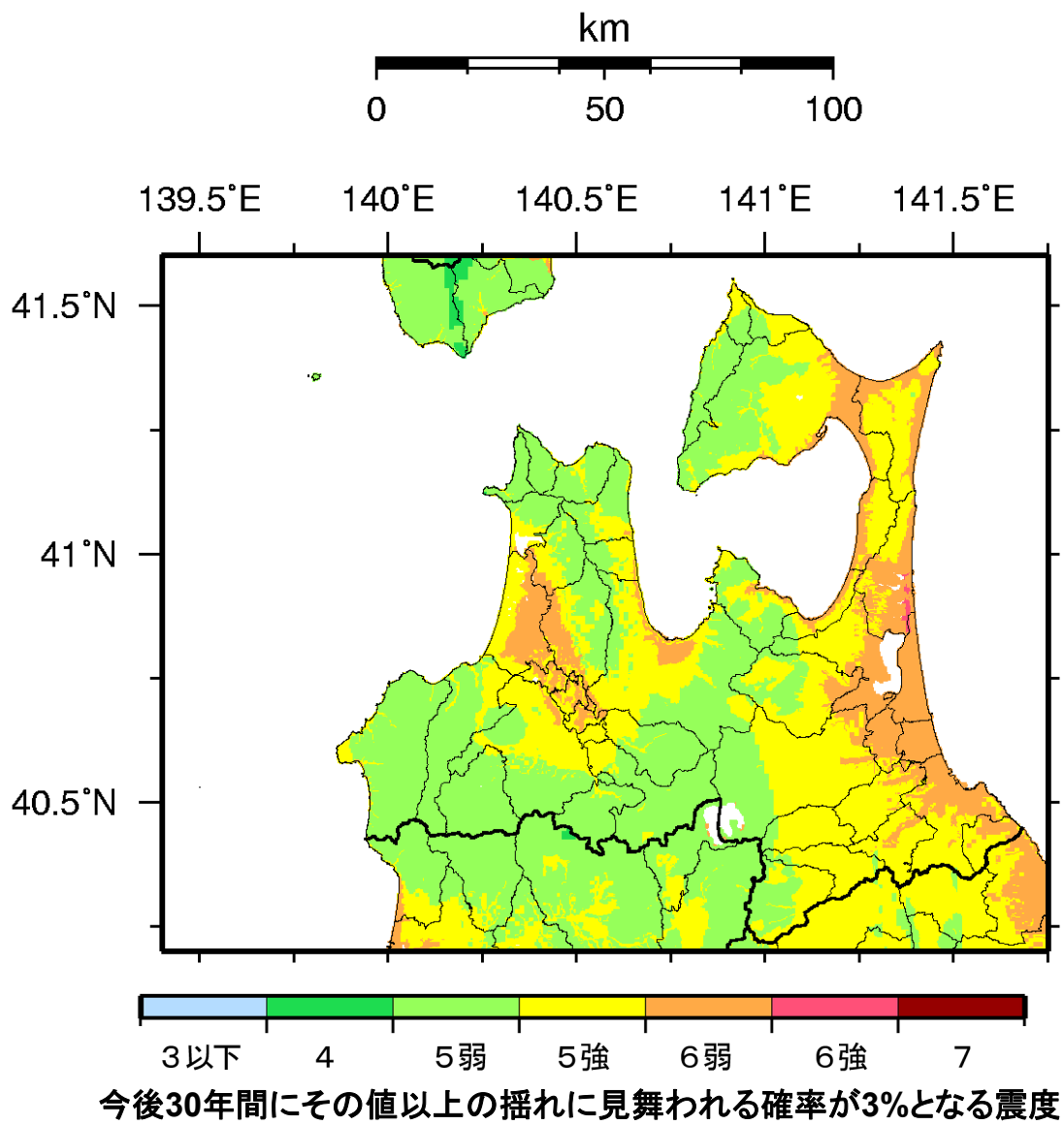
カテゴリーⅢの地震の影響度が最も高くなっています。活断層が特定されていない場所で発生する地震や、主要活断層帯の地震(近傍の青森湾西岸断層帯の地震)によるものと考えられます。また、三陸沖北部の地震(カテゴリーⅠ)の影響度も相対的に高くなっています。



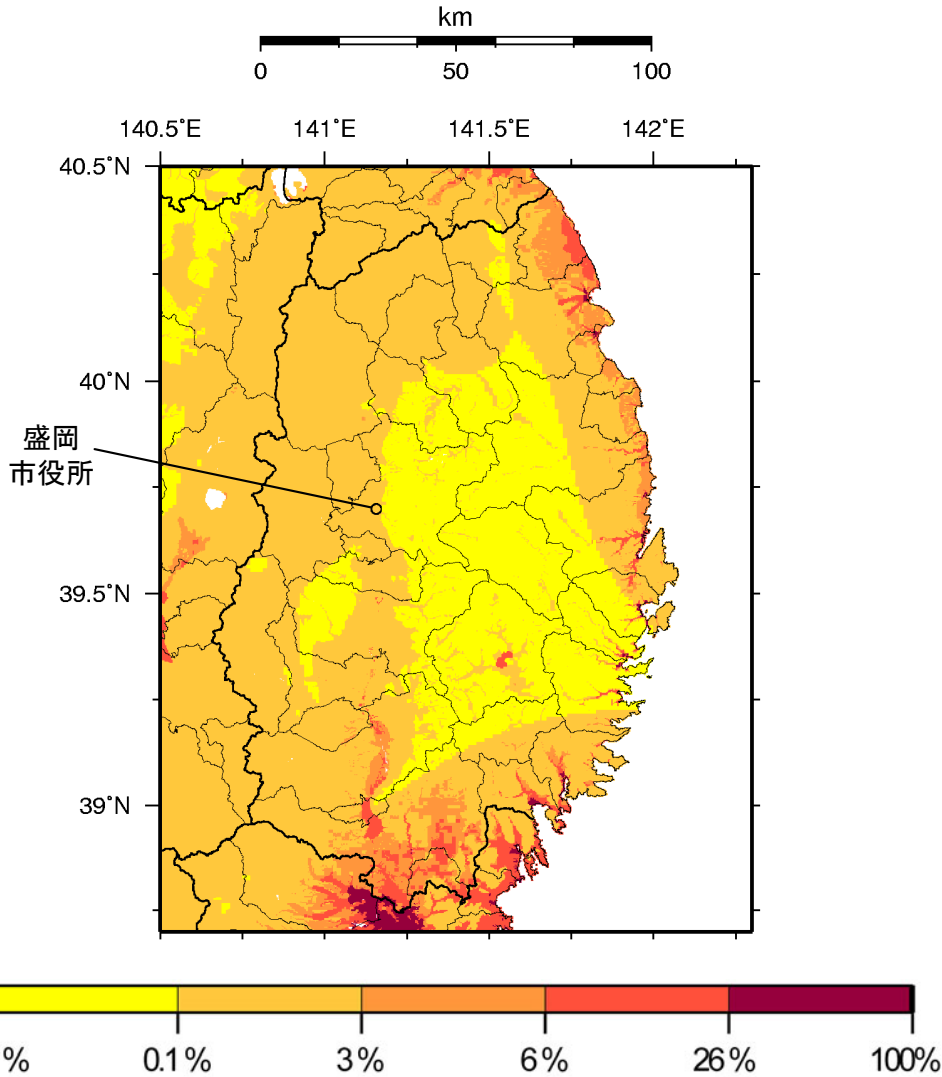
カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

青森市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度

※ 青森県西方沖の久六島については、計算に必要なデータが整備されていないため、地図を作成していません。



岩手県



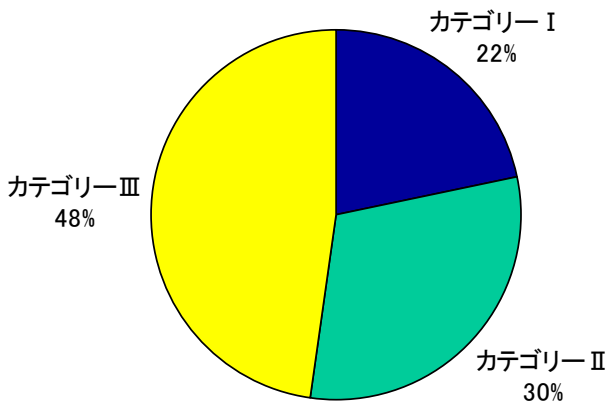
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

東部になるほど、三陸沖北部の地震に代表される海溝型の地震(カテゴリーⅠ、Ⅱ)や、宮城県沖地震(カテゴリーⅠ)の影響を受けて、確率・震度ともに大きくなります。また、河川沿いや盆地、沿岸部の低地では、北上山地などの山地に比べると地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

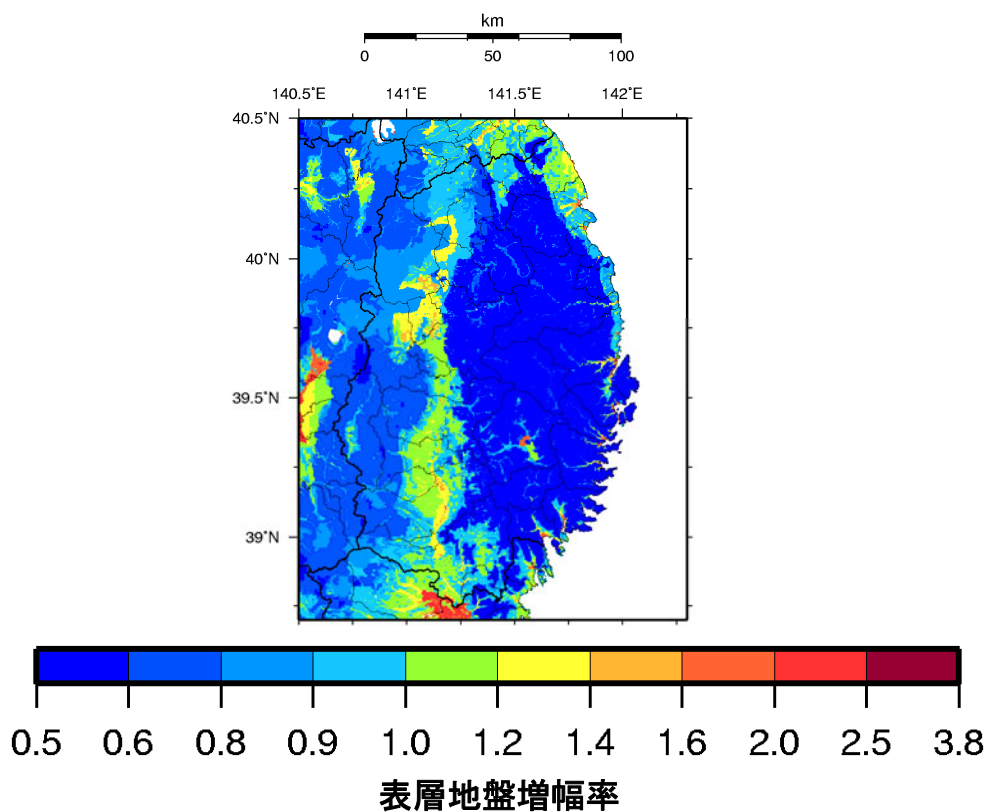
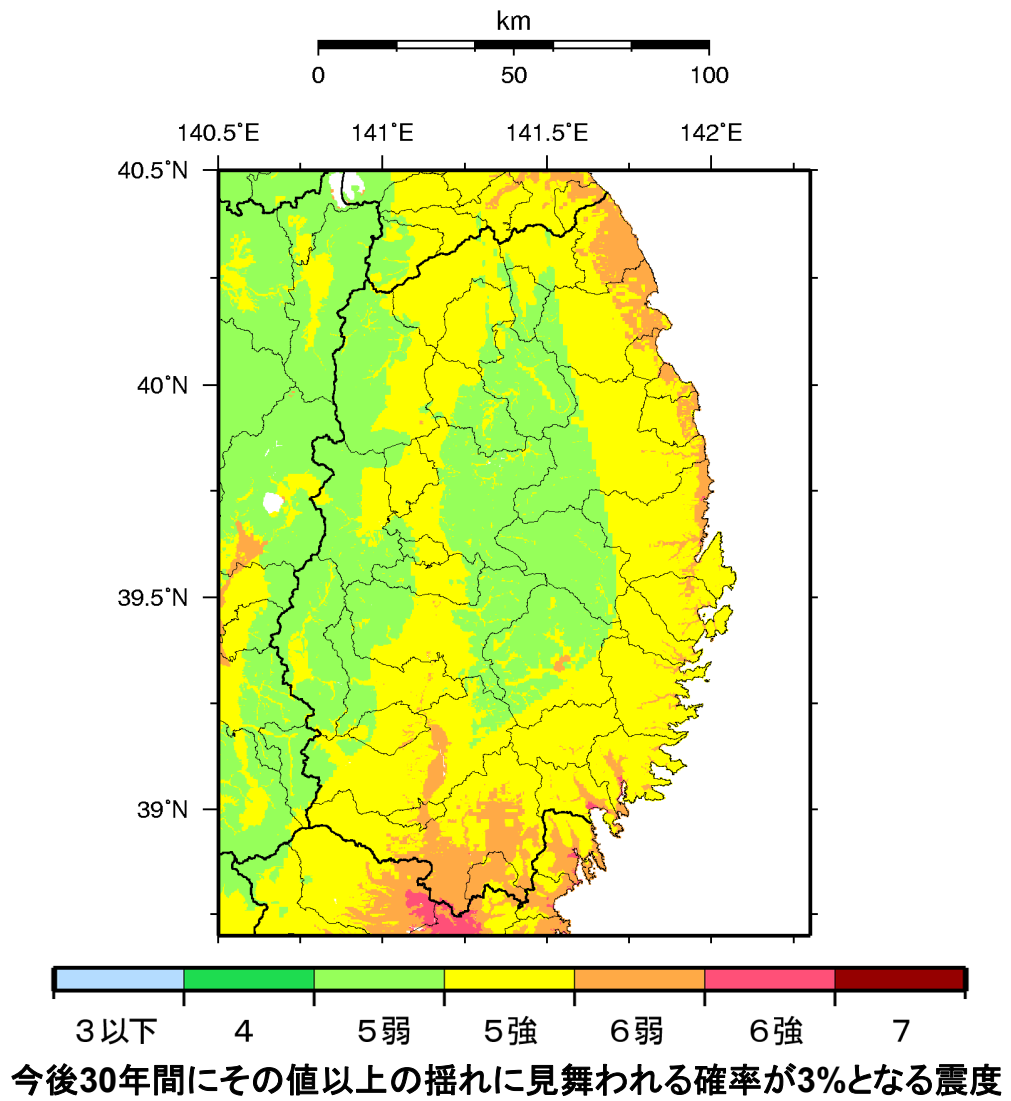
盛岡市役所：やや高い。

活断層が特定されていない場所で発生する地震(カテゴリーⅢ)の影響度が最も高くなっています。次いで、三陸沖北部の地震に代表される海溝型の地震(カテゴリーⅠ、Ⅱ)の影響度も高くなっています。

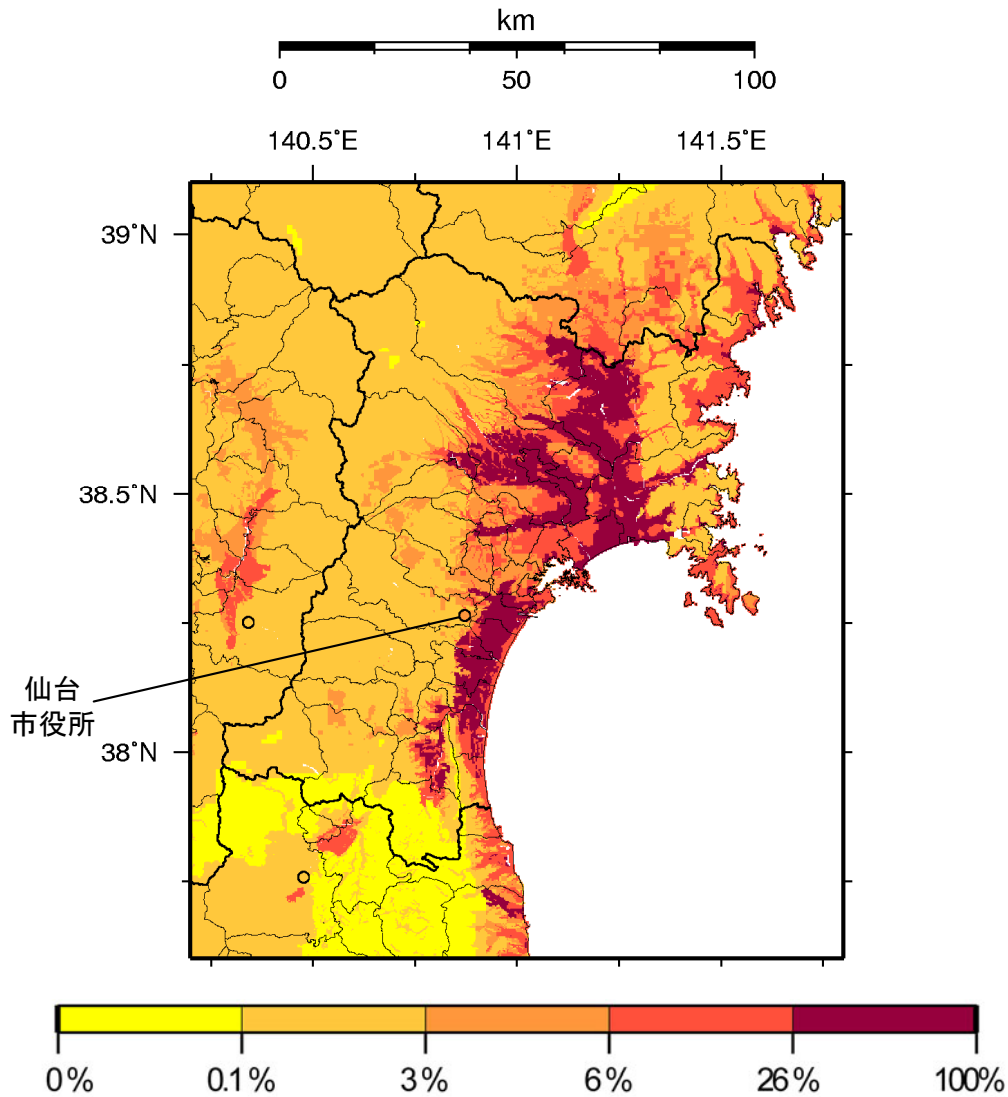


カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

盛岡市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



宮城県



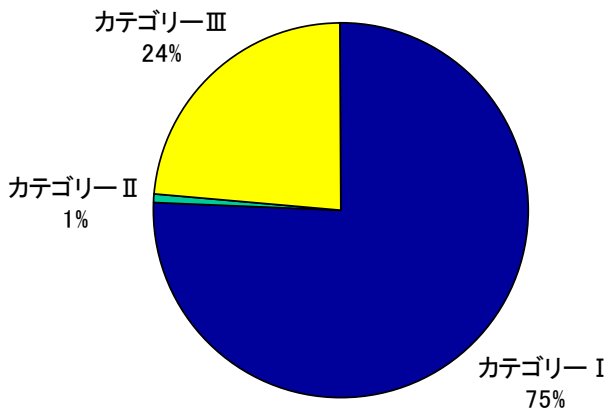
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

仙台平野や河川沿いの低地などでは、周囲の山地に比べると地盤増幅率が高く、宮城県沖地震(カテゴリー I)の震源域に近いこともあって、確率・震度ともに非常に大きくなります。

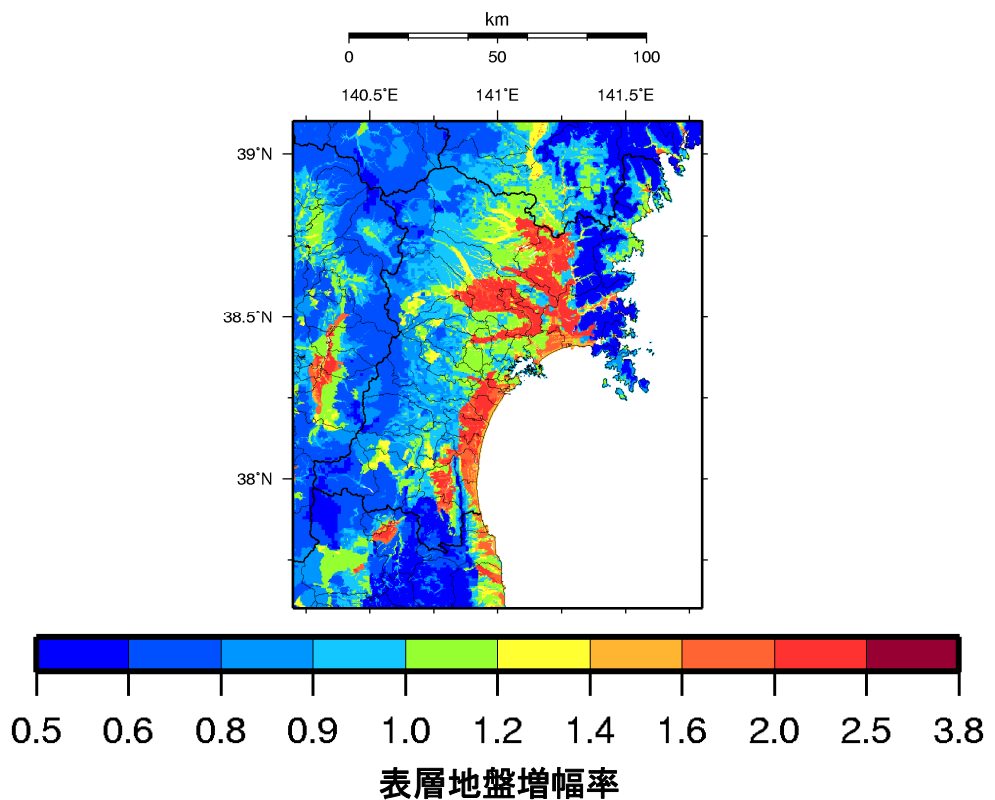
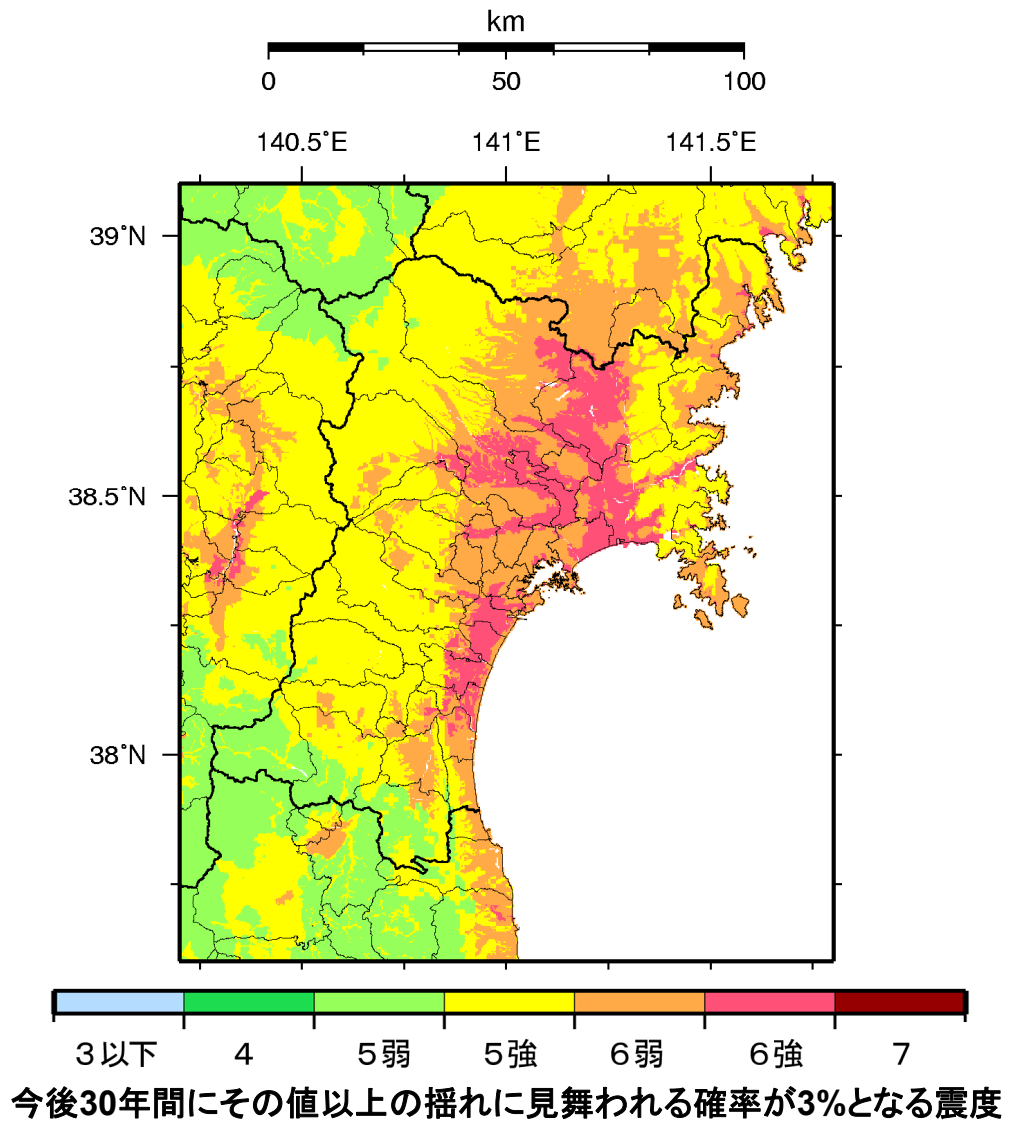
仙台市役所：高い。

今後30年以内の地震発生確率が99%以上という宮城県沖地震(カテゴリー I)の震源域に近いため、その地震の影響度が非常に高くなっています。また、長町-利府線断層帯の地震(カテゴリー III)の影響も見られます。

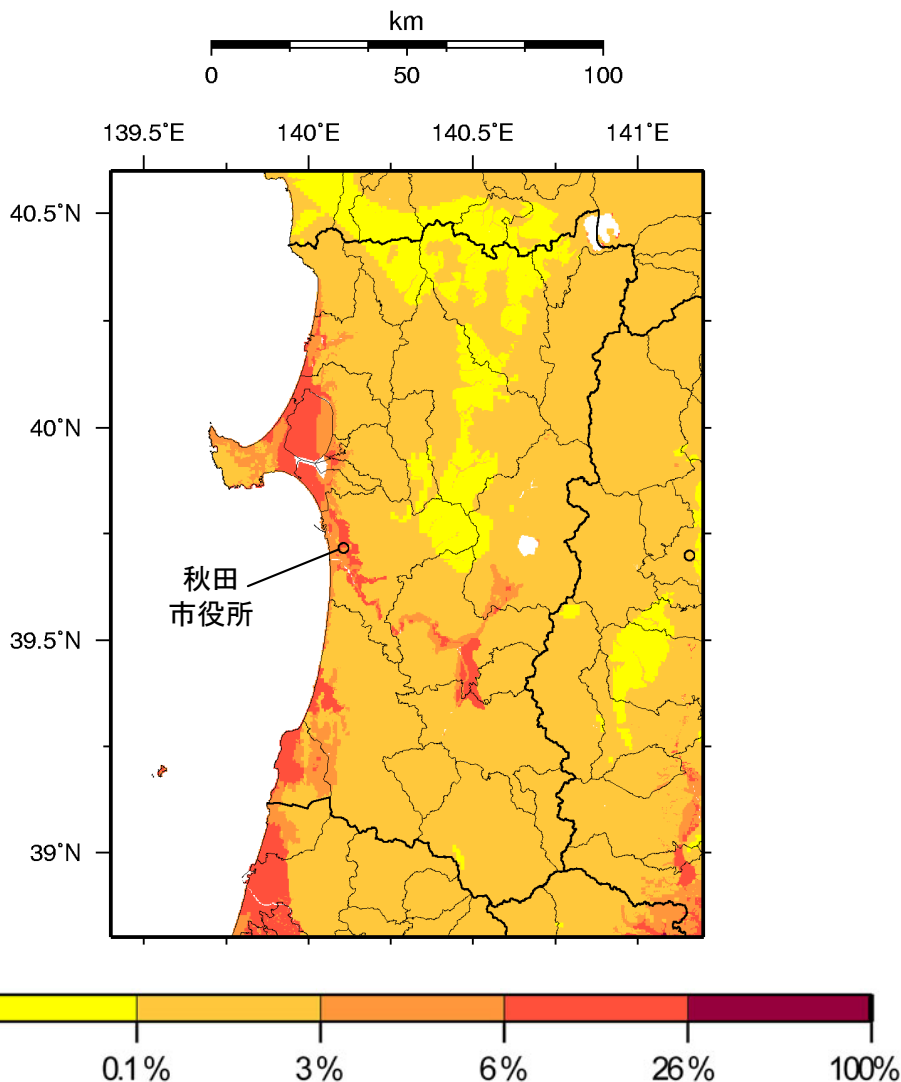


カテゴリー I：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
カテゴリー II：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
カテゴリー III：活断層など陸域と海域の浅い地震

仙台市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



秋田県



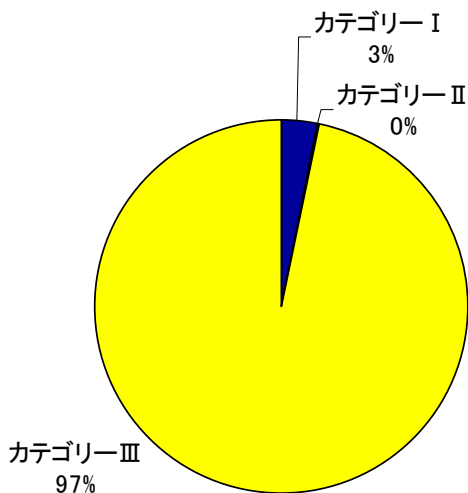
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

日本海沿岸の平野（能代平野、秋田平野、本庄平野）や盆地（大館盆地、横手盆地など）、河川沿いでは、周辺の山地に比べると地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

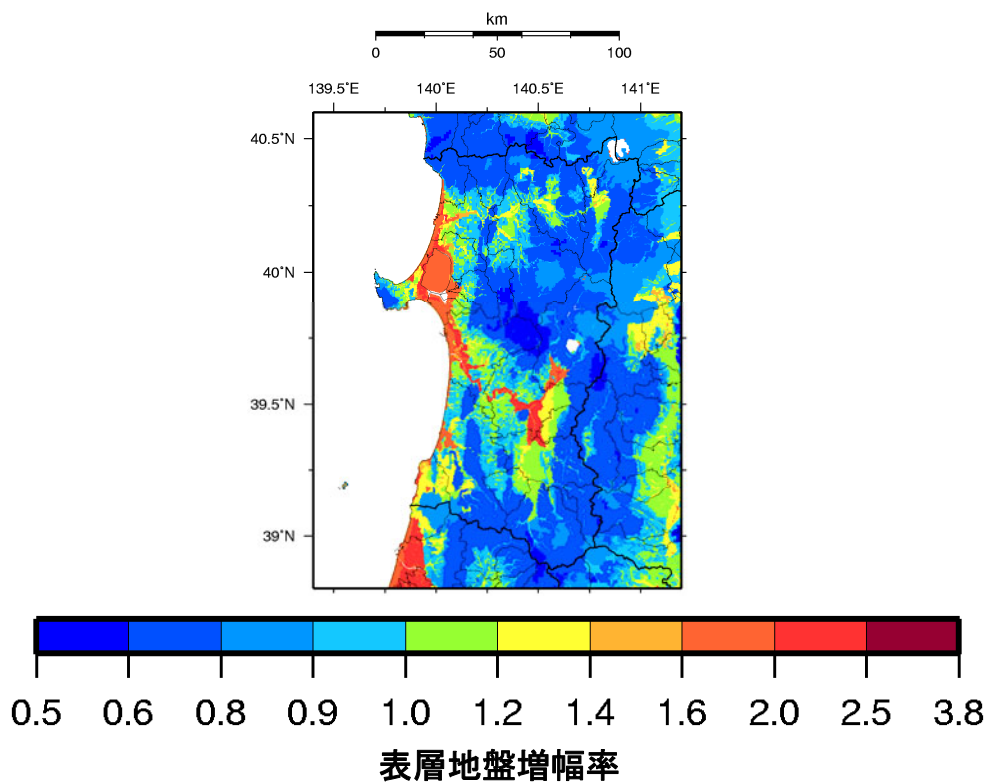
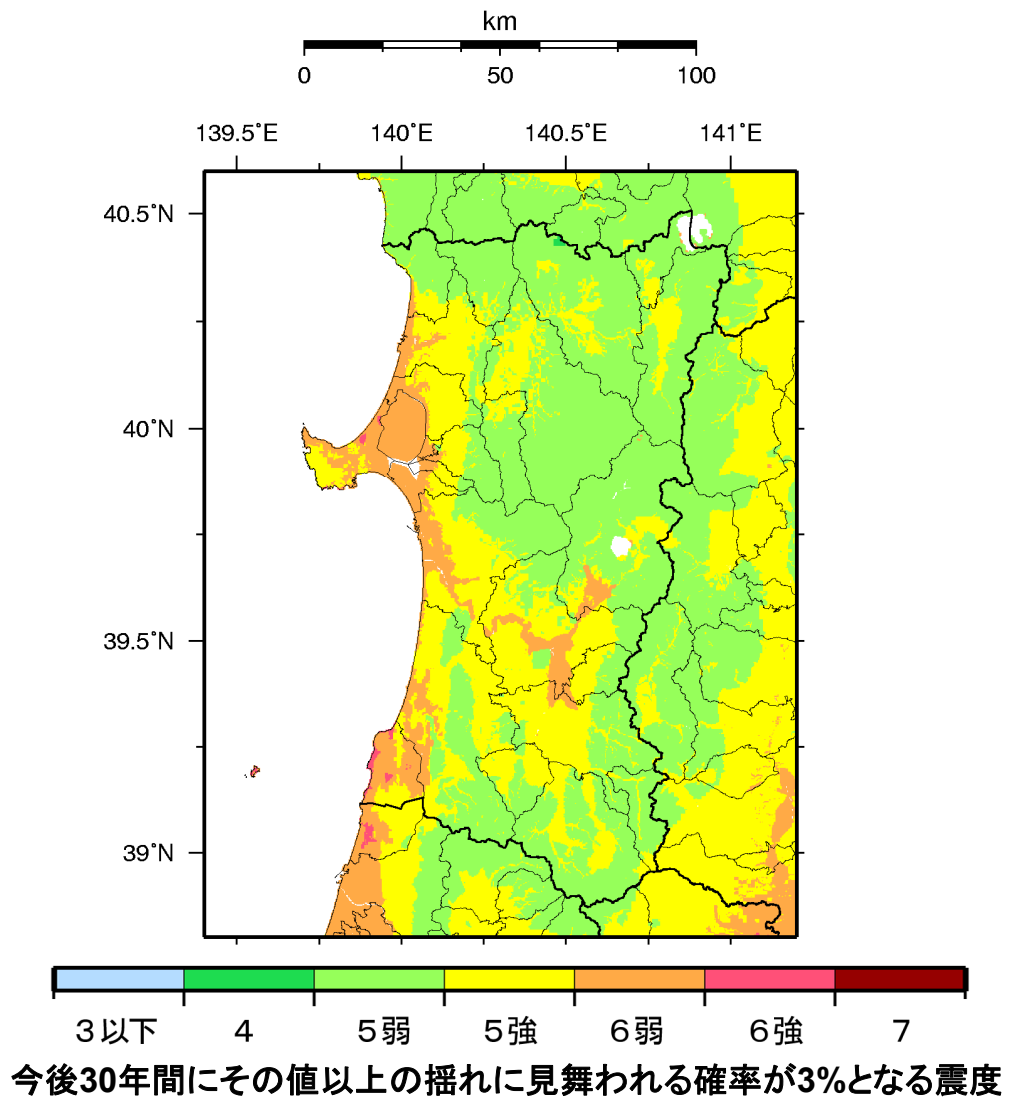
秋田市役所：高い。

カテゴリⅢの地震の影響度が最も高く支配的です。主に、秋田県沖の地震や、活断層が特定されていない場所で発生する地震によると考えられます。佐渡島北方沖の地震や、日本海東縁部の震源断層を予め特定しにくい地震の影響も見られます（以上全てカテゴリⅢ）。

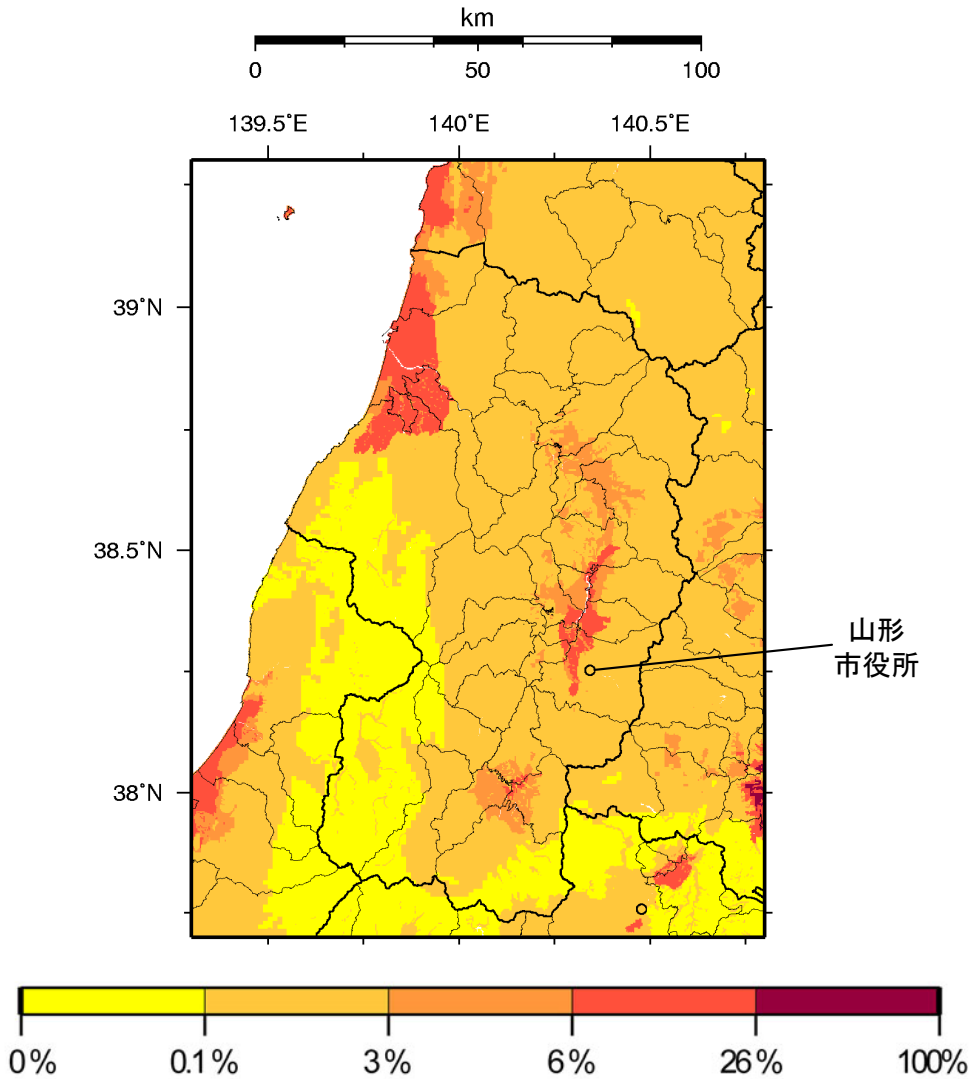


カテゴリⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

秋田市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリ別の影響度



山形県



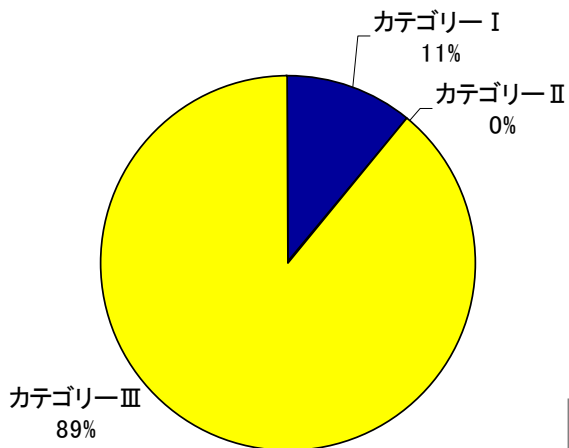
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

日本海沿岸の庄内平野や、河川沿いの山間の盆地（新庄盆地、山形盆地、米沢盆地）では、周辺の山地に比べると地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

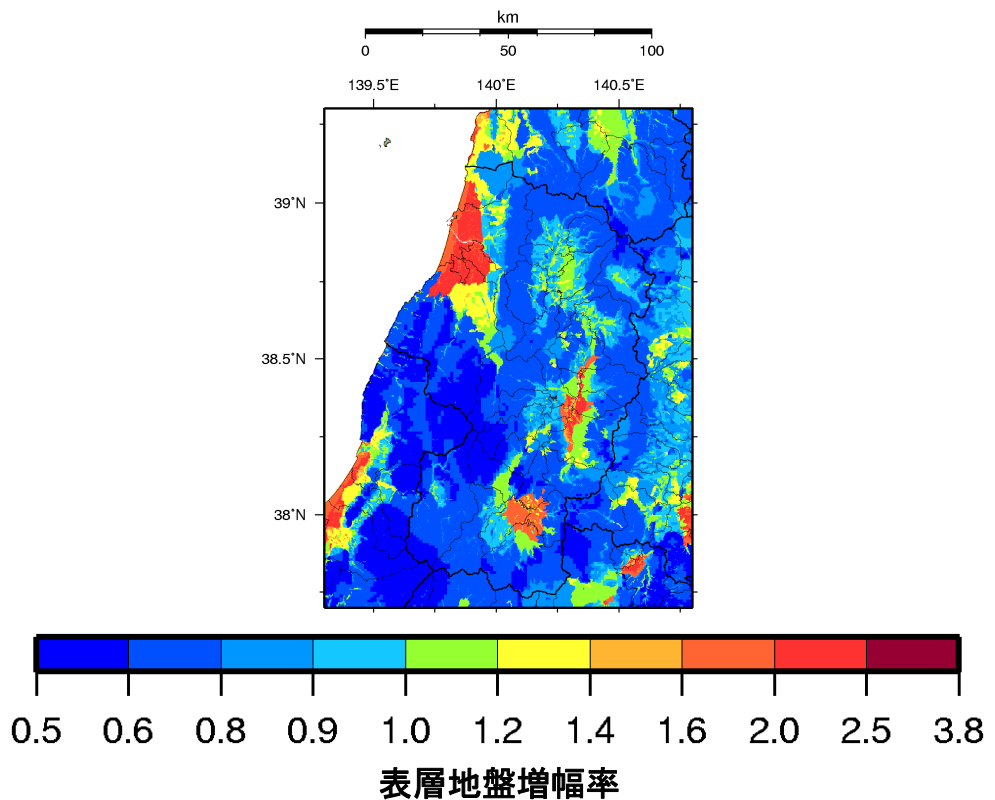
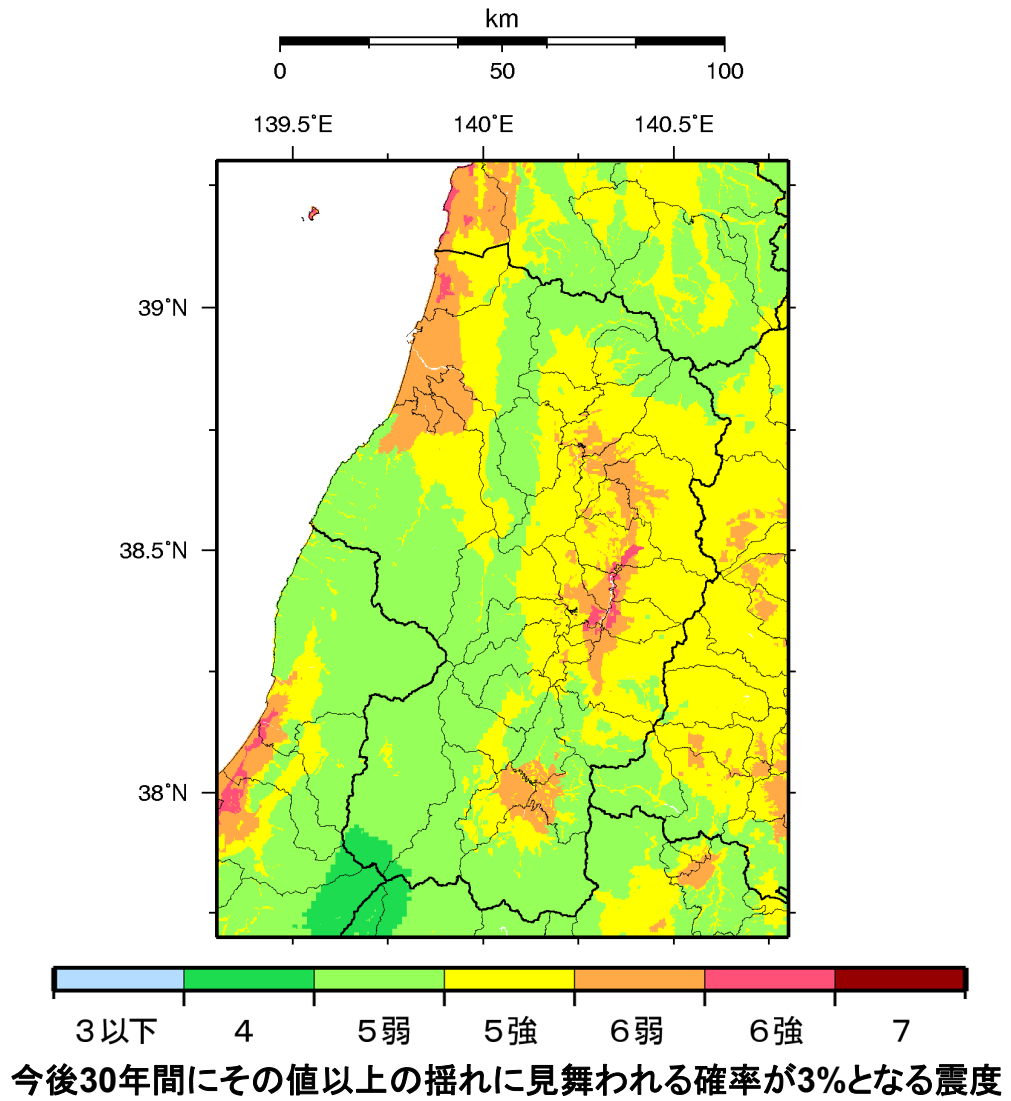
山形市役所：やや高い。

カテゴリⅢの地震の影響度が最も高く支配的です。主に、山形盆地断層帯北部および南部の地震や、活断層が特定されていない場所で発生する地震によると考えられます。また、宮城県沖地震（カテゴリⅠ）の影響も見られます。

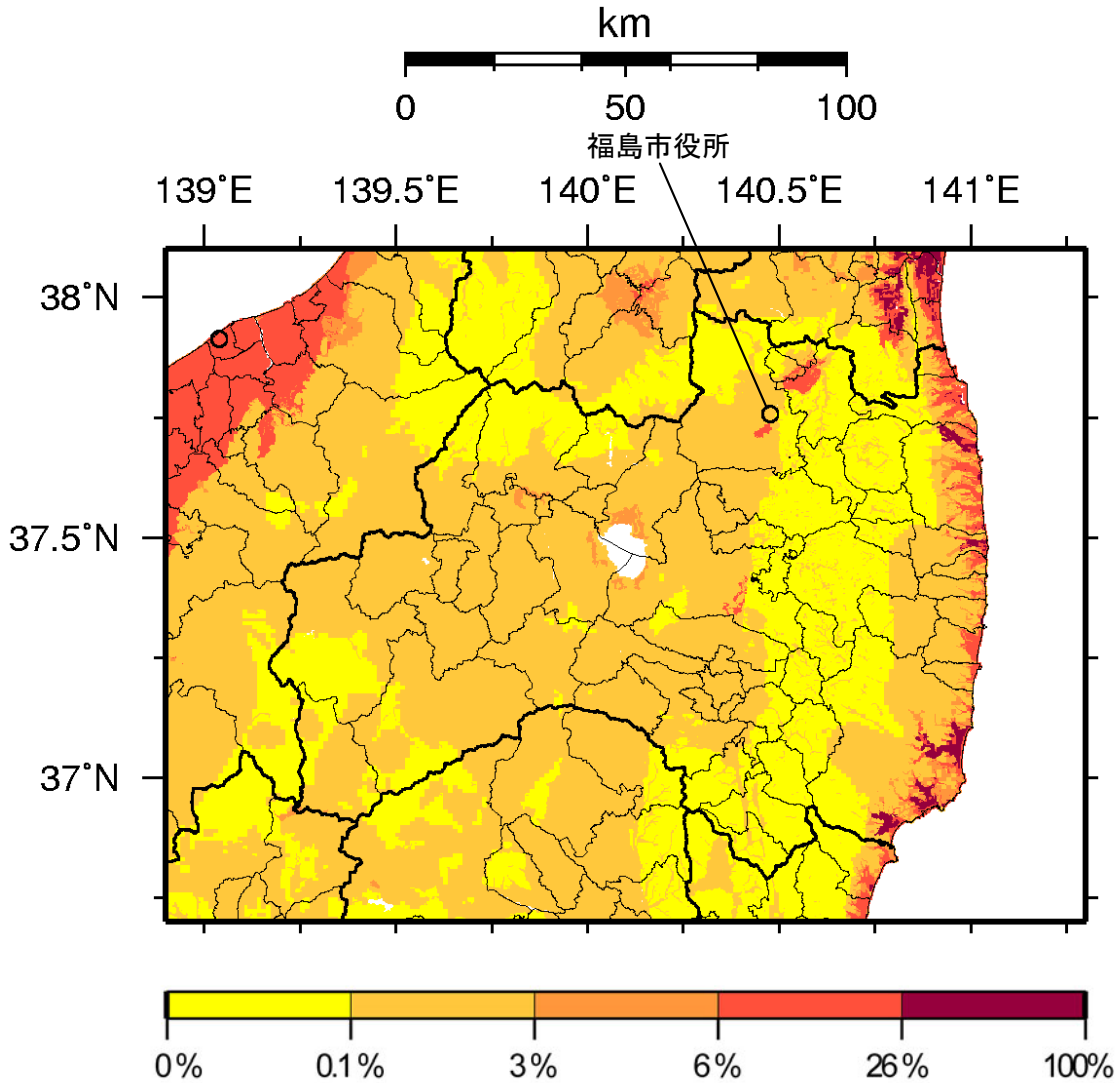


カテゴリⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

山形市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリ別の影響度



福島県



今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

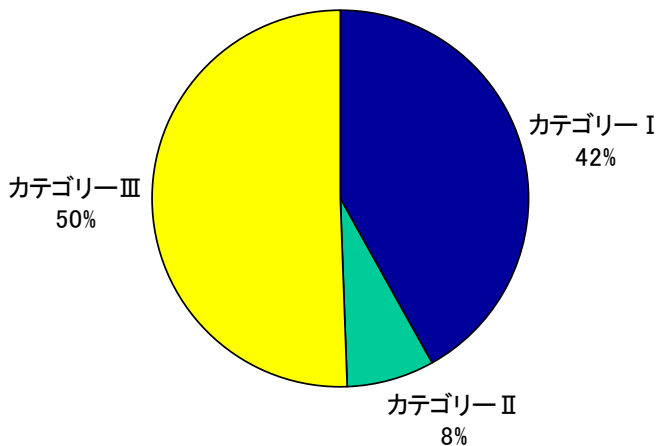
地図概況

山地（阿武隈山地、奥羽山脈、越後山脈など）に比べると、太平洋沿岸の平野部や山間の盆地（福島盆地、郡山盆地、会津盆地など）、河川・湖沼沿いでは、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

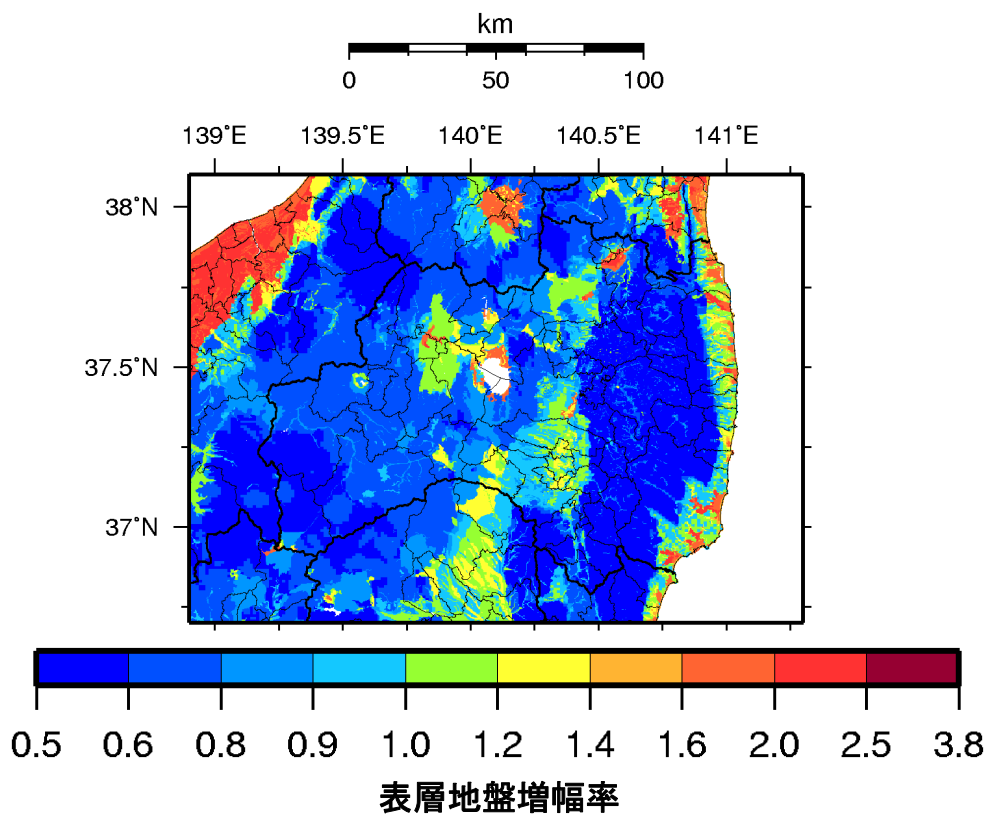
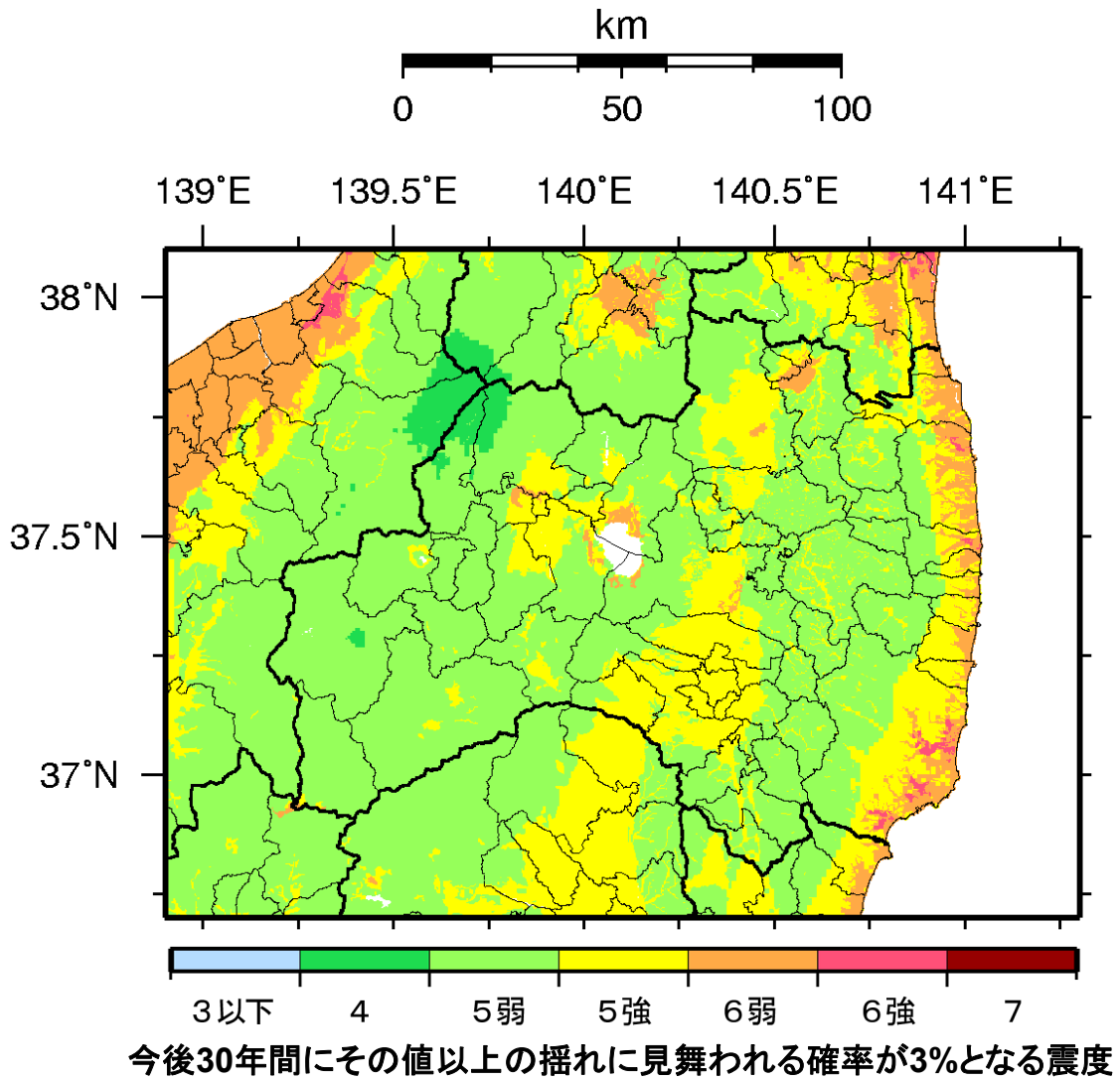
福島市役所：やや高い。

カテゴリⅢの地震の影響度が最も高くなっています。主要活断層帯以外の活断層に発生する地震や、活断層が特定されていない場所で発生する地震によると考えられます。また、宮城県沖地震（カテゴリⅠ）の影響度も相対的に高くなっています。

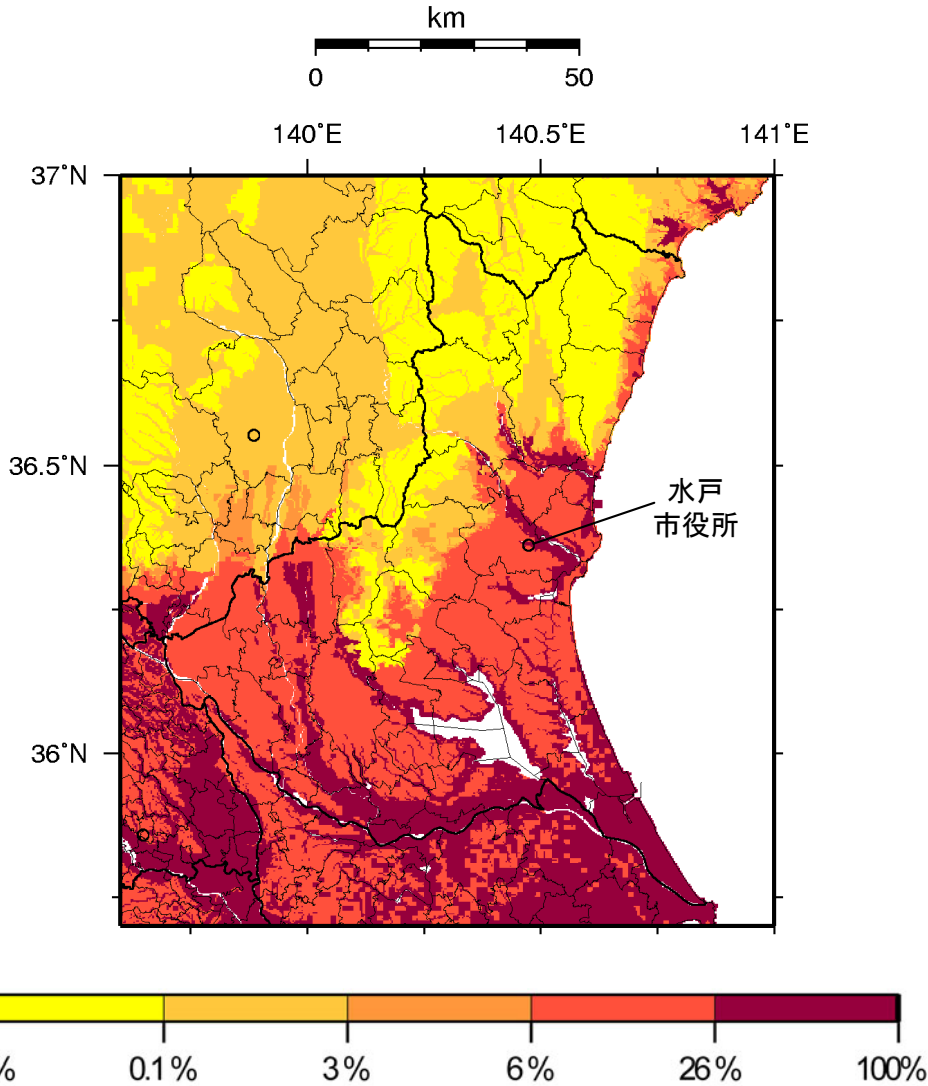
カテゴリⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震



福島市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリ別の影響度



茨城県



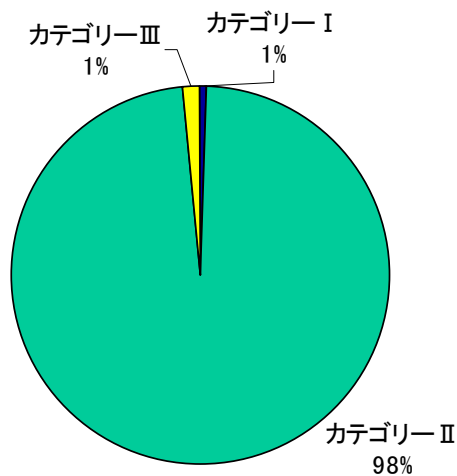
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

北部の山地（八溝山地など）に比べると、沿岸の平野部や関東平野、その中でも特に河川・湖沼沿いの低地では、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

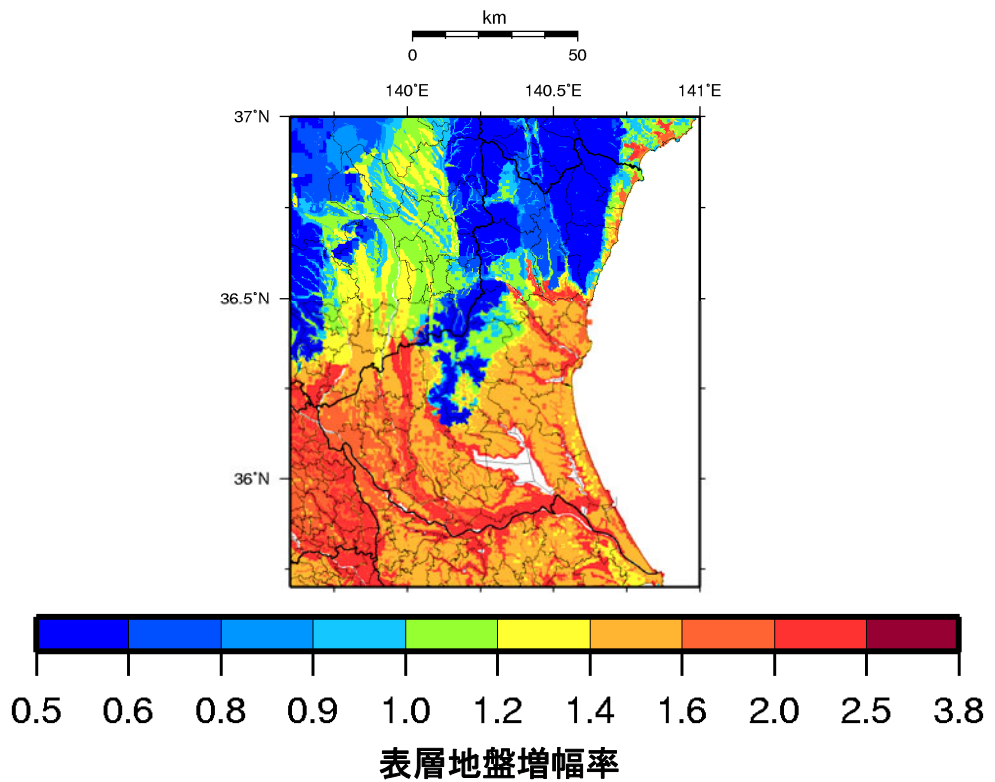
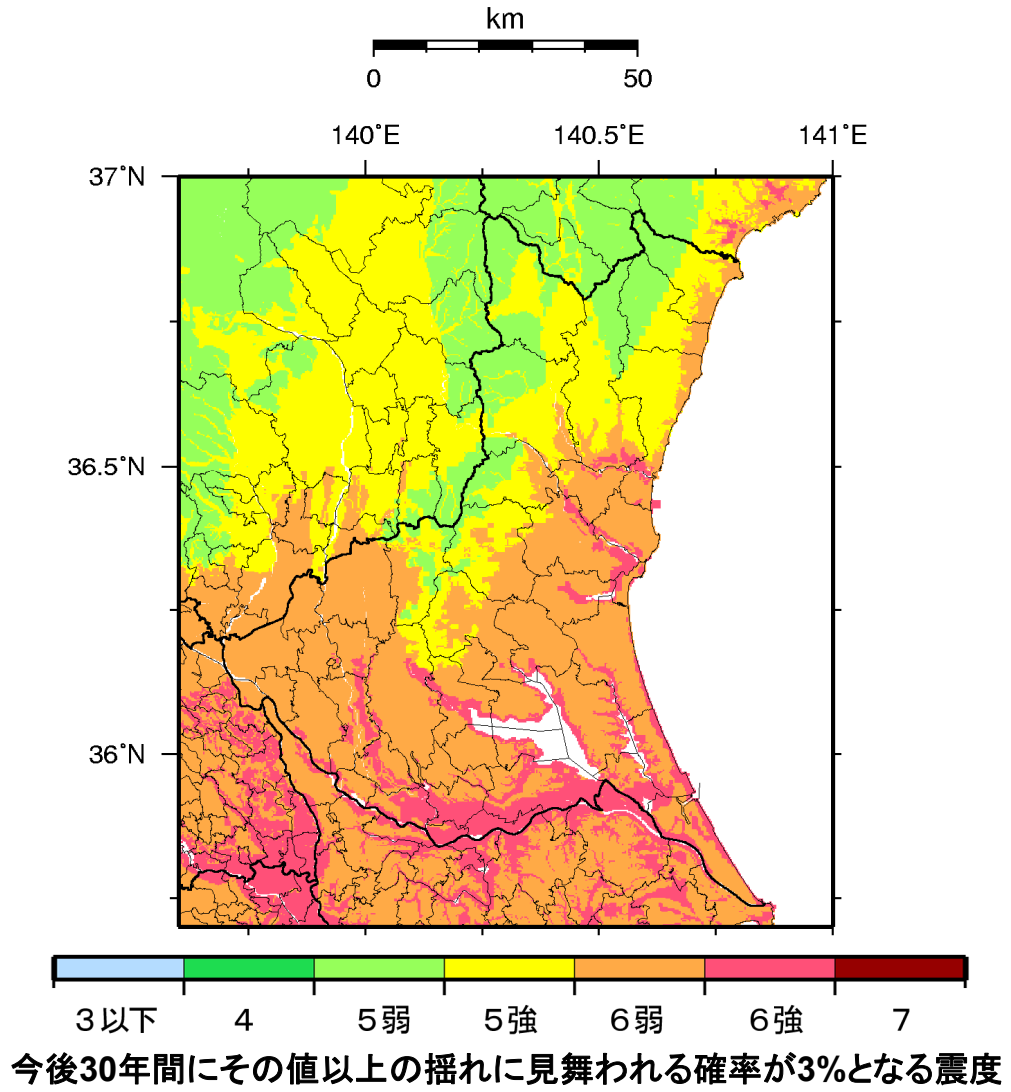
水戸市役所：高い。

カテゴリⅡの地震の影響度が最も高く支配的です。主に、沈み込む太平洋プレートのプレート内およびプレート間の震源を予め特定しにくい地震によると考えられます。南関東で発生するマグニチュード7程度の地震の影響も見られます。

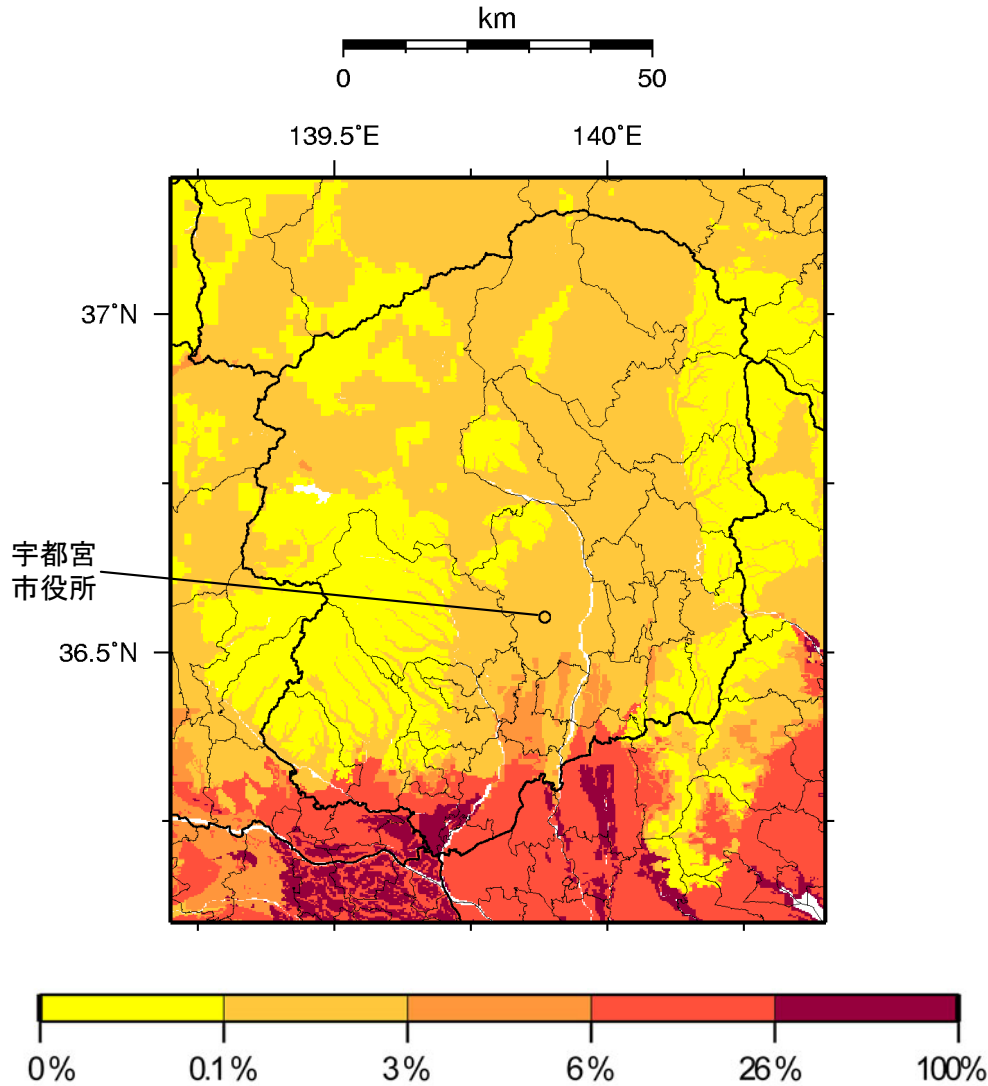


カテゴリⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

水戸市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリ別の影響度



栃木県



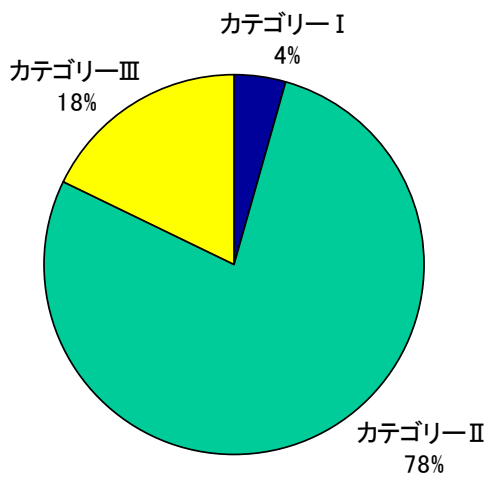
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

東部や西部の山地（八溝山地、足尾山地など）に比べると、中央部から南部にかけての関東平野や河川・湖沼沿いでは、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。県内の関東平野では南ほど地盤増幅率が高くなる傾向があります。

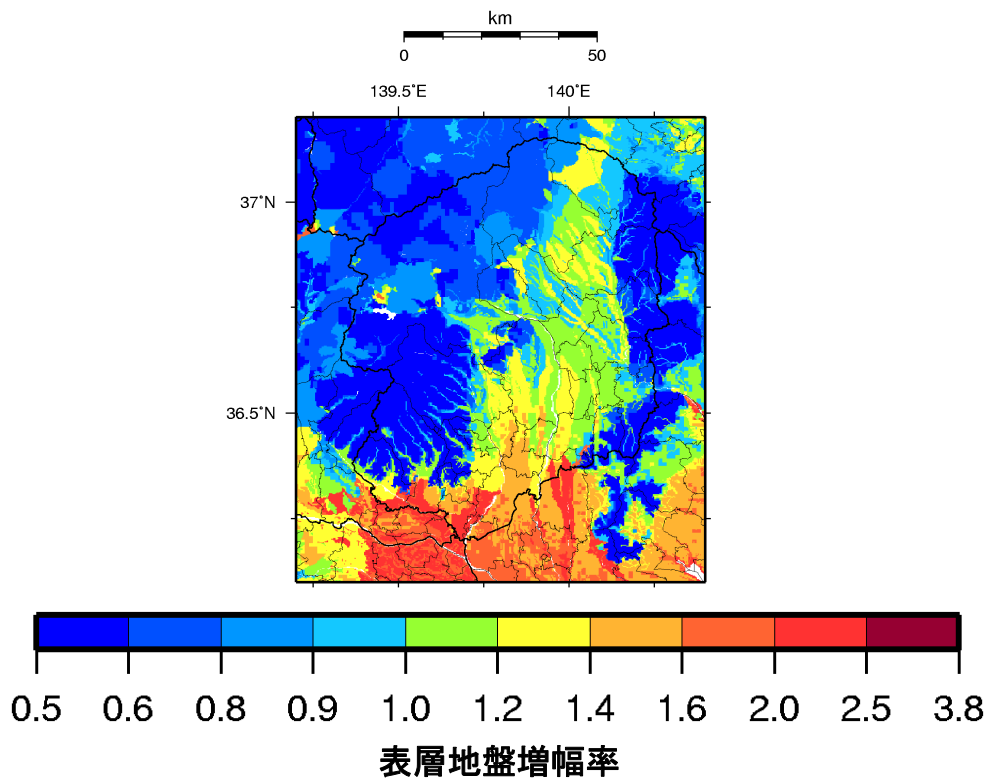
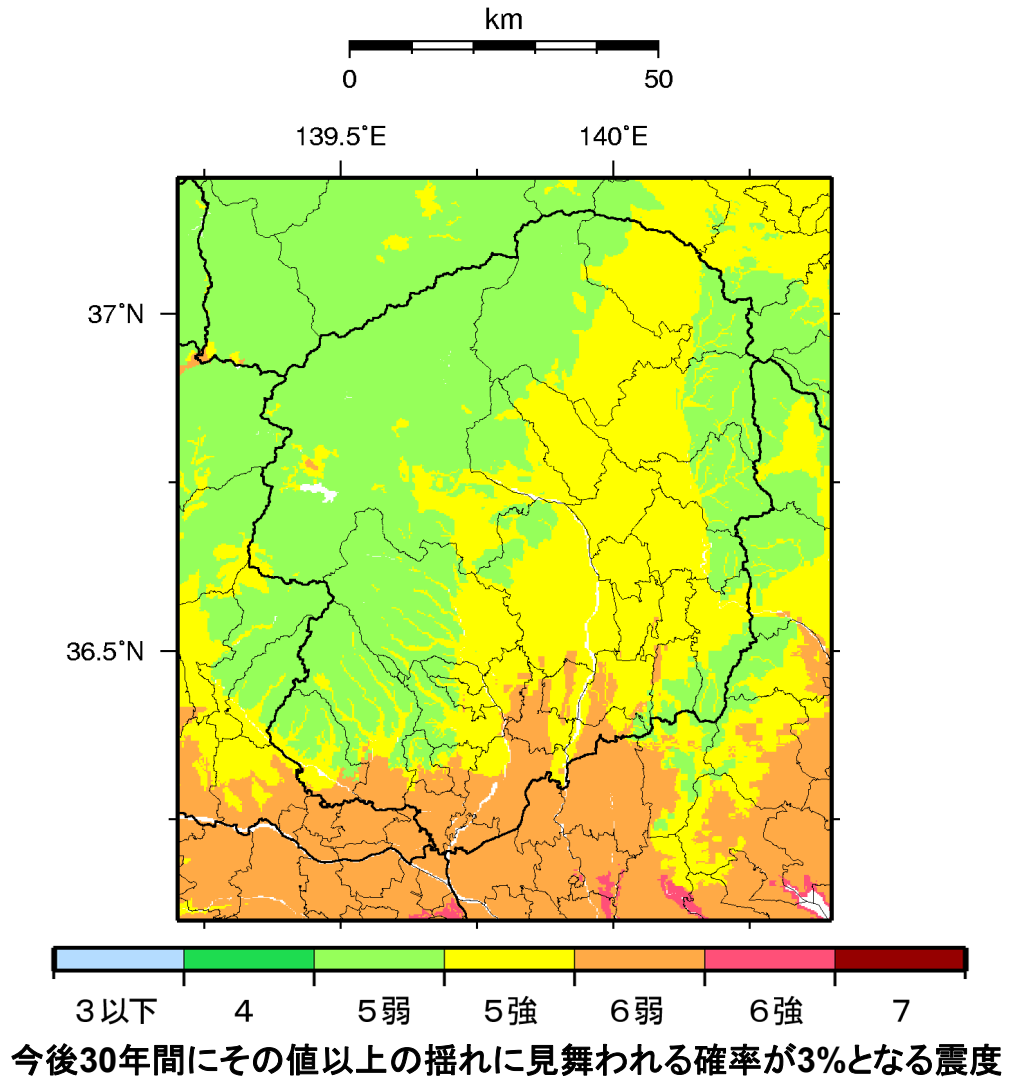
宇都宮市役所：やや高い。

カテゴリⅡの地震の影響度が最も高くなっています。南関東で発生するマグニチュード7程度の地震や、沈み込む太平洋プレート内の震源を予め特定しにくい地震の影響と考えられます。また、活断層が特定されていない場所で発生する地震（カテゴリⅢ）の影響も見られます。

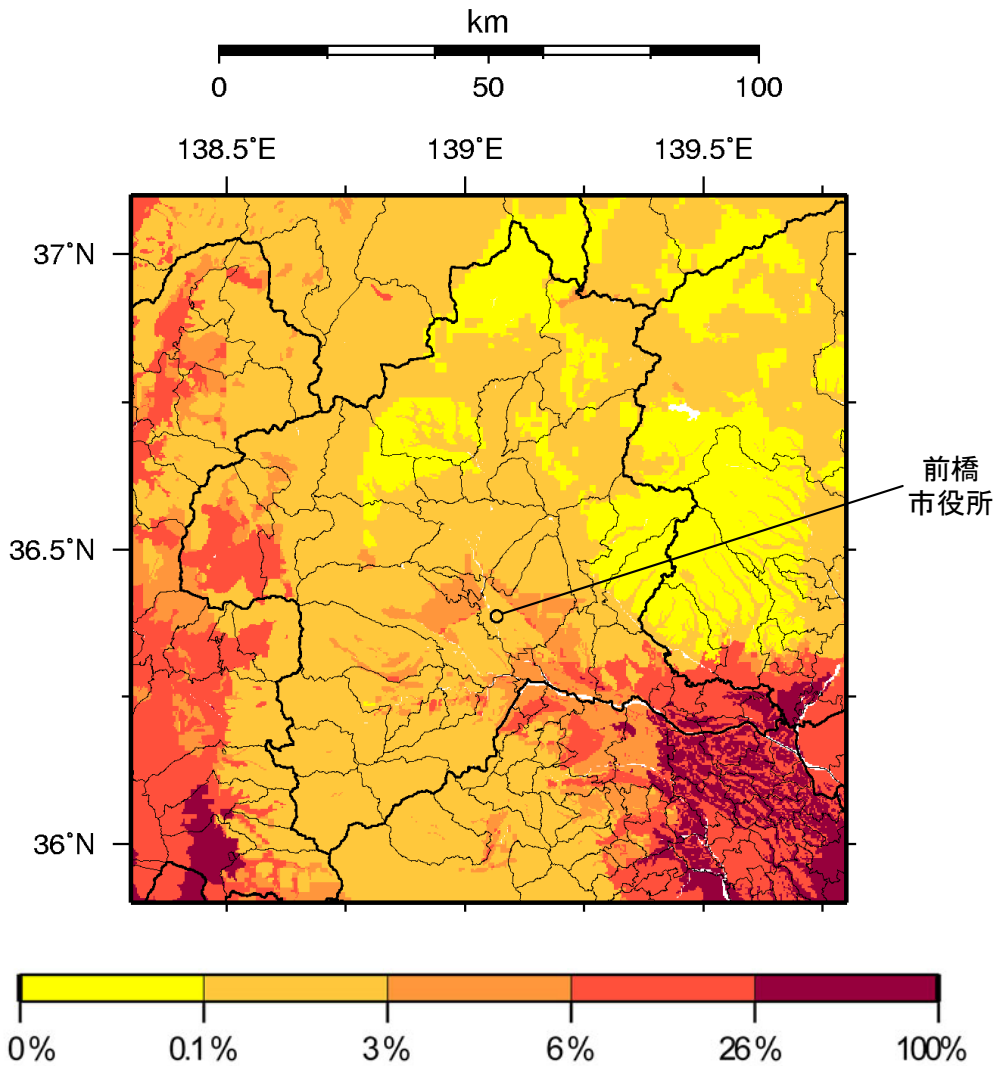


カテゴリⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

宇都宮市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリ別の影響度



群馬県



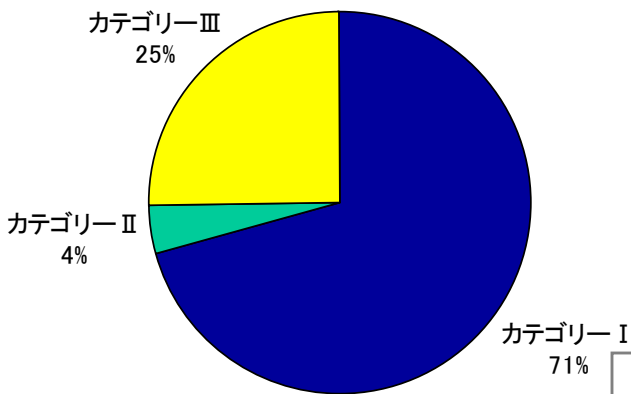
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

北部から西部にかけての山地に比べると、山間の盆地や河川・沼地沿い、更には南東部の関東平野では、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きい傾向にあります。また、県の南側では、南海トラフの地震(カテゴリー I)の影響も大きくなります。

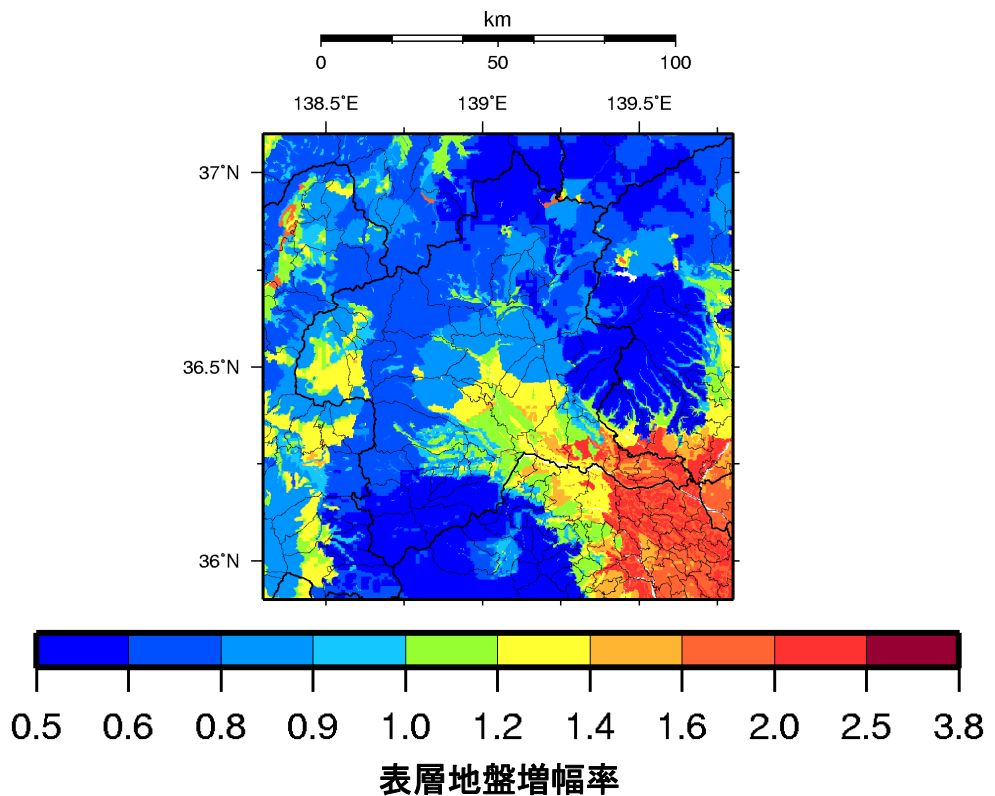
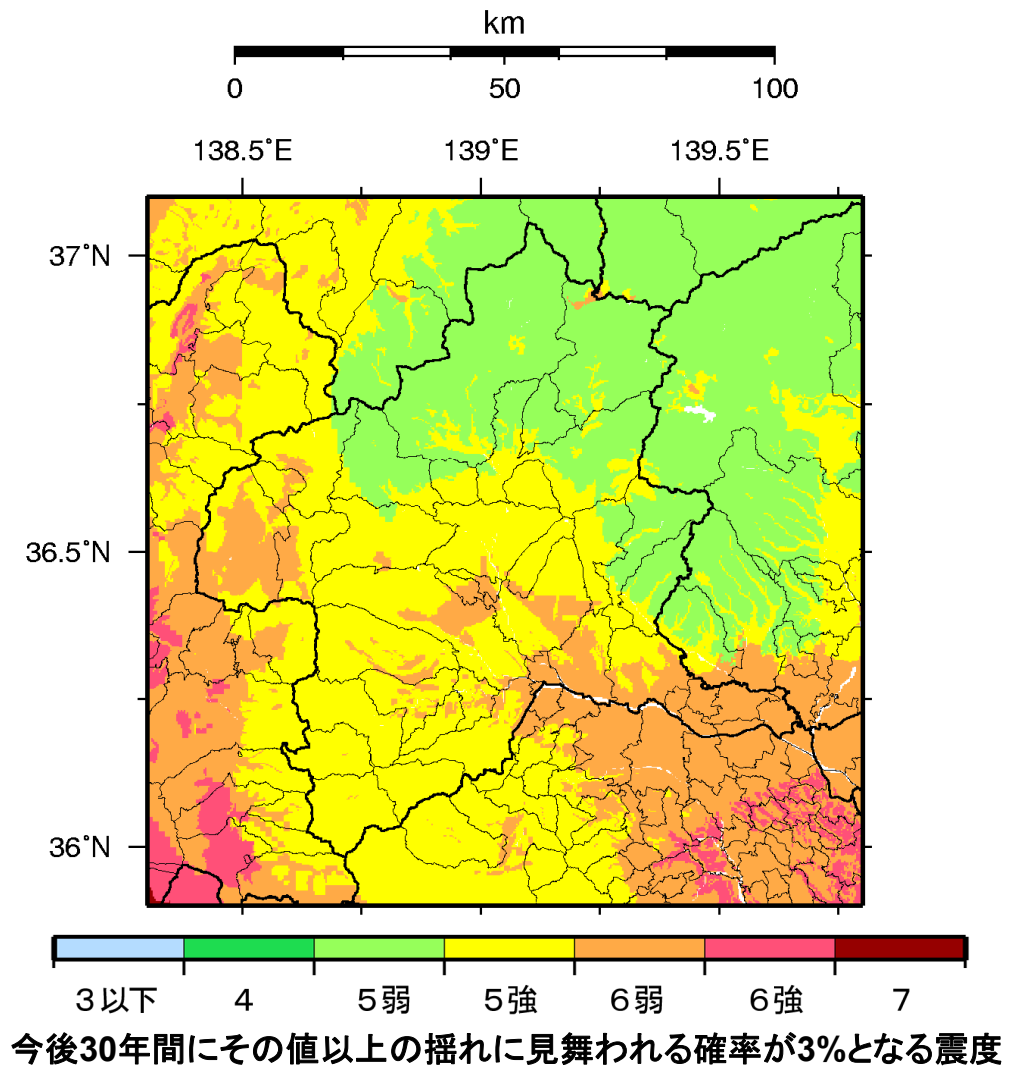
前橋市役所：やや高い。

南海トラフの地震(カテゴリー I)の影響度が最も高くなっています。活断層が特定されていない場所で発生する地震や、関東平野北西縁断層帯などの主要活断層帯の地震(ともにカテゴリー III)の影響も見られます。



カテゴリー I：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリー II：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリー III：活断層など陸域と海域の浅い地震

前橋市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



埼玉県

km

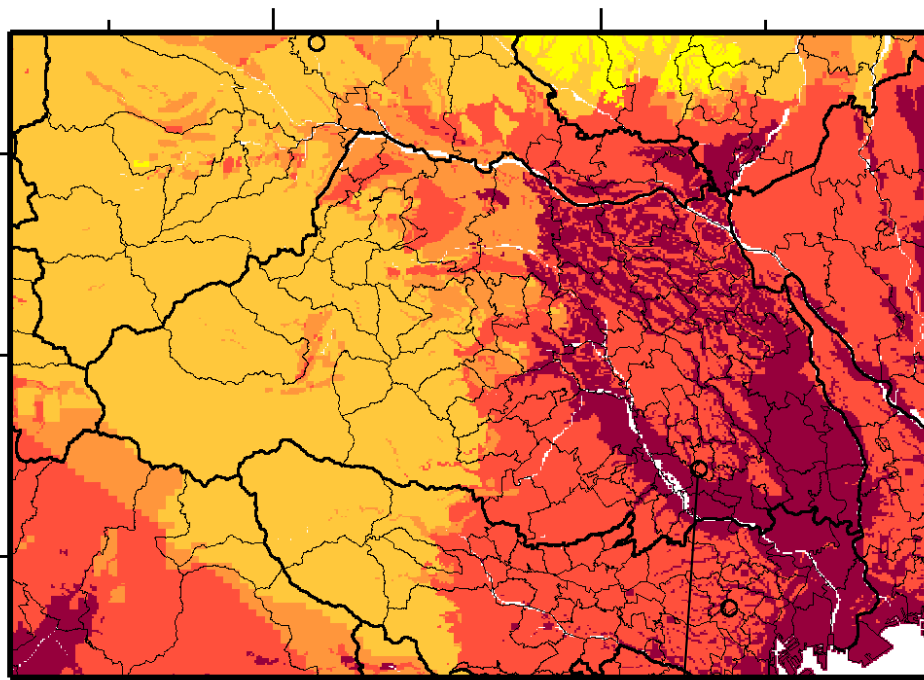


139°E

139.5°E

140°E

36°N



さいたま市役所



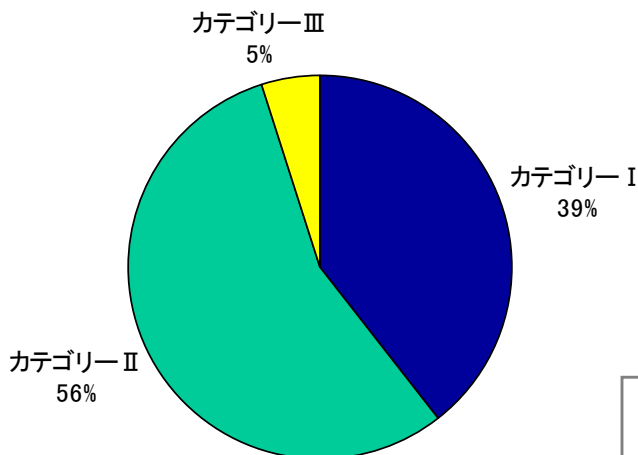
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

西部の山地（関東山地）に比べると、東部の関東平野、その中でも特に河川沿いの低地では、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

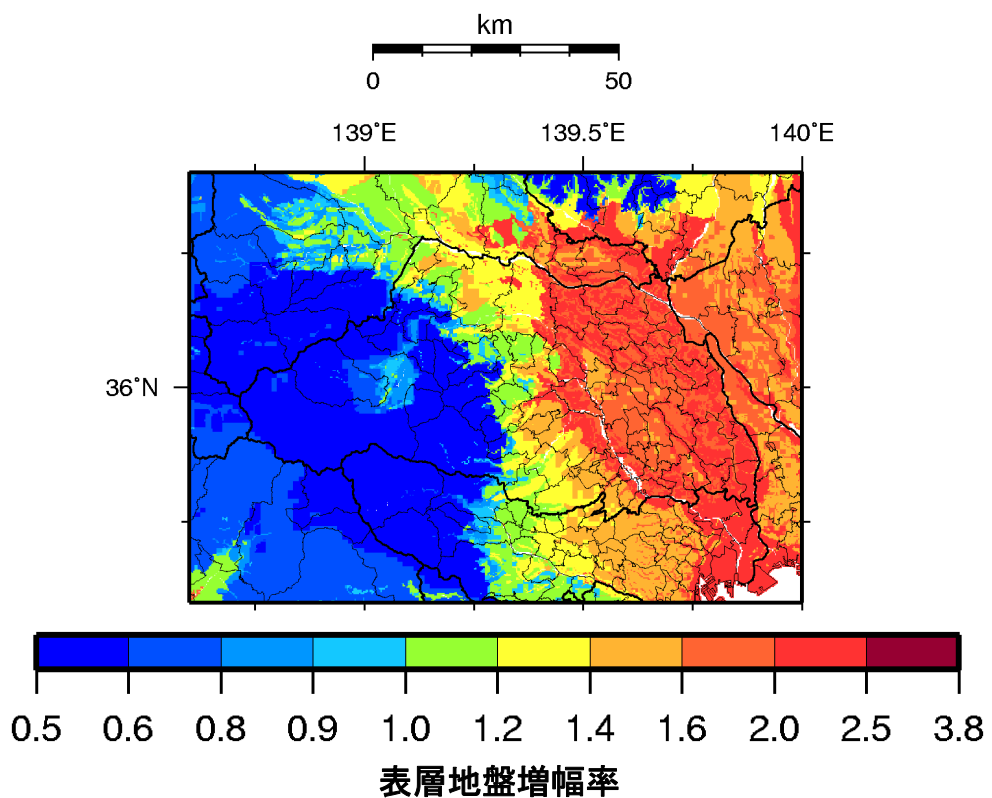
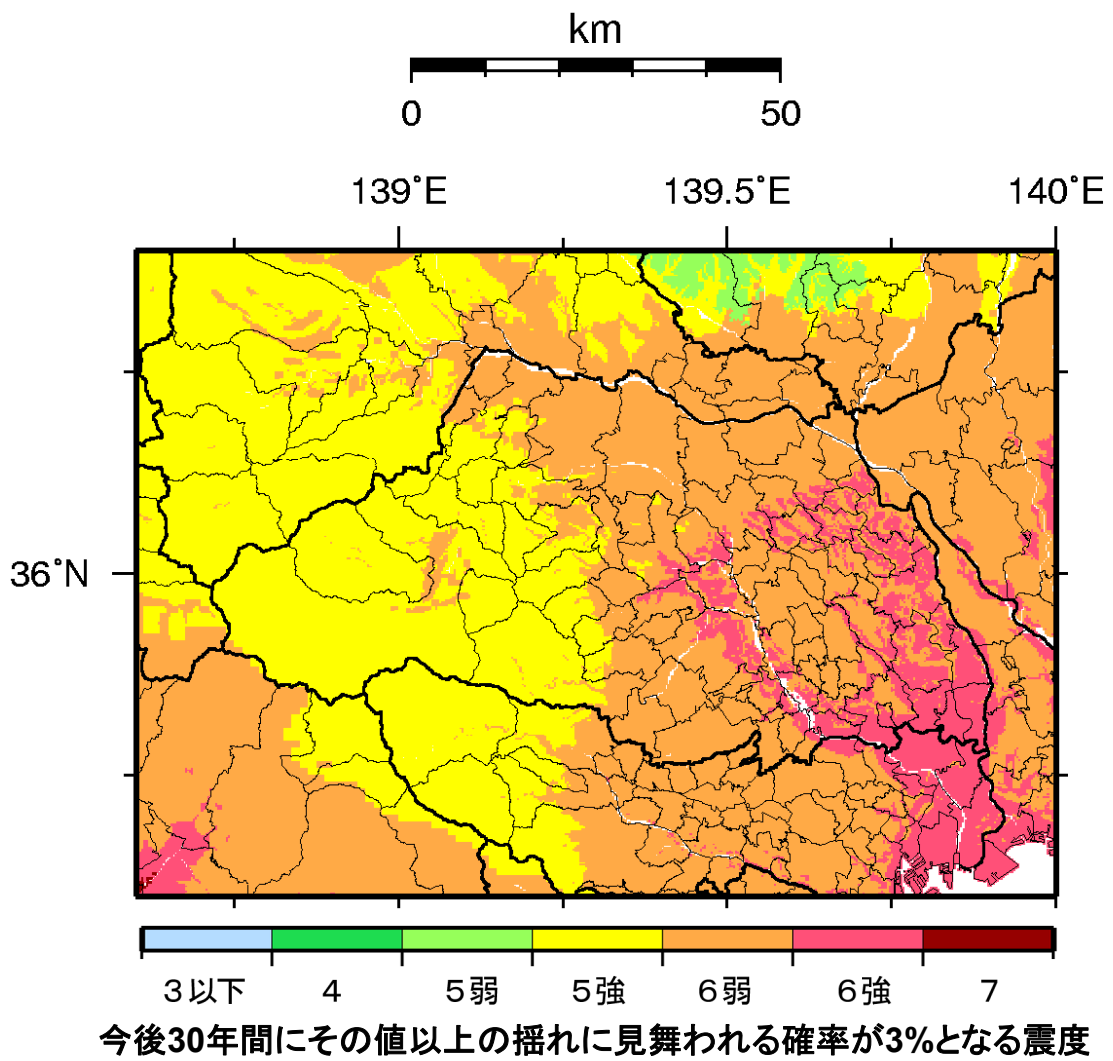
さいたま市役所：高い。

南関東で発生するマグニチュード7程度の地震（カテゴリⅡ）や、南海トラフの地震（カテゴリⅠ）の影響度が高くなっています。

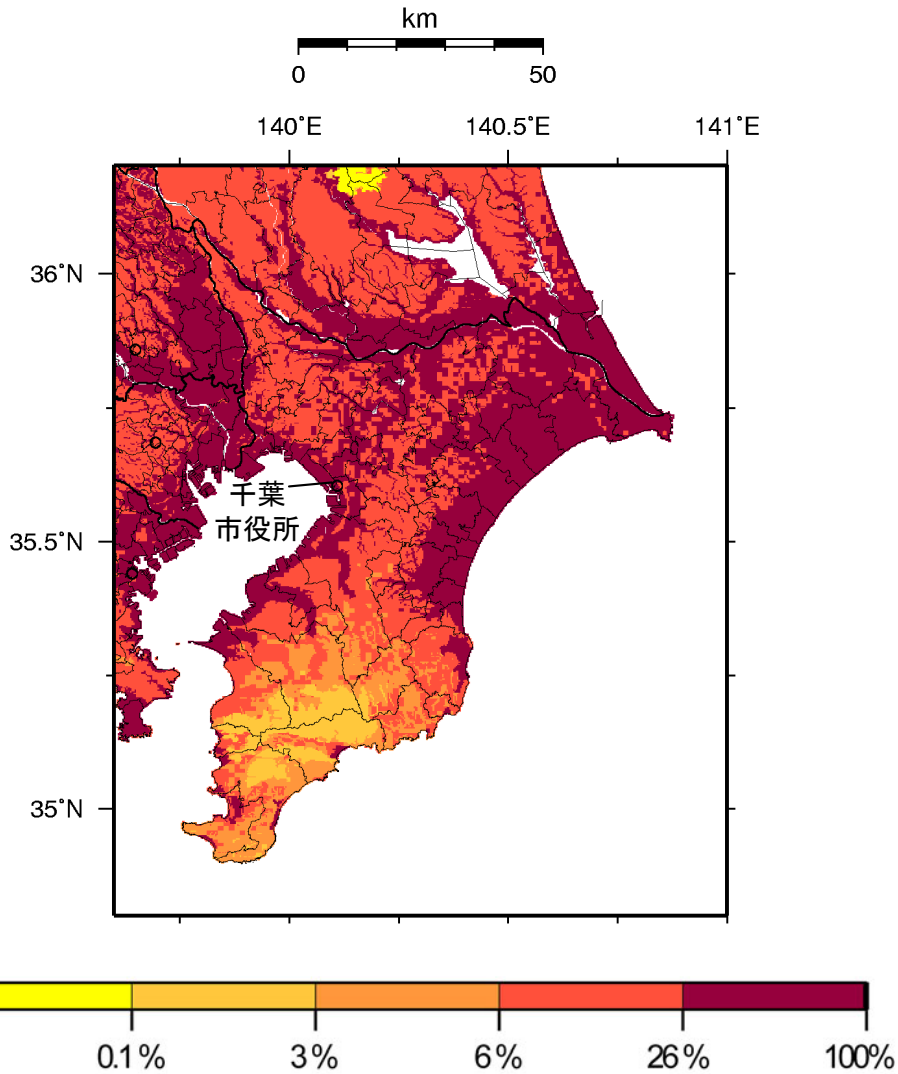


カテゴリⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

さいたま市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリ別の影響度



千葉県



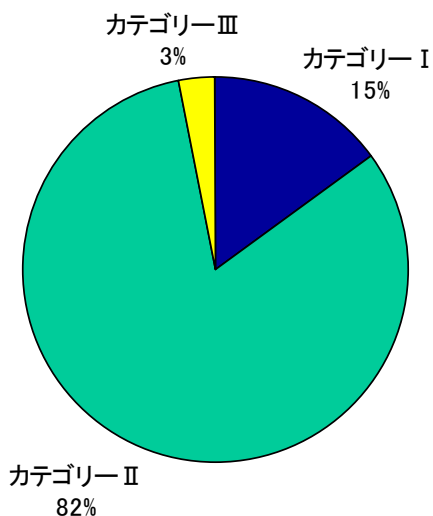
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

南部の房総丘陵に比べると、その他の地域、特に沿岸低地や埋立地、河川・沼地沿いでは、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

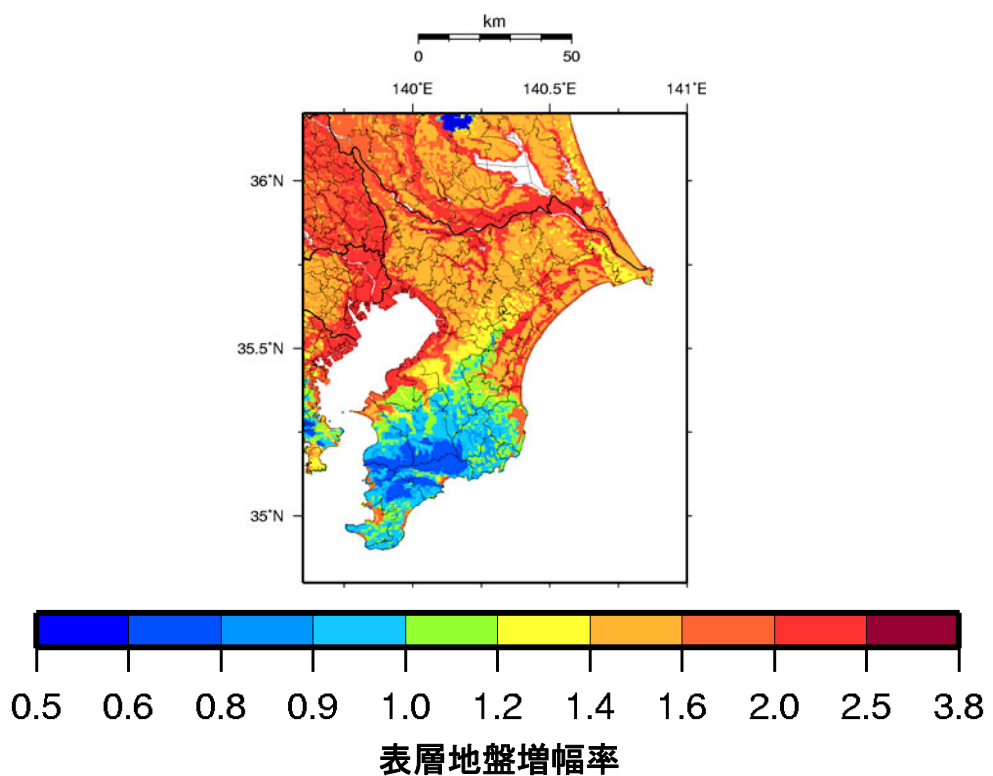
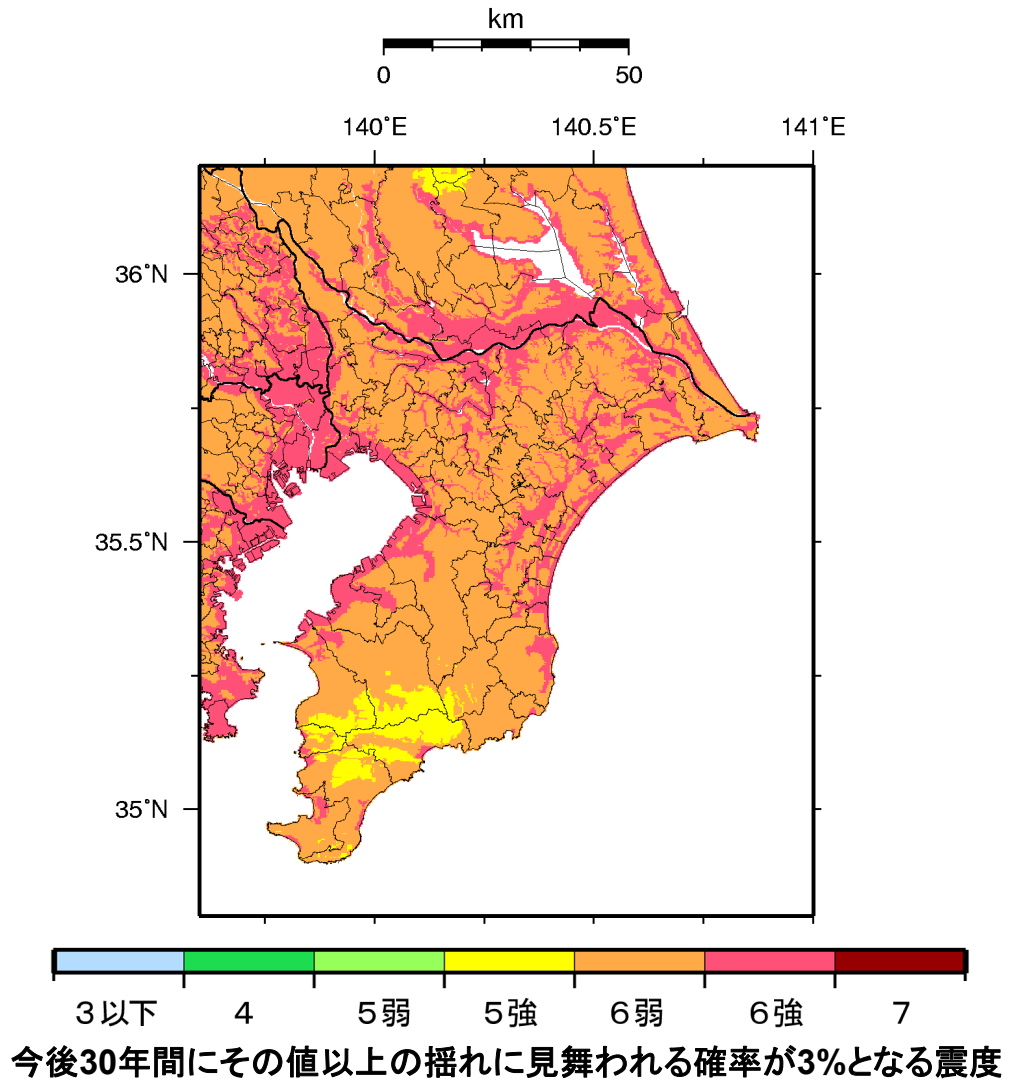
千葉市役所：高い。

カテゴリⅡの地震の影響度が最も高くなっています。南関東で発生するマグニチュード7程度の地震や、沈み込む太平洋プレート内の震源を予め特定しにくい地震によると考えられます。南海トラフの地震(カテゴリⅠ)の影響も見られます。

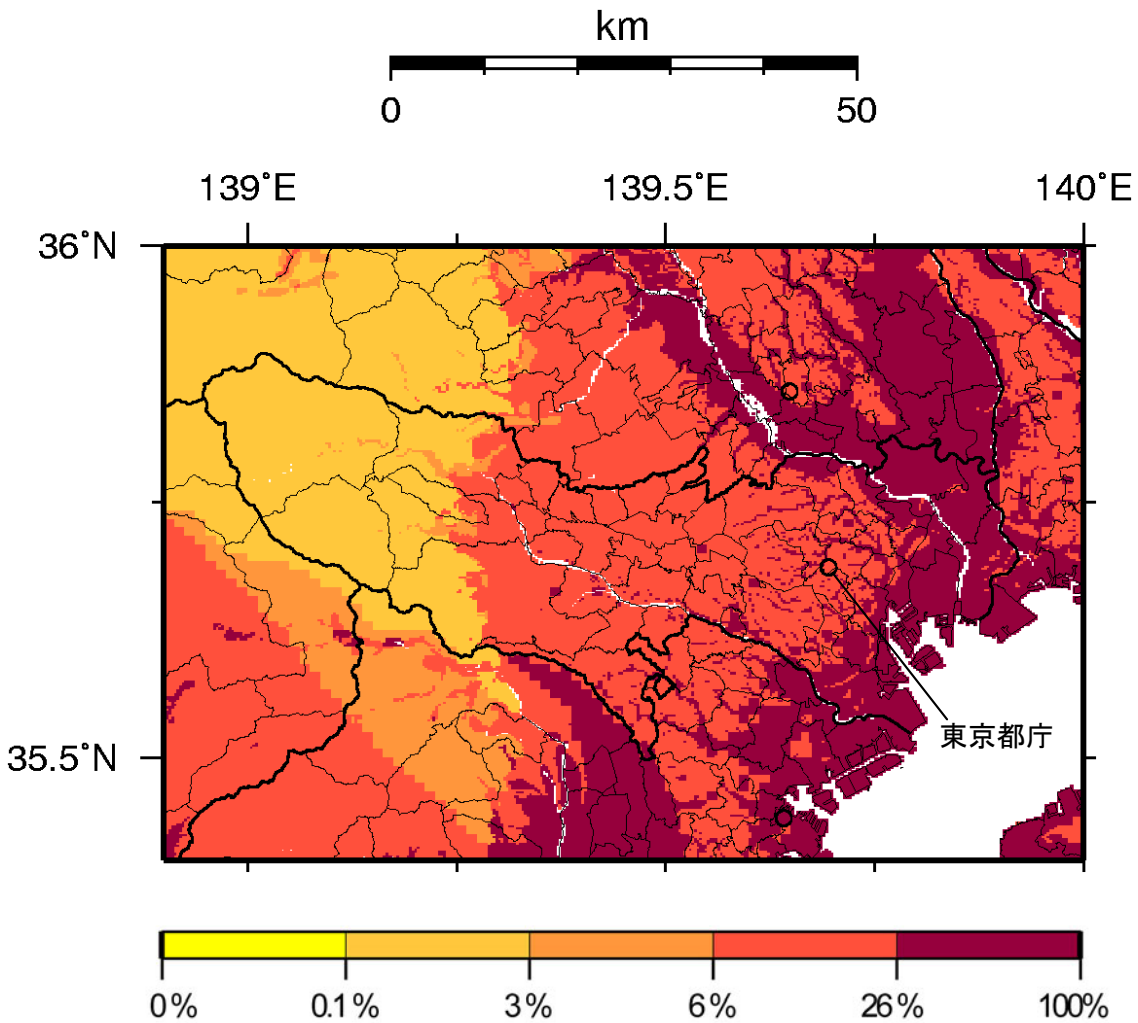


カテゴリⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

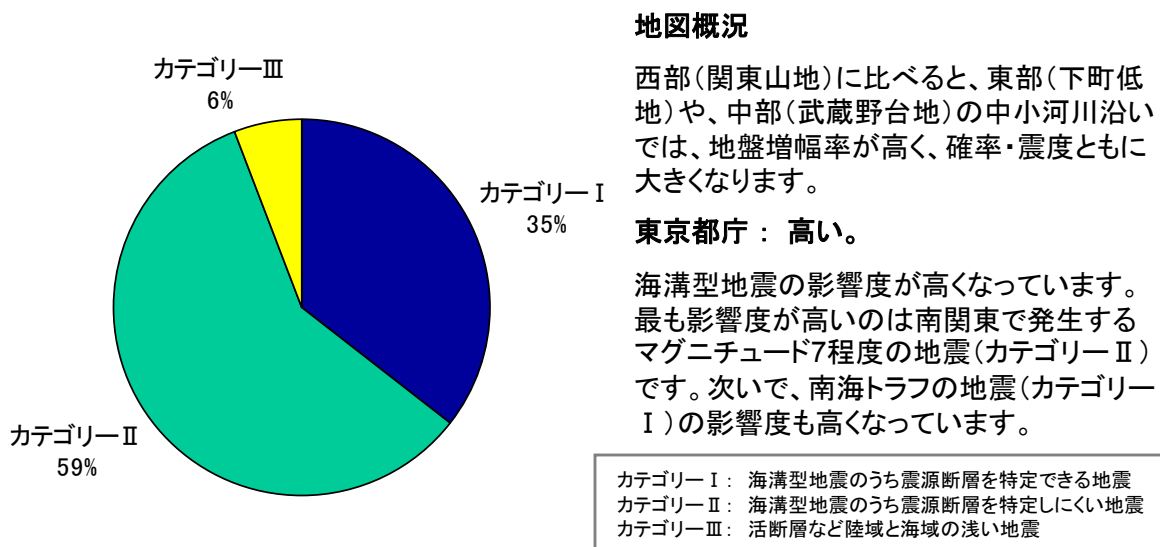
千葉市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリ別の影響度



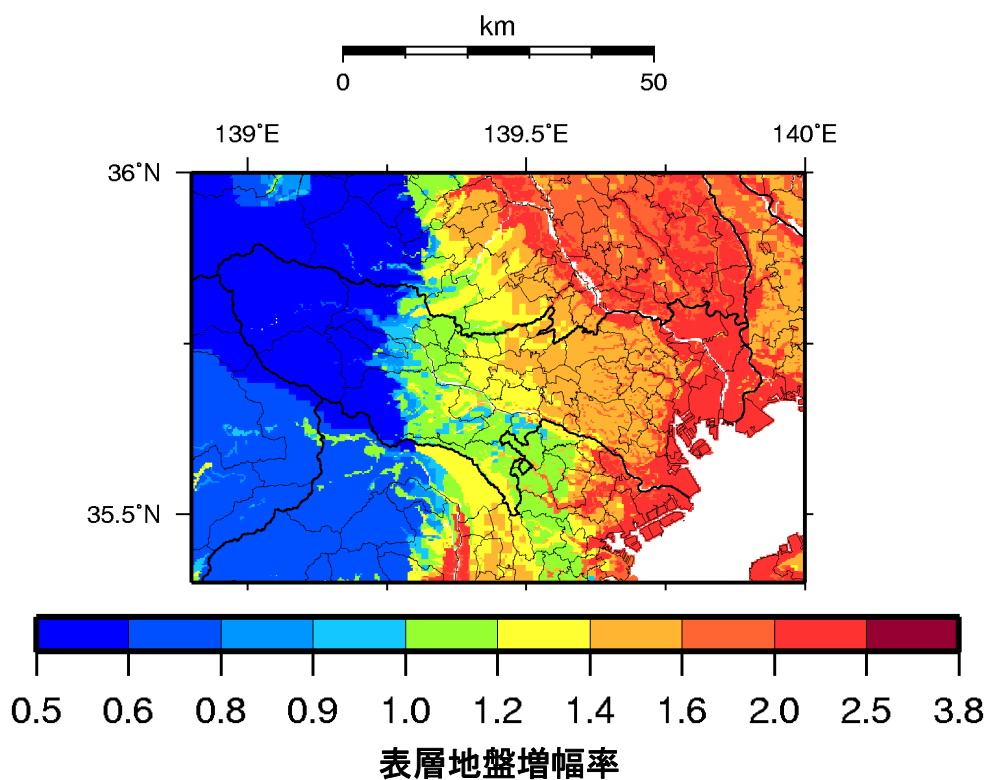
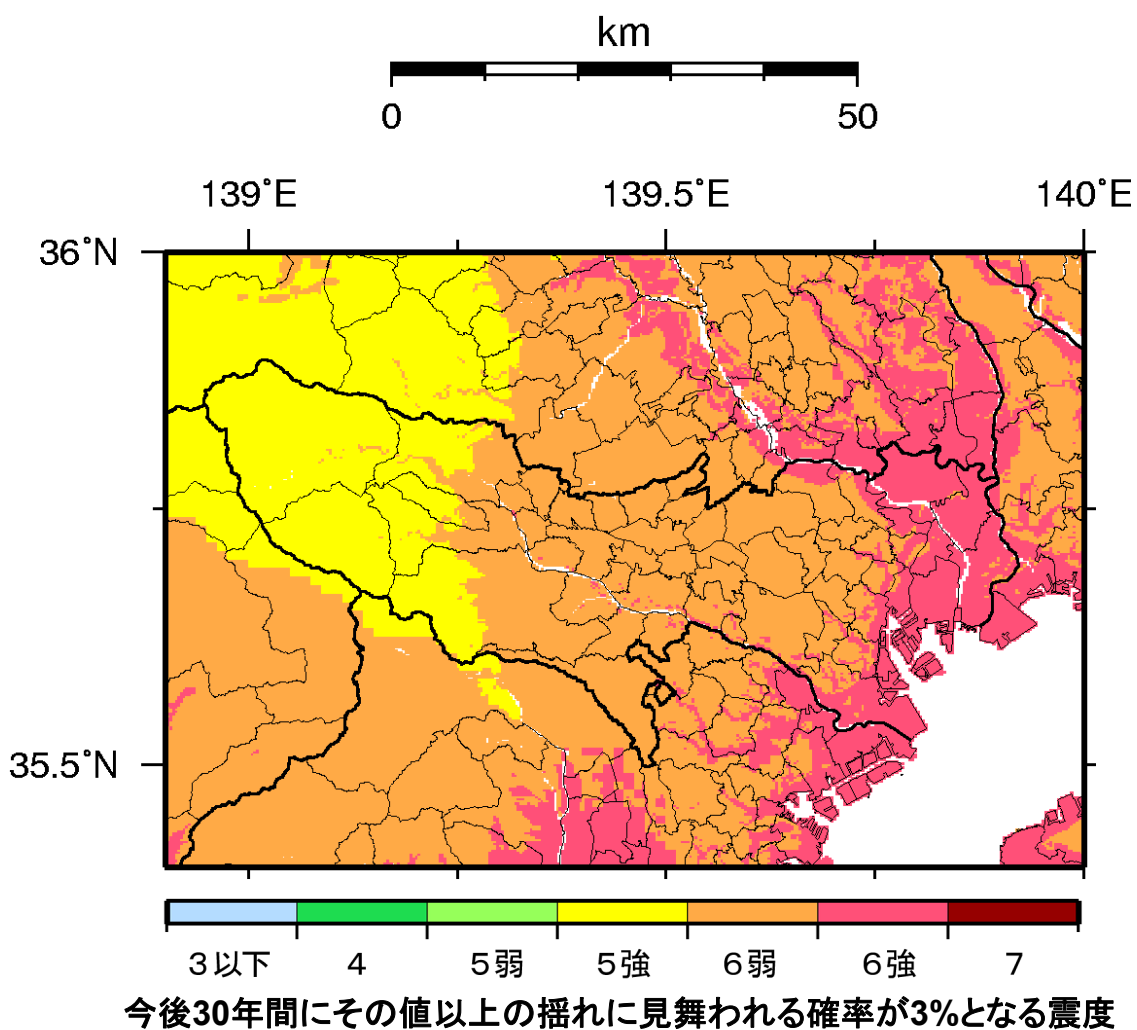
東京都(伊豆諸島・小笠原諸島を除く)



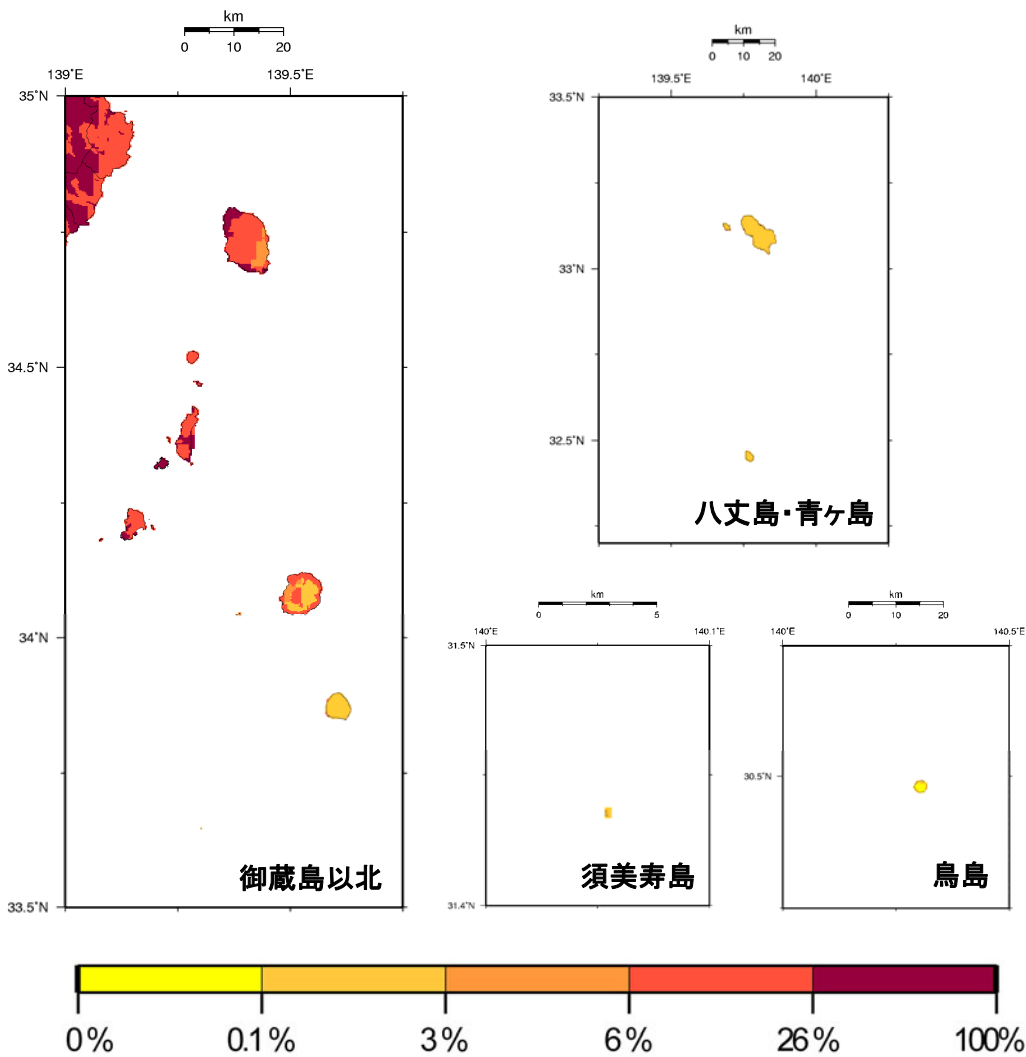
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）



東京都庁の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



東京都(伊豆諸島)

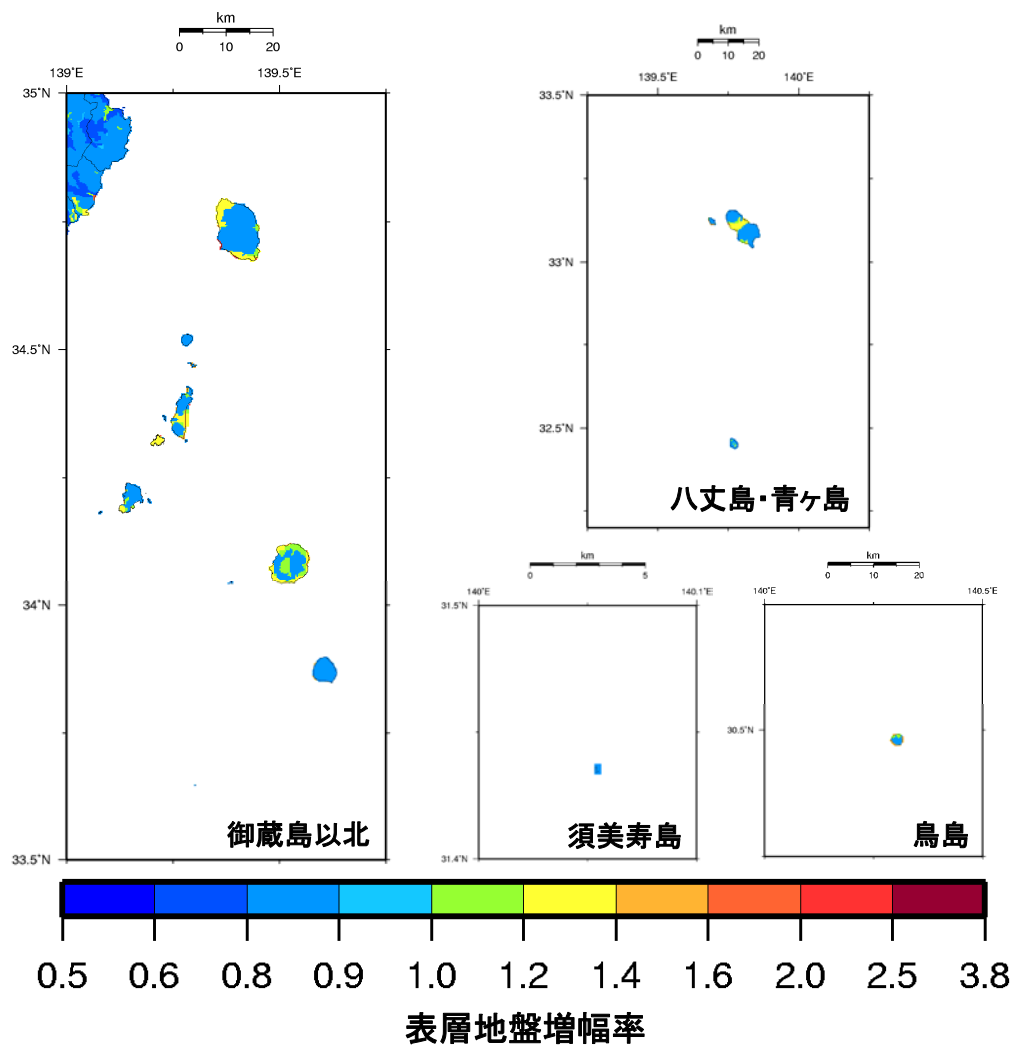
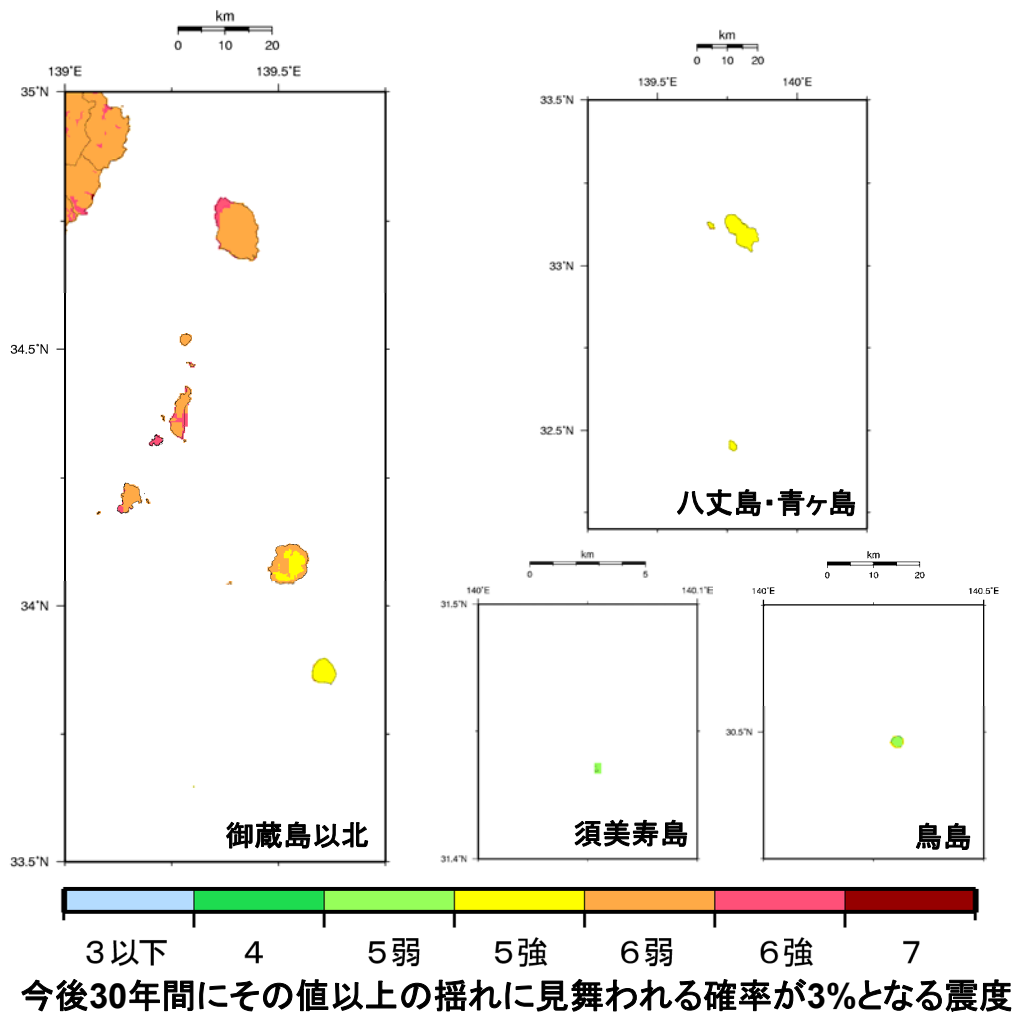


今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

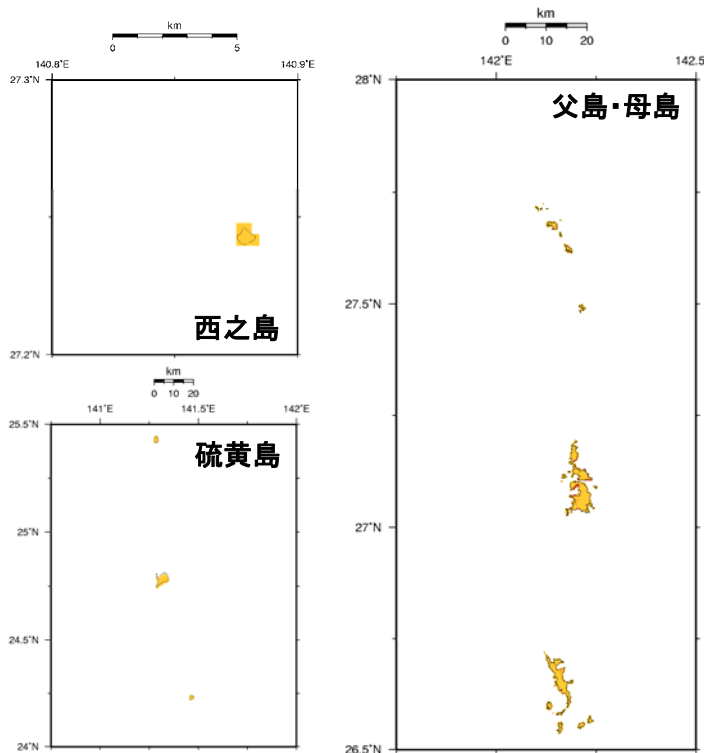
地図概況

諸島北部ほど、フィリピン海プレートが沈み込む相模トラフや南海トラフに近づくため、南海トラフの地震(カテゴリーⅠ)の影響で、確率・震度ともに相対的に大きくなります。各島内では、沿岸低地などで地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなると考えられます。

なお、銭洲、ベヨネース列岩、孀婦岩の掲載を割愛しています。



東京都(小笠原諸島)

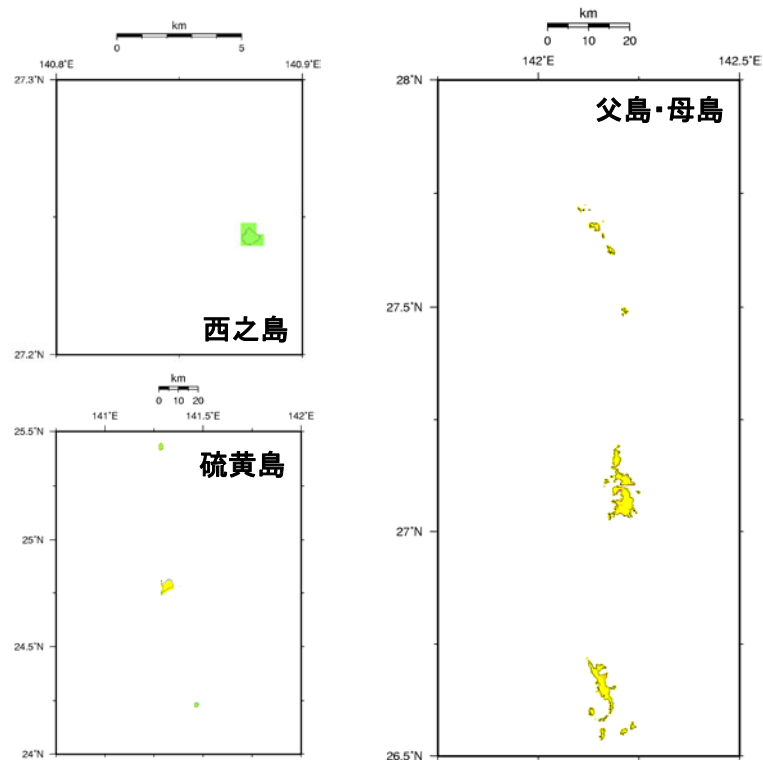


今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

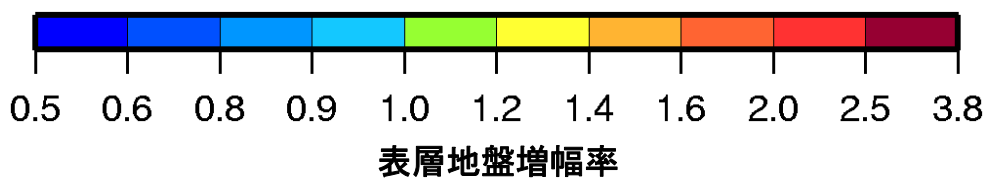
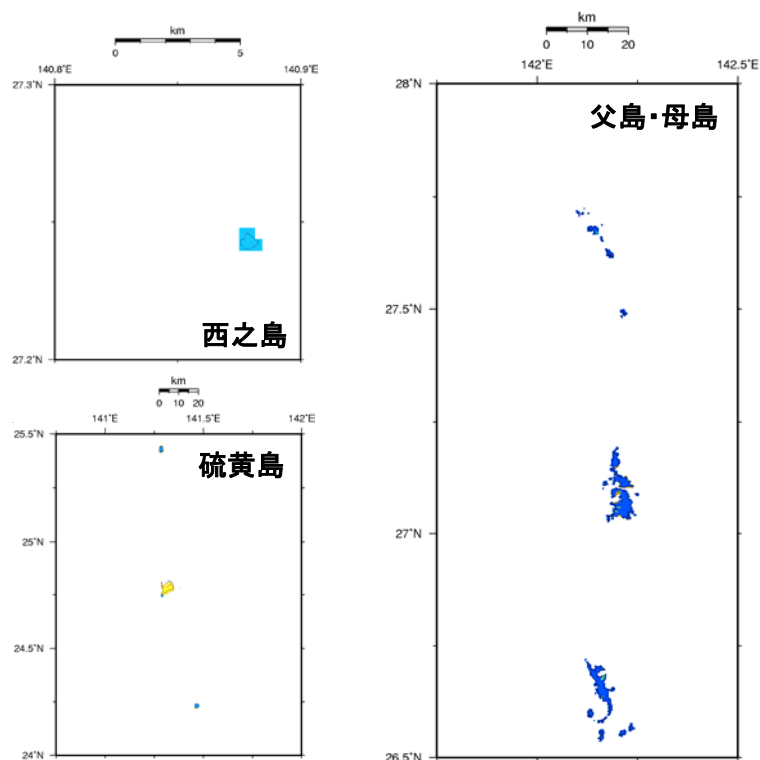
地図概況

各島内では、沿岸低地などで相対的に地盤増幅率が高く、確率・震度ともに相対的に大きくなると考えられます。

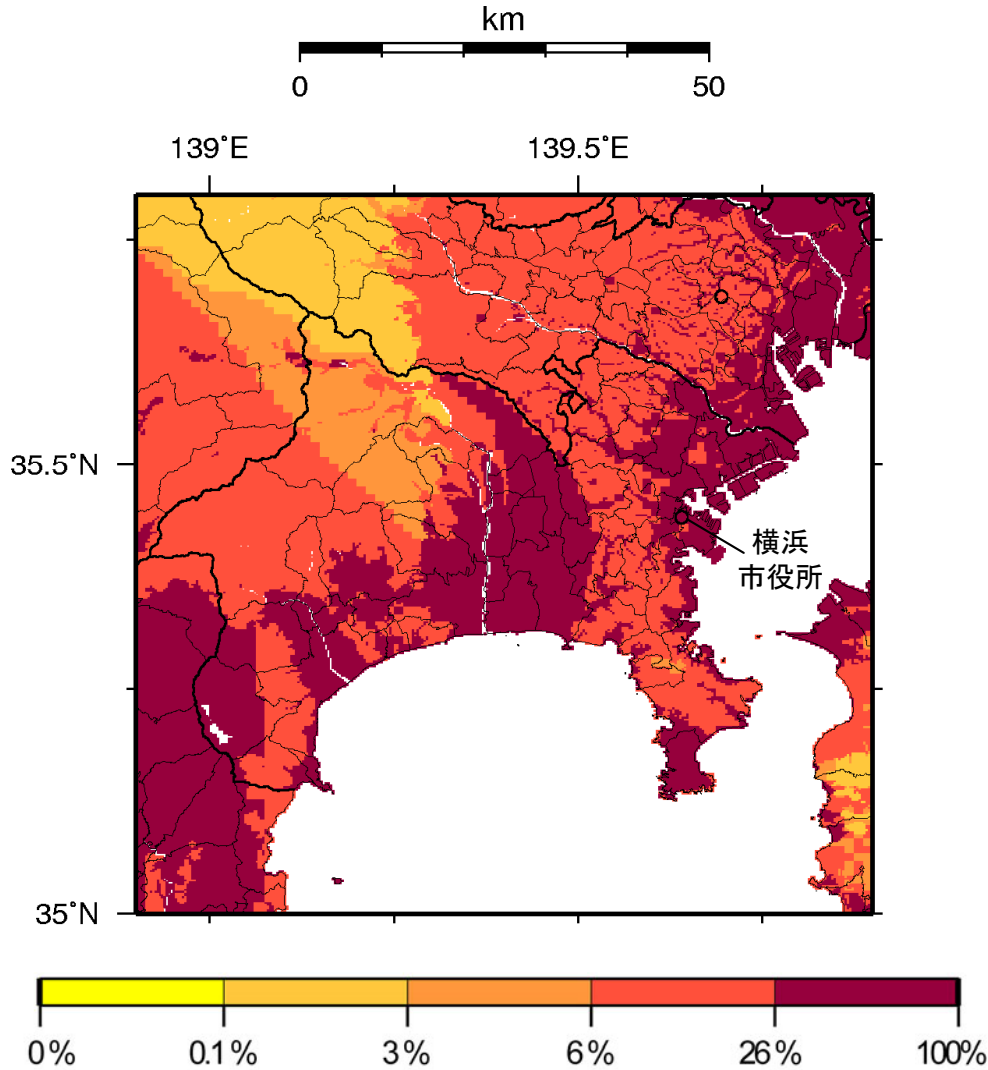
なお、南鳥島と沖ノ鳥島では、計算に必要なデータが整備されていないため、地図を作成していません。



今後30年間にその値以上の揺れに見舞われる確率が3%となる震度



神奈川県



今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

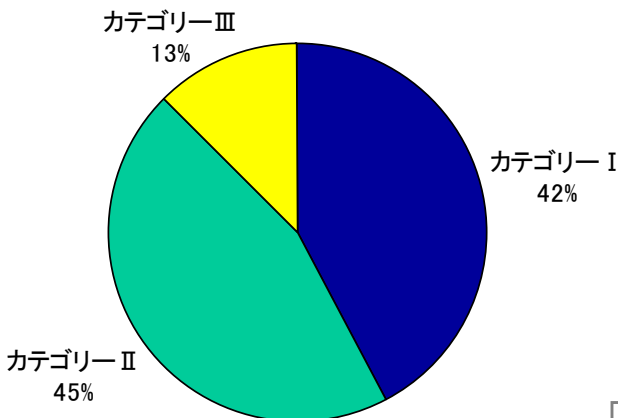
地図概況

山地（箱根、丹沢山地など）や丘陵（大磯丘陵、多摩丘陵など）に比べると、その他の地域、特に沿岸や河川沿いの平野部（足柄平野、相模原、鶴見川沿いの低地など）・埋立地では、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

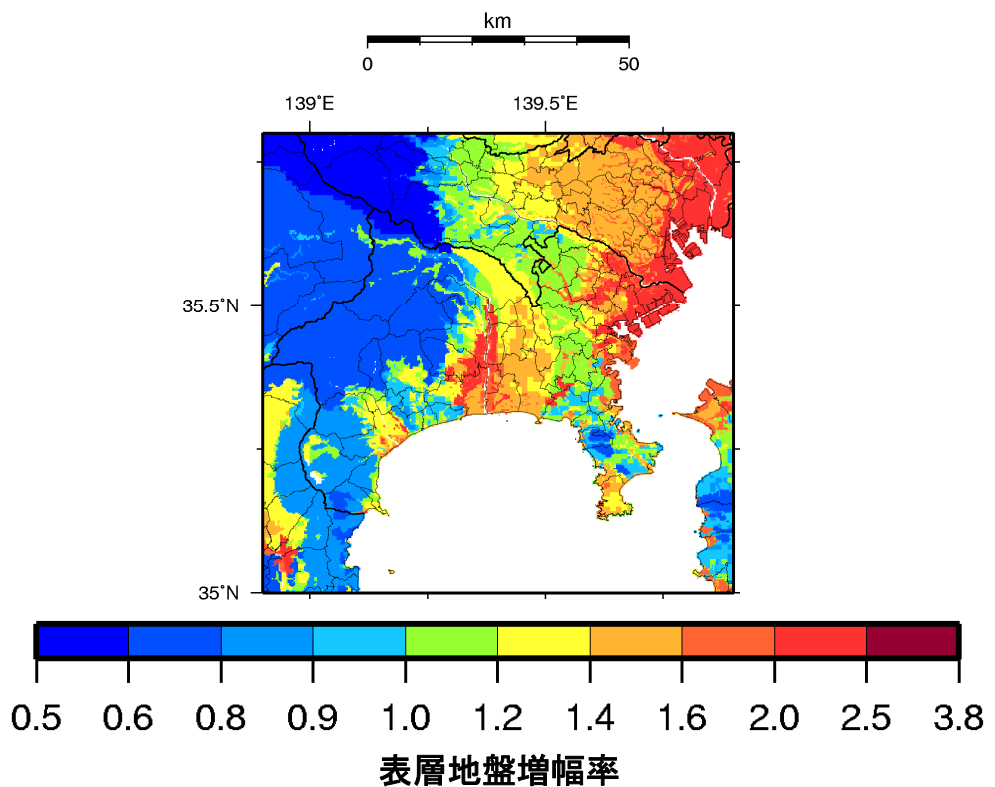
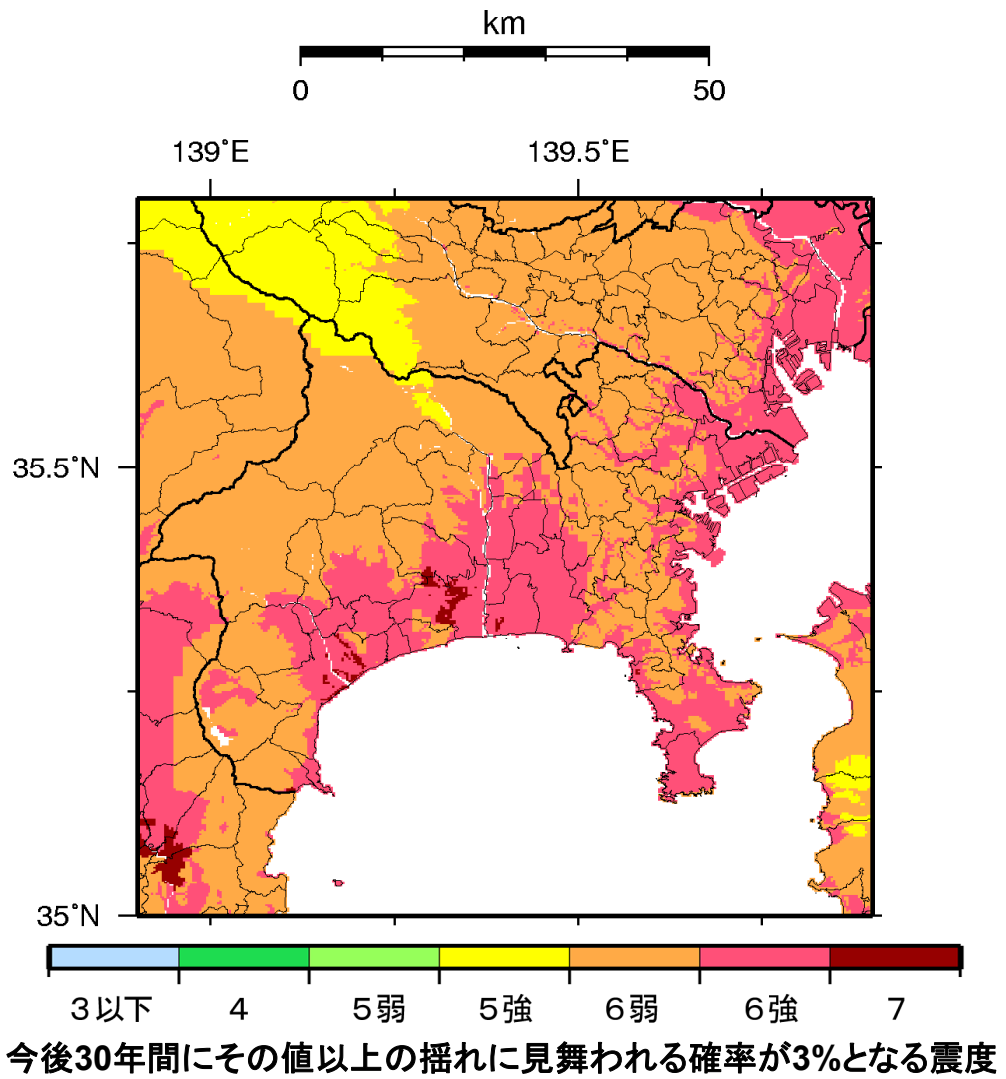
横浜市役所：高い。

南海トラフの地震（カテゴリⅠ）や、南関東で発生するマグニチュード7程度の地震（カテゴリⅡ）の影響度が高くなっています。これに加えて主要活断層帯のうち発生確率が高い神縄・国府津－松田断層帯や三浦半島断層群の地震（カテゴリⅢ）の影響も見られます。

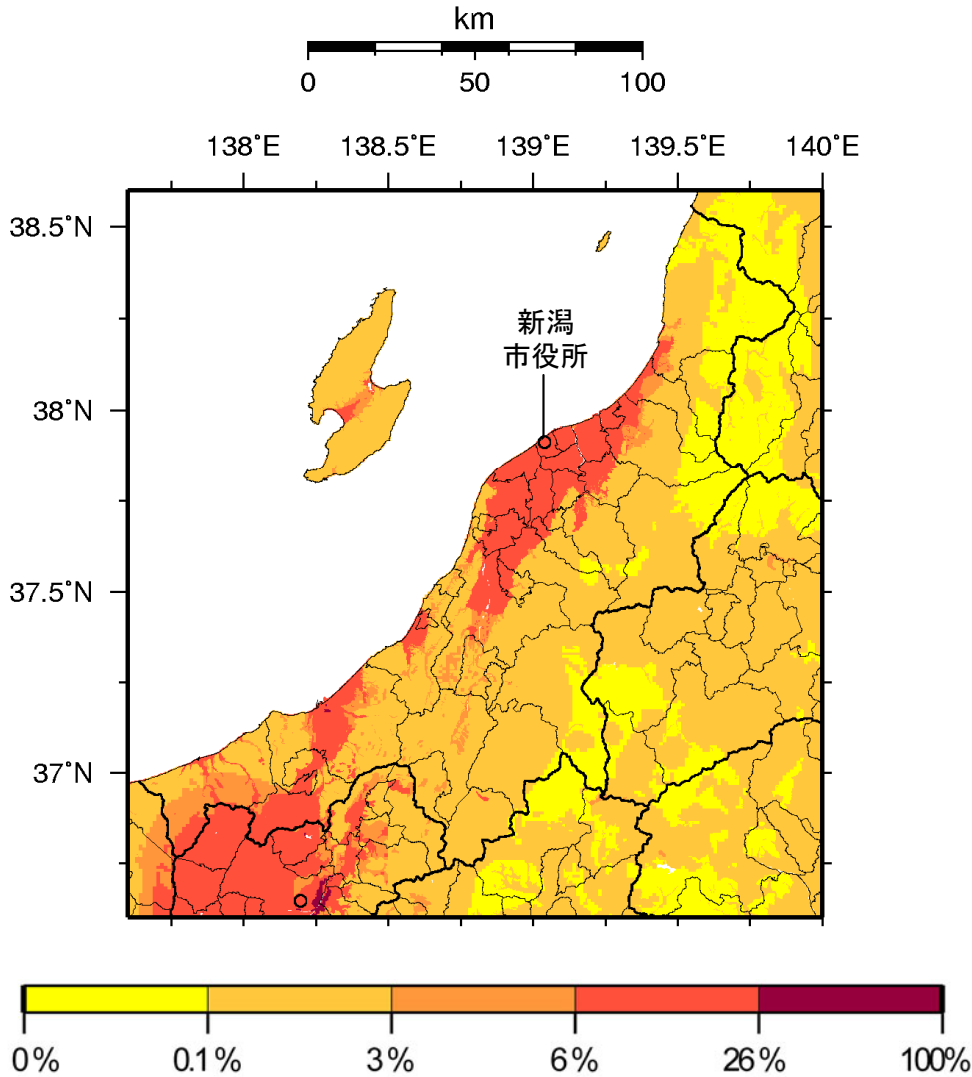
カテゴリⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震



横浜市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリ別の影響度



新潟県



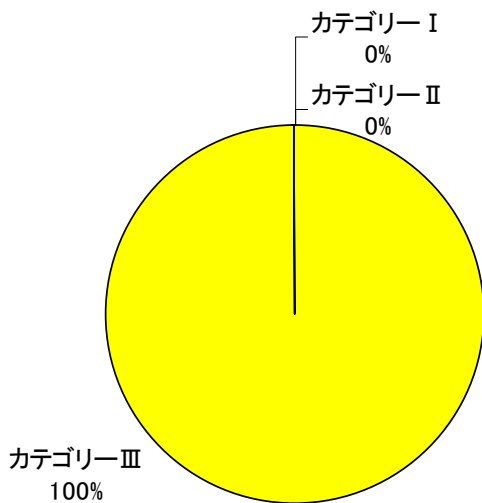
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

越後山脈などの山地や丘陵に比べると、日本海沿岸の平野（越後平野、高田平野、国中平野など）や山間の盆地、河川沿いでは、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

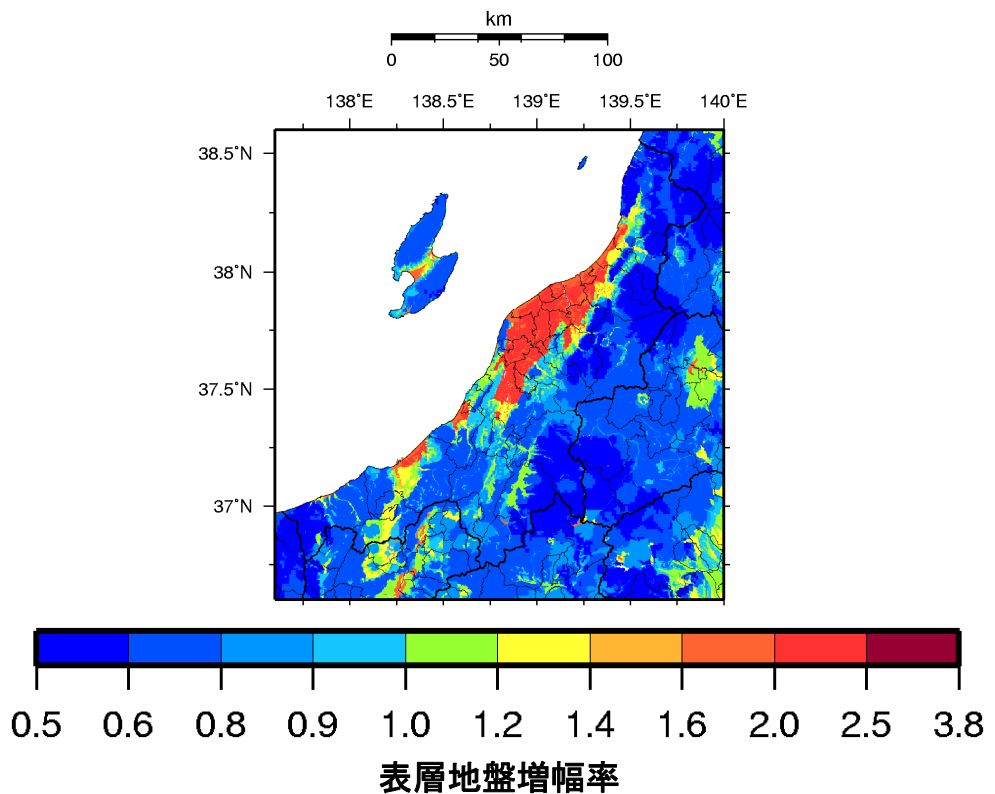
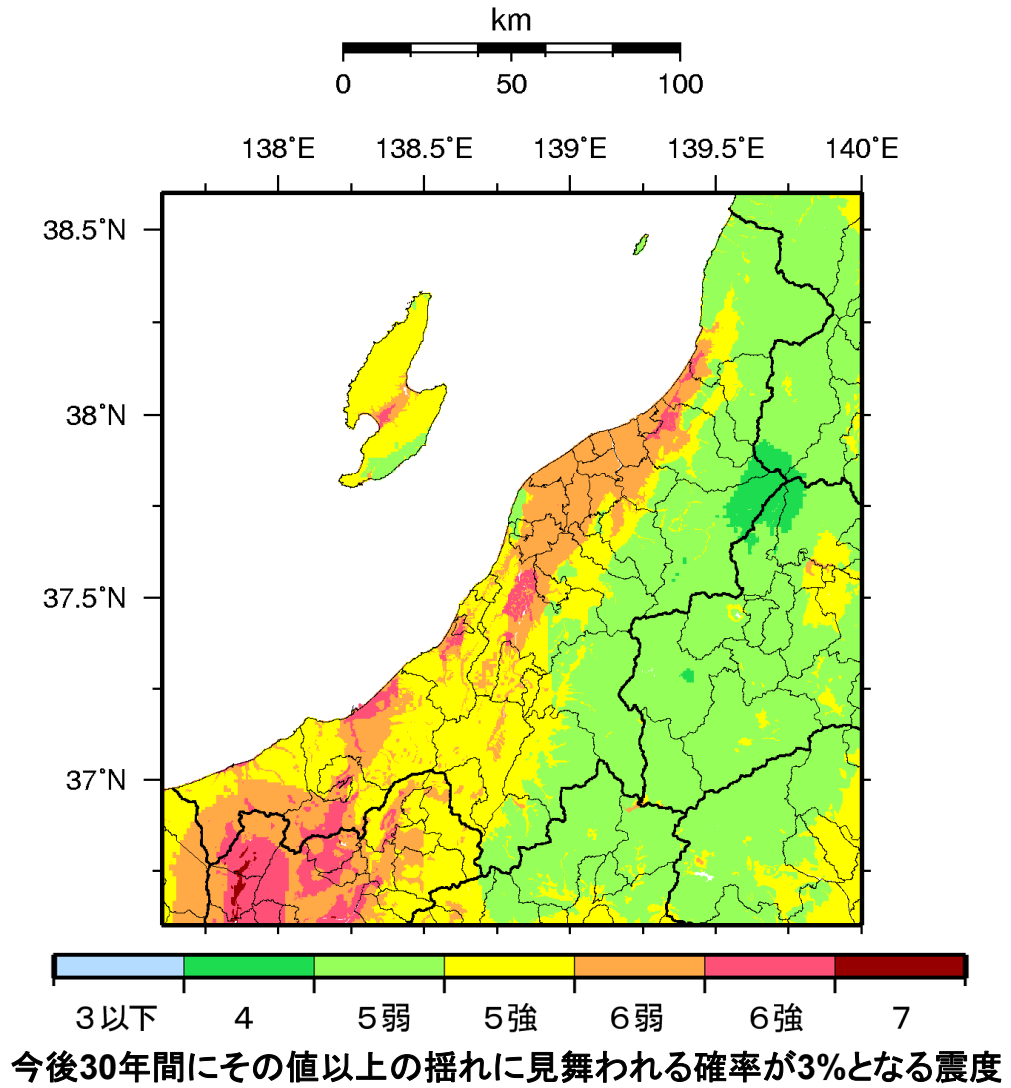
新潟市役所：高い。

カテゴリーⅢの地震の影響度が支配的です。最も影響度が高いのは活断層が特定されていない場所で発生する地震です。次いで、佐渡島北方沖の地震の影響度が高くなっています。

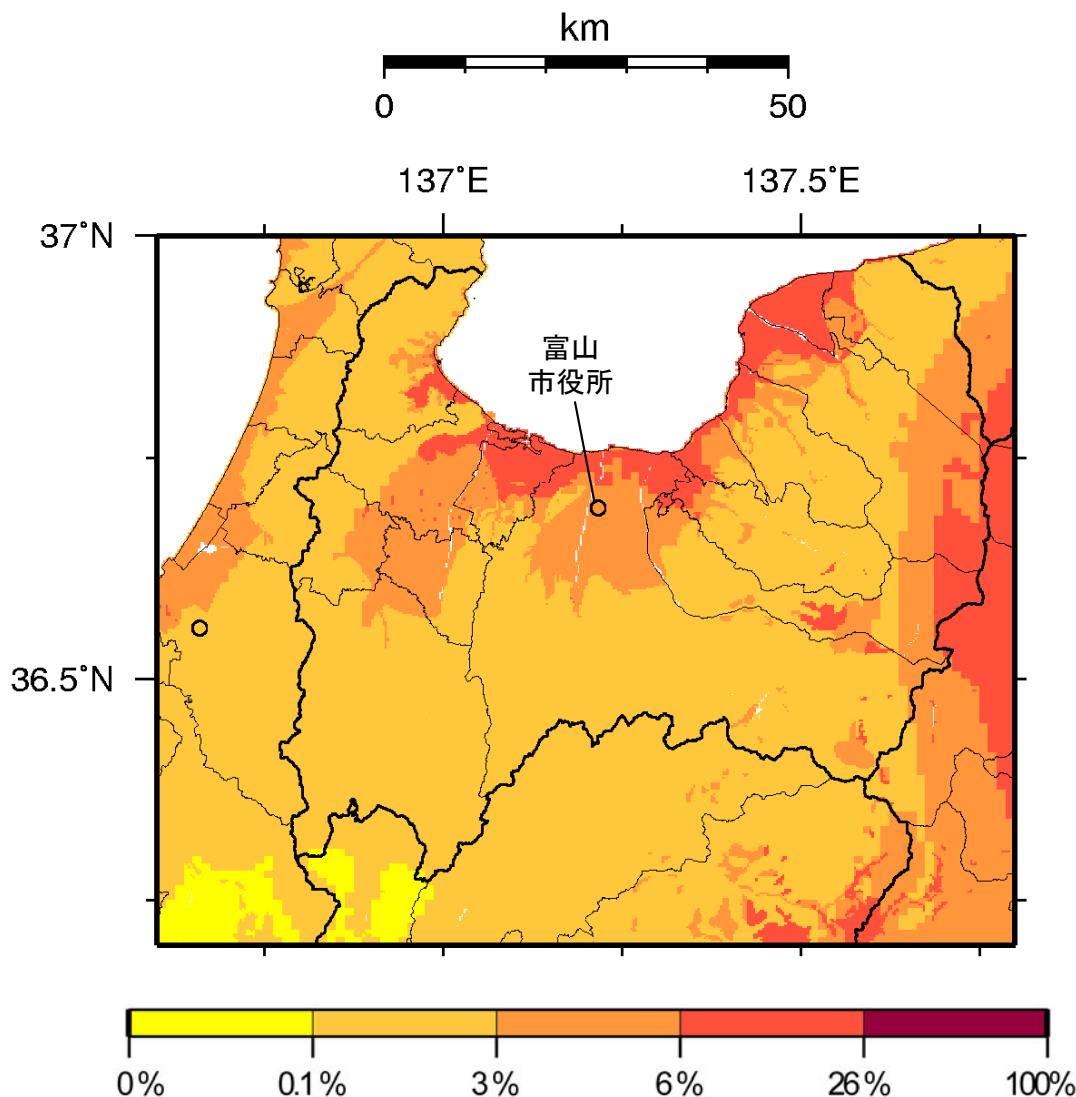


カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

新潟市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



富山県



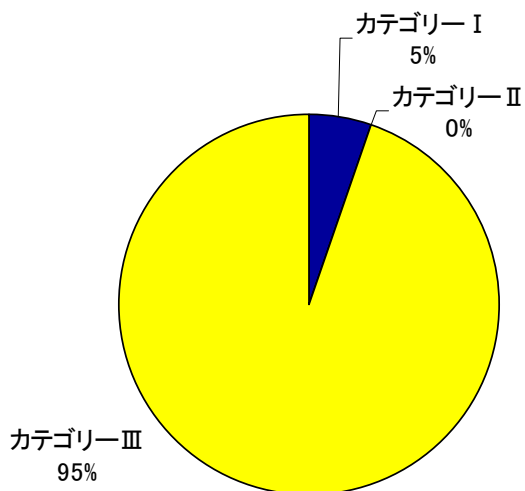
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

東部（飛騨山脈）から南部、西部にかけての山地や丘陵に比べると、それらに囲まれた平野部（富山平野、砺波平野など）や河川沿いでは、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

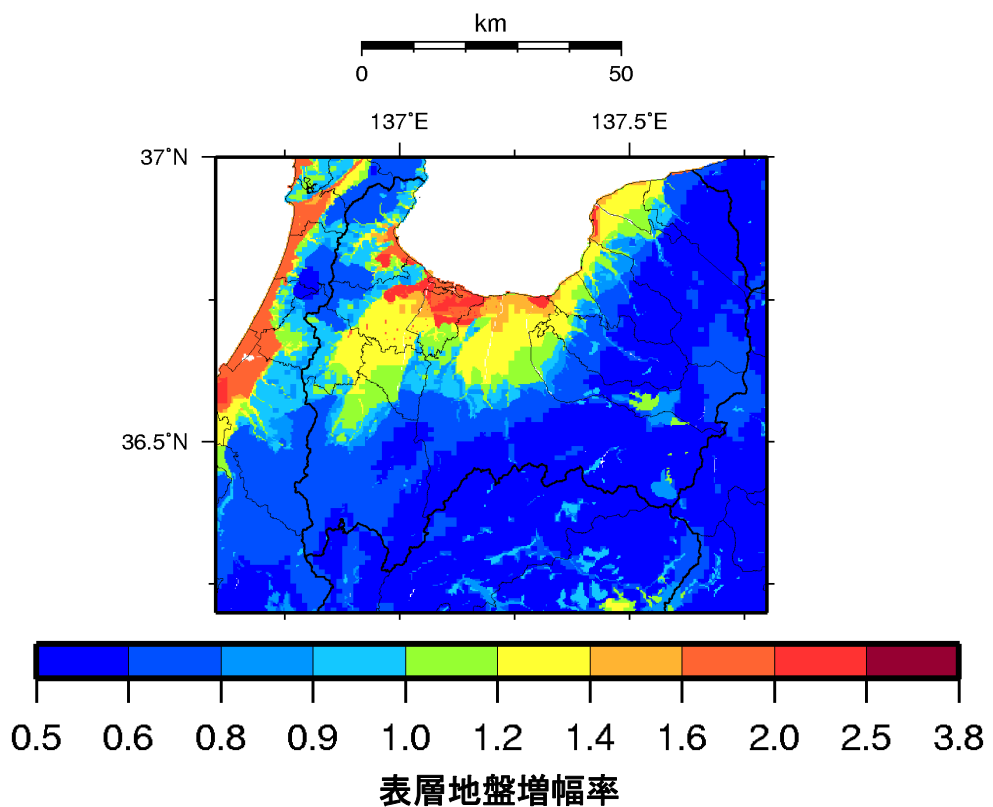
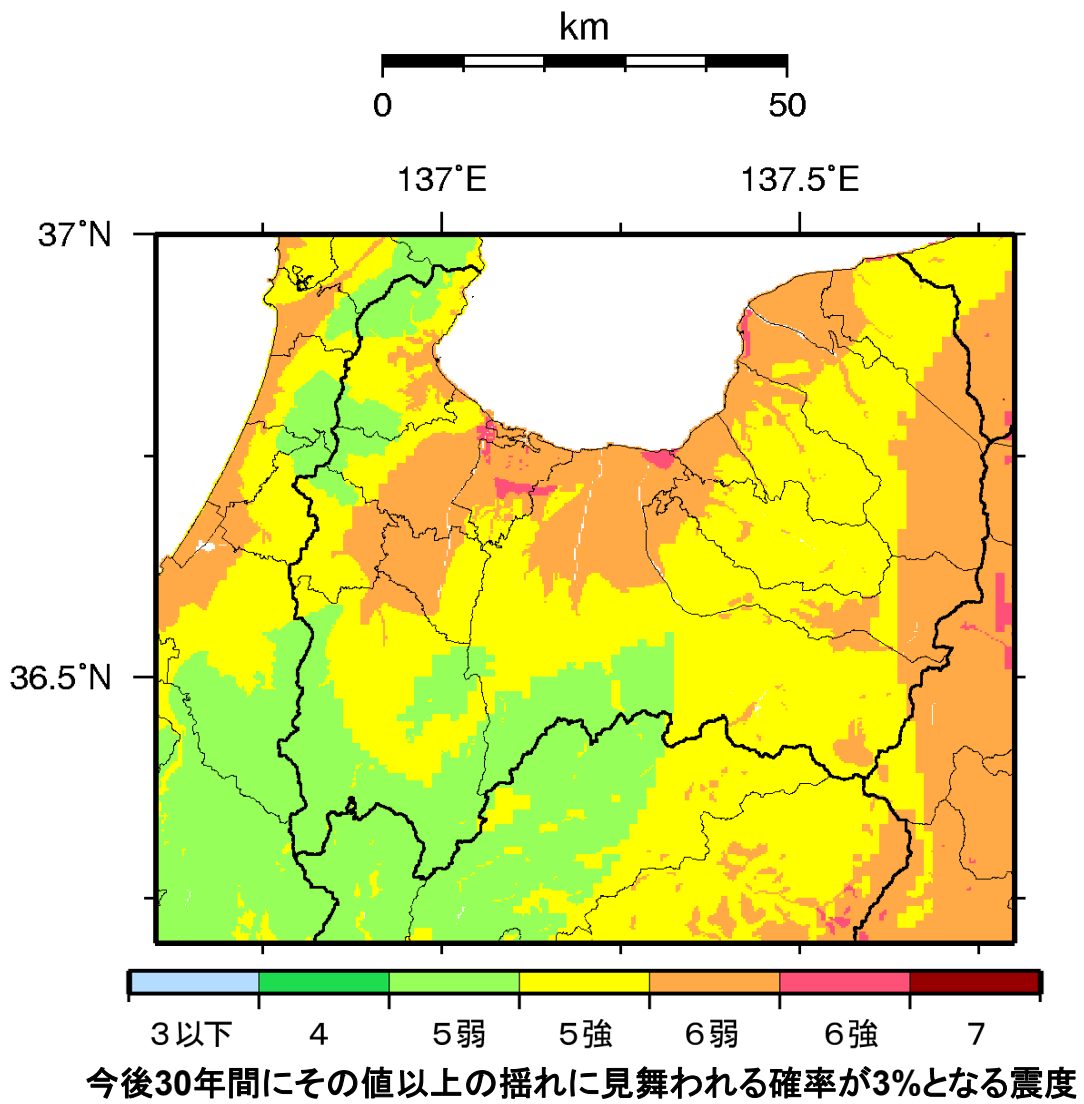
富山市役所：高い。

主要活断層帯の地震（カテゴリⅢ）の影響度が最も高くなっています。地震発生確率の高い砺波平野断層帯・呉羽山断層帯や邑知淵断層帯、魚津断層帯の影響が大きいと考えられます。

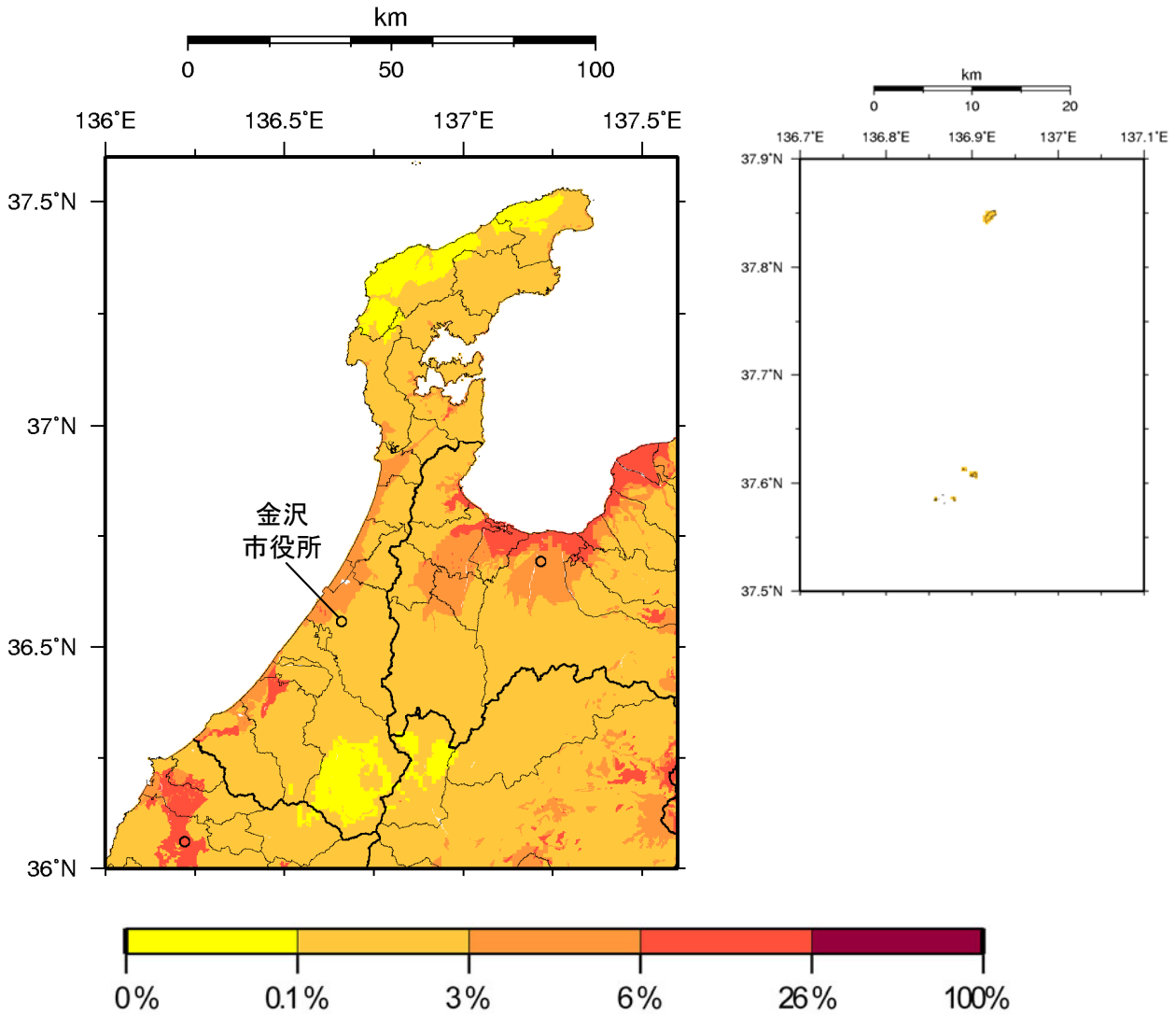


カテゴリⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

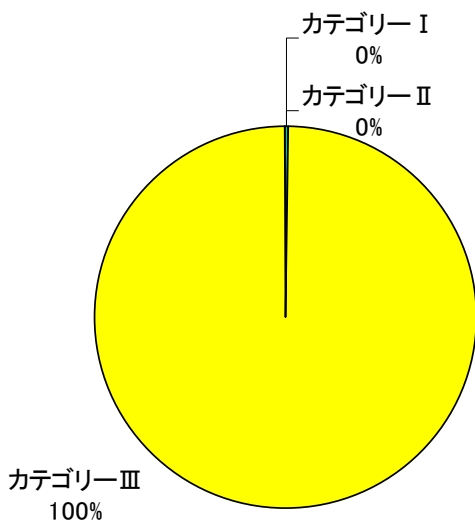
富山市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリ別の影響度



石川県



今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）



地図概況

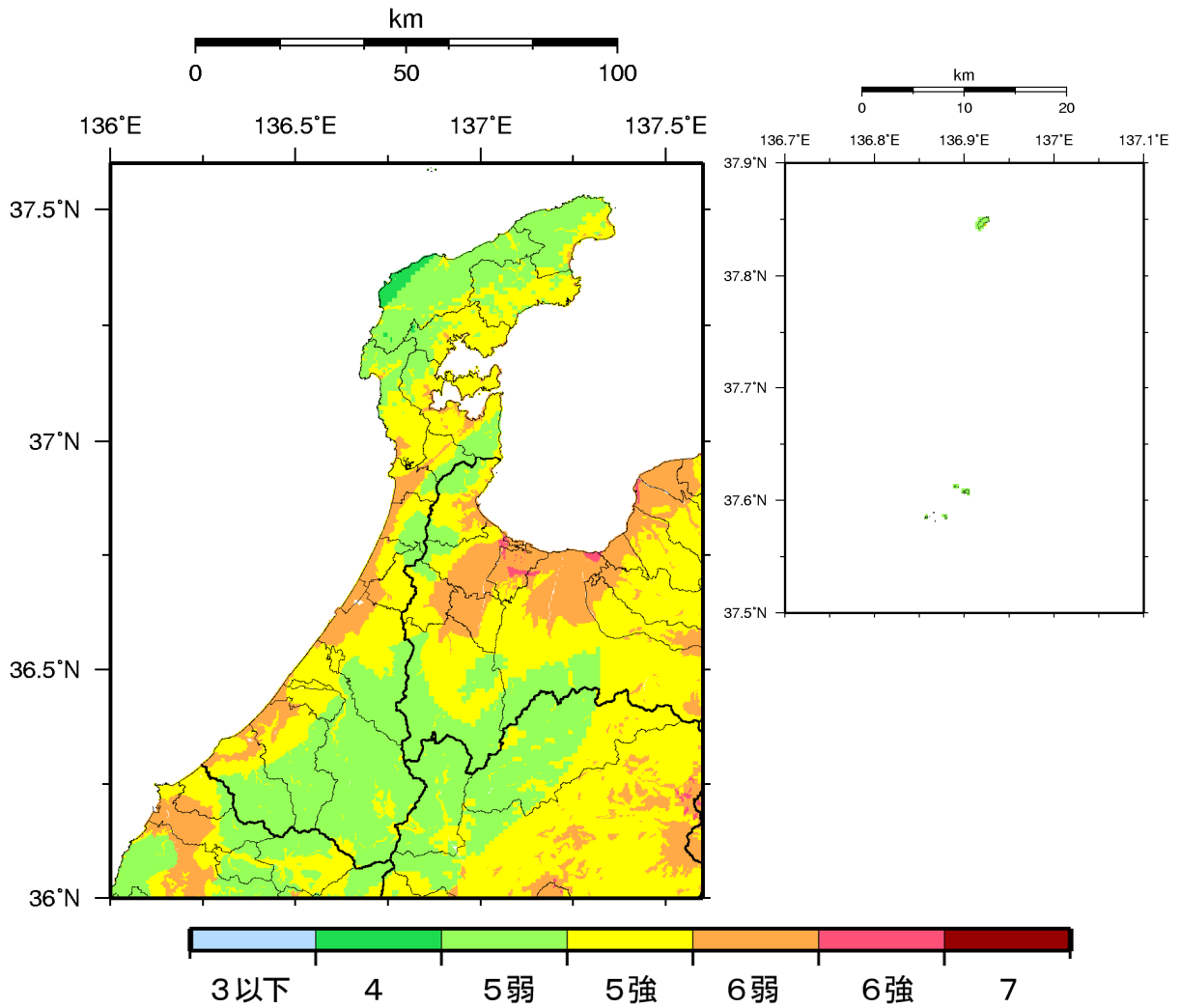
能登半島の丘陵や南部の山地に比べると、金沢平野や能登半島の平野部では、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

金沢市役所：やや高い。

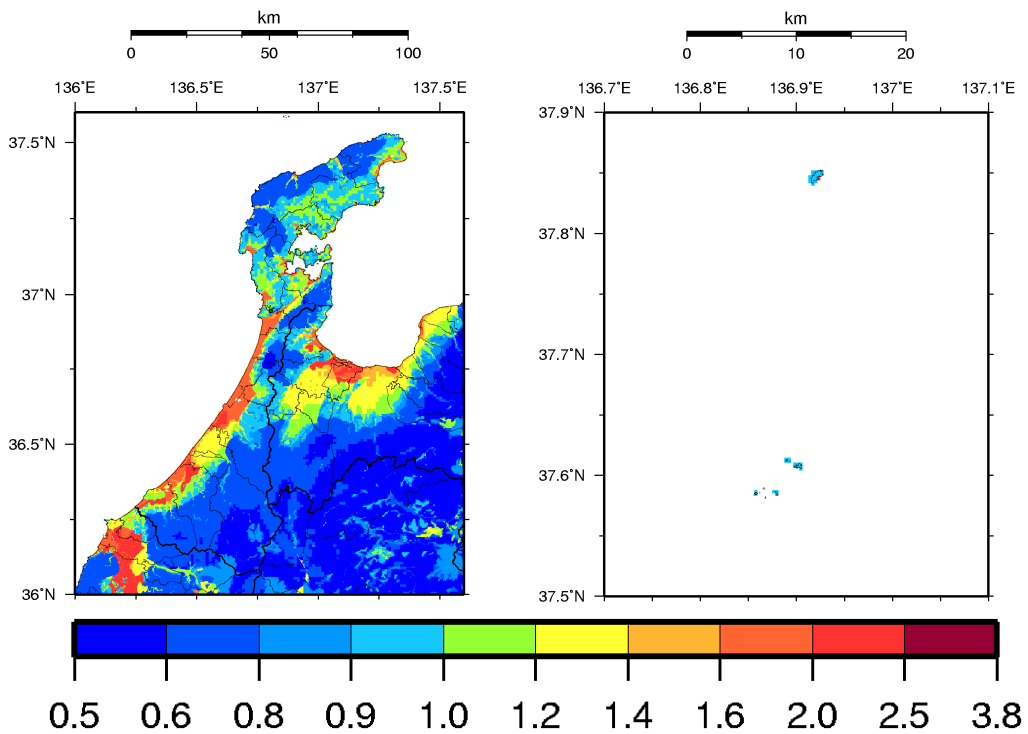
主要活断層帯の地震(カテゴリーⅢ)の影響度が最も高くなっています。これは主に地震発生確率の高い邑知潟断層帯や、森本・富樫断層帯の影響が大きいと考えられます。

カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

金沢市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する地震カテゴリー別の影響度

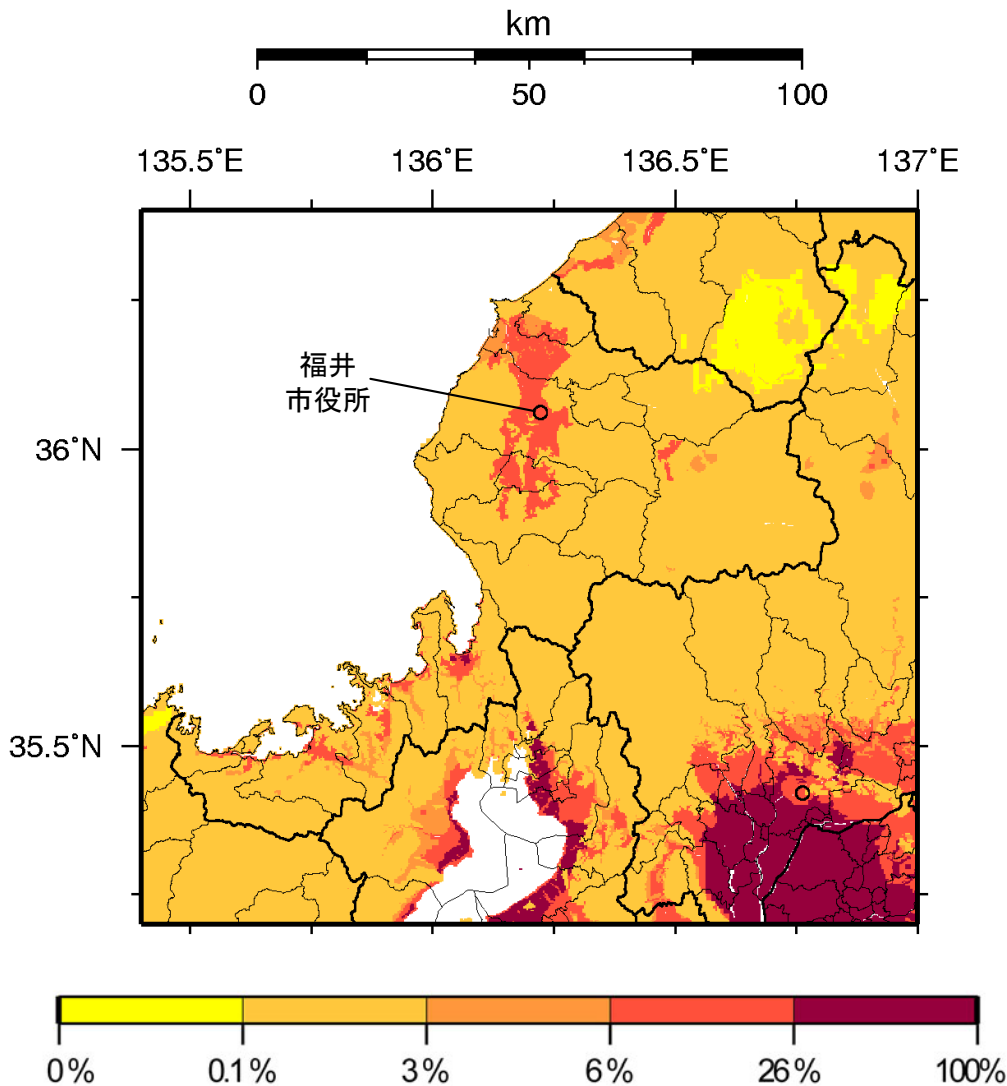


今後30年間にその値以上の揺れに見舞われる確率が3%となる震度



表層地盤増幅率

福井県

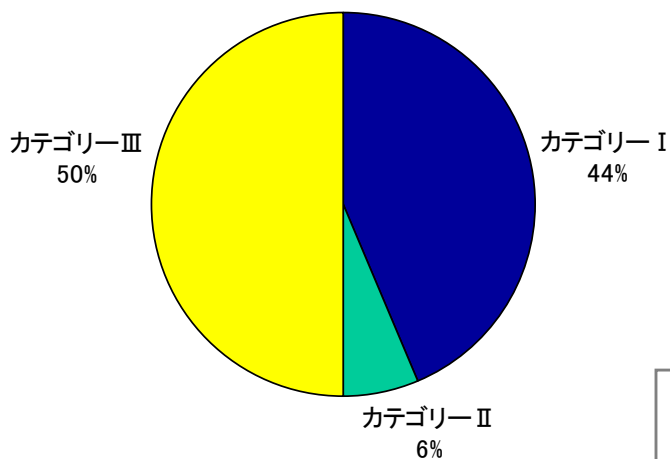


今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

福井平野や日本海沿岸の低地、山間の盆地、河川沿いは、周囲の山地に比べると地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなっています。

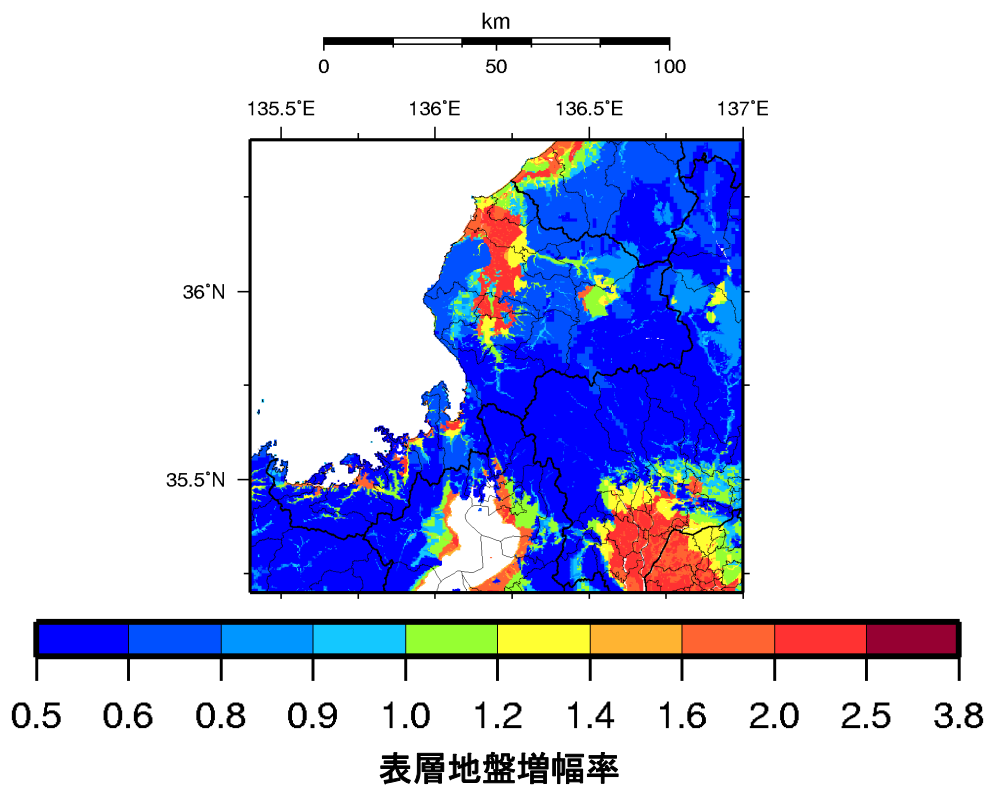
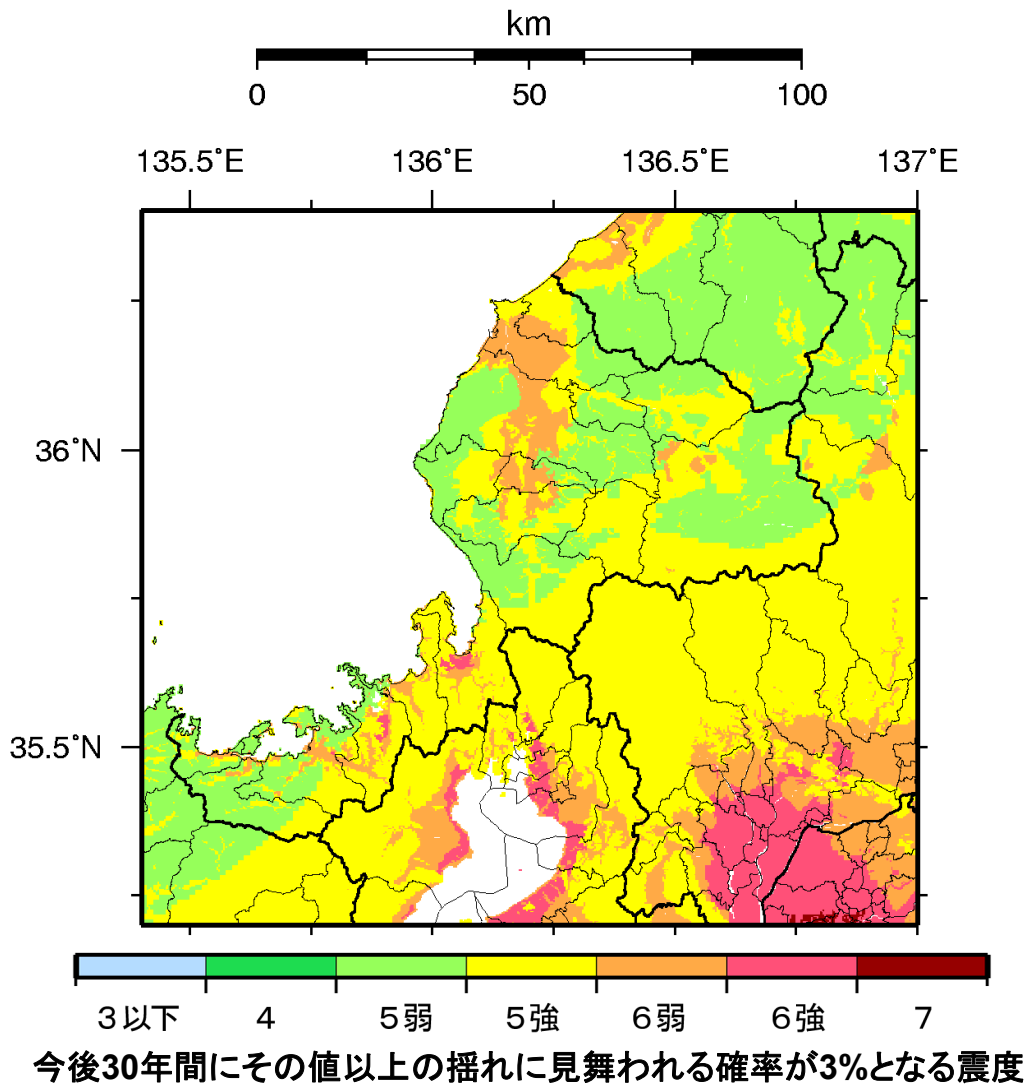
福井市役所：高い。



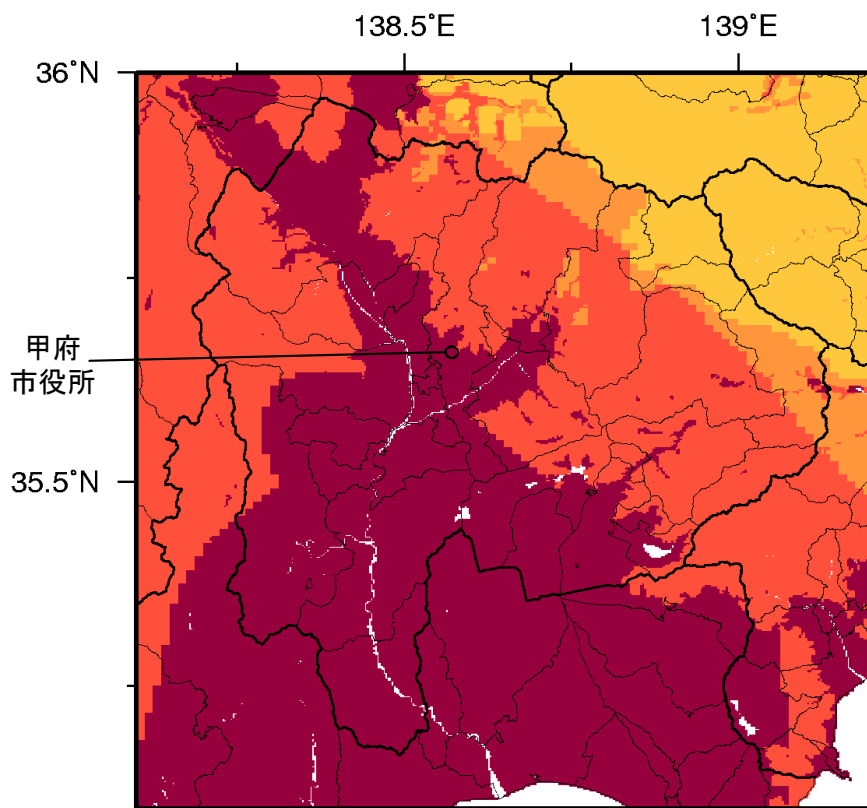
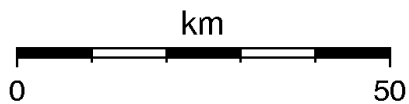
カテゴリーⅢの地震の影響度が高くなっています。主に、活断層が特定されていない場所で発生する地震によると考えられますが、主要活断層帯である福井平野東縁断層帯主部の地震の影響も見られます。また、南海トラフの地震（カテゴリーⅠ）の影響度も高くなっています。

カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

福井市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



山梨県



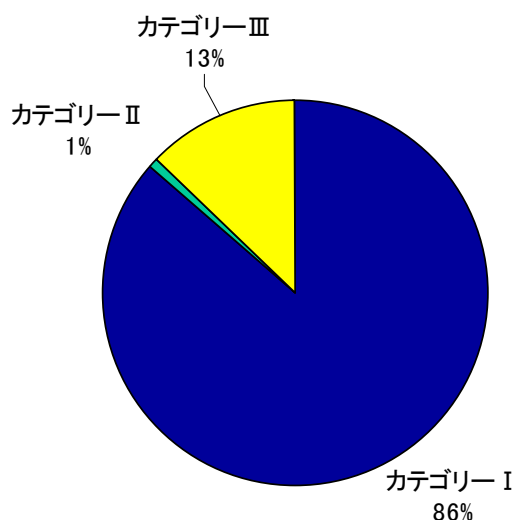
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

南部では南海トラフの地震(カテゴリー I)の影響が強く、また、甲府盆地や河川沿いの低地では、周囲の山地に比べると地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

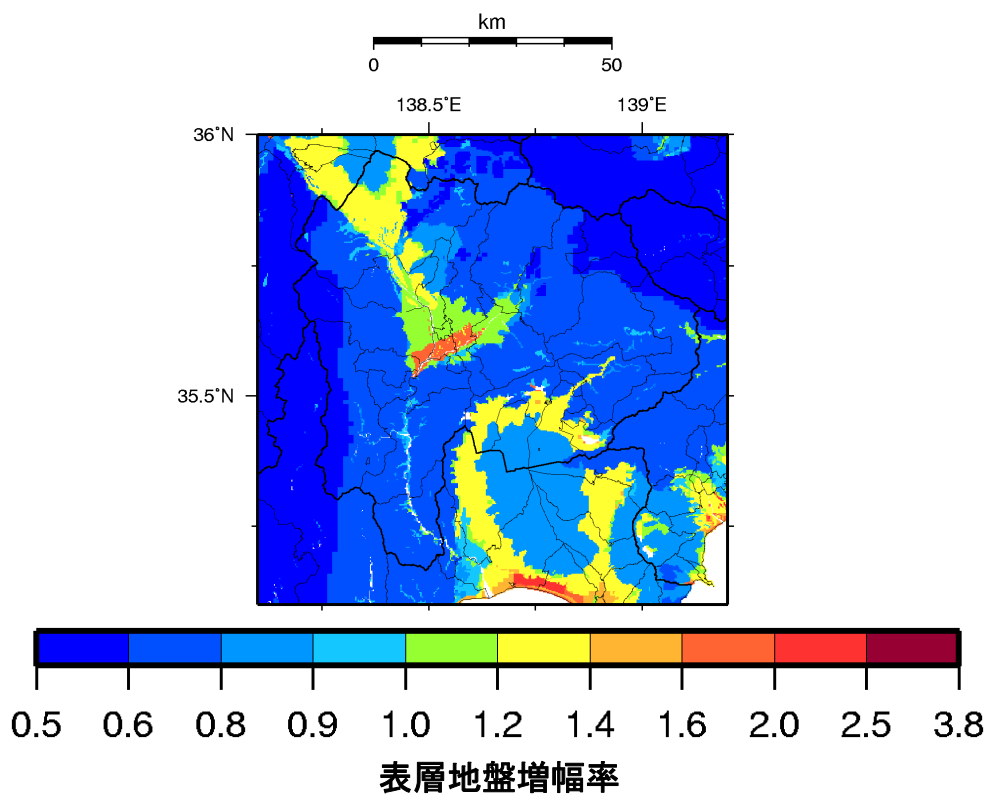
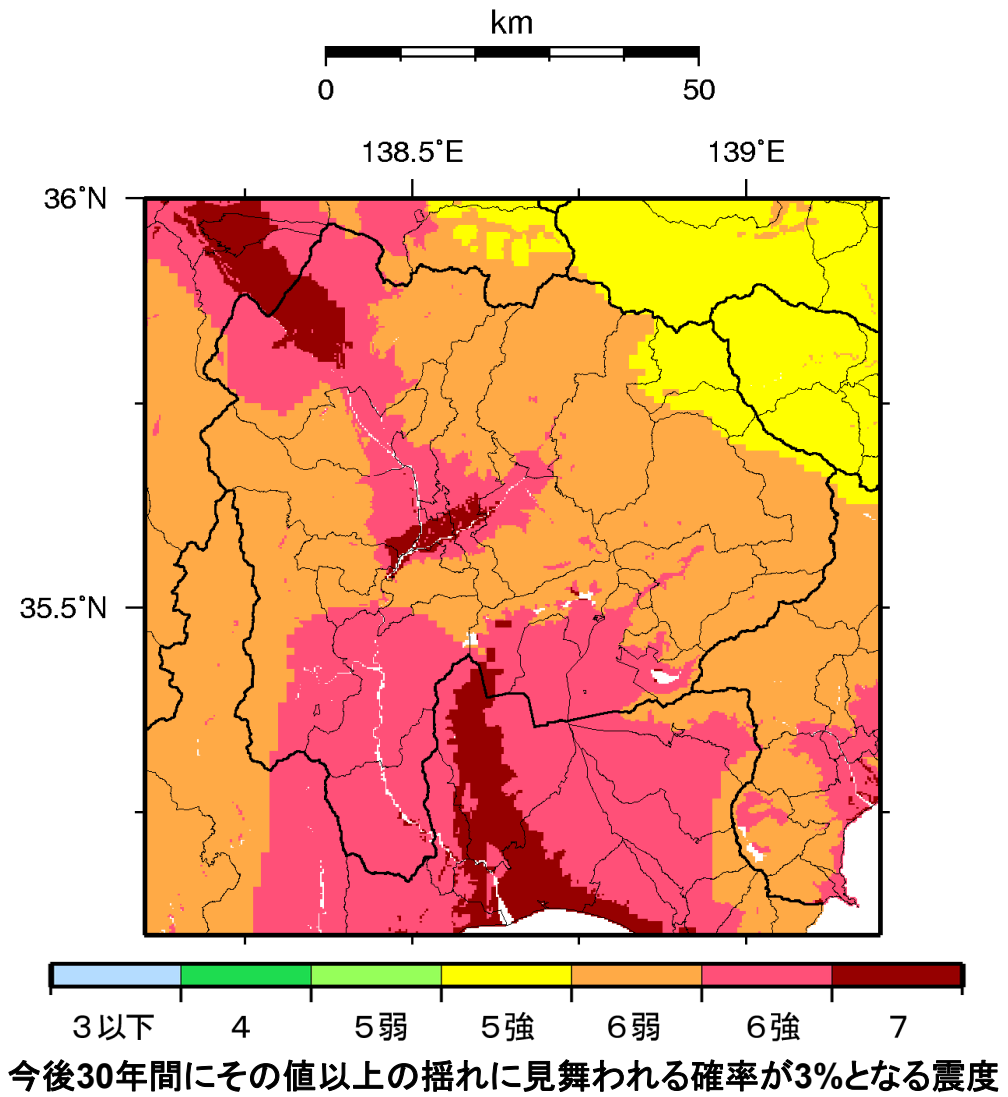
甲府市役所：高い。

南海トラフの地震(カテゴリー I)の影響度が最も高く支配的です。主要活断層帯の地震(カテゴリー III)の影響も見られます。糸魚川-静岡構造線断層帯や、曾根丘陵断層帯の影響と考えられます。

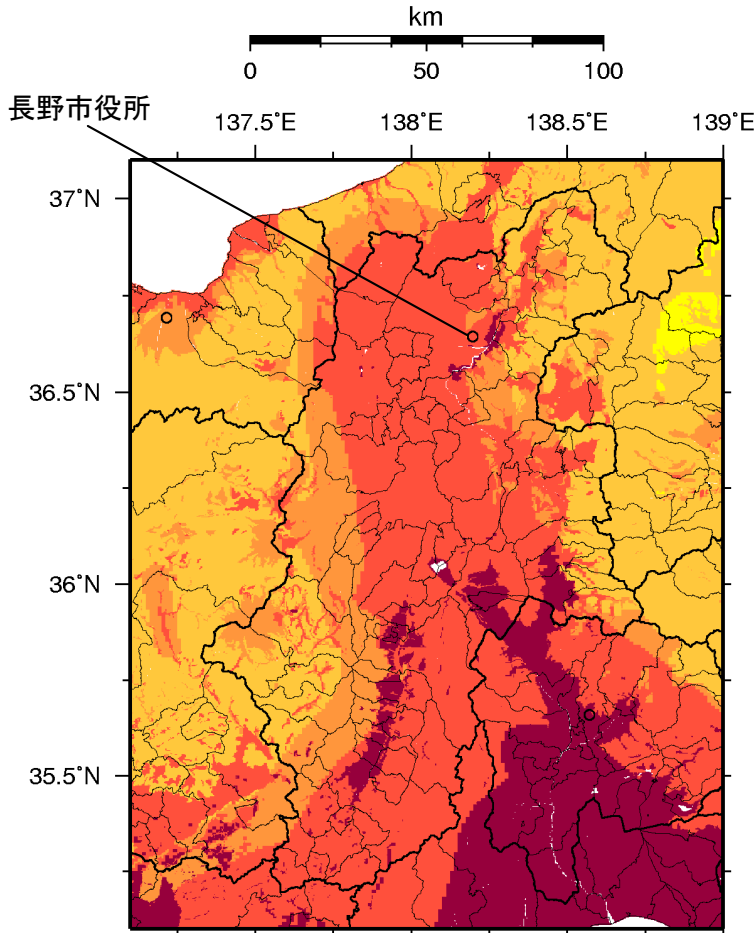


カテゴリー I：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリー II：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリー III：活断層など陸域と海域の浅い地震

甲府市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



長野県



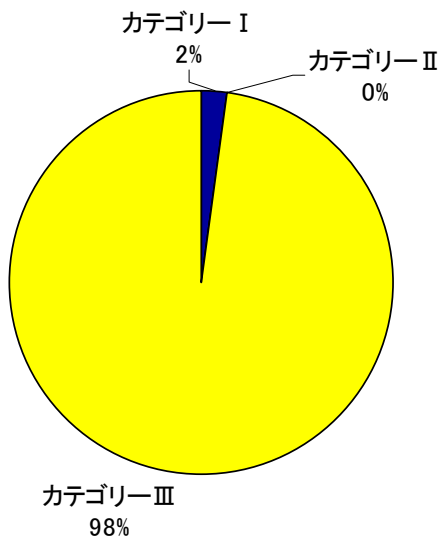
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

山間の盆地（長野盆地、諏訪盆地など）や河川沿いの低地では、周囲の山地に比べると地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。特に地震発生確率の高い糸魚川－静岡構造線断層帯沿いでは、その傾向が顕著です。また南側ほど、南海トラフの地震（カテゴリーⅠ）の影響が大きくなります。

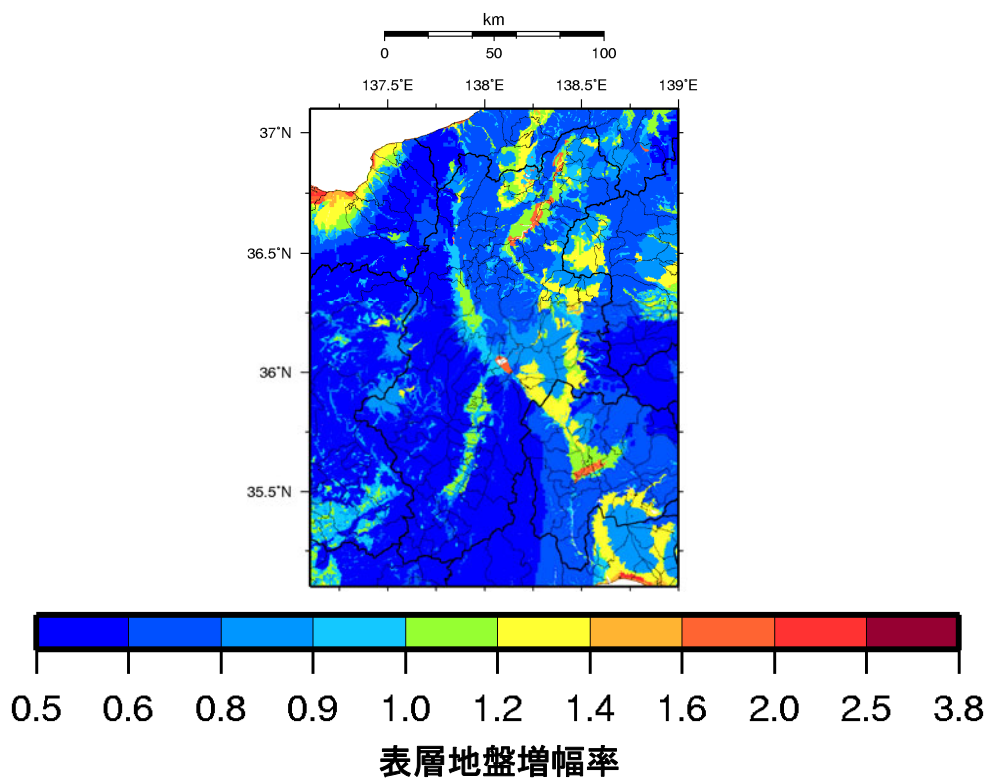
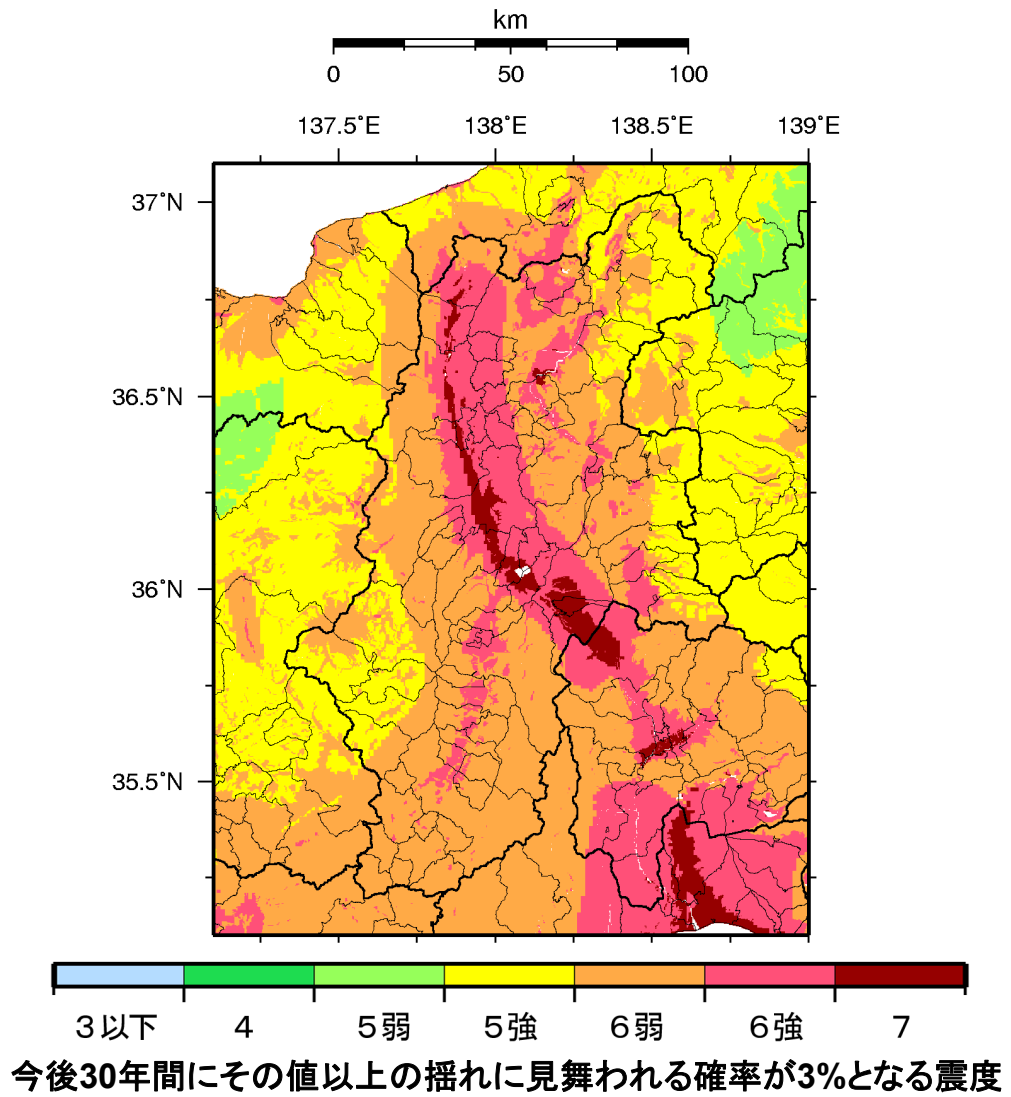
長野市役所：高い。

主要活断層帯の地震（カテゴリーⅢ）の影響度が最も高くなっています。これは主に、長野県の中央部を南北に走る、地震発生確率の高い糸魚川－静岡構造線断層帯によるものです。

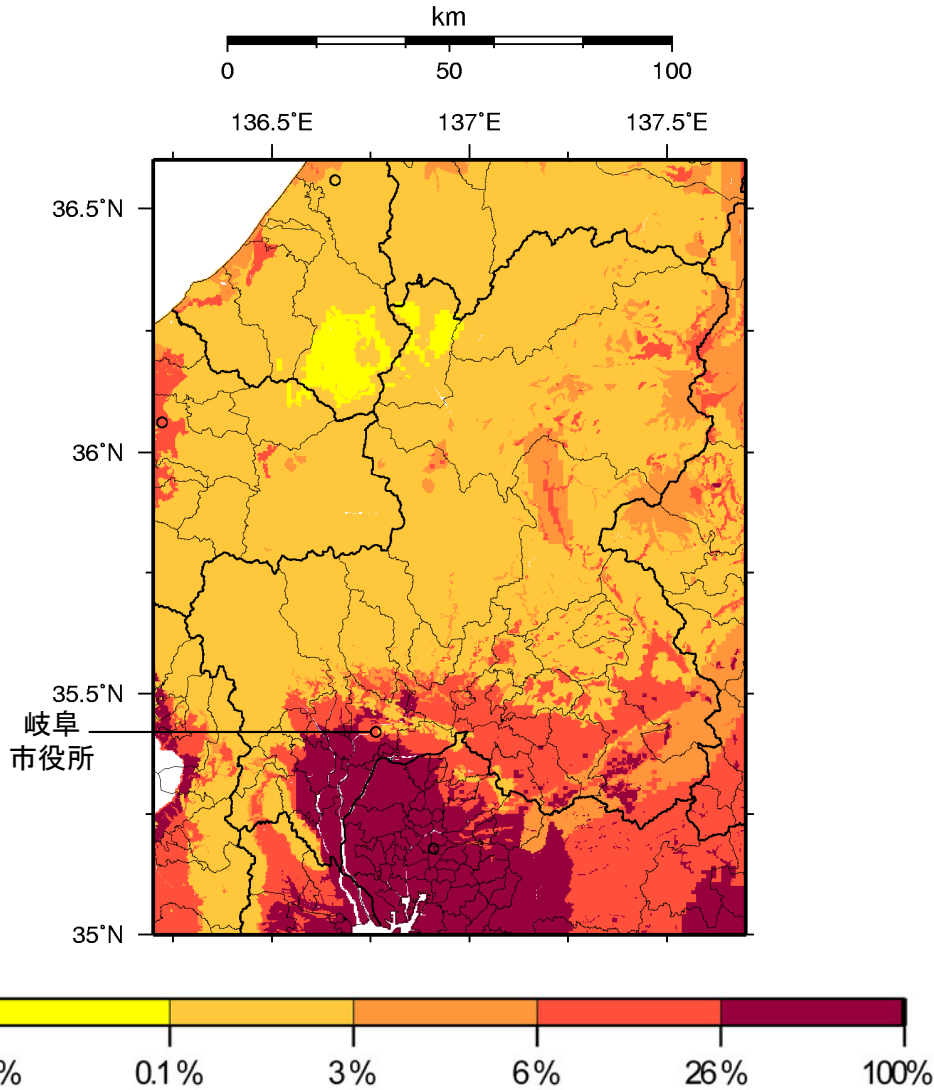


カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

長野市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



岐阜県



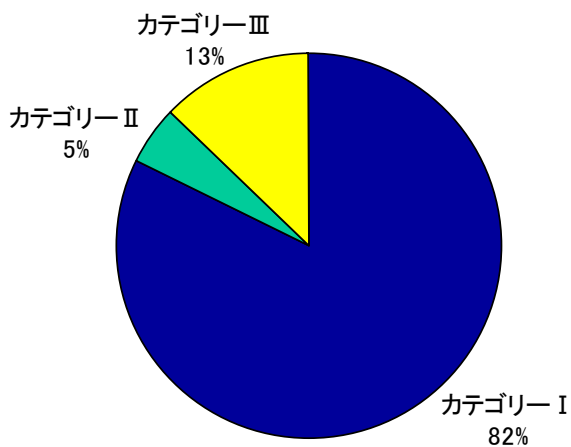
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

南部では、南海トラフの地震(カテゴリーⅠ)の影響が大きくなっています。また、南部の濃尾平野では地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。山間の盆地や河川沿いの低地では、周辺の山地に比べると地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きい傾向にあります。

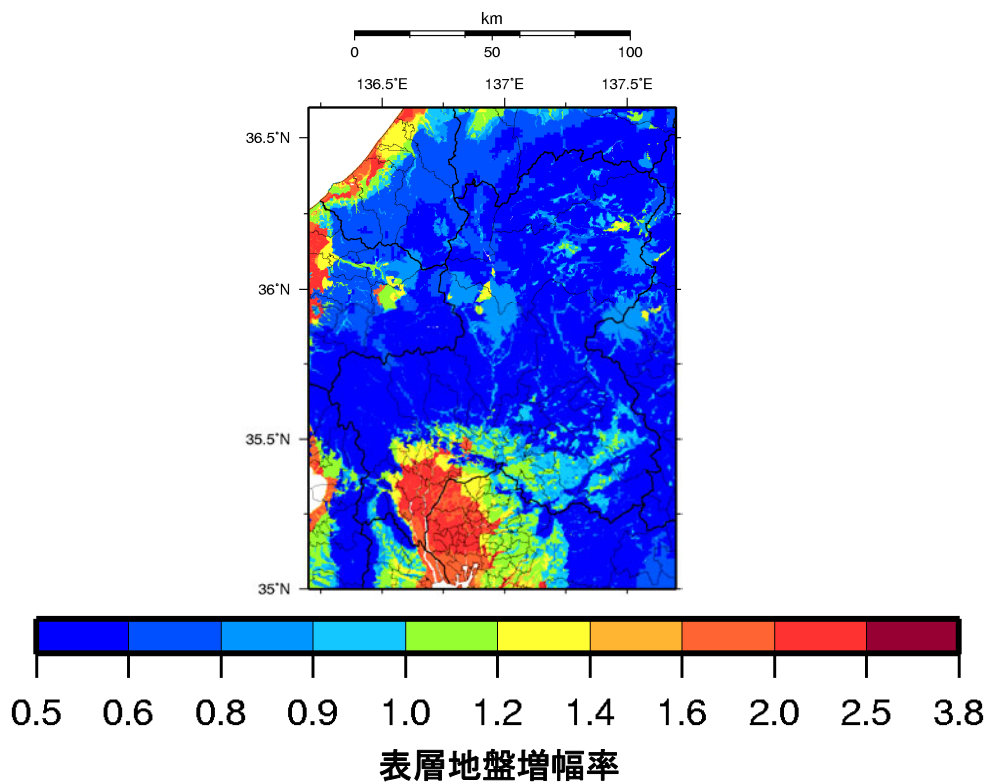
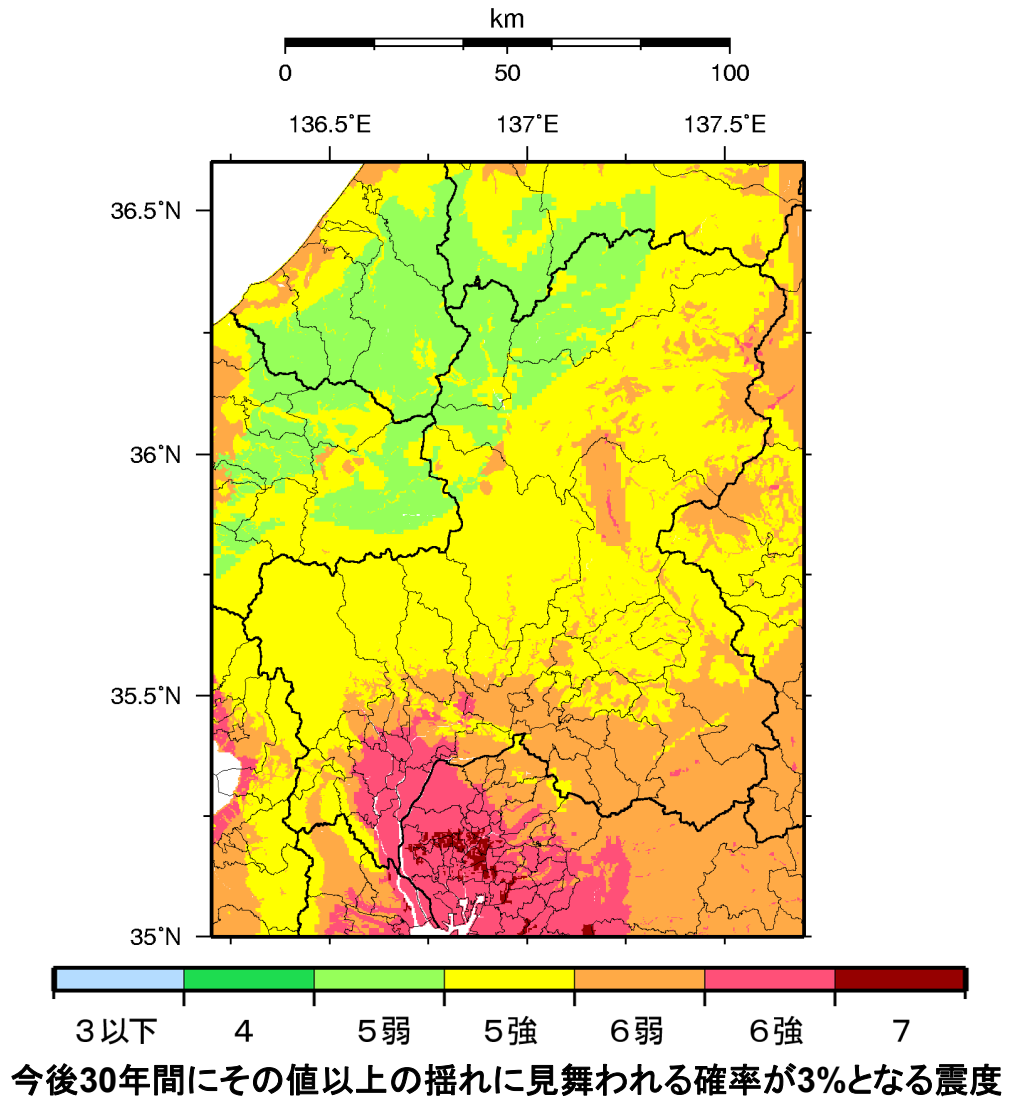
岐阜市役所：高い。

南海トラフの地震(カテゴリーⅠ)の震源域に近いため、その影響度が非常に高くなっています。次いで、活断層が特定されていない場所で発生する地震(カテゴリーⅢ)の影響も見られます。



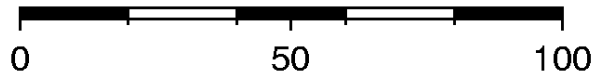
カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

岐阜市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度

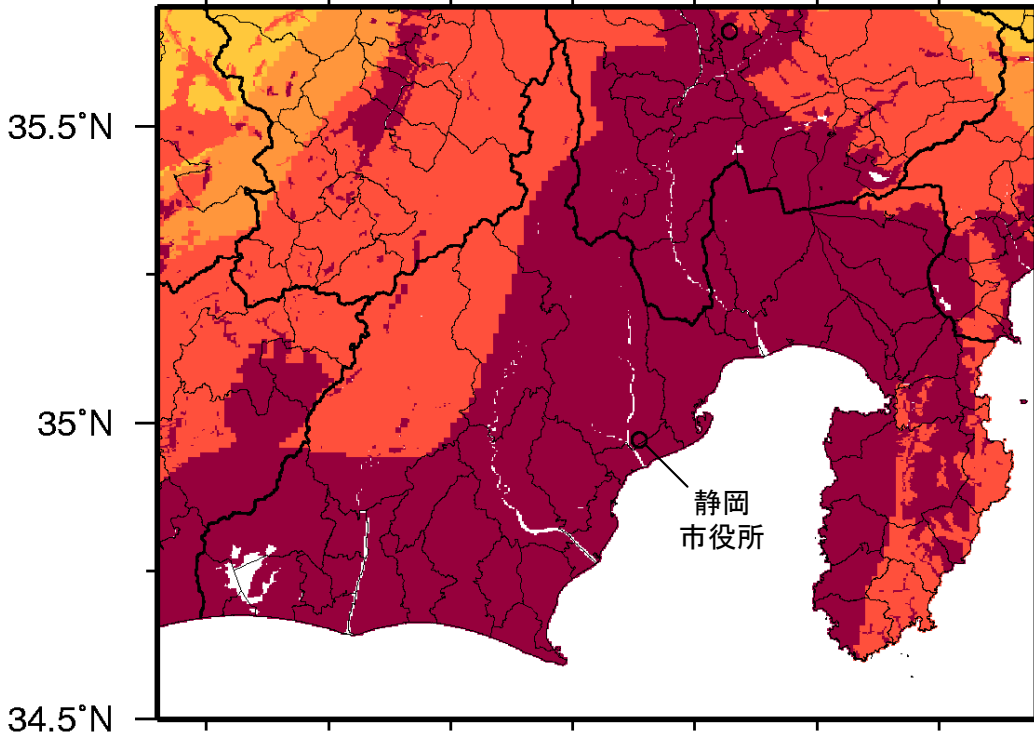


静岡県

km



137.5°E 138°E 138.5°E 139°E



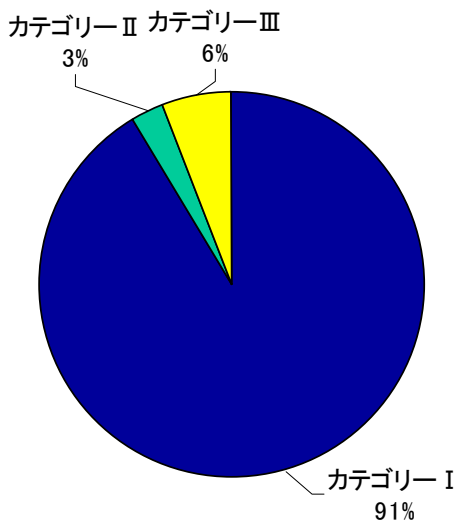
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

南海トラフの地震(カテゴリー I)の影響が圧倒的で、確率や震度は南海トラフからの距離に大きく依存しています。伊豆半島や県の北側の山地、南西部の台地に比べると、海沿いの平野部の地盤増幅率が高くなっています。

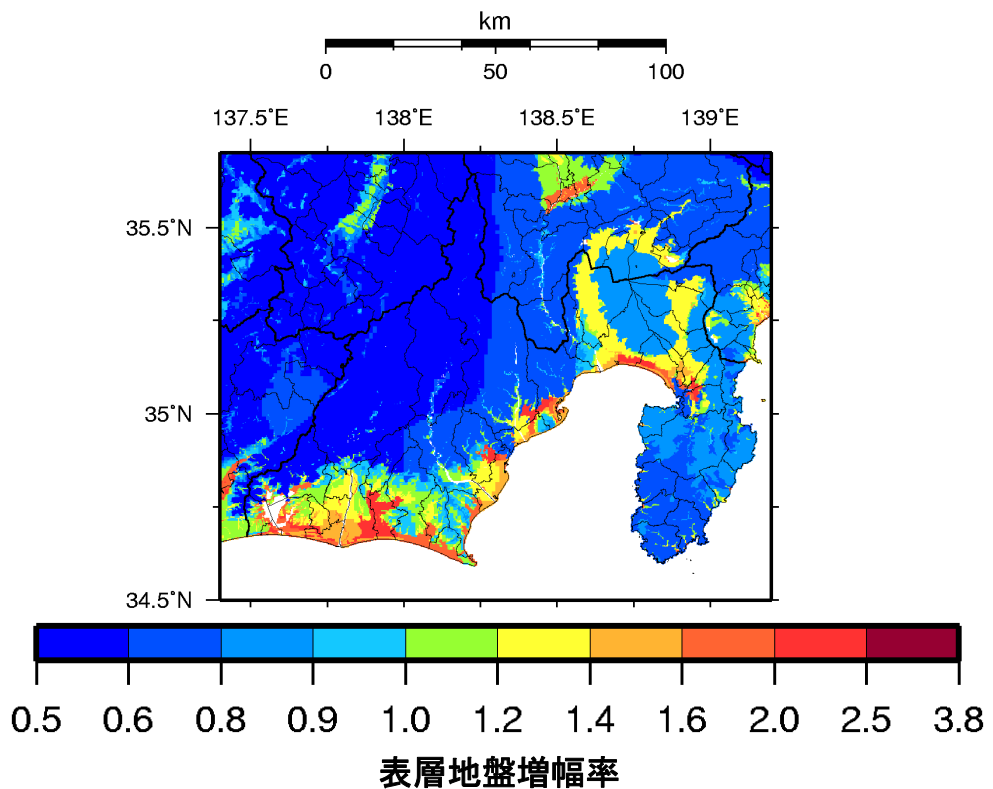
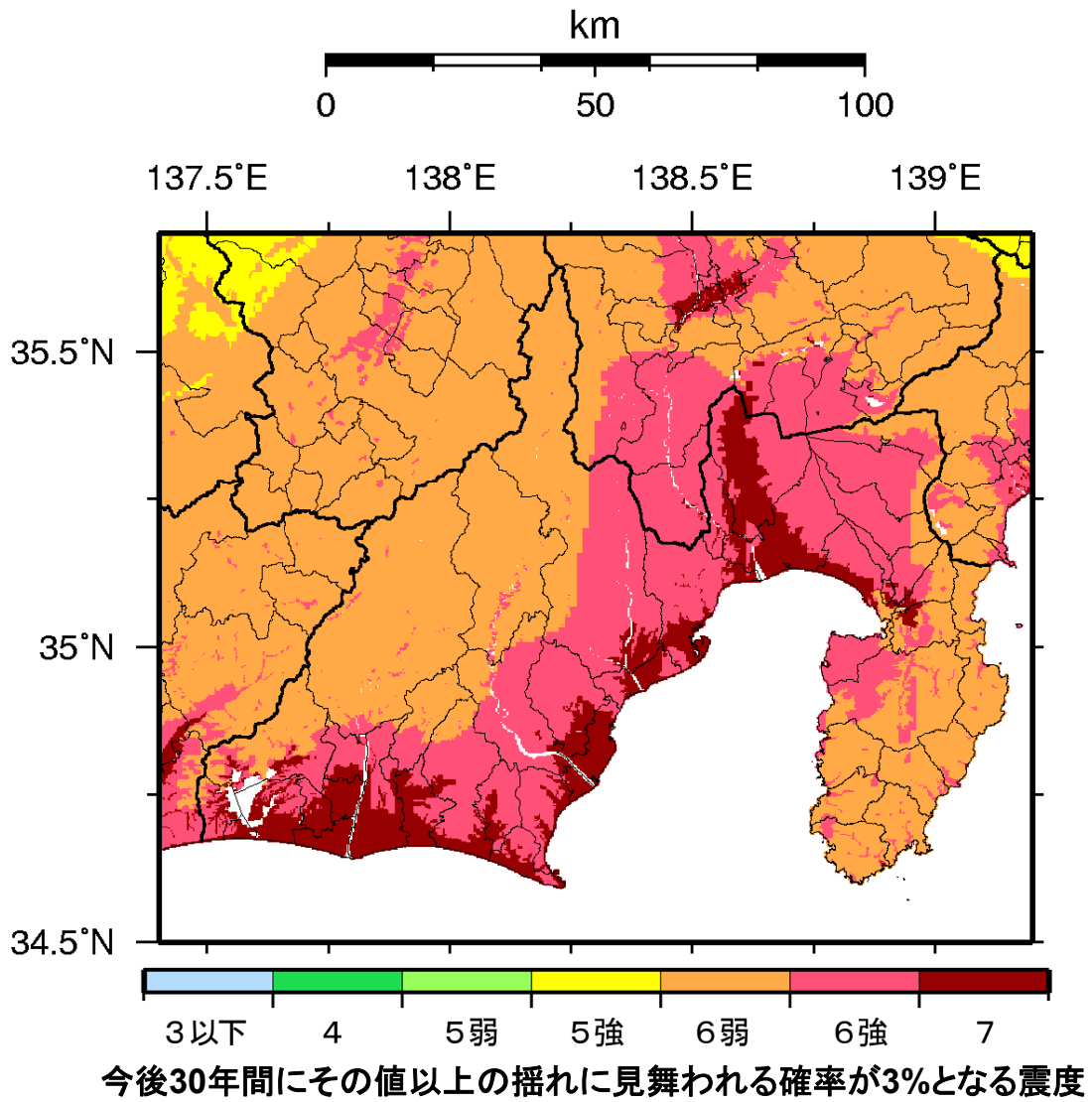
静岡市役所：高い。

南海トラフの地震(カテゴリー I)の震源域に近いため、その影響度が非常に高く支配的です。

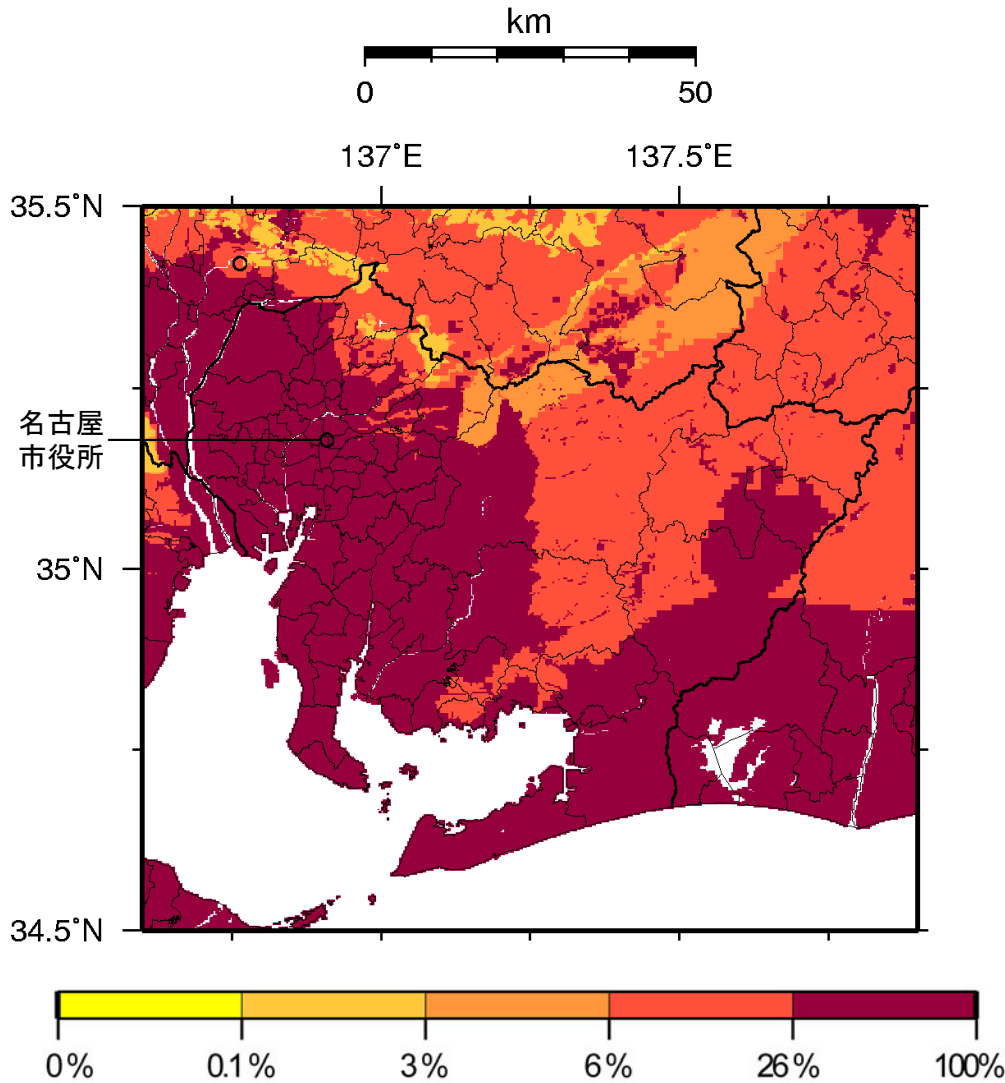


カテゴリー I：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリー II：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリー III：活断層など陸域と海域の浅い地震

静岡市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



愛知県



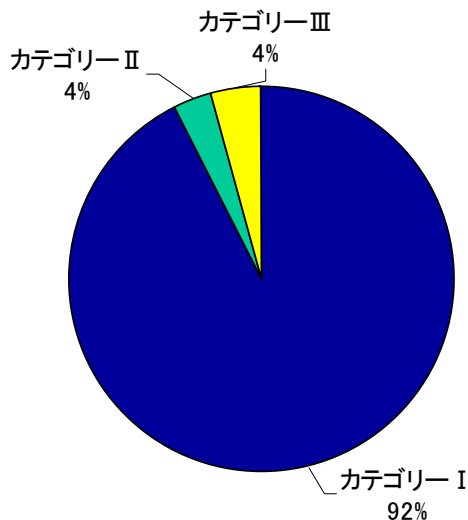
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

北東部の山地や一部の丘陵に比べると、濃尾平野・岡崎平野・豊橋平野などでは地盤増幅率が高くなっています。南部を中心に南海トラフの地震(カテゴリーⅠ)の影響が非常に大きいことや、周辺に活断層が多い地域でもあることから、全体的に確率・震度ともに大きくなっています。

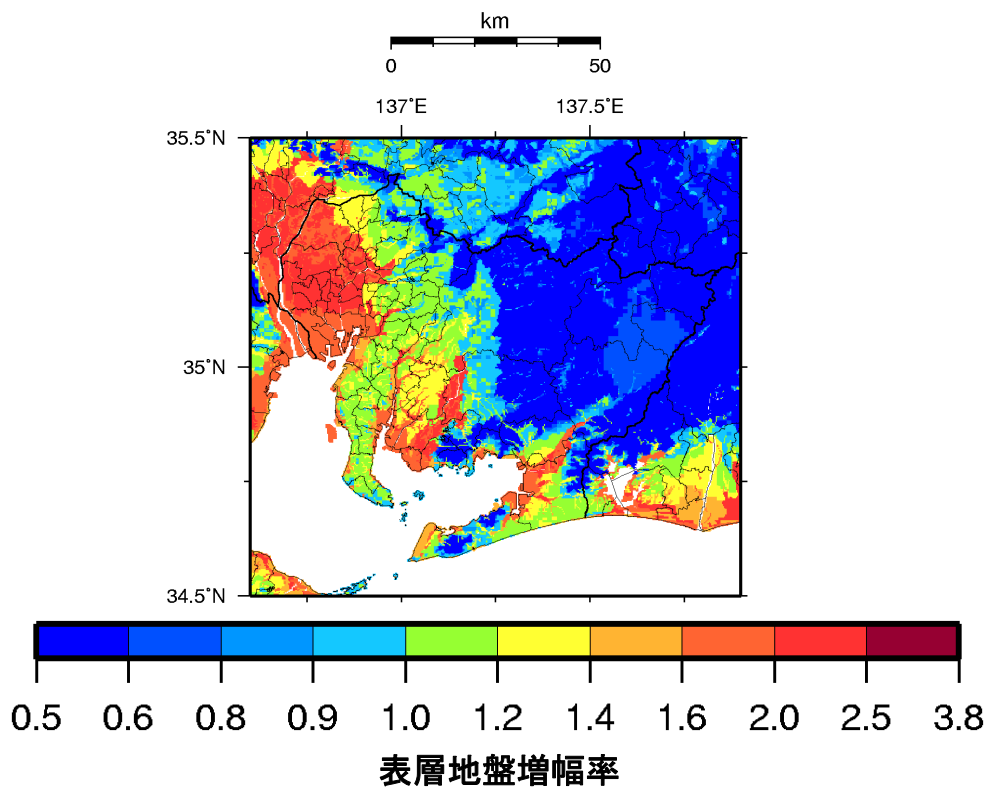
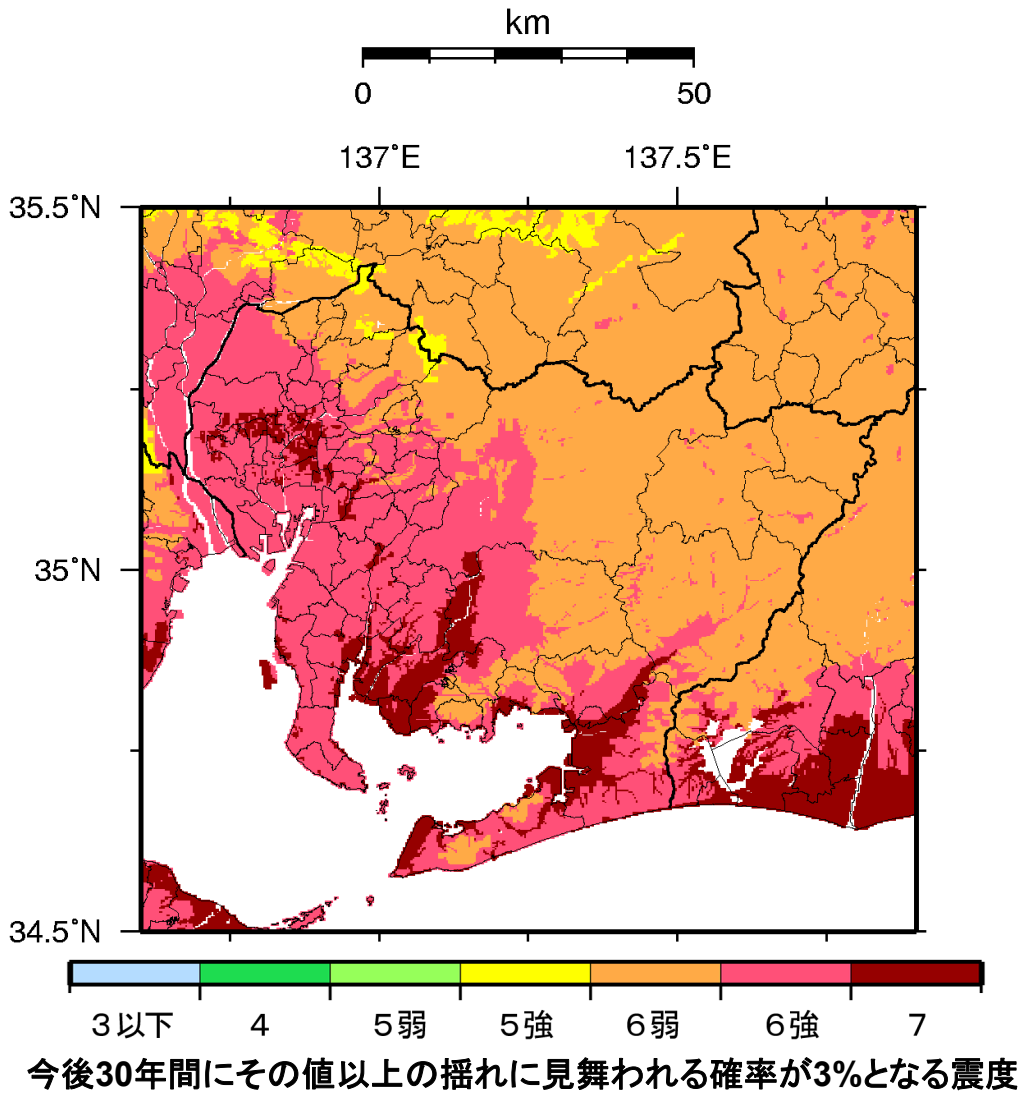
名古屋市役所：高い。

南海トラフの地震(カテゴリーⅠ)の震源域に近いため、その影響度が非常に高く支配的です。

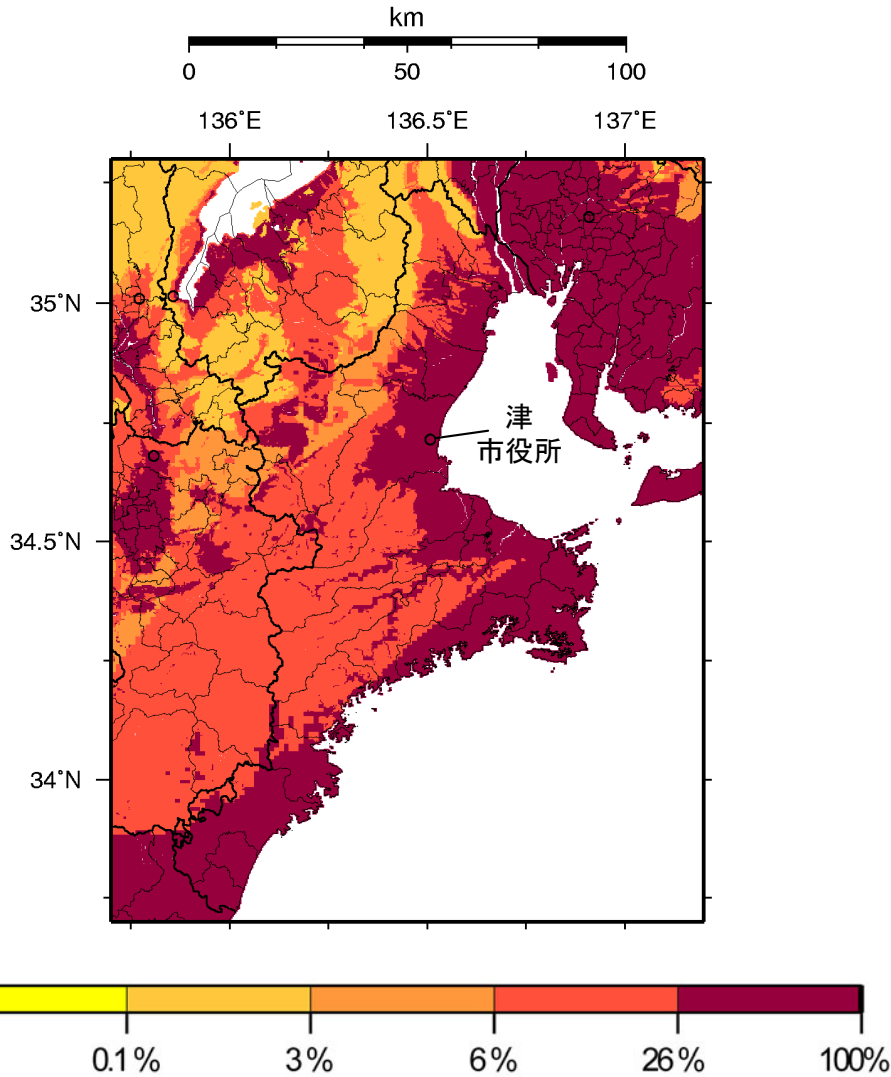


カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

名古屋市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する地震カテゴリー別の影響度



三重県



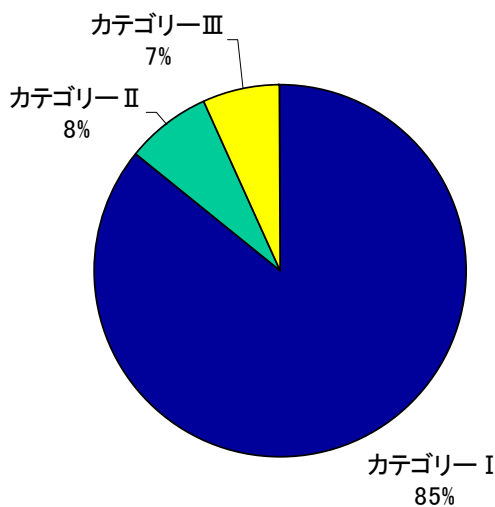
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

伊勢湾岸や太平洋沿岸を中心に、南海トラフの地震(カテゴリーⅠ)の影響が大きくなっています。また、山地(養老山地、鈴鹿山脈、布引山地、紀伊山地など)に比べると、沿岸の平野部(伊勢平野など)や盆地(上野盆地)、河川沿いでは、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

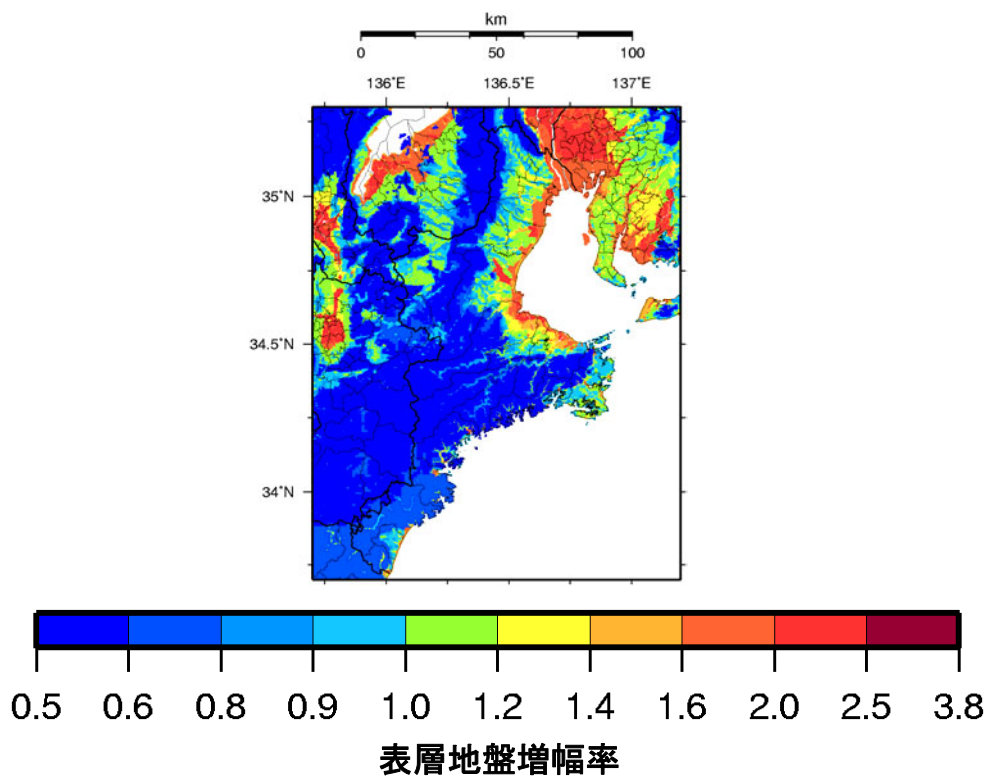
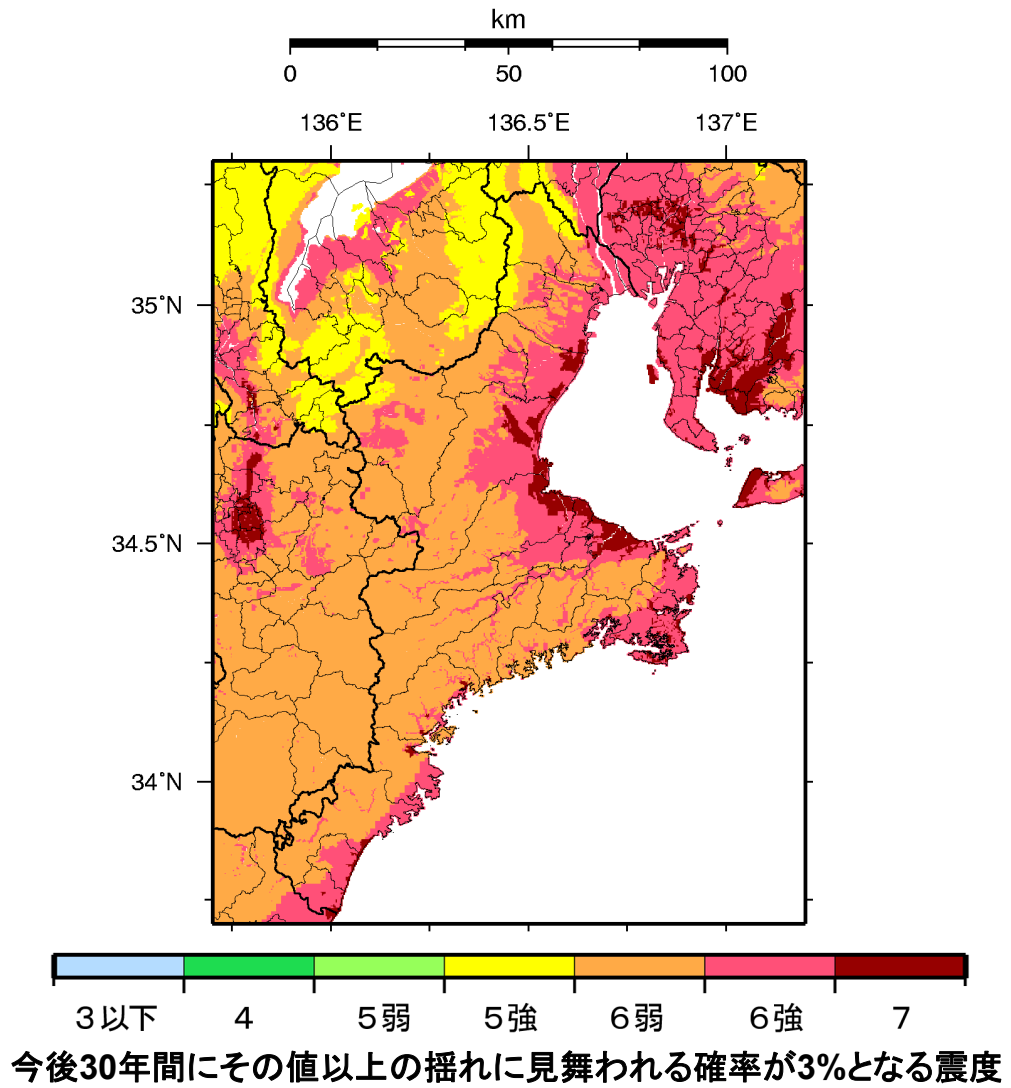
津市役所：高い。

南海トラフの地震(カテゴリーⅠ)の震源域に近いため、その影響度が非常に高く支配的です。

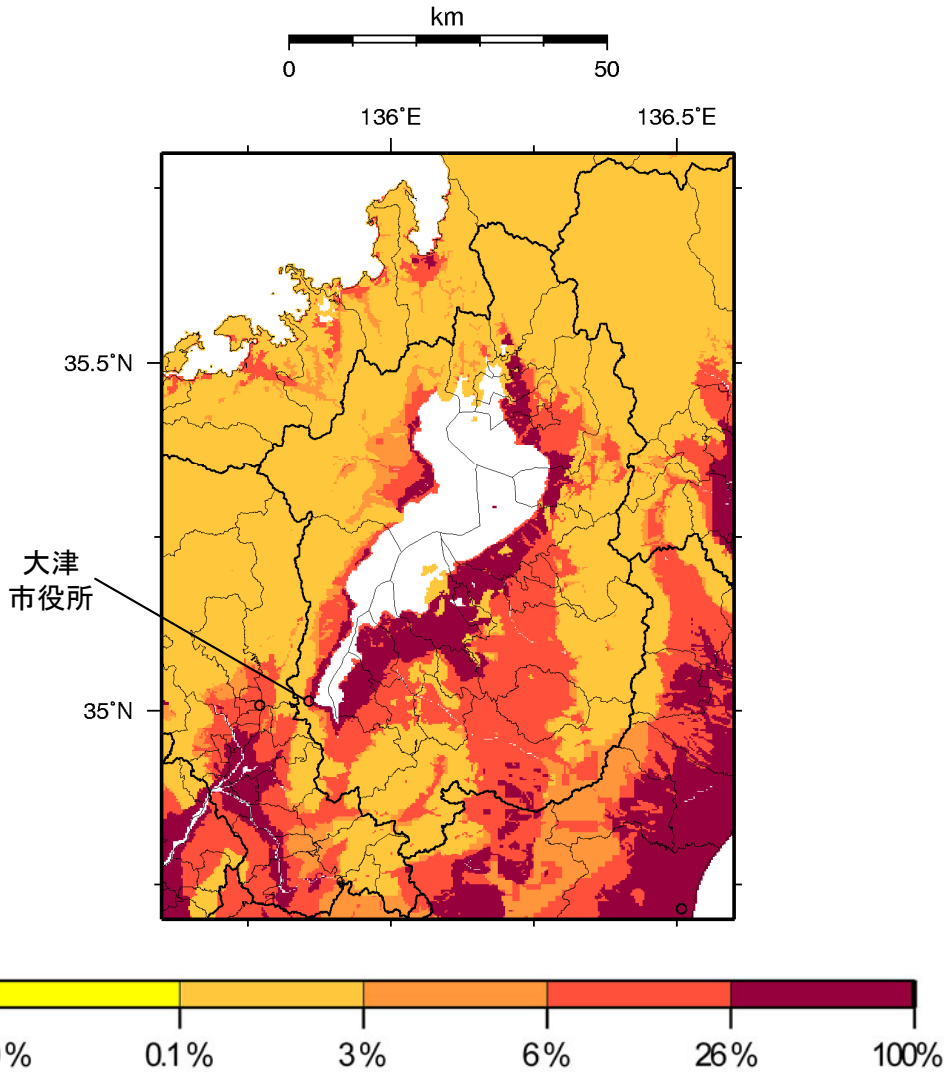


カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

津市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する地震カテゴリー別の影響度



滋賀県



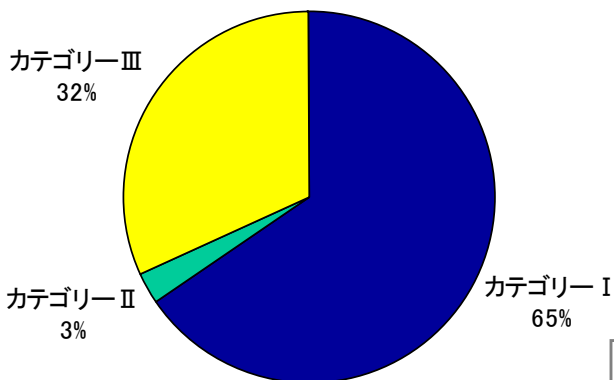
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

琵琶湖沿岸の低地（近江盆地）などでは、周辺部の山地（伊吹山地、鈴鹿山脈、比良山地など）に比べると、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

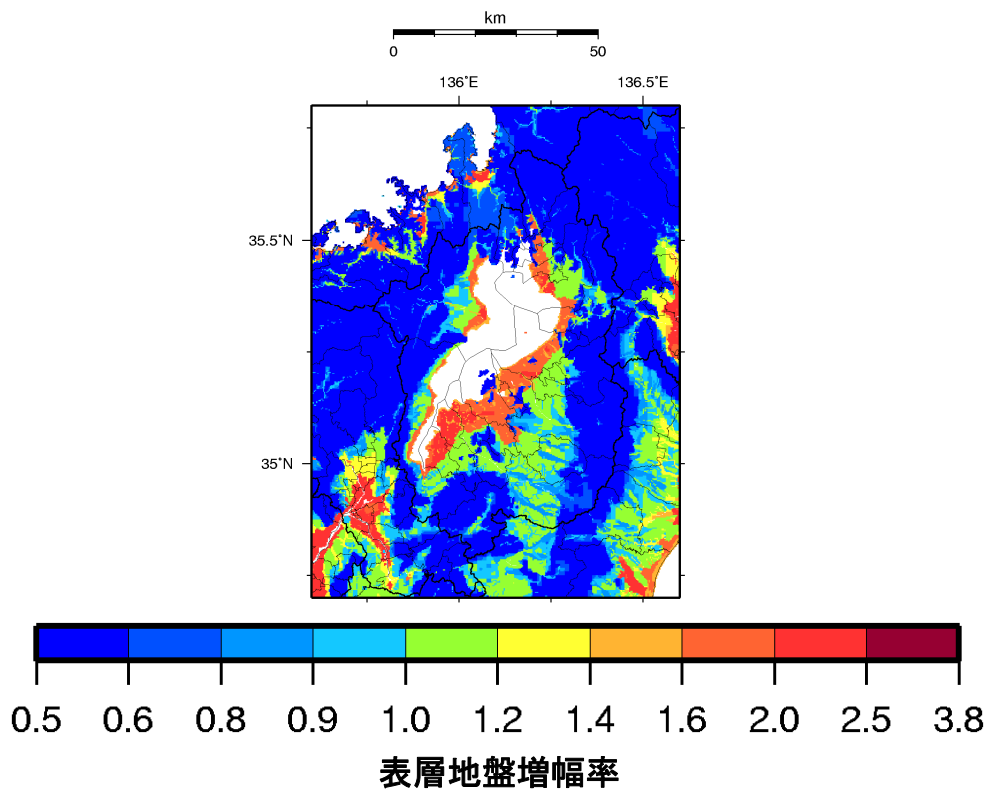
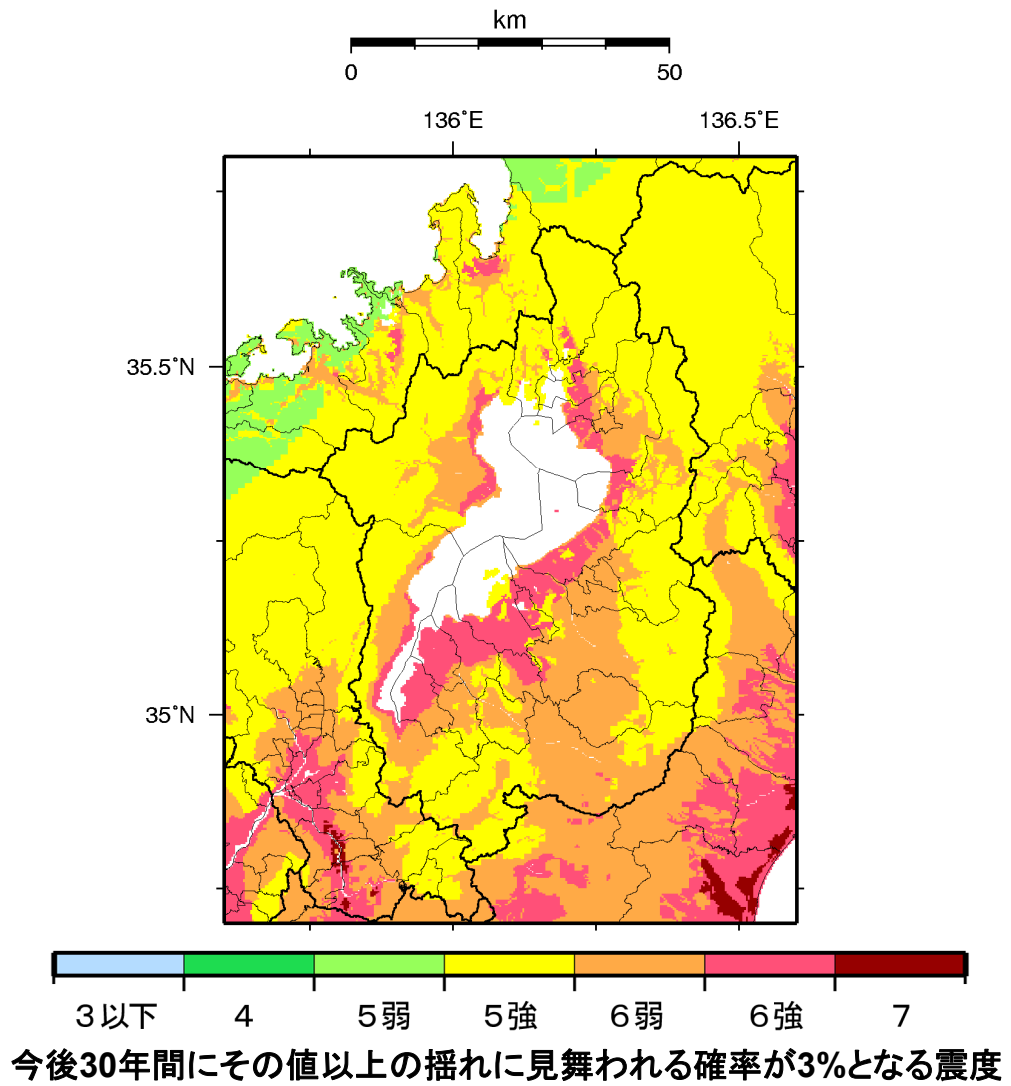
大津市役所：高い。

南海トラフの地震（カテゴリ I）の影響度が最も高くなっていますが、主要活断層帯の地震（カテゴリ III）の影響度も高くなっています。これは主に、近傍にある琵琶湖西岸断層帯の影響と考えられます。

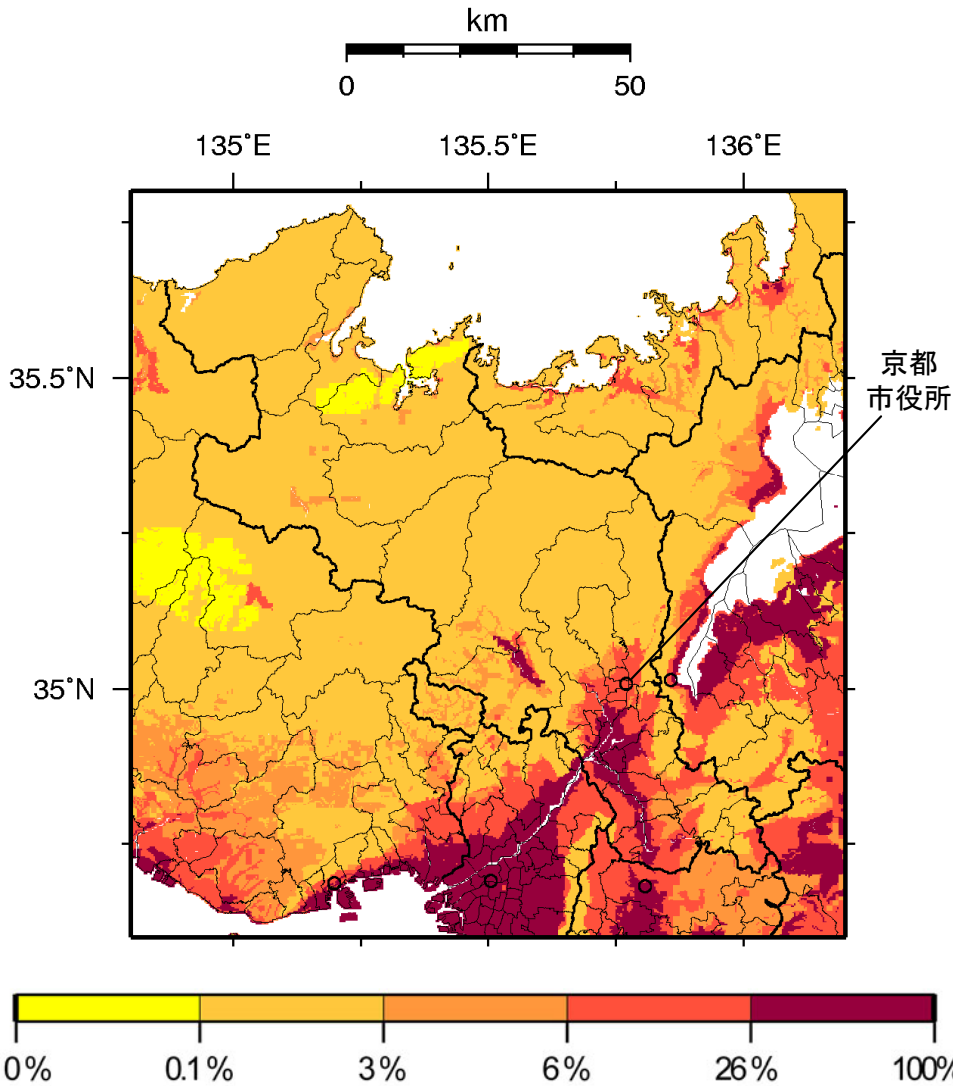


カテゴリ I：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリ II：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリ III：活断層など陸域と海域の浅い地震

大津市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリ別の影響度



京都府



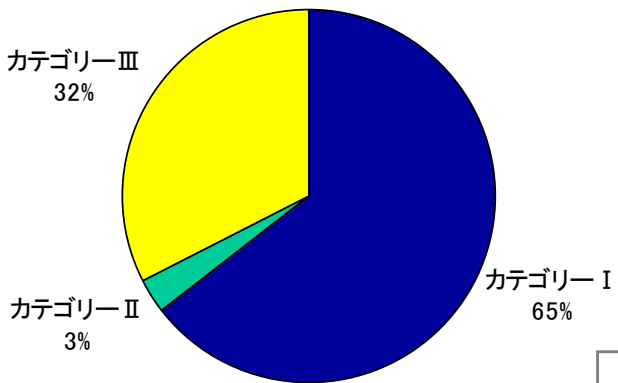
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

県の大部分を占める山地に比べると、盆地（京都盆地、亀岡盆地、福知山盆地）や日本海沿岸の低地、河川沿いでは、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。また、南側ほど、南海トラフの地震（カテゴリーⅠ）の影響が大きくなっています。

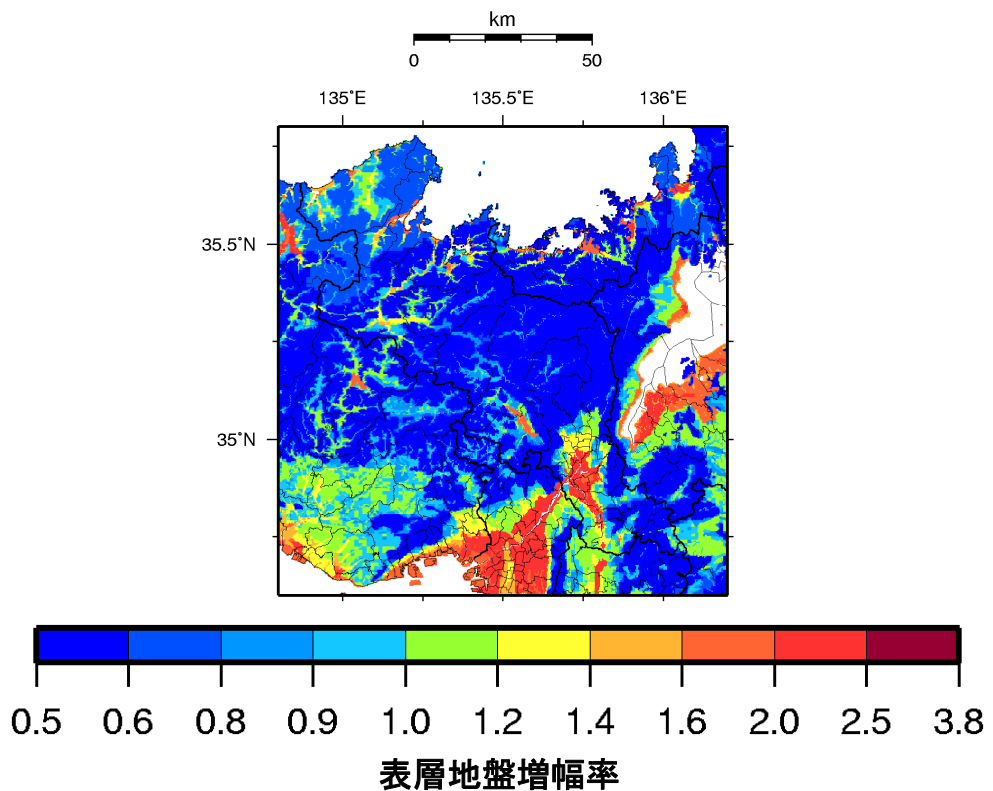
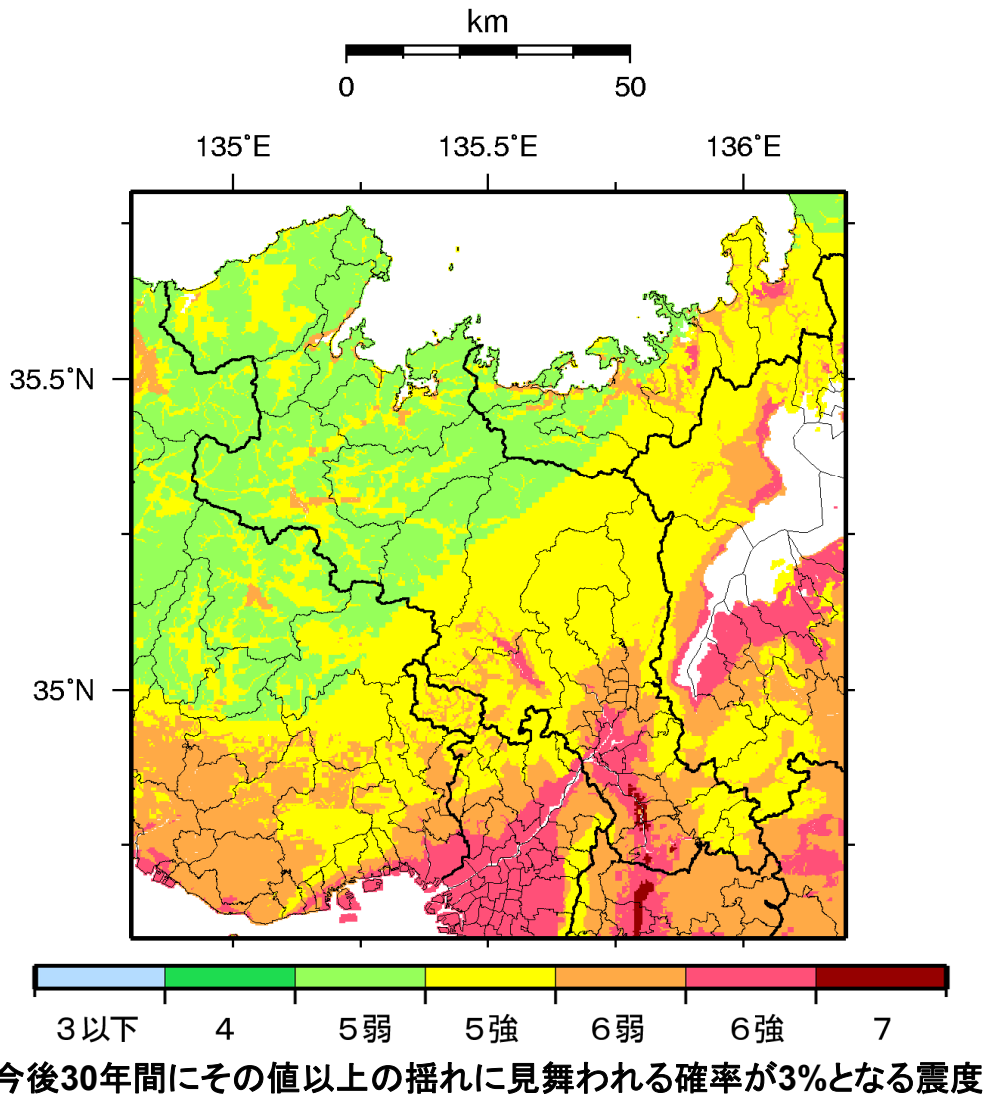
京都市役所：高い。

南海トラフの地震の影響度（カテゴリーⅠ）が最も高くなっていますが、琵琶湖西岸断層帯など、主要活断層帯の地震（カテゴリーⅢ）の影響度も高くなっています。

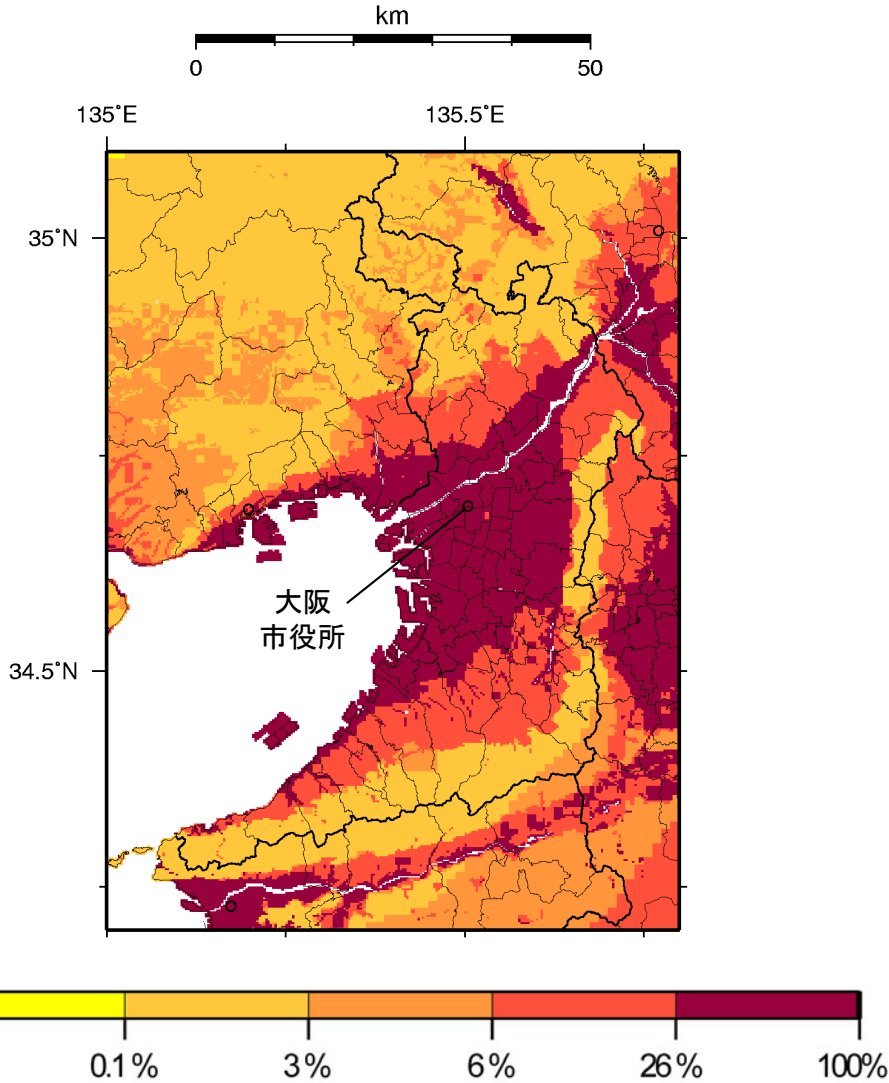


カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

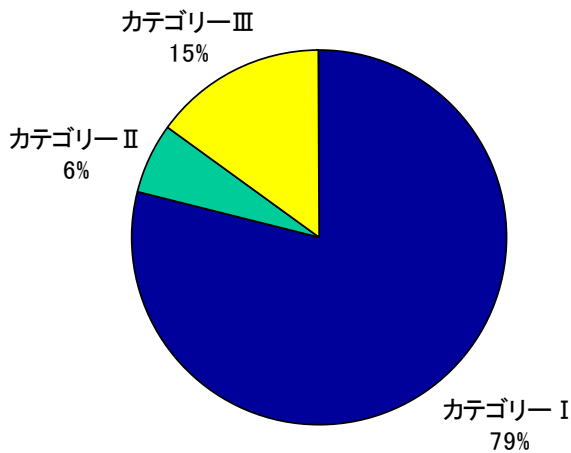
京都市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する地震カテゴリー別の影響度



大阪府



今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）



地図概況

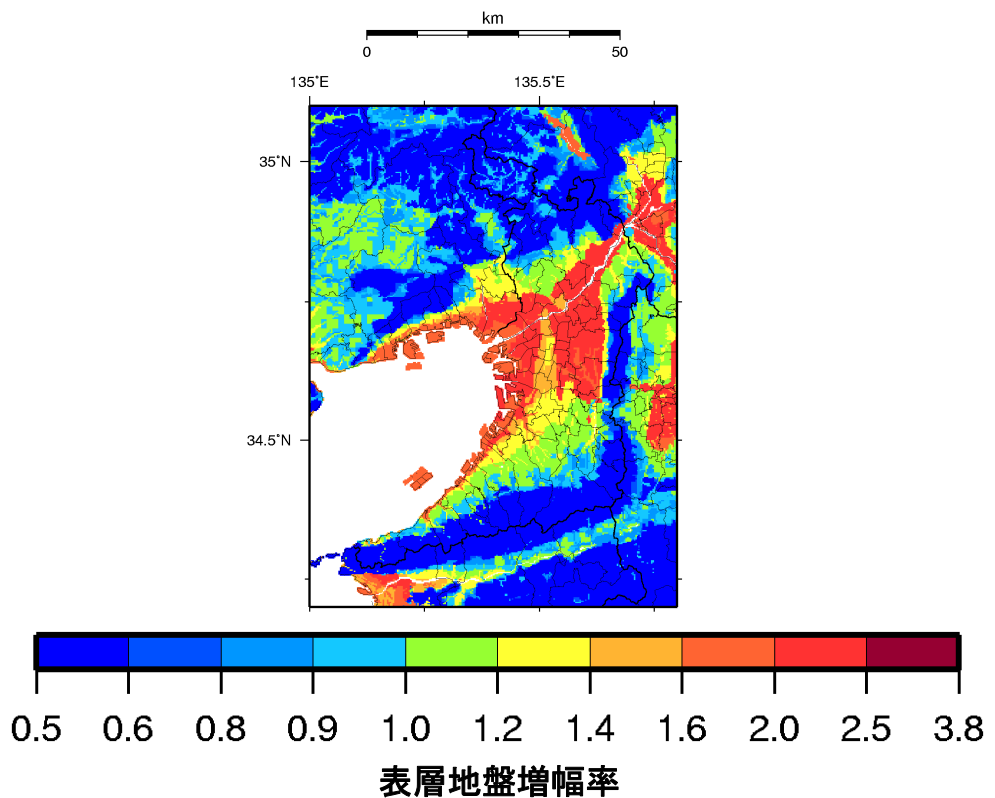
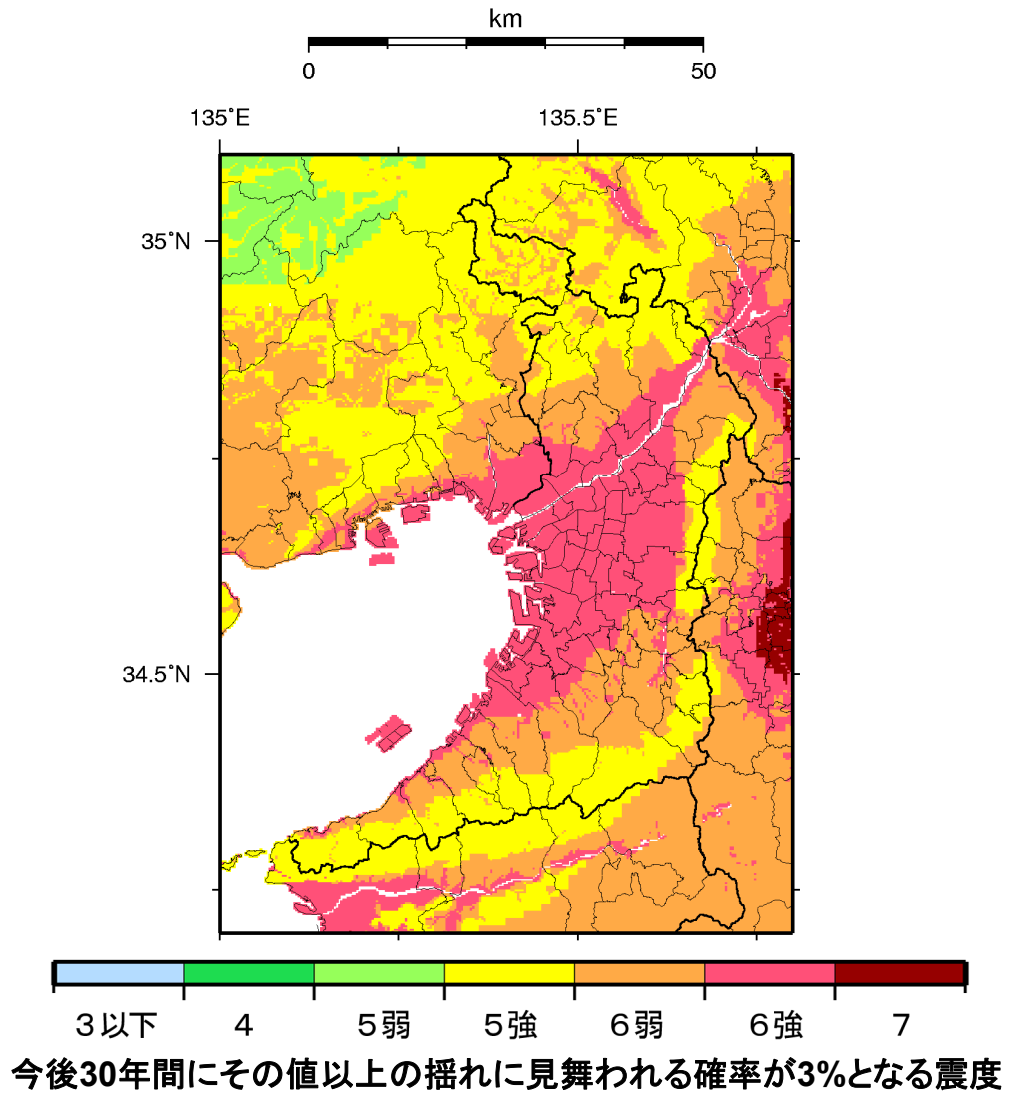
県周辺部の山地（生駒山地、金剛山地、和泉山脈など）に比べると、大阪平野では地盤増幅率が高く、南海トラフの地震（カテゴリー I）の影響が大きいことや、周辺に活断層が多い地域でもあることから、確率・震度ともに大きくなります。

大阪市役所：高い。

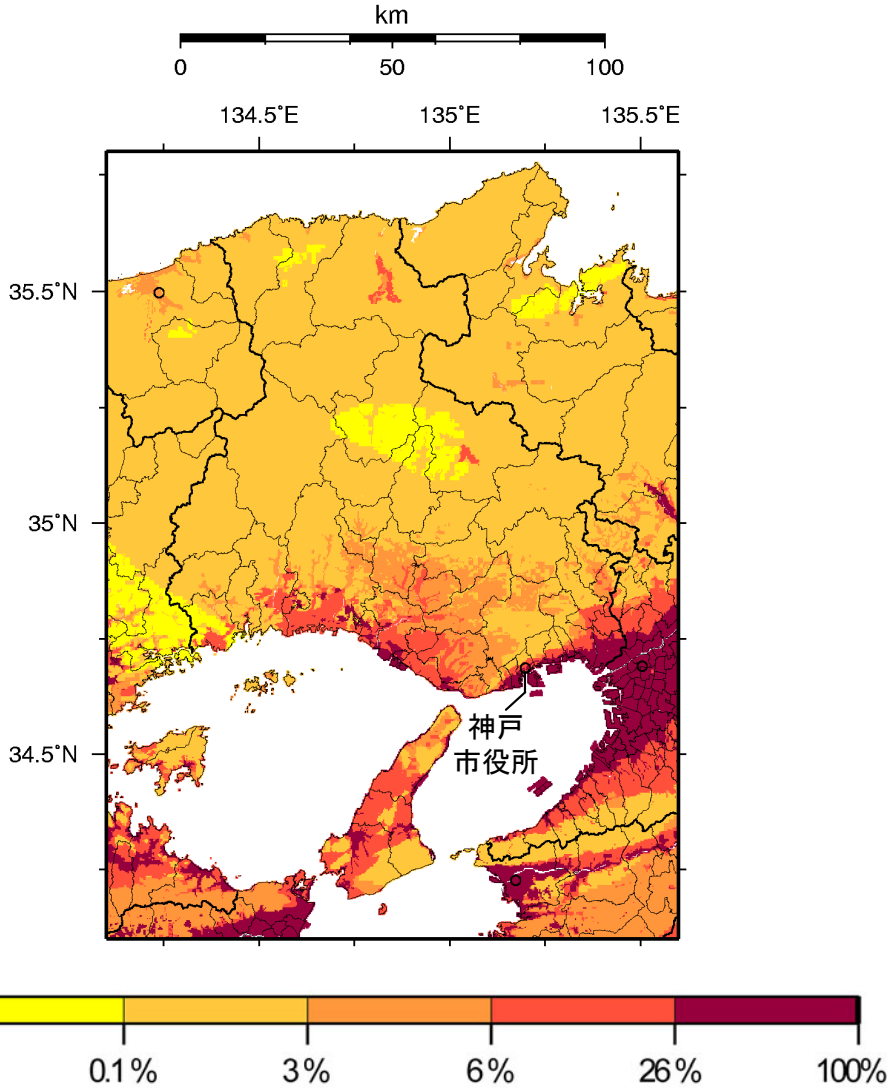
南海トラフの地震（カテゴリー I）の影響度が最も高くなっていますが、上町断層帯など、主要活断層帯の地震（カテゴリー III）の影響も見られます。

カテゴリー I： 海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリー II： 海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリー III： 活断層など陸域と海域の浅い地震

大阪市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



兵庫県



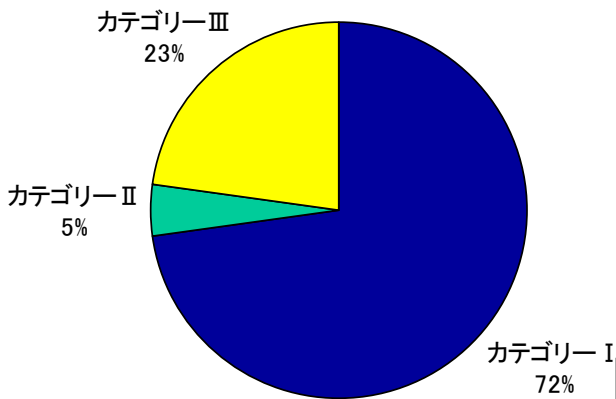
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

山地（六甲山地、中国山地、丹後山地など）に比べると、瀬戸内海沿岸の平野部（大阪平野、播磨平野、洲本平野など）や盆地（豊岡盆地など）、河川沿いでは、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

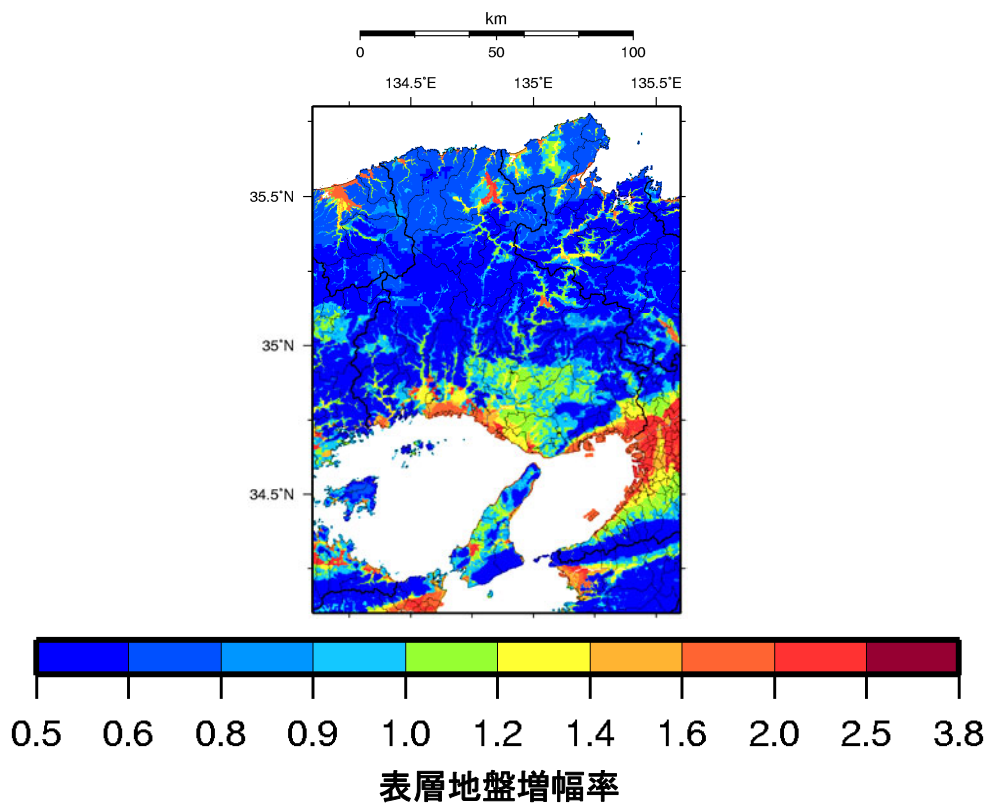
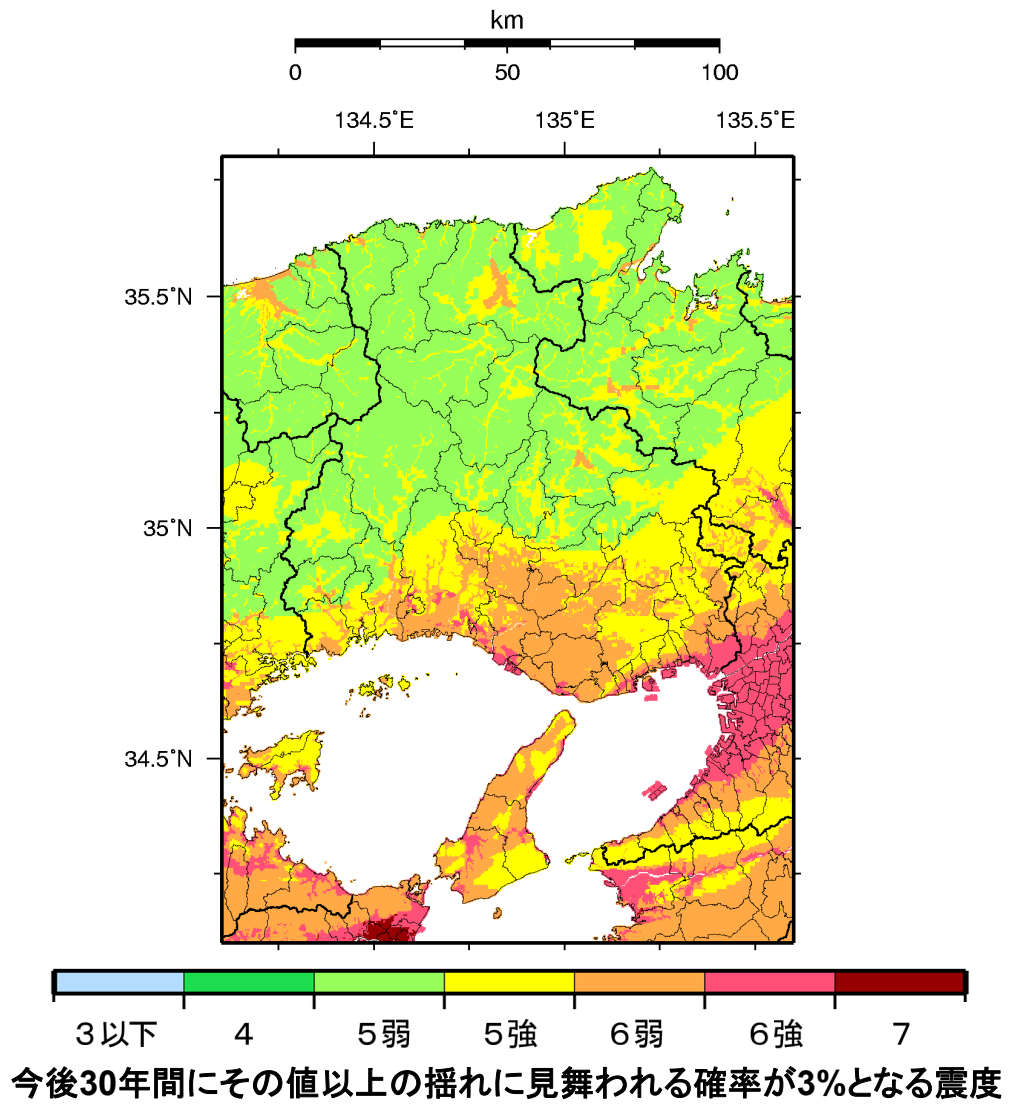
神戸市役所：高い。

南海トラフの地震（カテゴリⅠ）の影響度が最も高くなっていますが、主要活断層帯の地震（カテゴリⅢ）の影響も見られます。上町断層帯や山崎断層帯などの影響と考えられます。

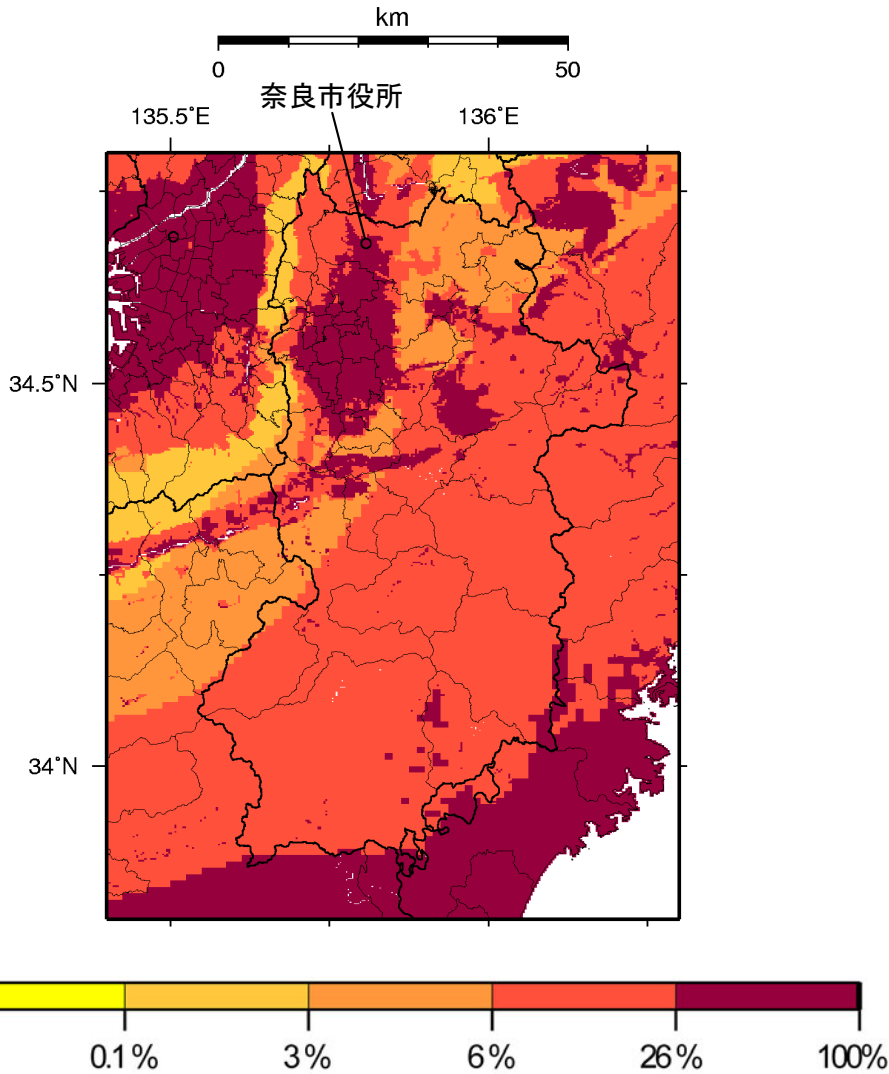


カテゴリⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

神戸市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリ別の影響度



奈良県



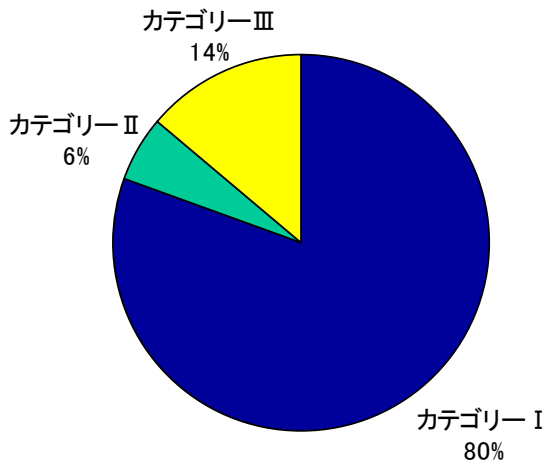
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

県の大部分を占める山地（紀伊山地、笠置山地など）に比べると、河川沿いや盆地（奈良盆地など）では、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。また南側ほど、南海トラフの地震（カテゴリー I）の影響が大きくなっています。

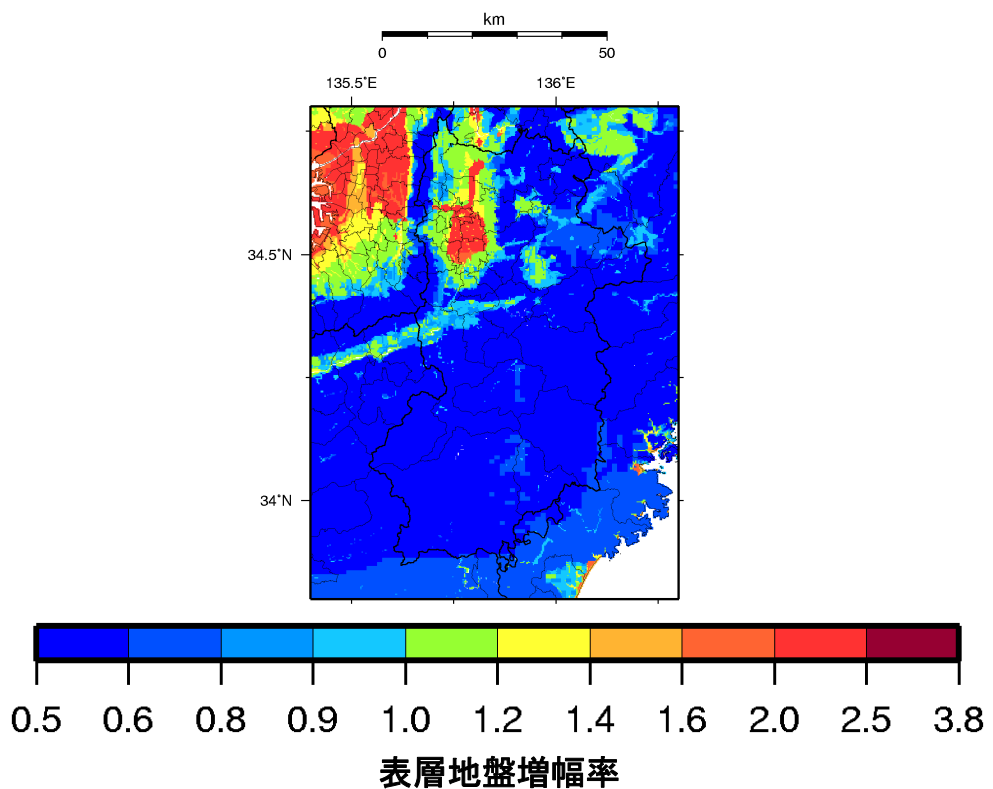
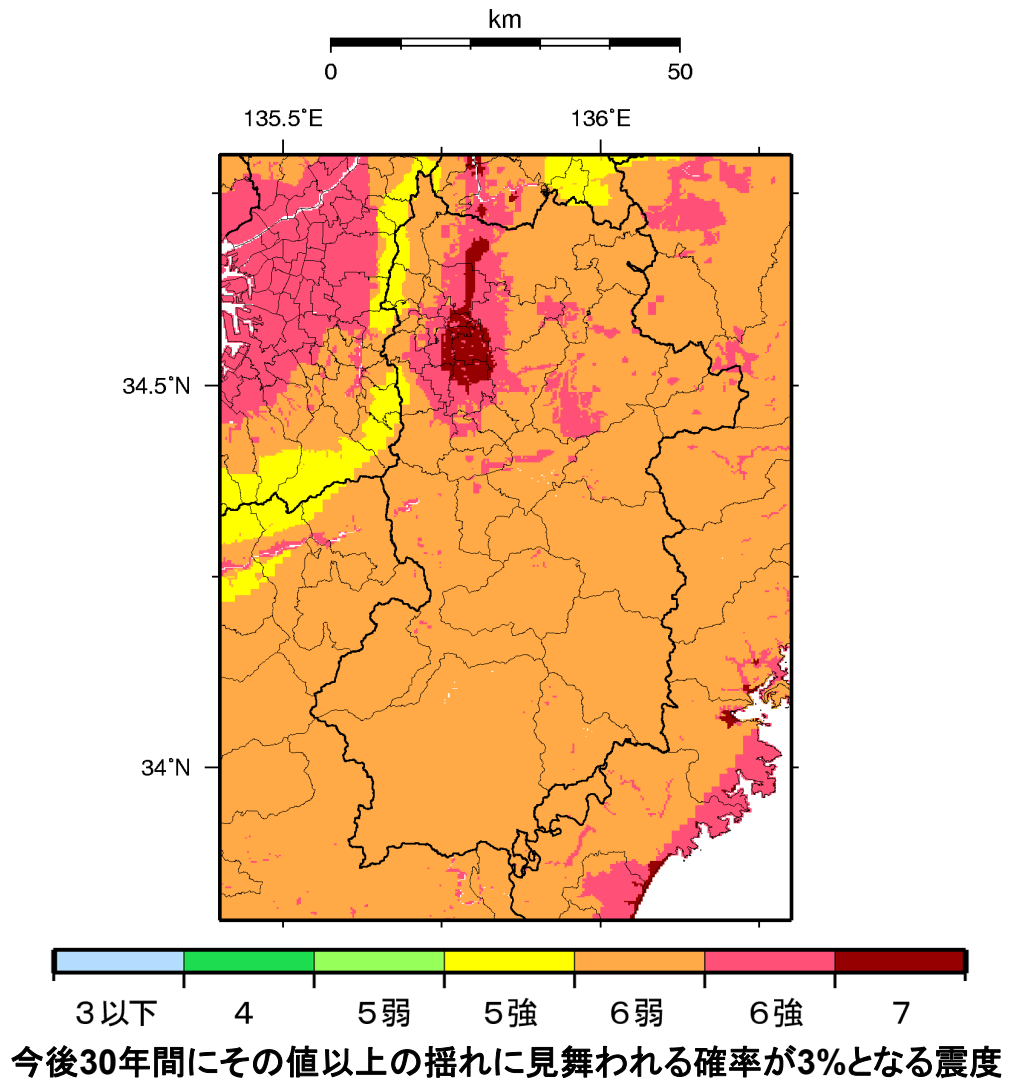
奈良市役所：高い。

南海トラフの地震（カテゴリー I）の影響度が最も高くなっていますが、主要活断層帯の地震（カテゴリー III）の影響も見られます。これは主に、奈良盆地東縁断層帯の影響と考えられます。

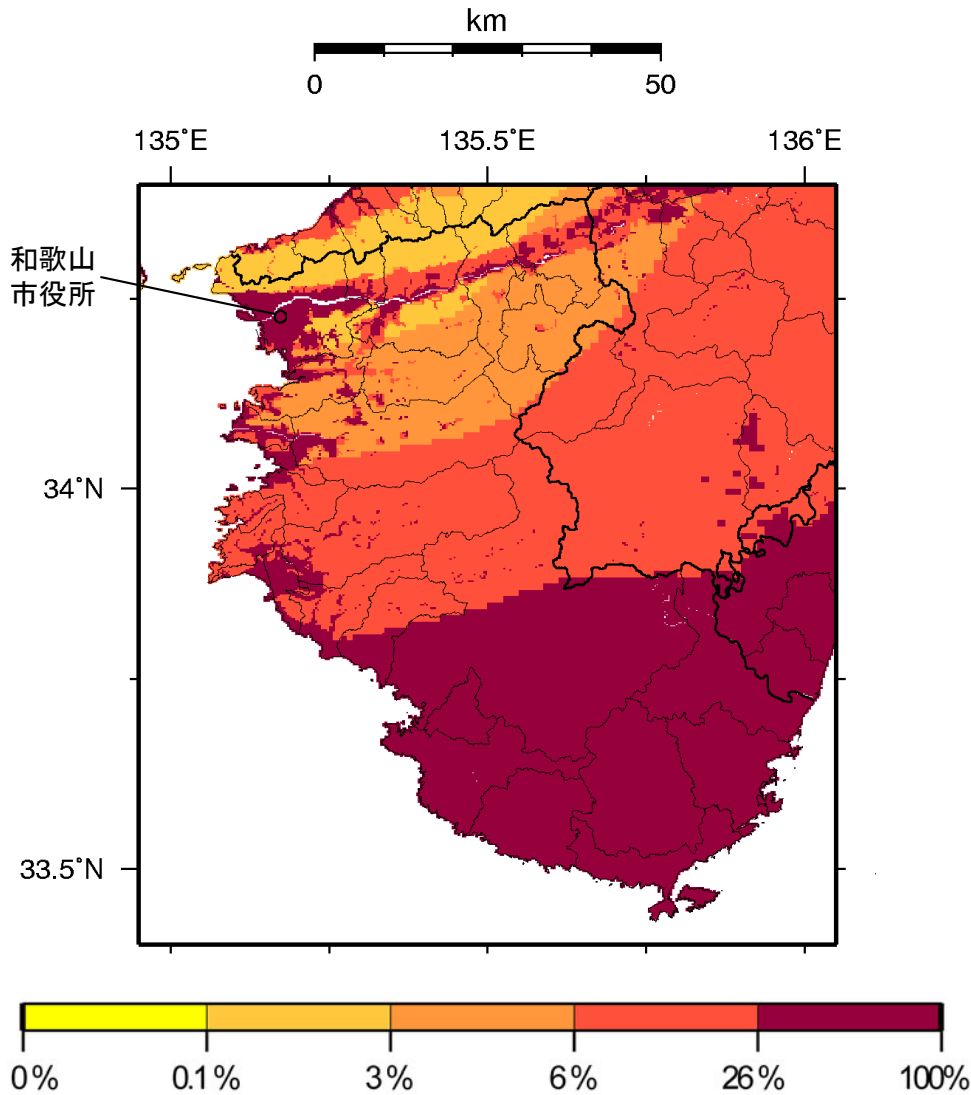


カテゴリー I：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリー II：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリー III：活断層など陸域と海域の浅い地震

奈良市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



和歌山県



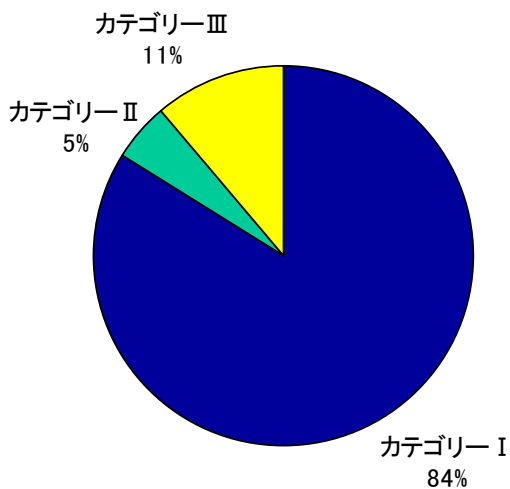
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

南側ほど、南海トラフの地震(カテゴリーⅠ)の影響が大きくなっています。また、県の大部分を占める山地(紀伊山地、和泉山脈)に比べると、河川沿いや沿岸の平野部(和歌山平野など)では、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

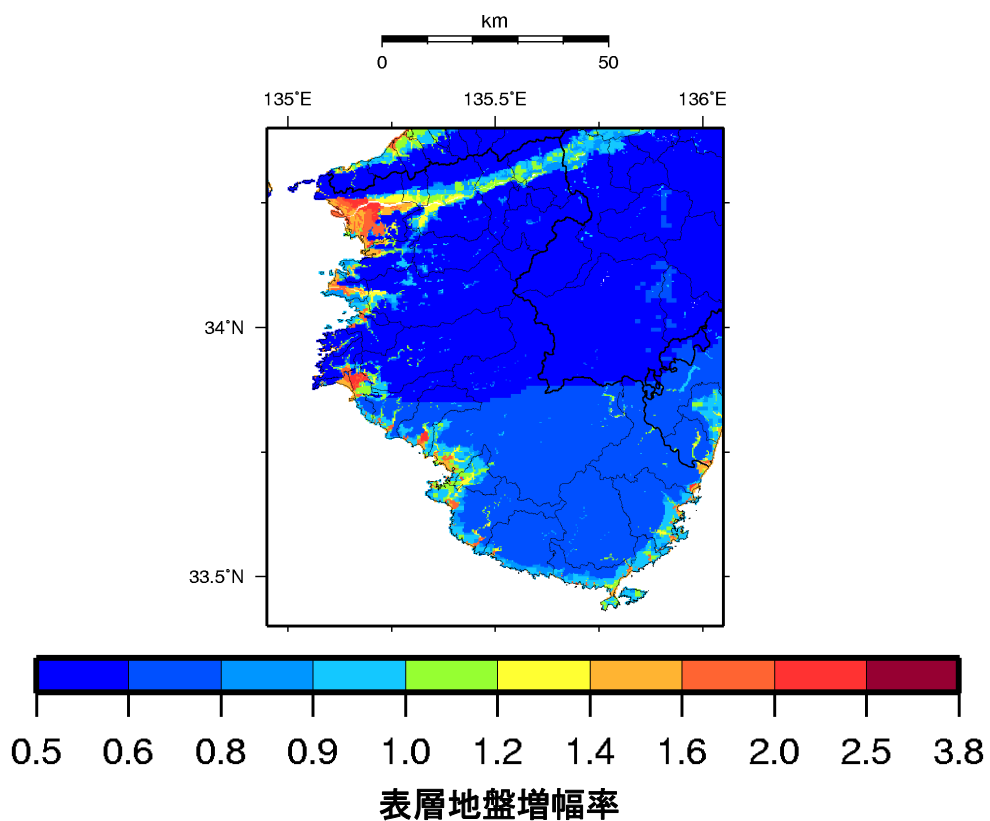
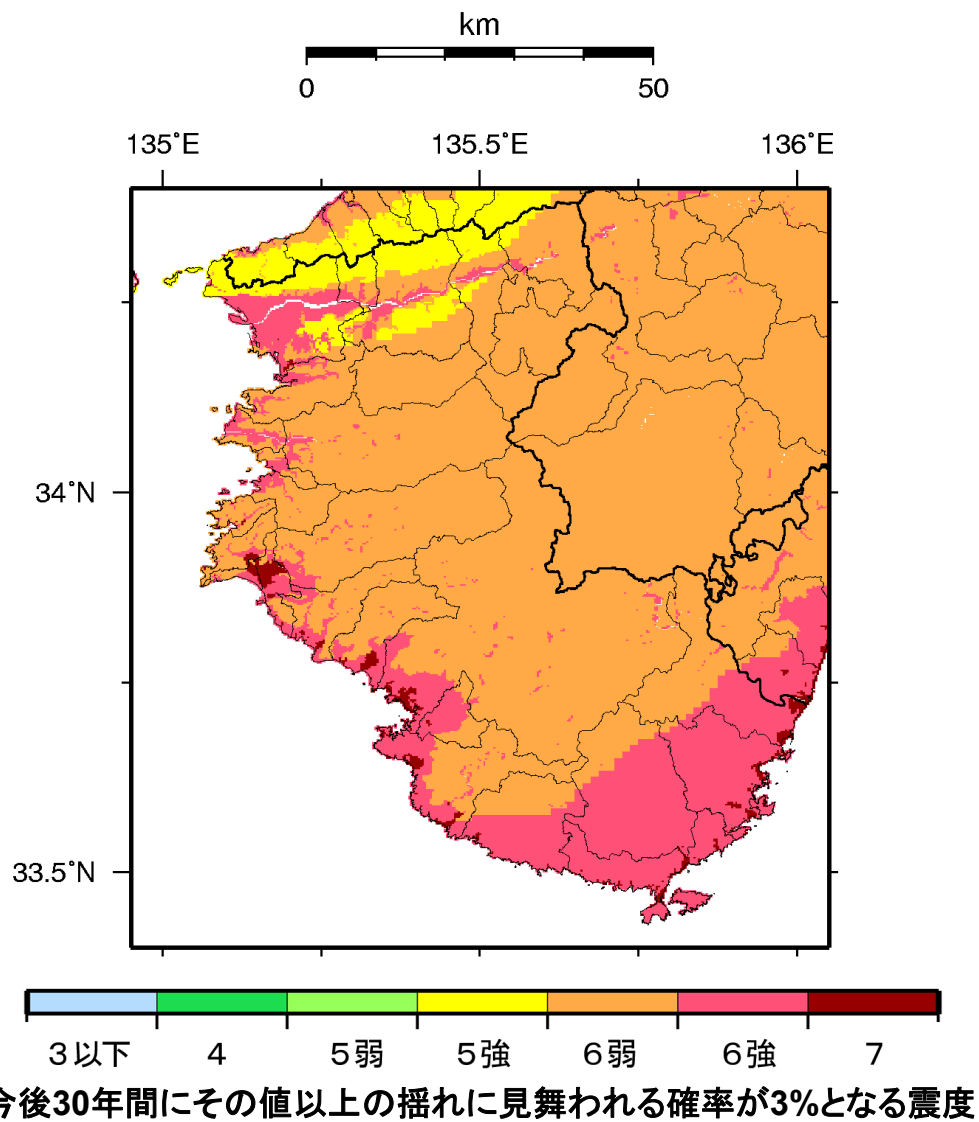
和歌山市役所：高い。

南海トラフの地震(カテゴリーⅠ)の影響度が最も高くなっていますが、活断層が特定されていない場所で発生する地震(カテゴリーⅢ)の影響も見られます。



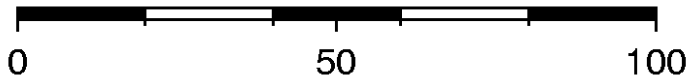
カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

和歌山市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度

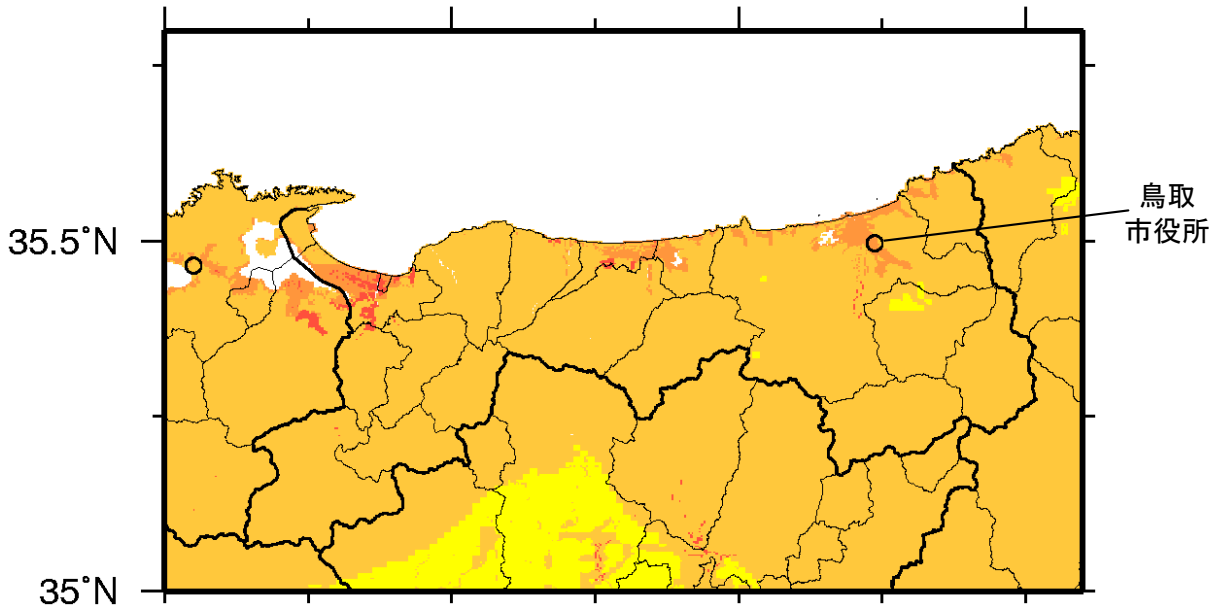


鳥取県

km



133°E 133.5°E 134°E 134.5°E



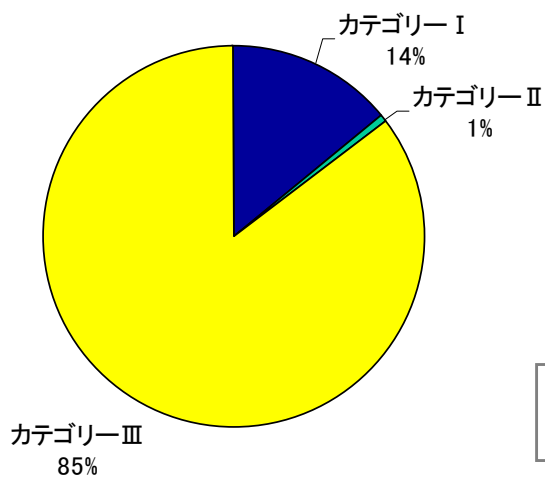
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

南部の山地に比べると、北部の日本海沿岸の平野部（鳥取平野、倉吉平野、米子平野など）や河川沿いでは、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

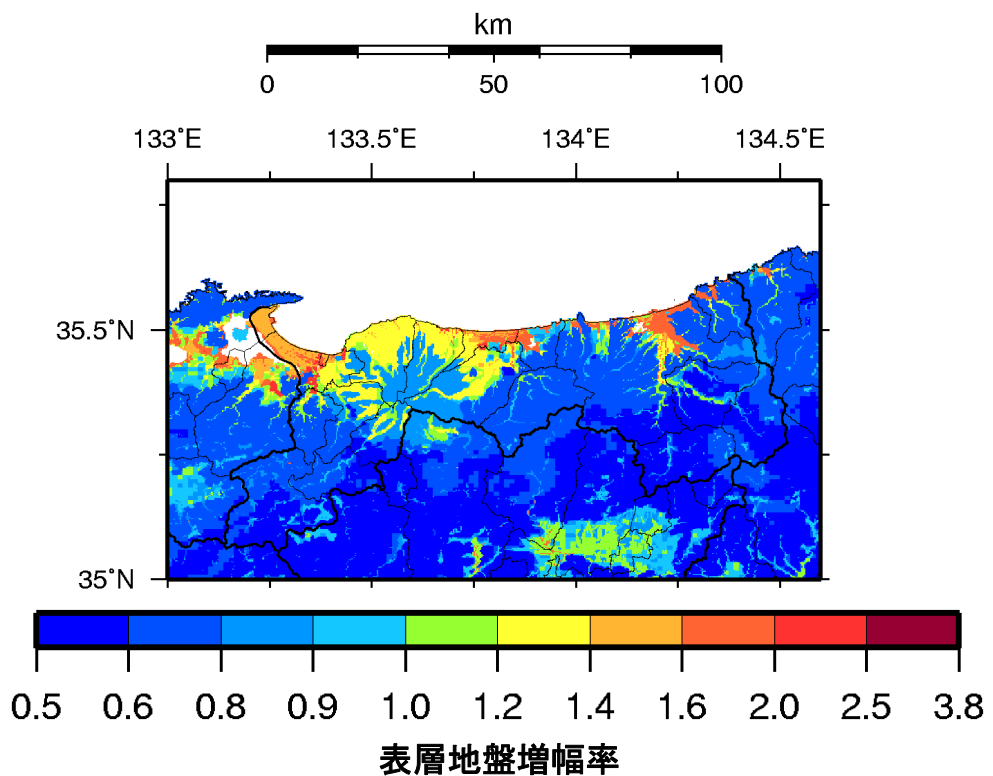
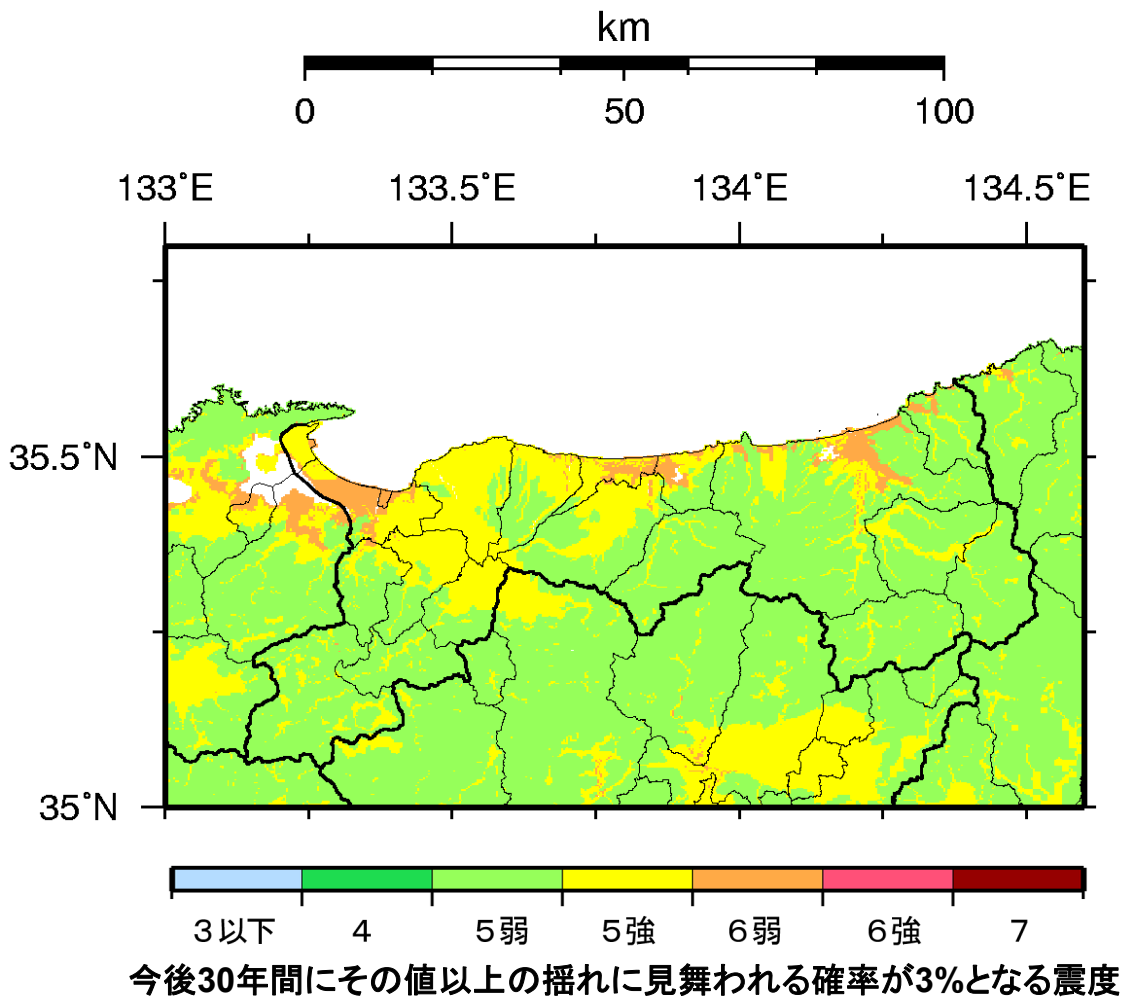
鳥取市役所：高い。

最も影響度が高いのは、活断層が特定されていない場所で発生する地震（カテゴリーⅢ）です。また、南海トラフの地震（カテゴリーⅠ）の影響も見られます。

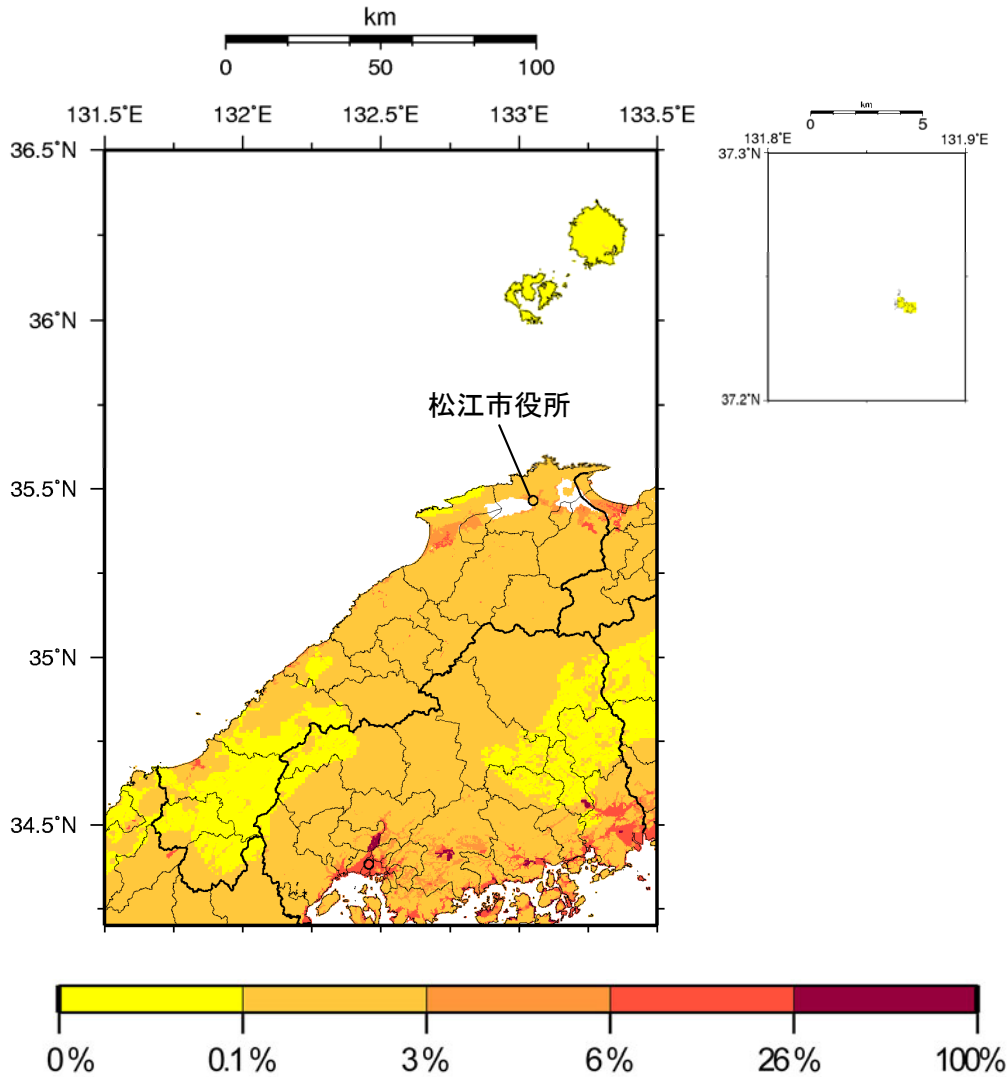


カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

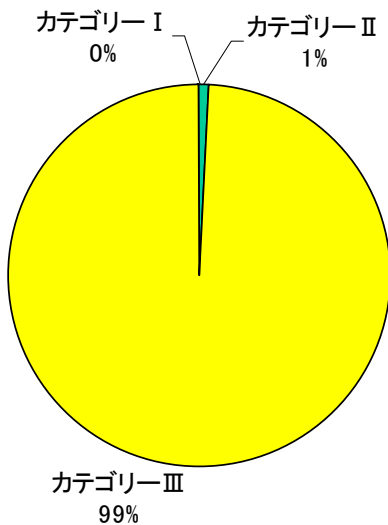
鳥取市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



島根県



今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）



地図概況

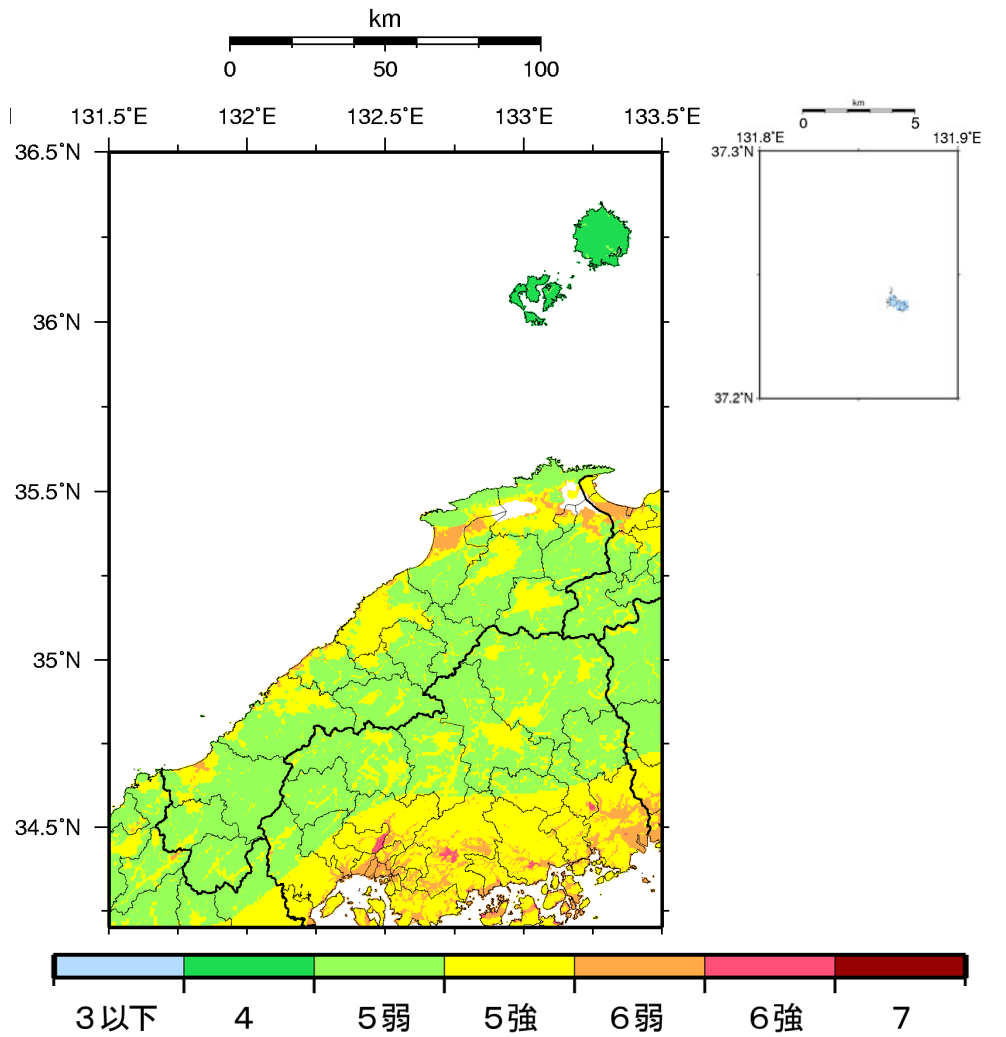
日本海沿岸の平野部（松江平野、出雲平野など）や山間の河川沿いでは、周辺の山地に比べると地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

松江市役所：やや高い。

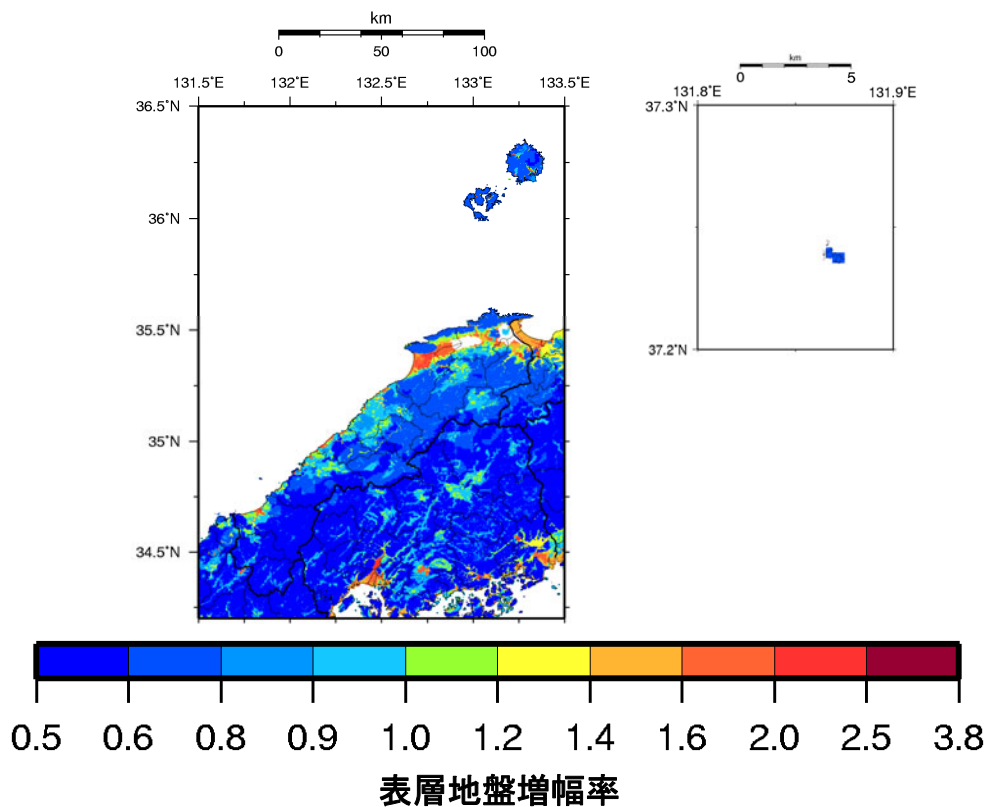
活断層が特定されていない場所で発生する地震（カテゴリーⅢ）の影響度が最も高く支配的です。また、主要活断層帯以外の活断層の地震（カテゴリーⅢ）の影響も見られます。

カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

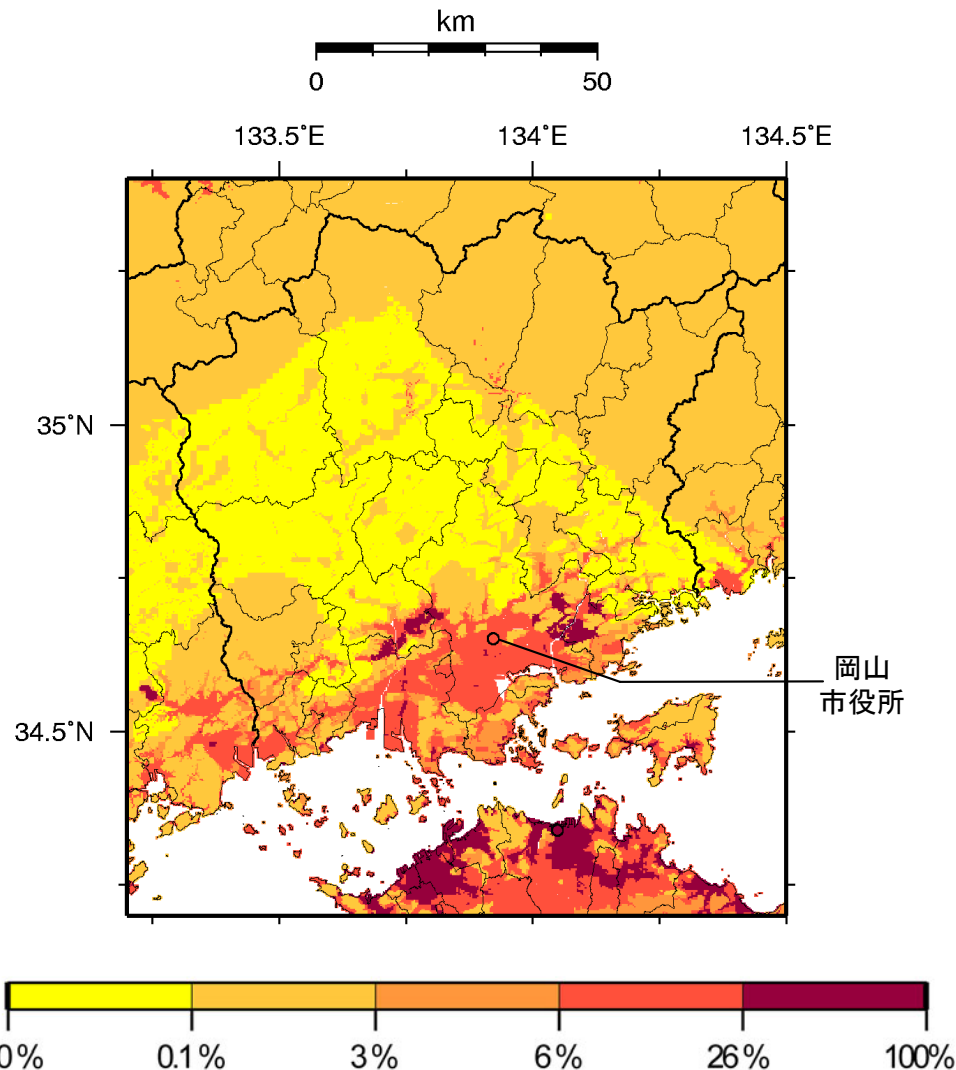
松江市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



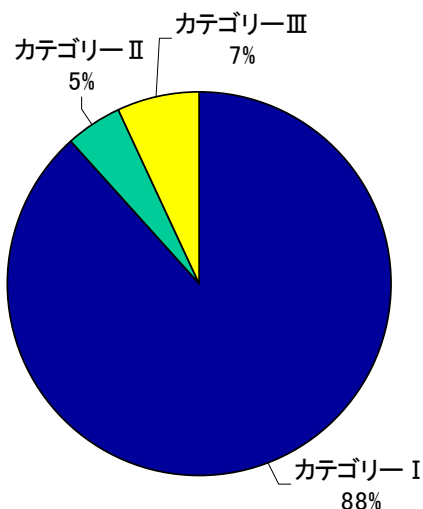
今後30年間にその値以上の揺れに見舞われる確率が3%となる震度



岡山県



今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）



地図概況

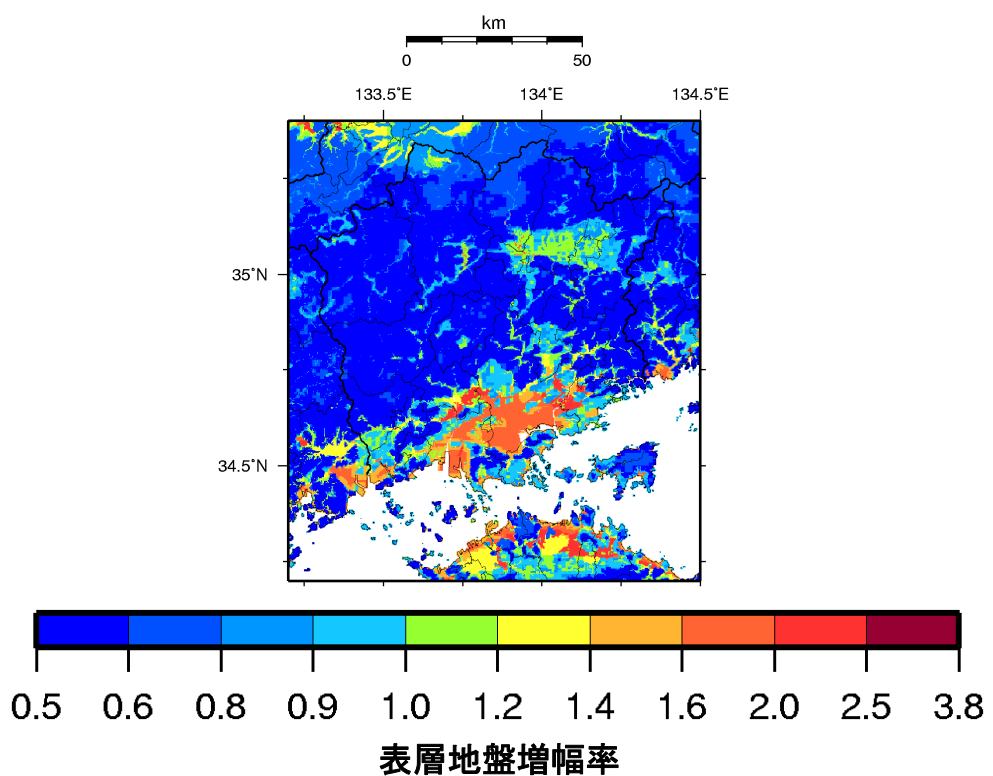
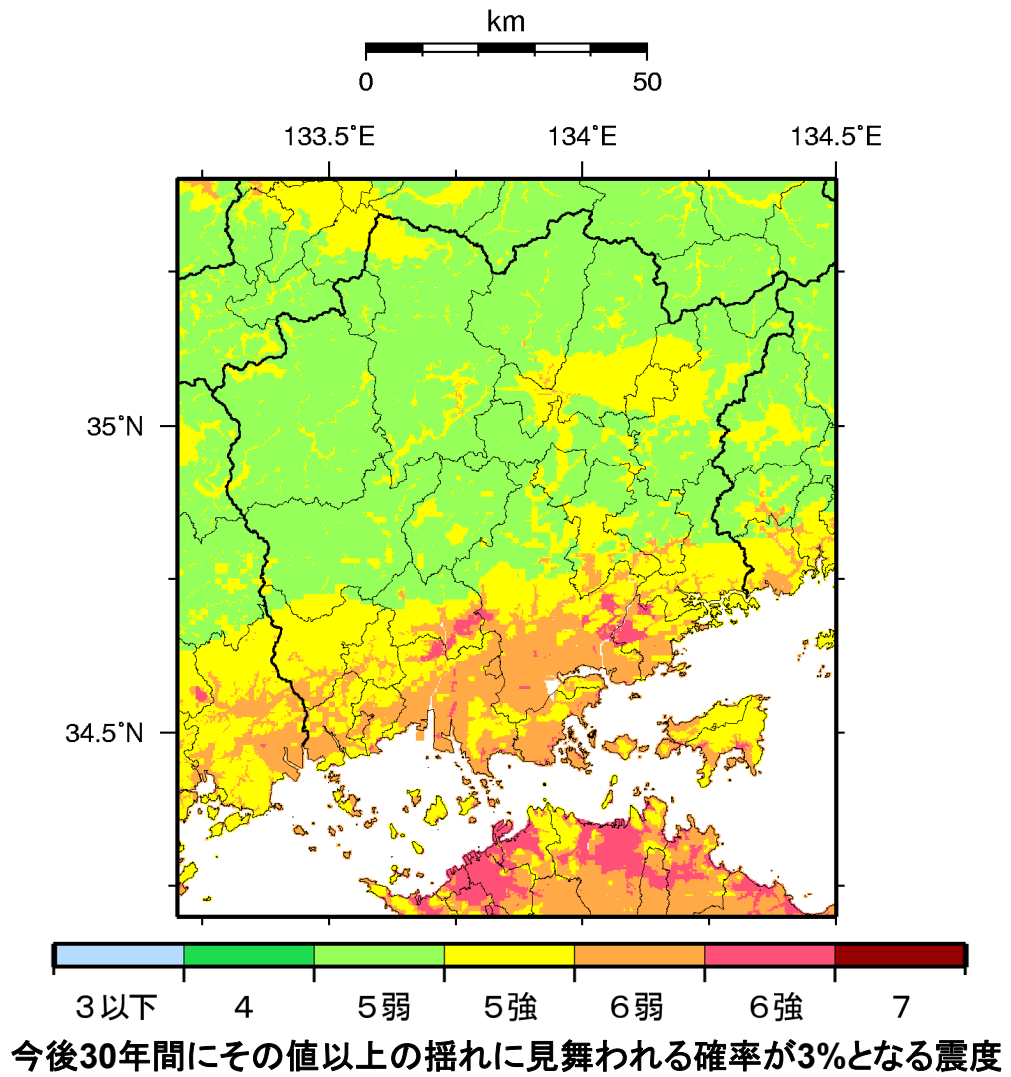
瀬戸内海沿岸の平野部(岡山平野など)や盆地(津山盆地)、河川沿いでは、周囲の山地に比べると地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。また南部は、南海トラフの地震(カテゴリー I)の影響で、確率・震度ともに大きくなっています。

岡山市役所：高い。

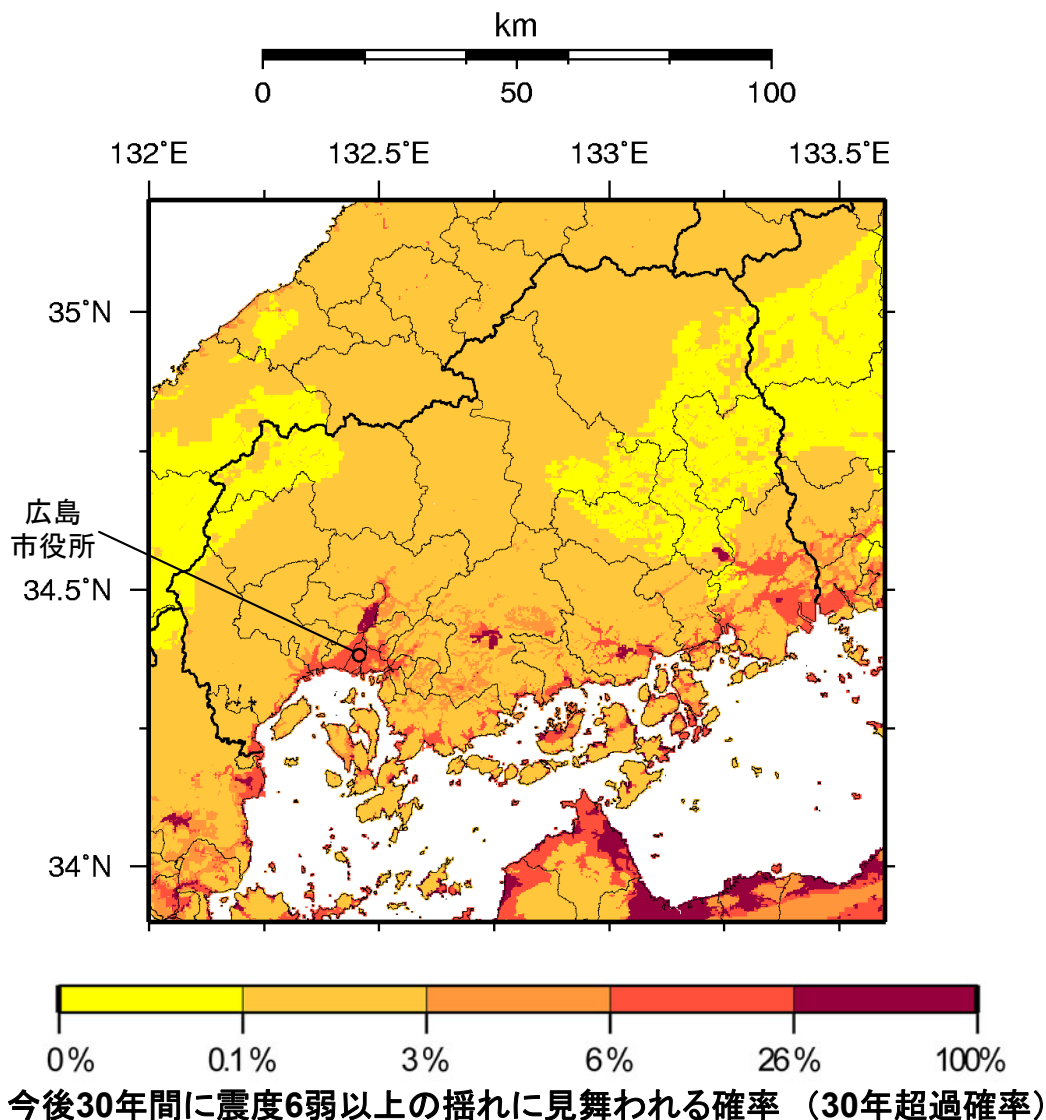
南海トラフの地震(カテゴリー I)の影響度が最も高く支配的です。

カテゴリー I：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリー II：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリー III：活断層など陸域と海域の浅い地震

岡山市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



広島県



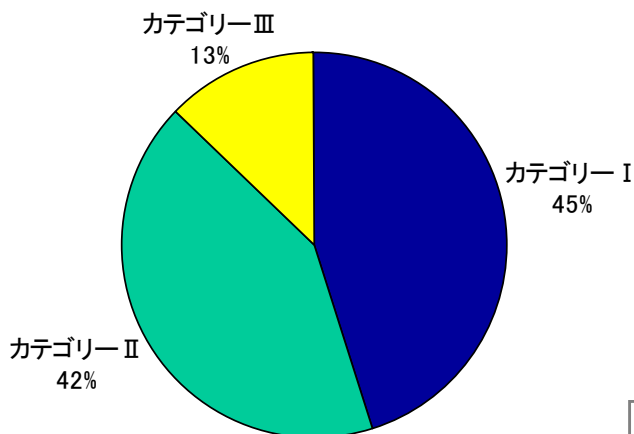
地図概況

瀬戸内海沿岸の平野部（広島平野、福山平野など）や盆地（西条盆地など）、河川沿いでは、周囲の山地に比べると地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。南部では南海トラフの地震（カテゴリーⅠ）や、安芸灘～伊予灘～豊後水道の沈み込むフィリピン海プレート内地震（カテゴリーⅡ）の影響で、確率・震度ともに大きくなっています。

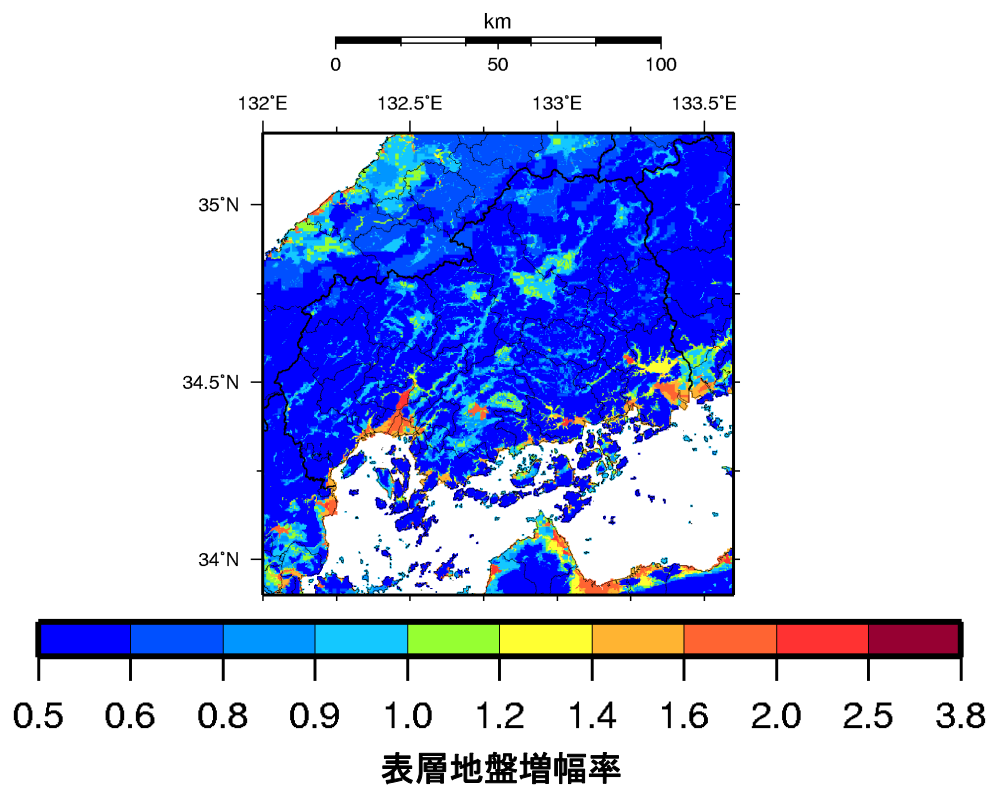
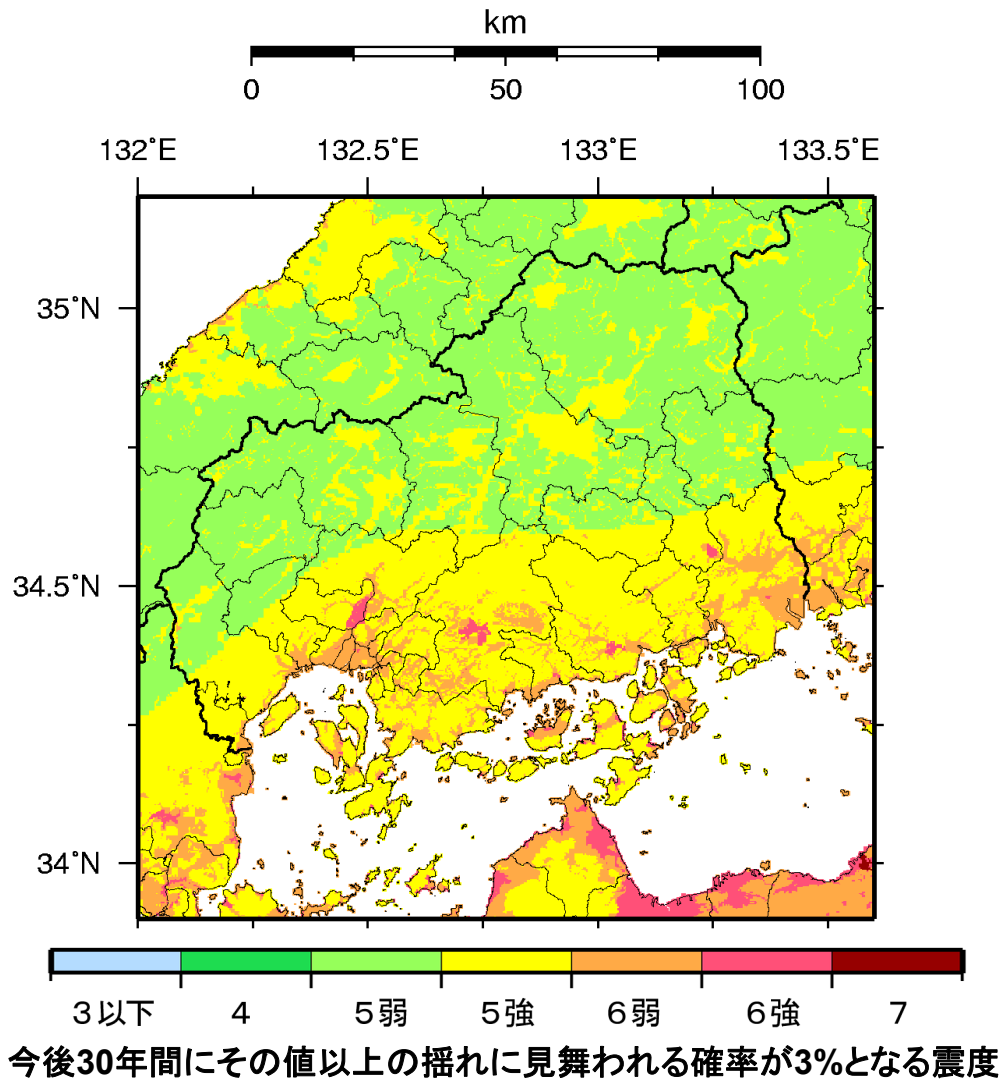
広島市役所：高い。

南海トラフの地震（カテゴリーⅠ）の影響度が高くなっていますが、安芸灘～伊予灘～豊後水道のプレート内地震（カテゴリーⅡ）の発生領域に近いいため、その影響度も高くなっています。

カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

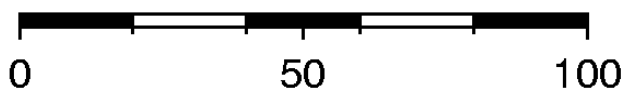


広島市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度

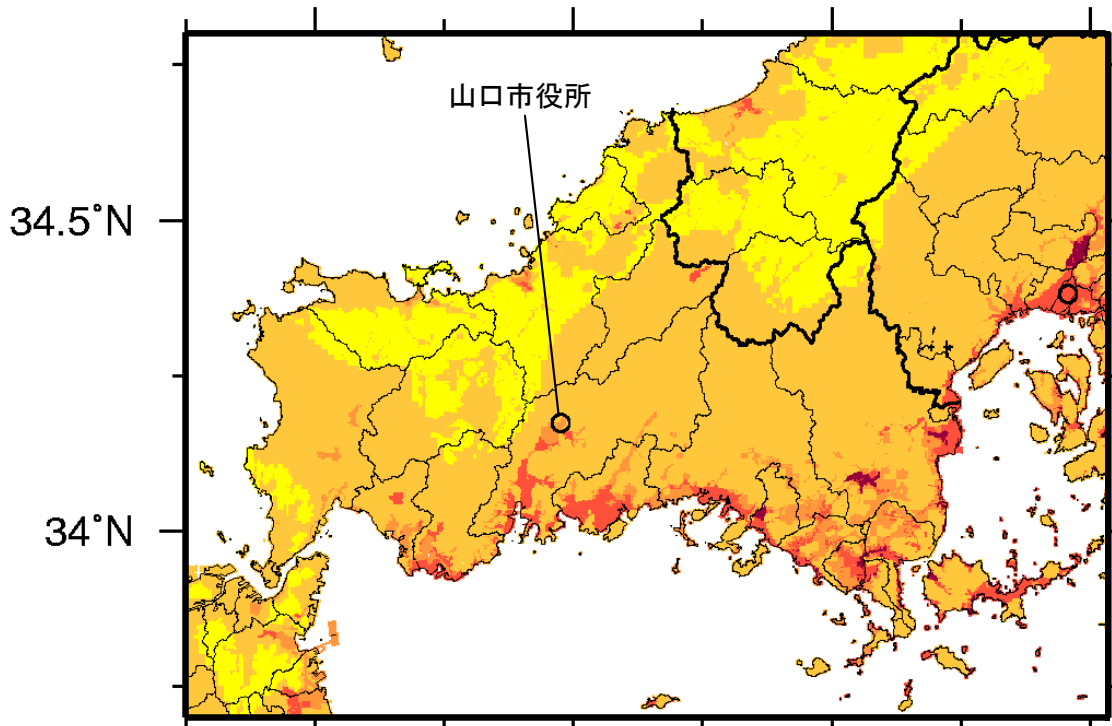


山口県

km



131°E 131.5°E 132°E 132.5°E



今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

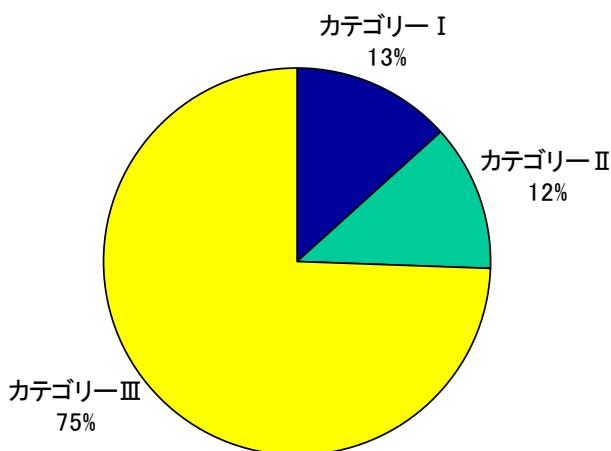
地図概況

沿岸の平野部や盆地（山口盆地など）、河川沿いでは、周囲の山地に比べると地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。南東部は、安芸灘～伊予灘～豊後水道の沈み込むフィリピン海プレート内地震（カテゴリーⅡ）の影響で、確率・震度ともに大きくなっています。

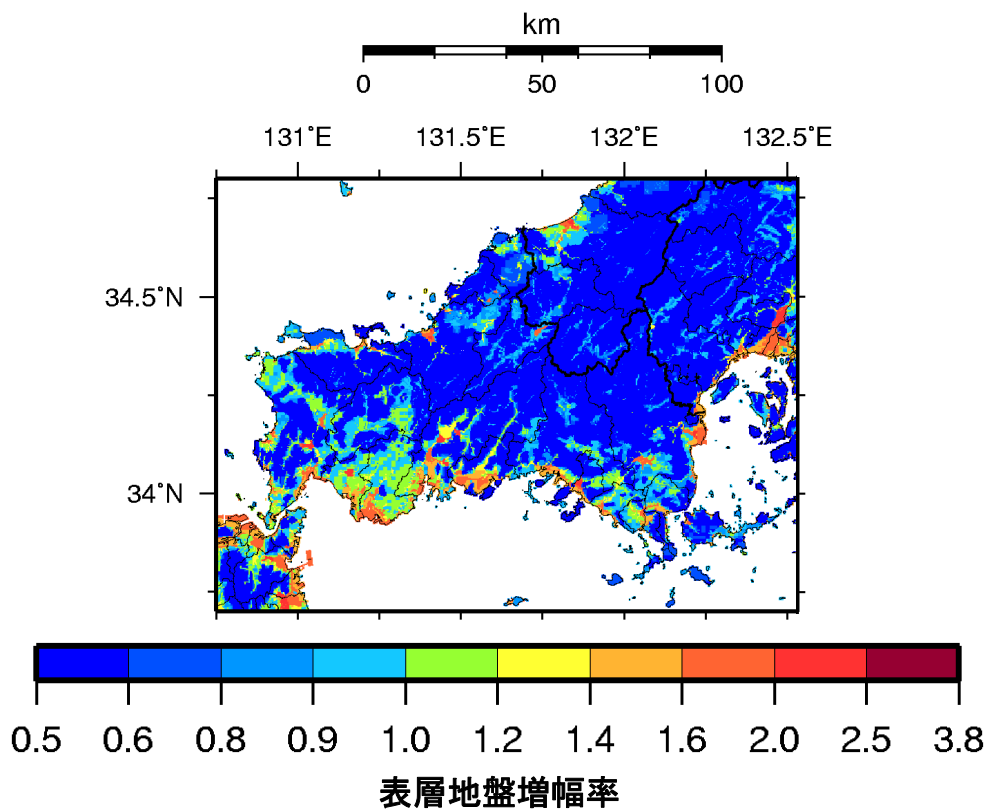
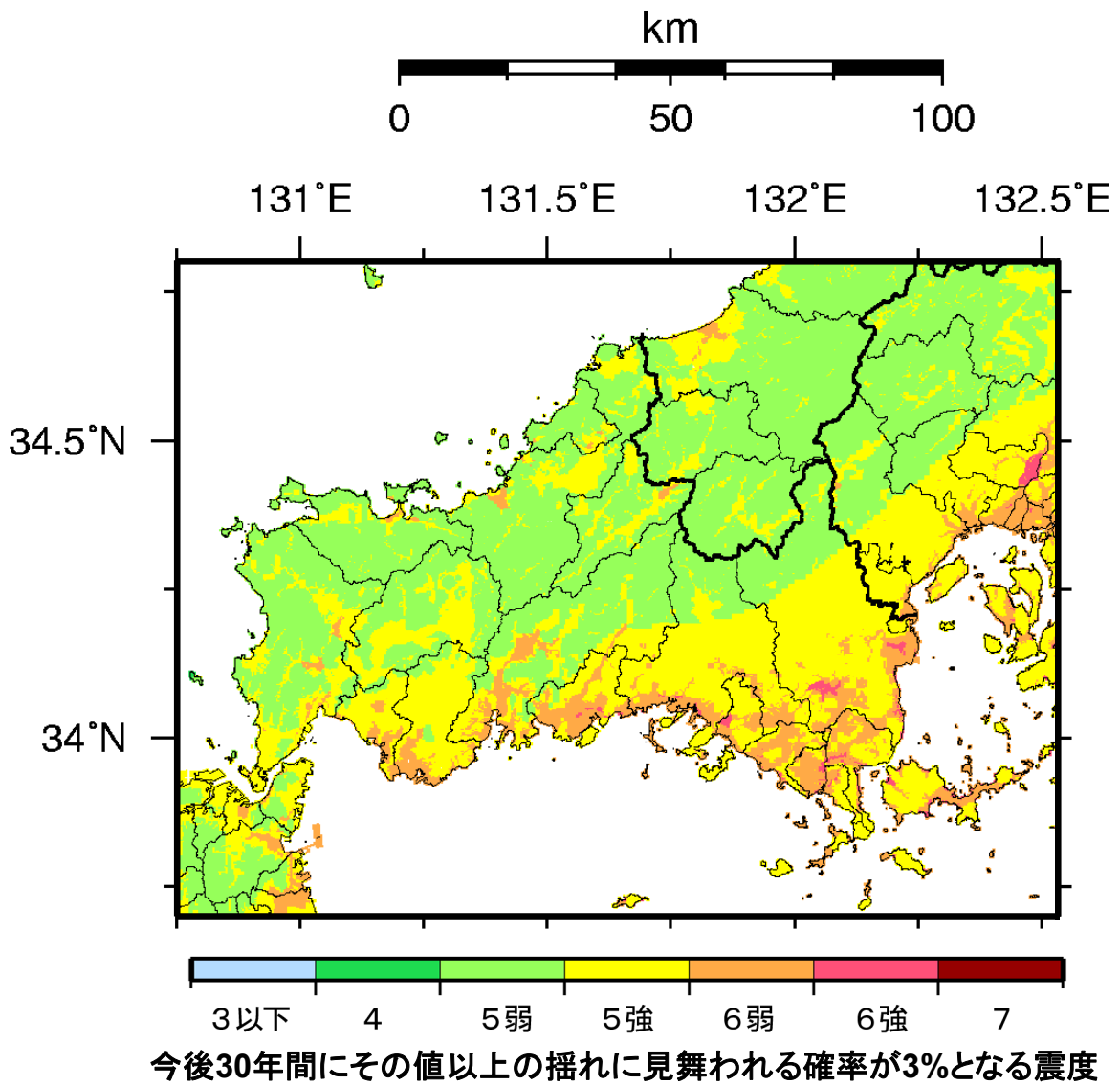
山口市役所：高い。

カテゴリーⅢの地震の影響度が最も高くなっています。周防灘断層群などの主要活断層帯の地震や、活断層が特定されていない場所で発生する地震によるものと考えられます。また、南海トラフの地震（カテゴリーⅠ）や、安芸灘～伊予灘～豊後水道のプレート内地震（カテゴリーⅡ）の影響も見られます。

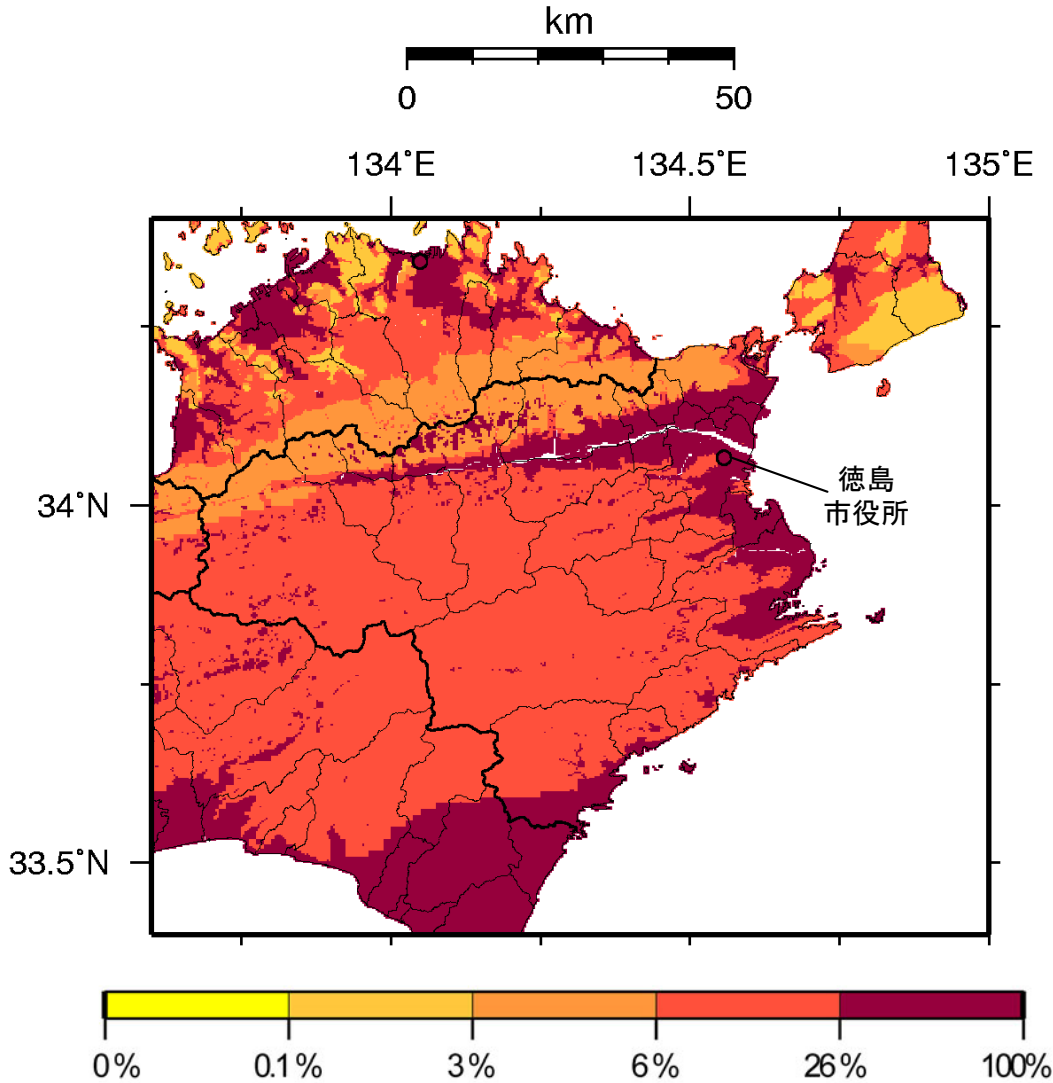
カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震



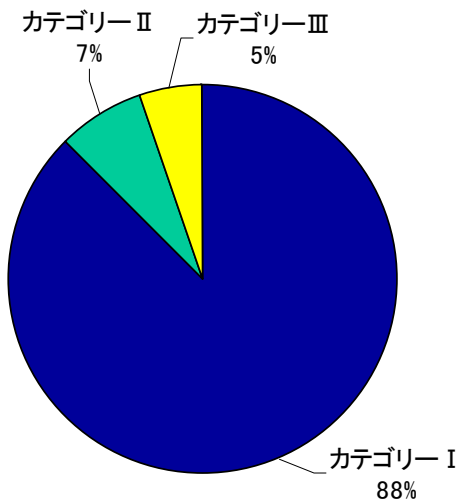
山口市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



徳島県



今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）



地図概況

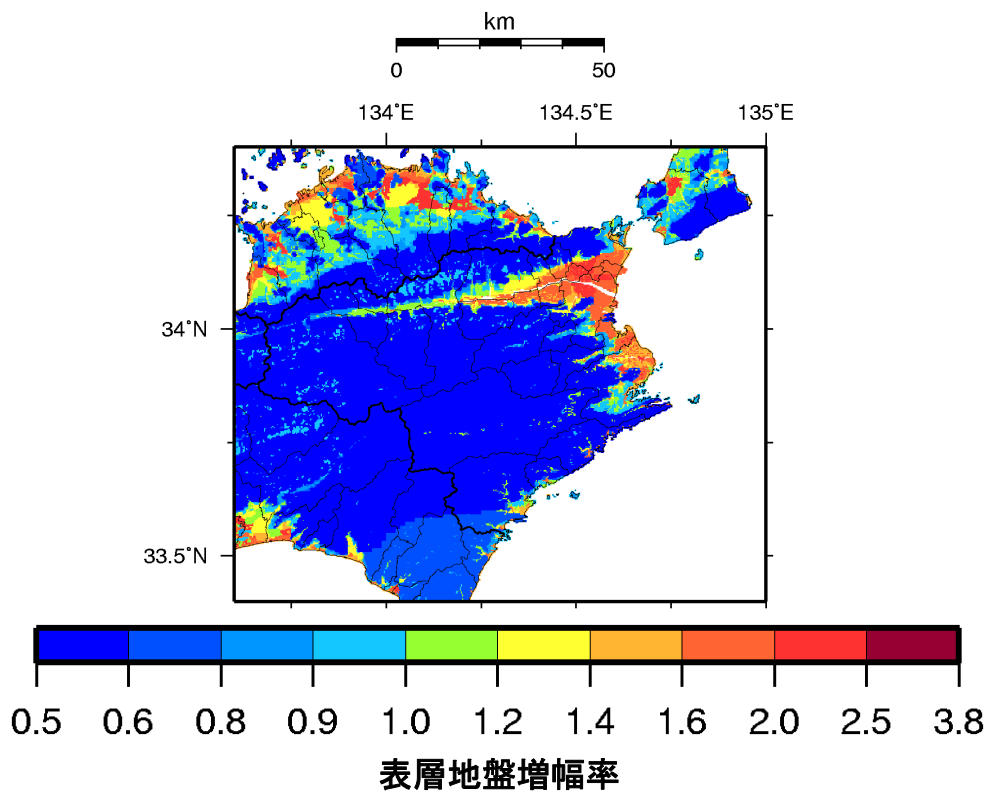
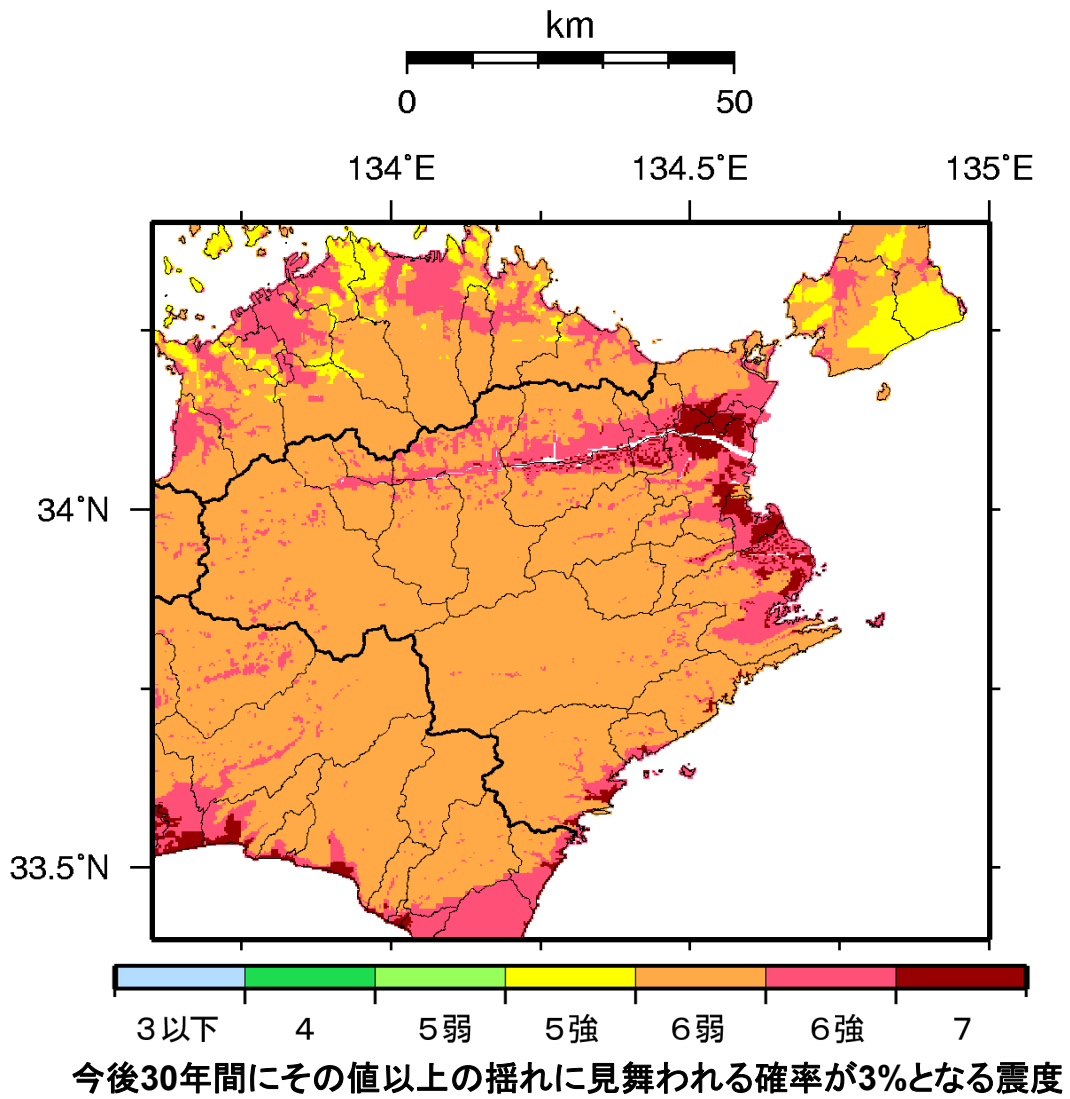
沿岸の平野部（徳島平野など）や河川沿いでは、周囲の山地に比べると地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

徳島市役所：高い。

南海トラフの地震（カテゴリー I）の震源域に近いため、その影響度が非常に高く支配的です。

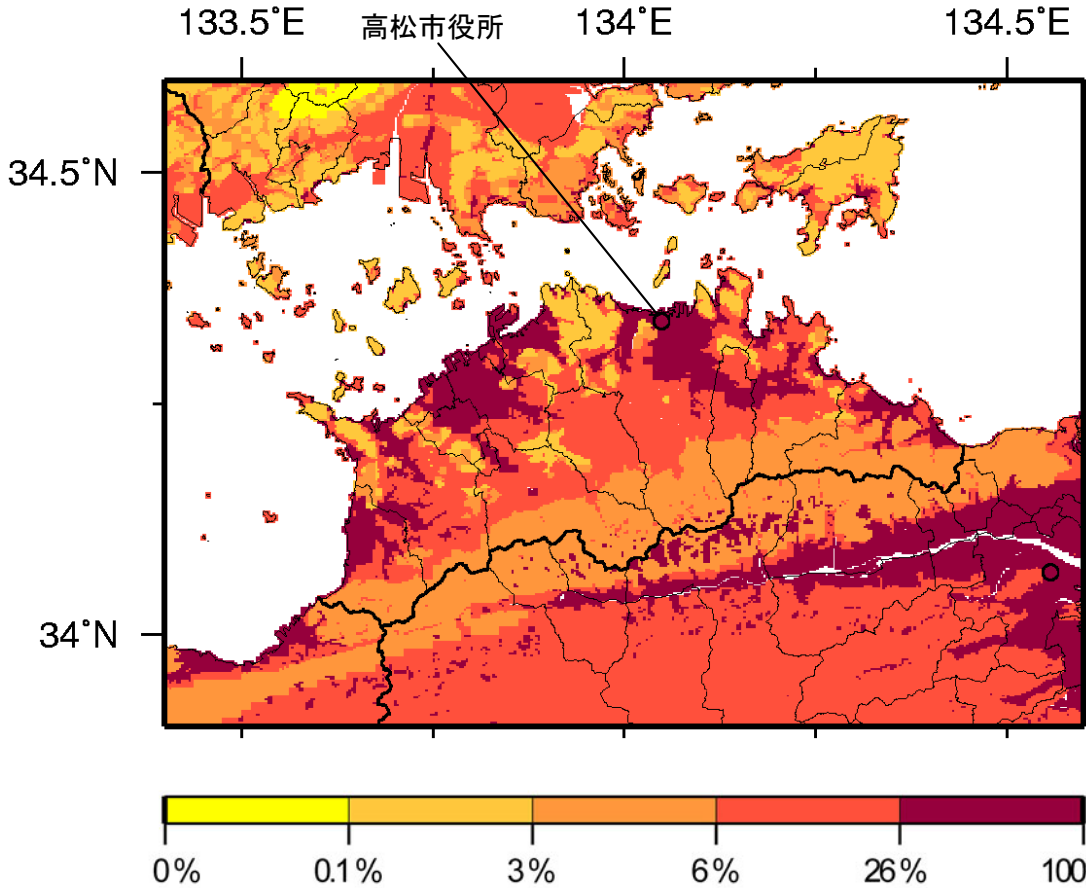
カテゴリー I：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリー II：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリー III：活断層など陸域と海域の浅い地震

徳島市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度

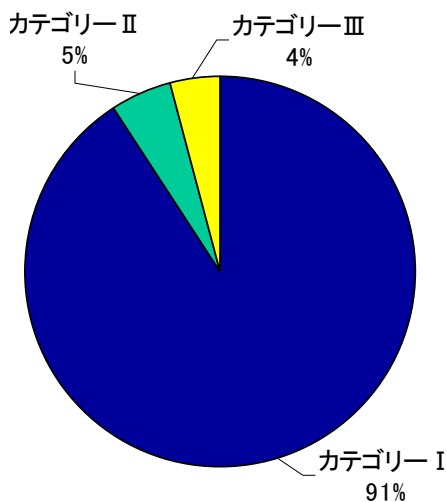


香川県

km



今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）



地図概況

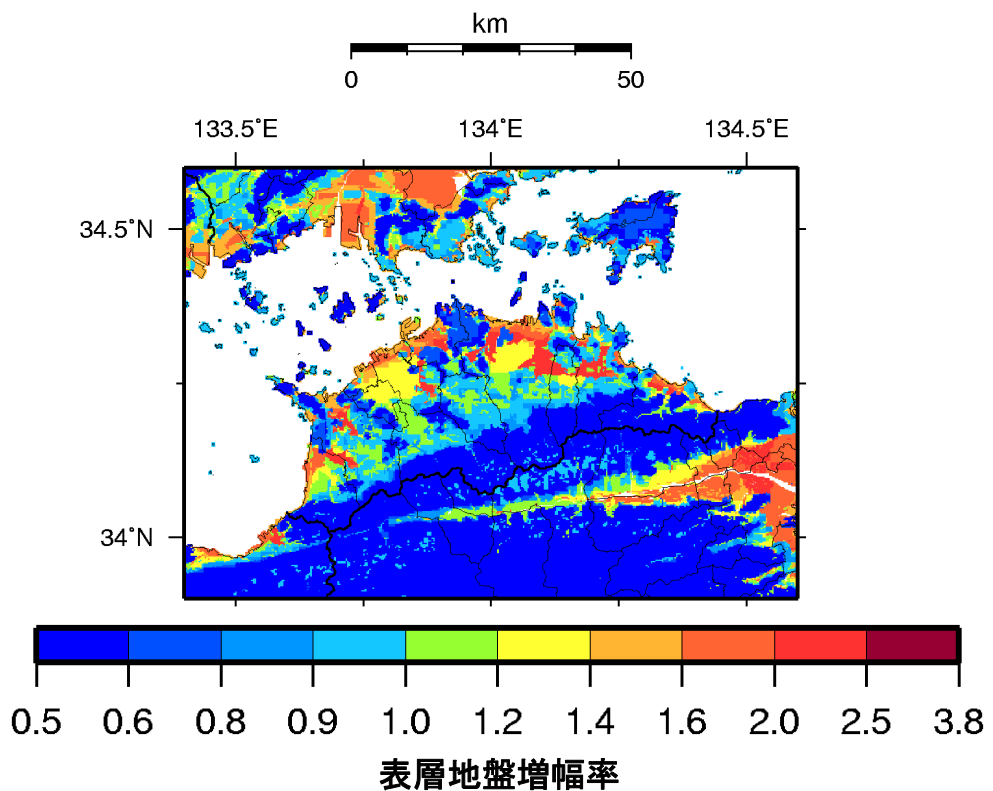
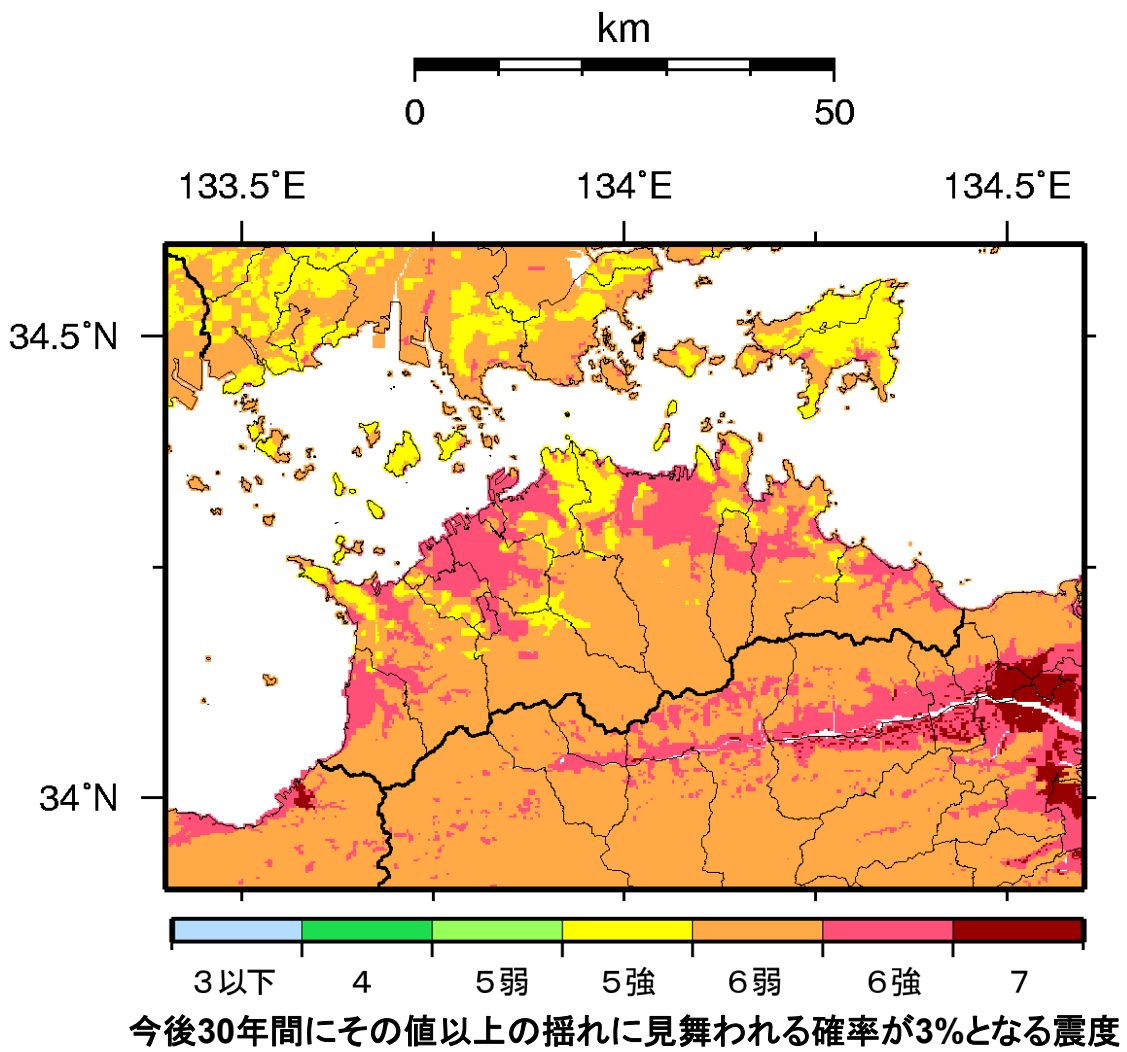
北部の讃岐平野では、北部に点在する山に比べると、地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。南部は山地ですが、南海トラフの地震(カテゴリー I)の影響で震度が大きくなっています。

高松市役所：高い。

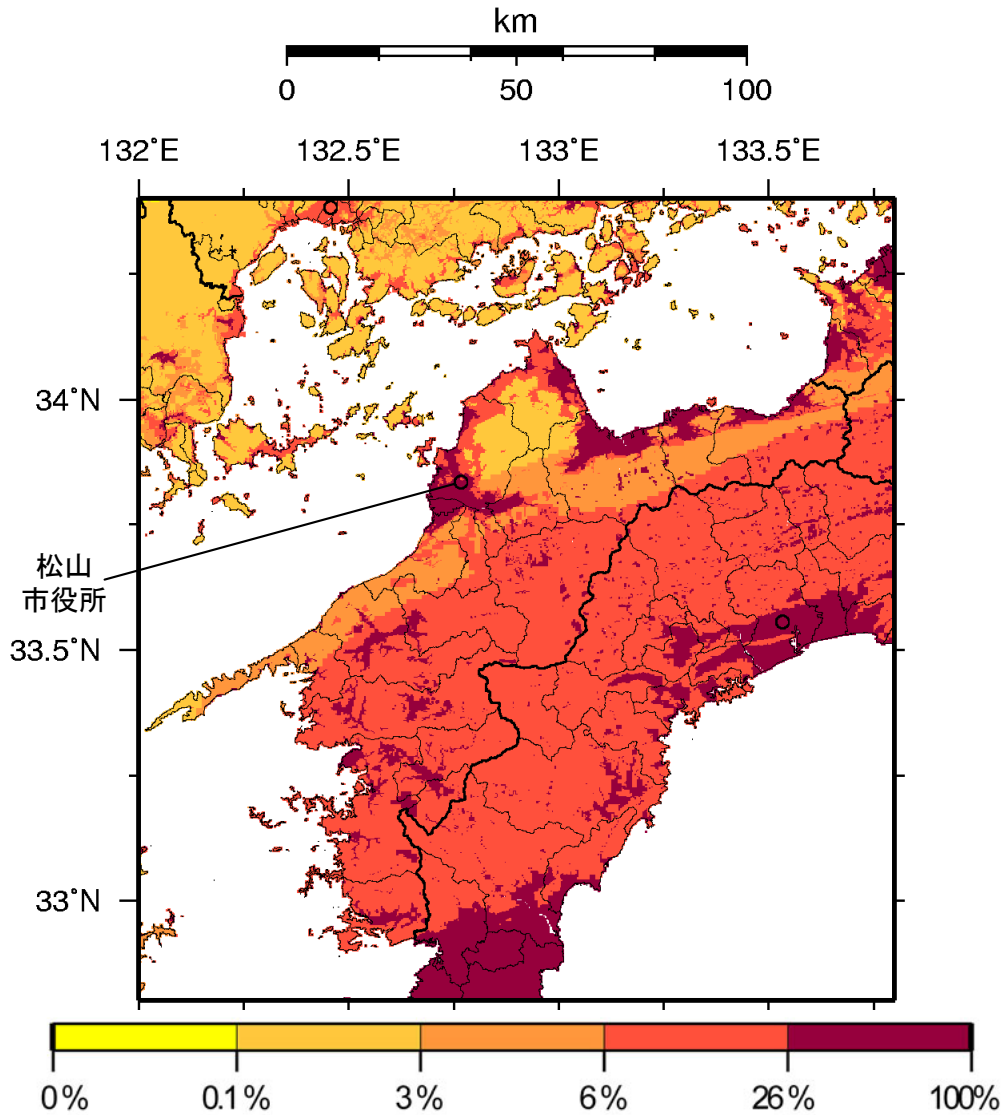
南海トラフの地震(カテゴリー I)の震源域に近いため、その影響度が非常に高く支配的です。

カテゴリー I：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリー II：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリー III：活断層など陸域と海域の浅い地震

高松市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



愛媛県



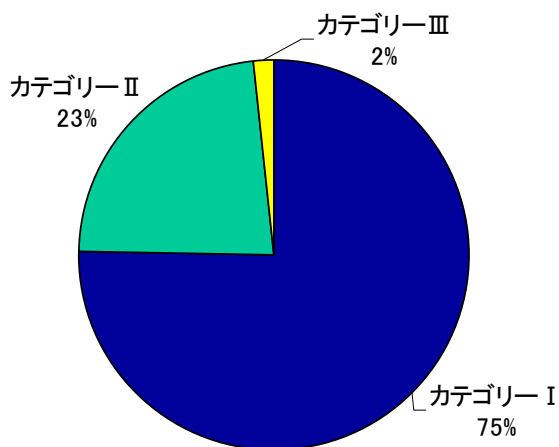
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

沿岸の平野部（松山平野、今治平野、新居浜平野など）や山間の河川沿いなどでは、周囲の山地に比べると地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。また南側ほど、南海トラフの地震（カテゴリーⅠ）の影響が大きくなっています。

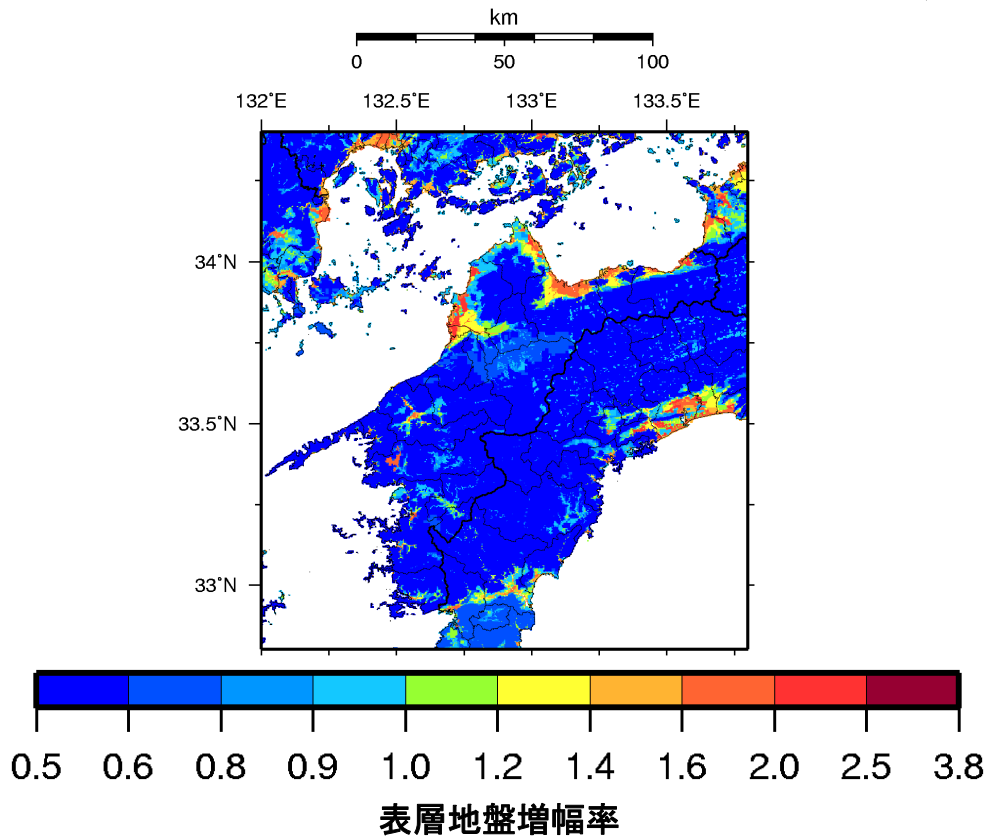
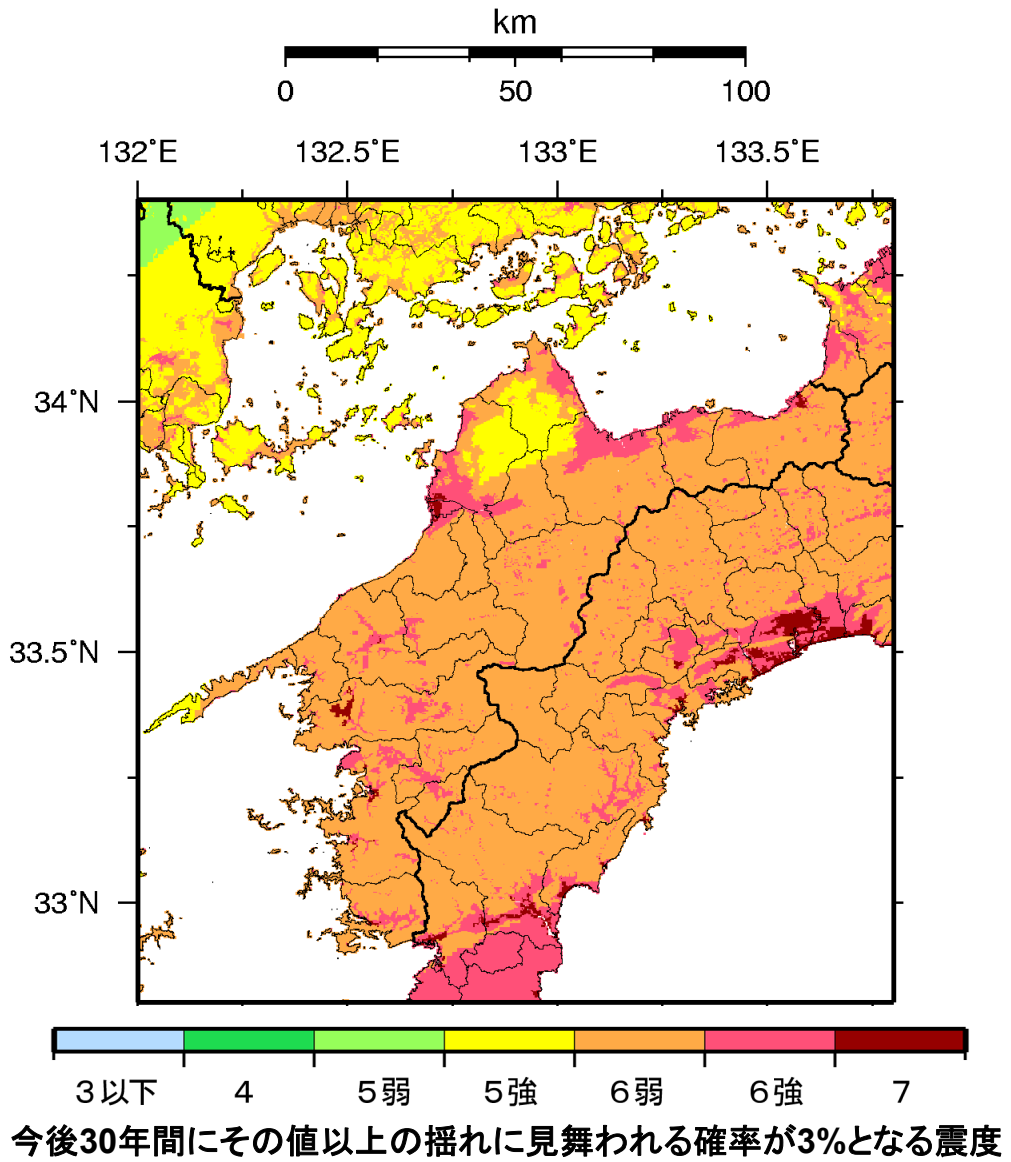
松山市役所：高い。

南海トラフの地震（カテゴリーⅠ）の震源域に近いため、その影響度が非常に高くなっています。また、安芸灘～伊予灘～豊後水道のプレート内地震（カテゴリーⅡ）の発生領域に近いことから、その影響度も高くなっています。

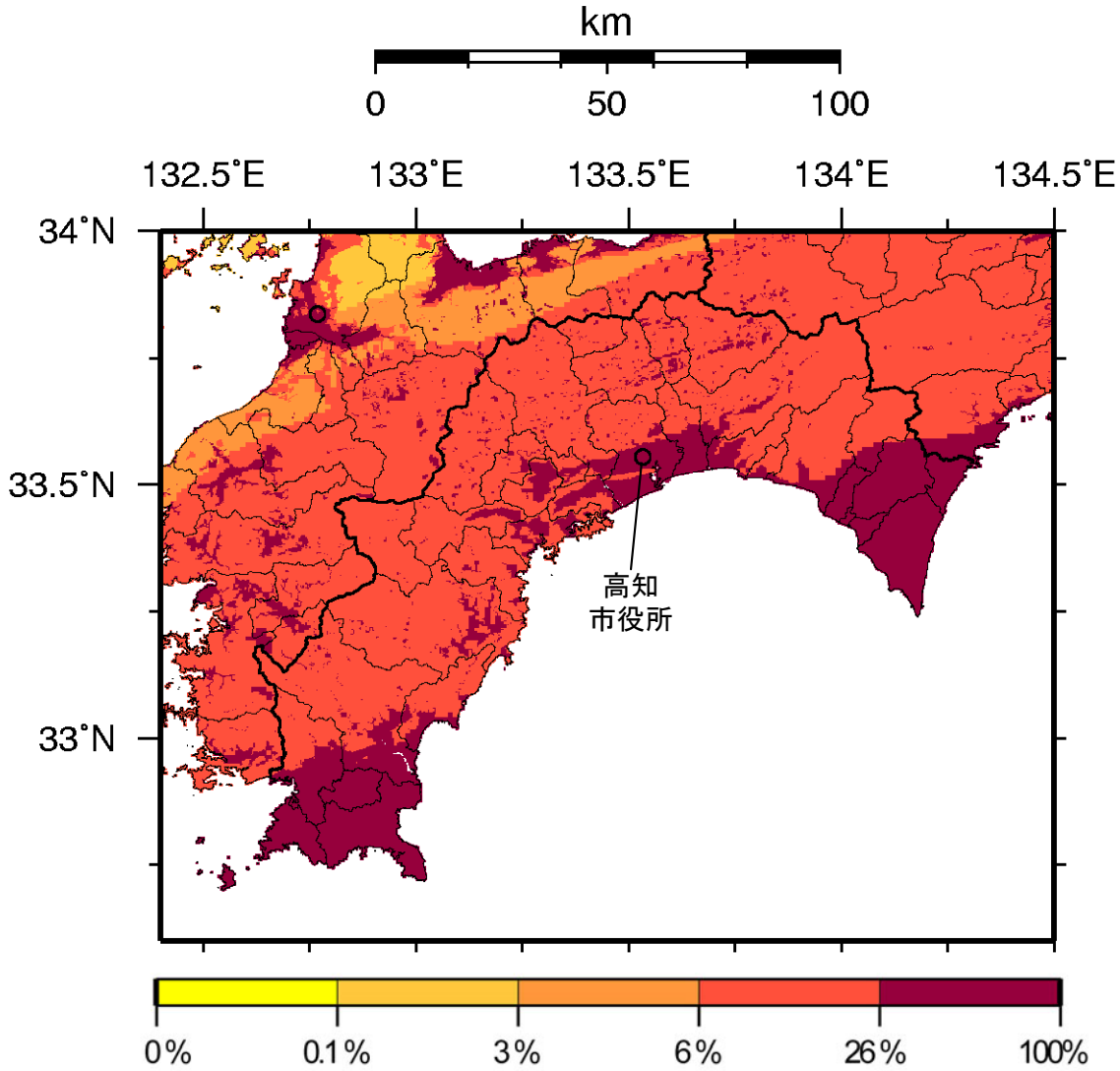


カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

松山市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



高知県



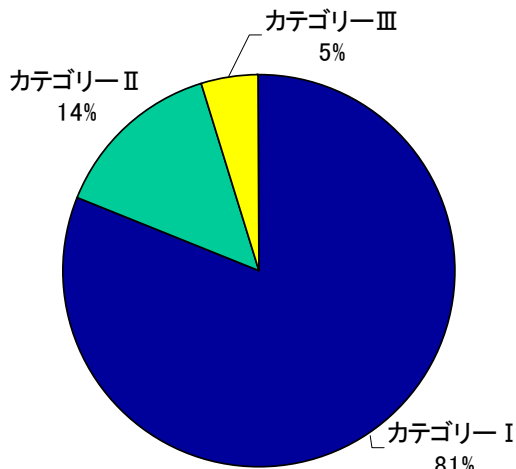
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

南側ほど南海トラフの地震(カテゴリーⅠ)の影響が大きくなっています。また、沿岸の平野部(高知平野、中村平野など)や山間の河川沿いでは、周囲の山地に比べると地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

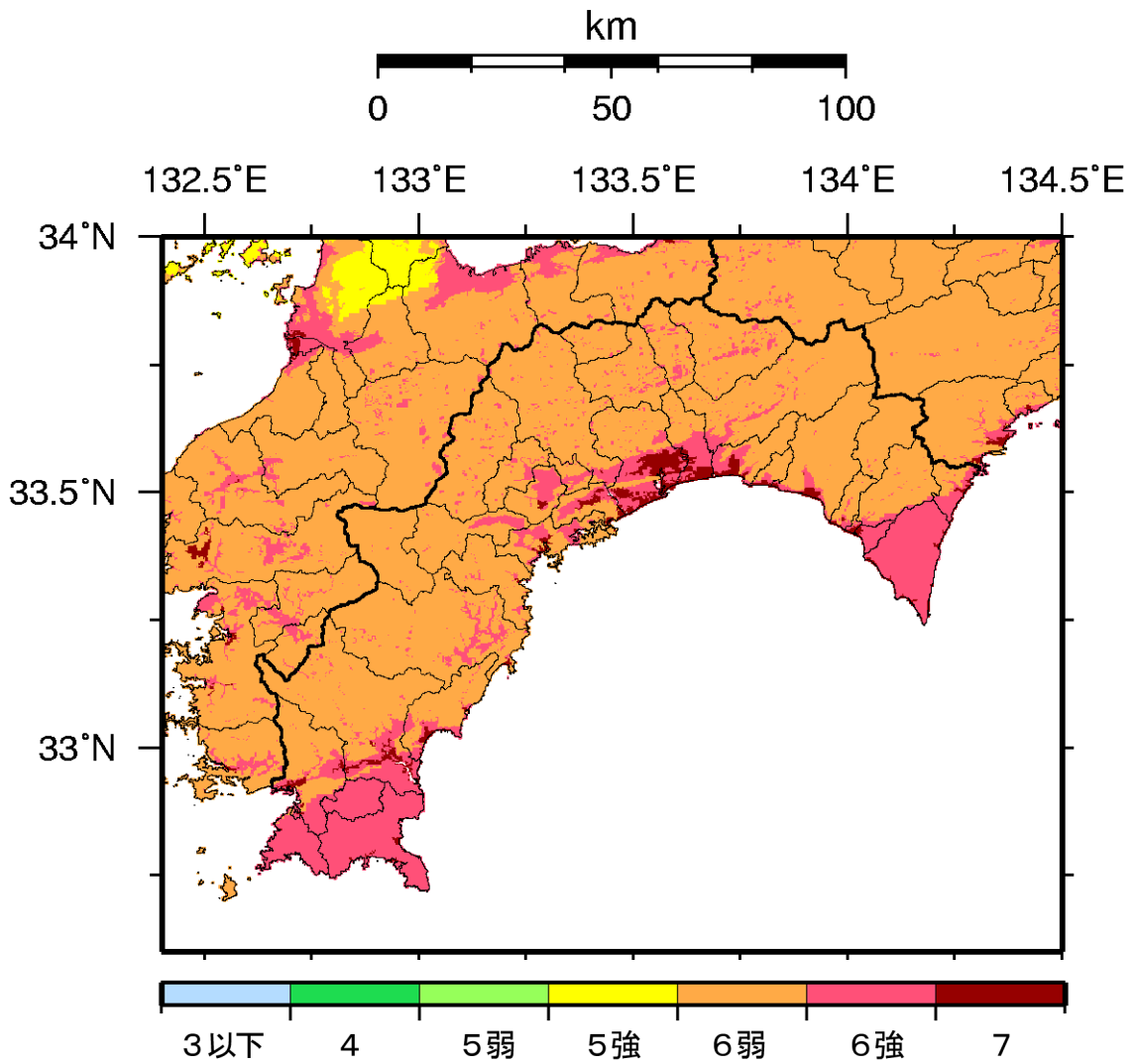
高知市役所：高い。

南海トラフの地震(カテゴリーⅠ)の震源域に近いため、その影響度が非常に高くなっています。また、沈み込むフィリピン海プレート内の震源を予め特定しにくい地震(カテゴリーⅡ)の影響も見られます。

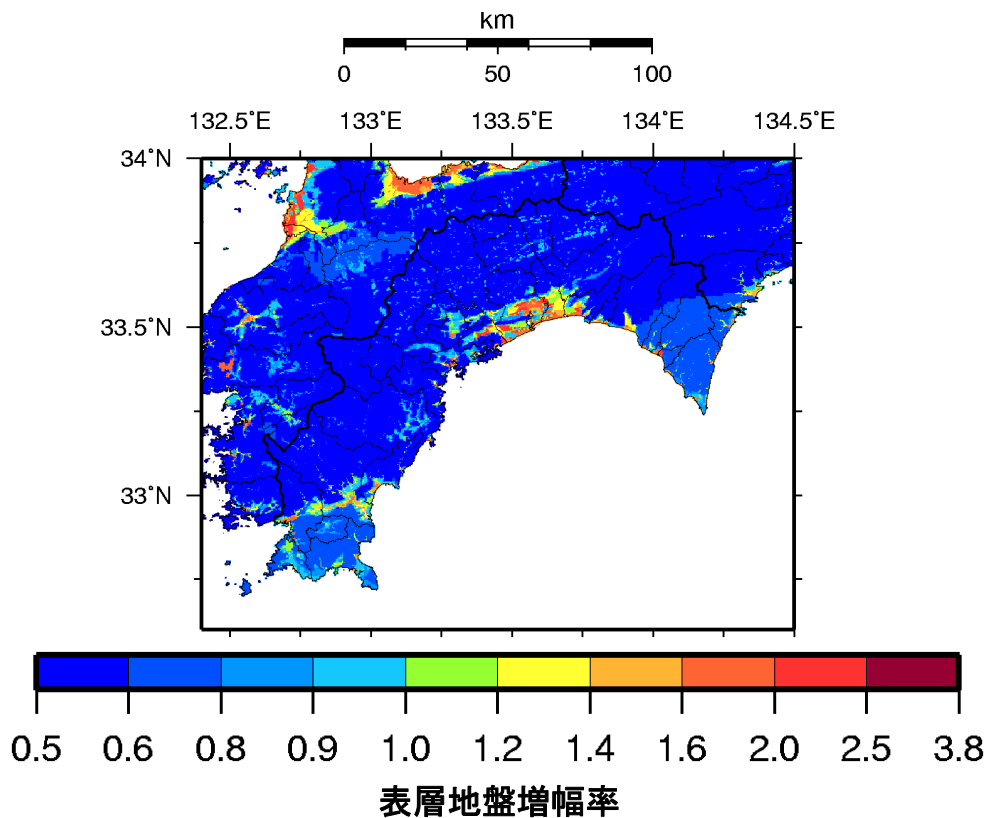


カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

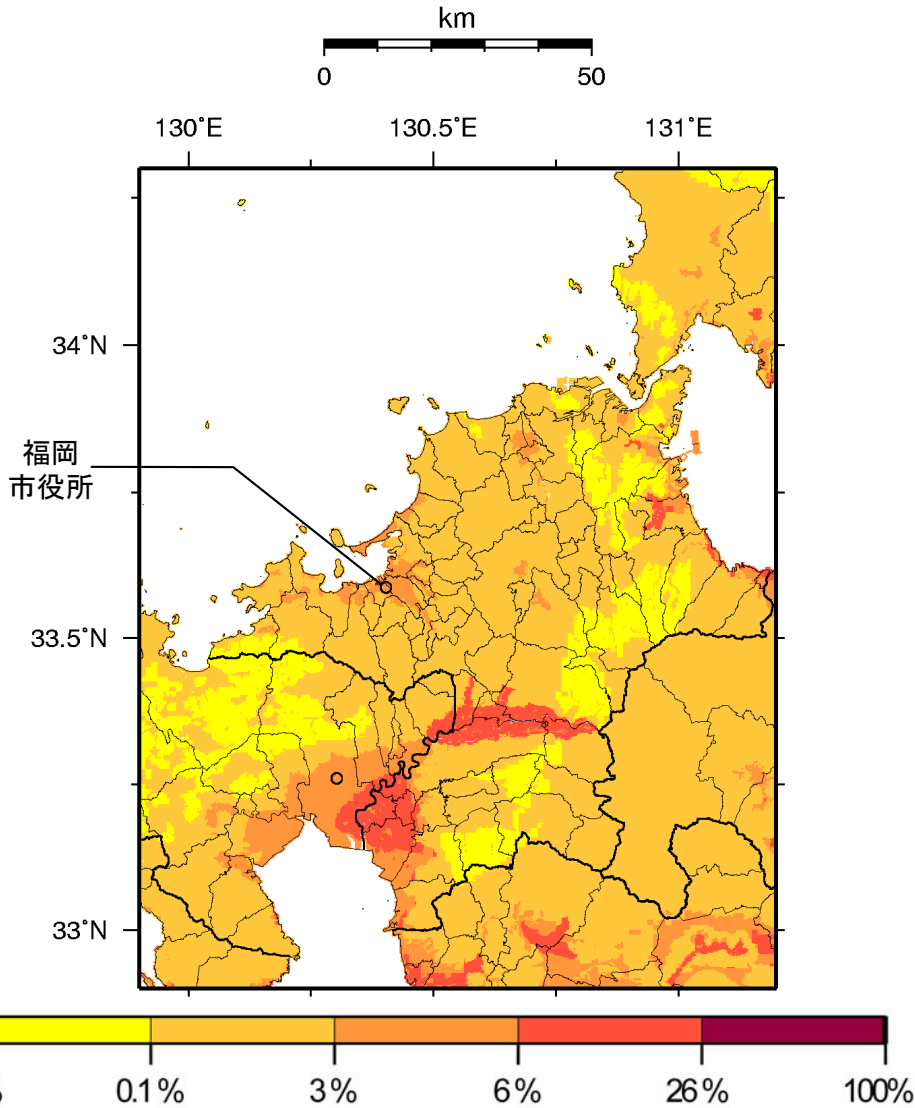
高知市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



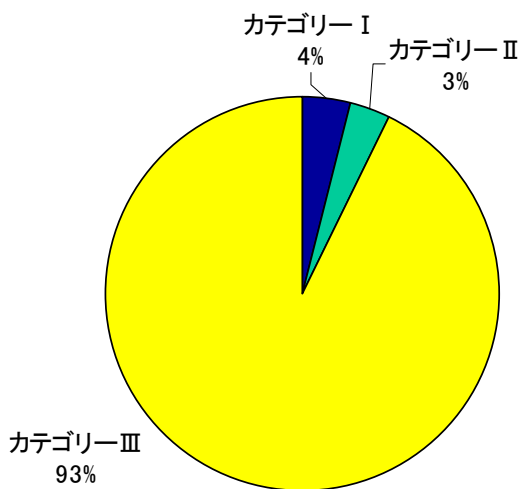
今後30年間にその値以上の揺れに見舞われる確率が3%となる震度



福岡県



今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）



地図概況

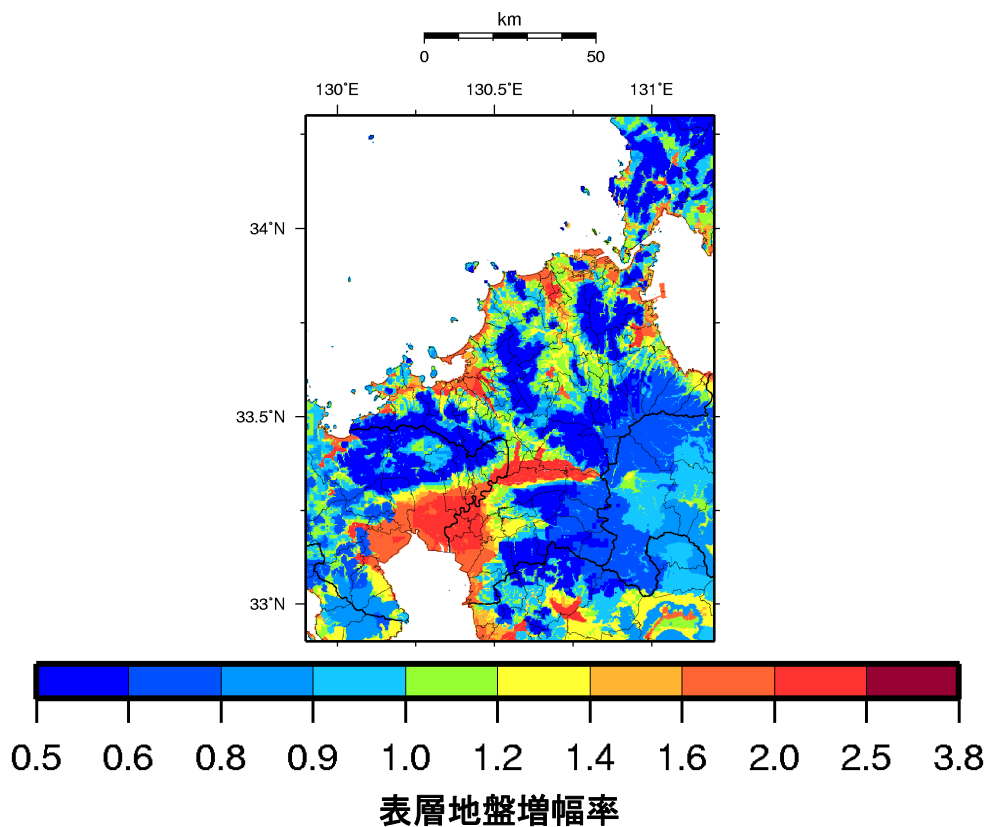
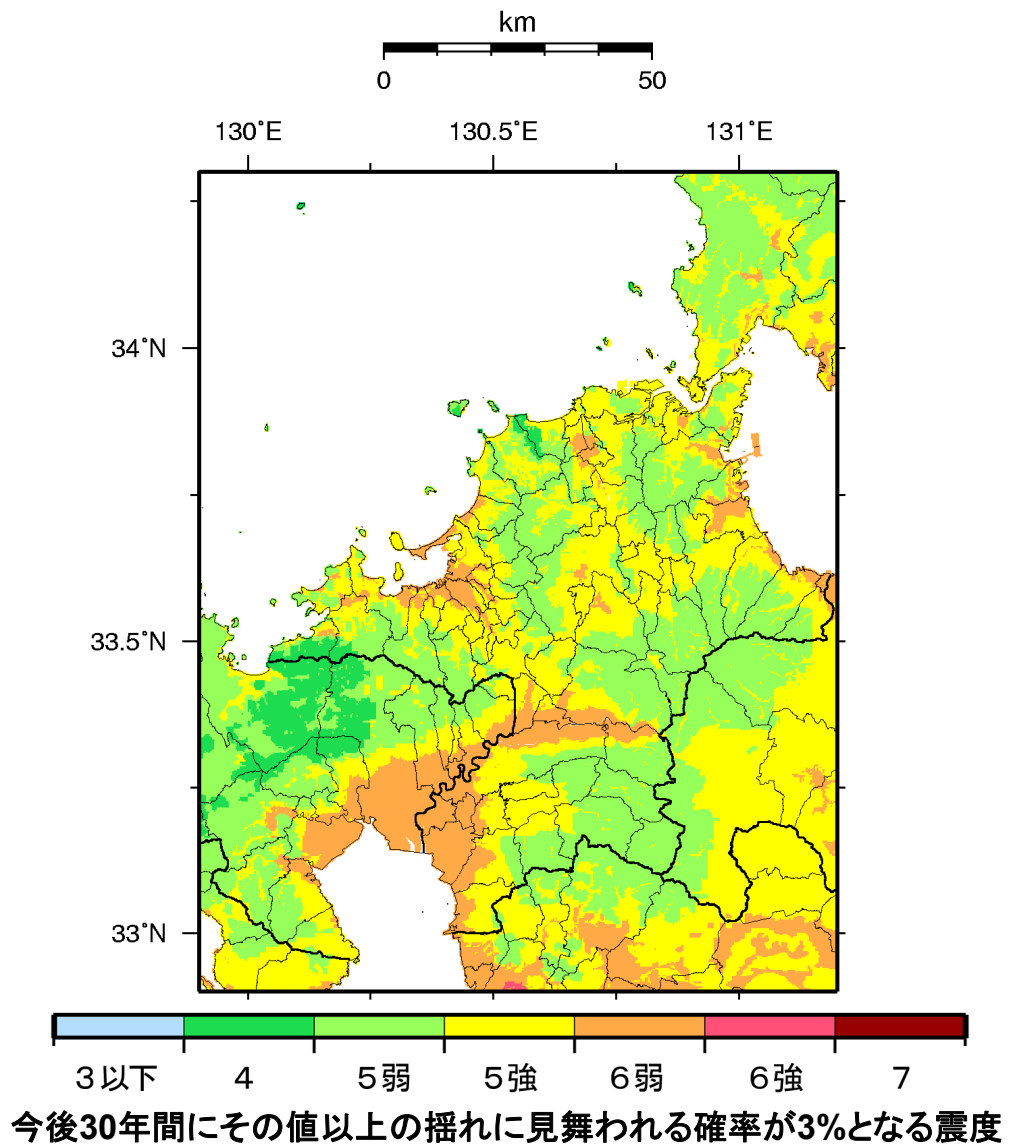
沿岸の平野部（福岡平野、直方平野、豊前行橋平野、筑紫平野など）や河川沿いの低地では、周囲の山地に比べると地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

福岡市役所：高い。

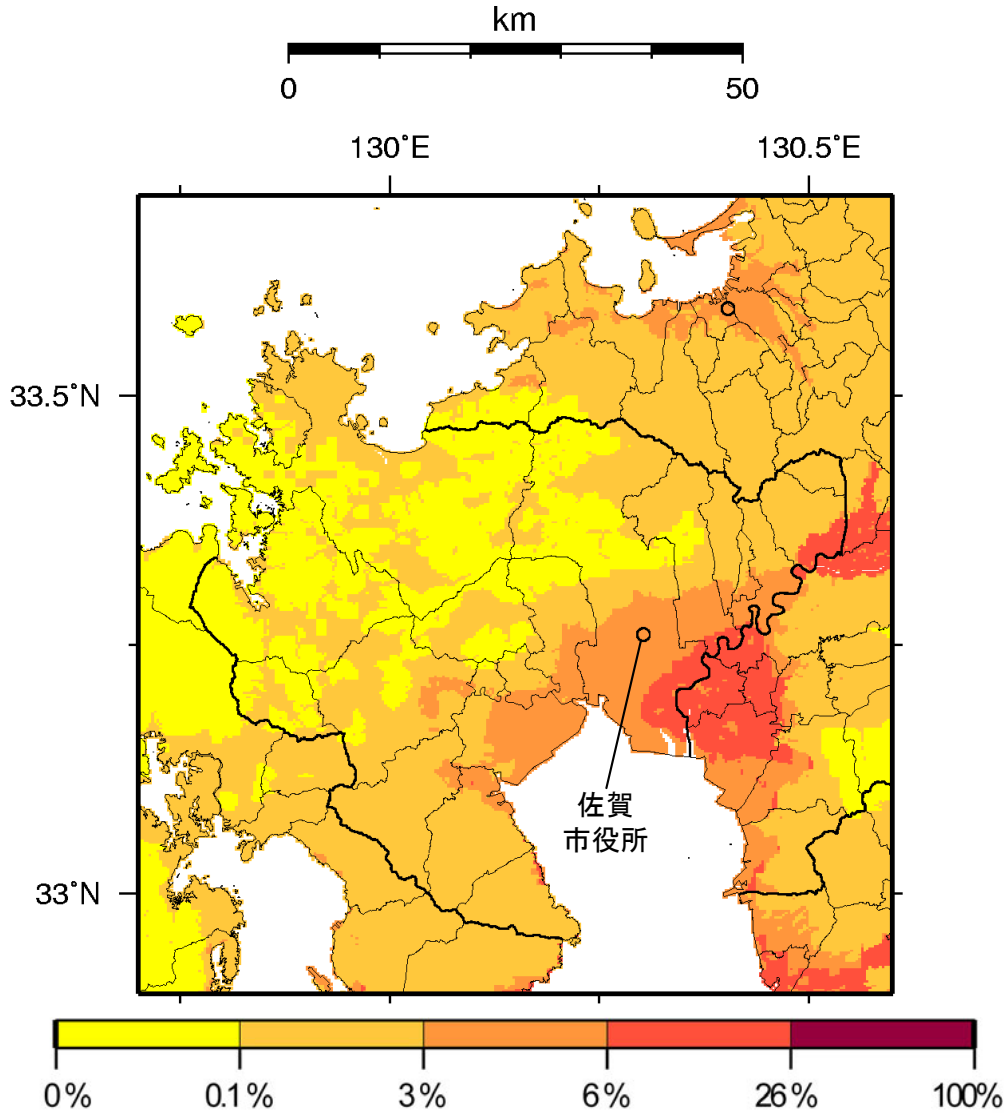
カテゴリーⅢの地震の影響度が最も高く支配的です。主に、発生確率の高い警固断層帯南東部の地震や、活断層が特定されていない場所で発生する地震によると考えられます。

カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

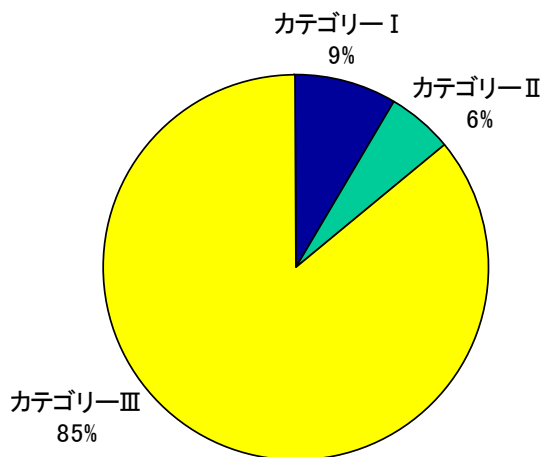
福岡市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する地震カテゴリー別の影響度



佐賀県



今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）



地図概況

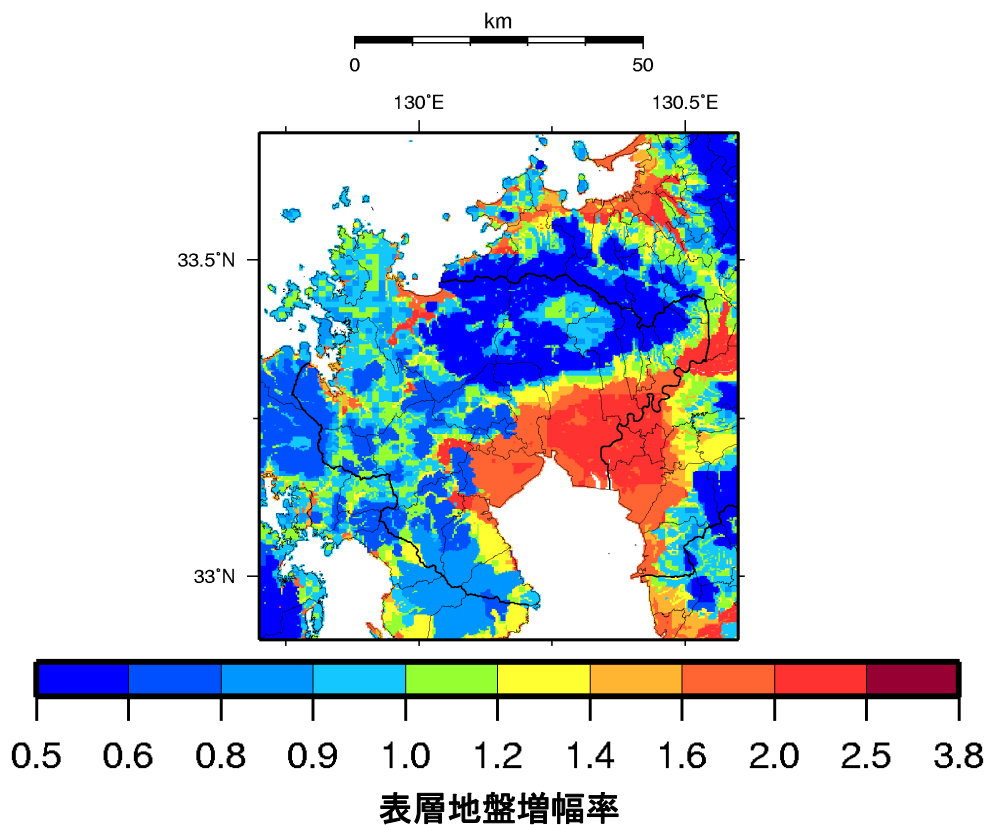
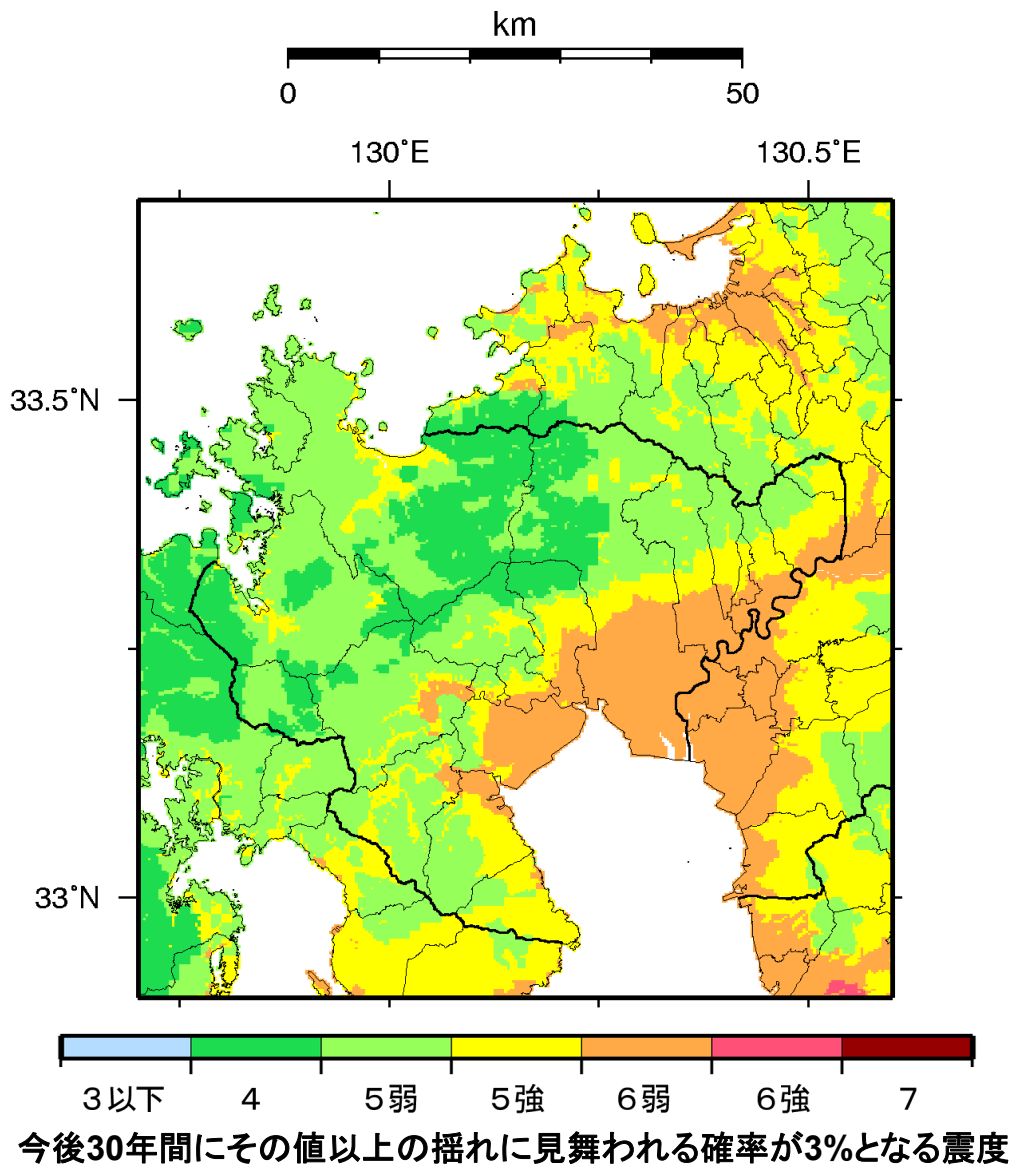
沿岸の平野部(筑紫平野など)や河川沿いの低地では、周囲の山地に比べると地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

佐賀市役所：高い。

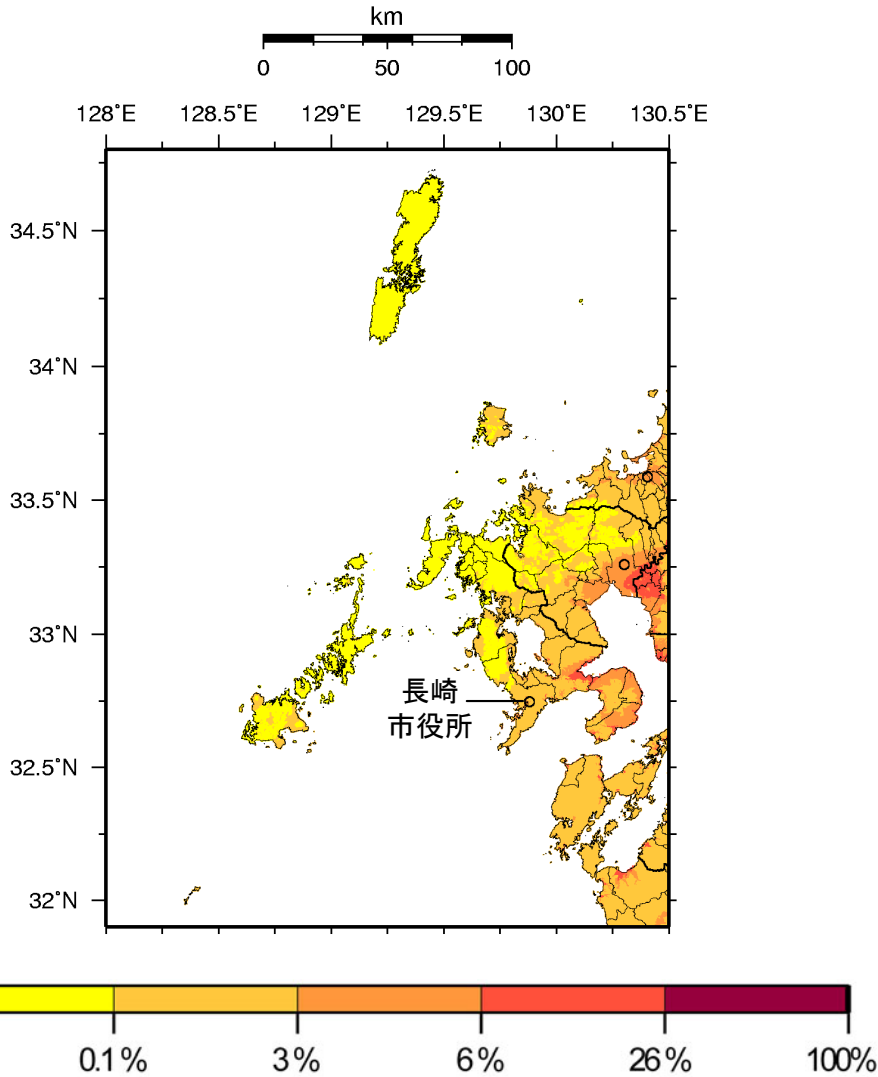
カテゴリーⅢの地震の影響度が最も高くなっています。主に、活断層が特定されていない場所で発生する地震によるものと考えられますが、主要活断層帯の地震(警固断層帯南東部の地震など)の影響も見られます。

カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

佐賀市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する地震カテゴリー別の影響度



長崎県



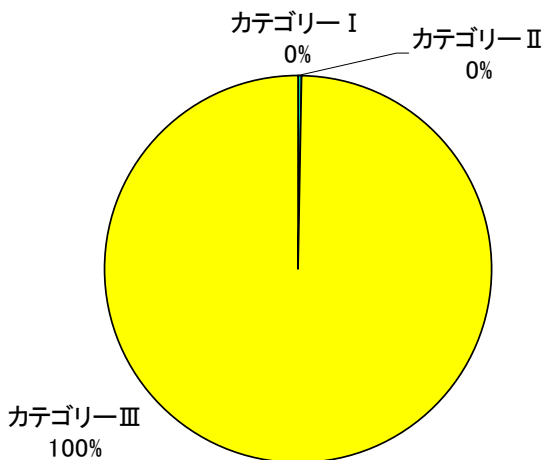
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

半島や島嶼などの沿岸の平野部や河川沿いでは、周囲の山地に比べると地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

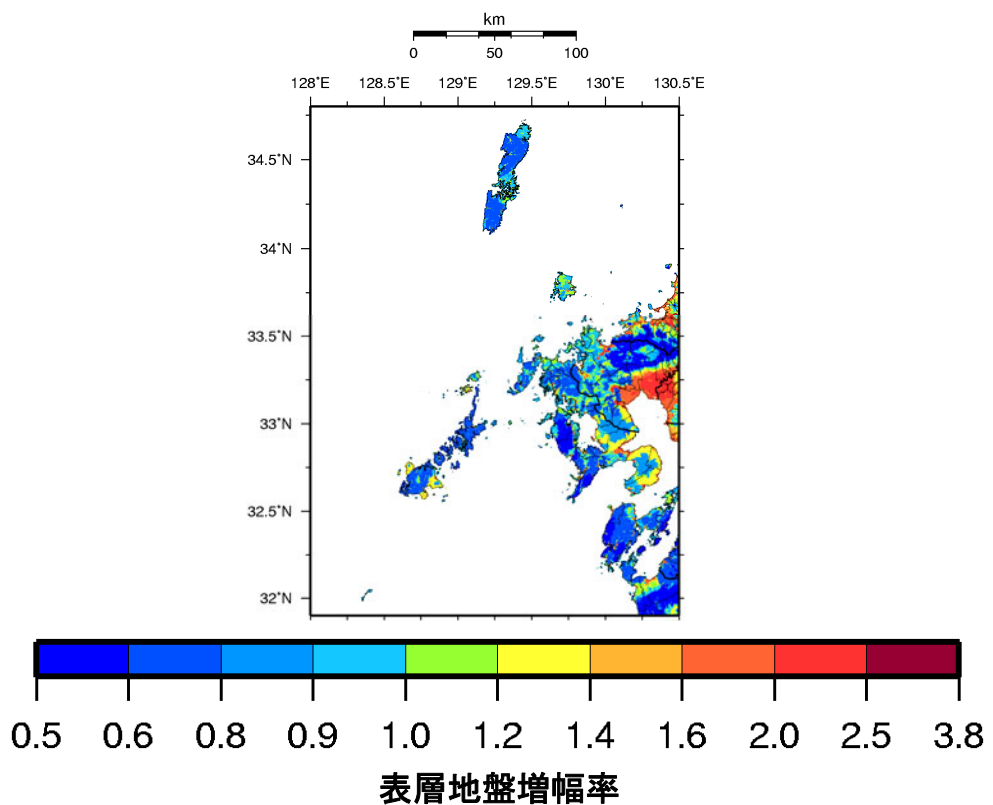
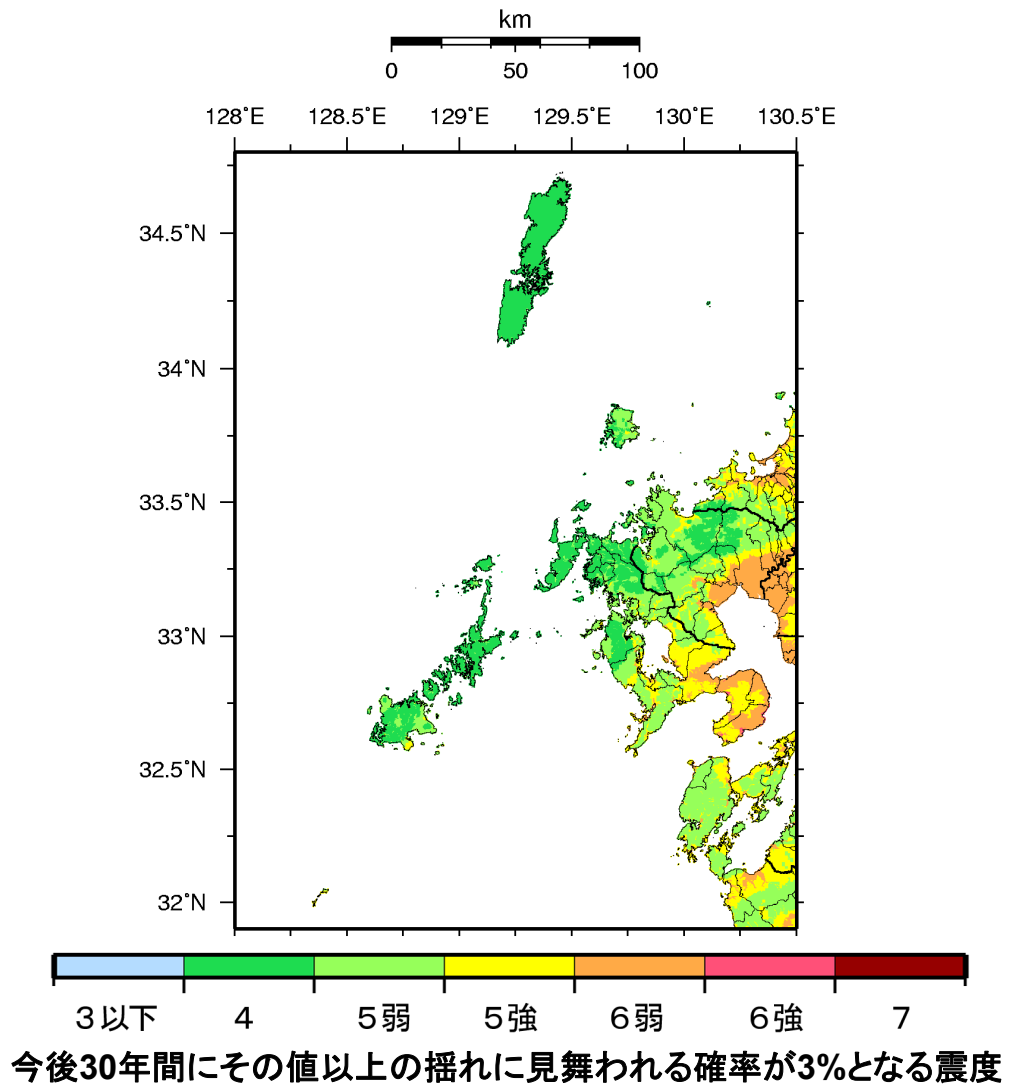
長崎市役所：やや高い。

カテゴリーⅢの地震の影響度が最も高く支配的です。活断層が特定されていない場所で発生する地震や、主要活断層帯の地震(主に雲仙断層群の地震)によるものと考えられます。

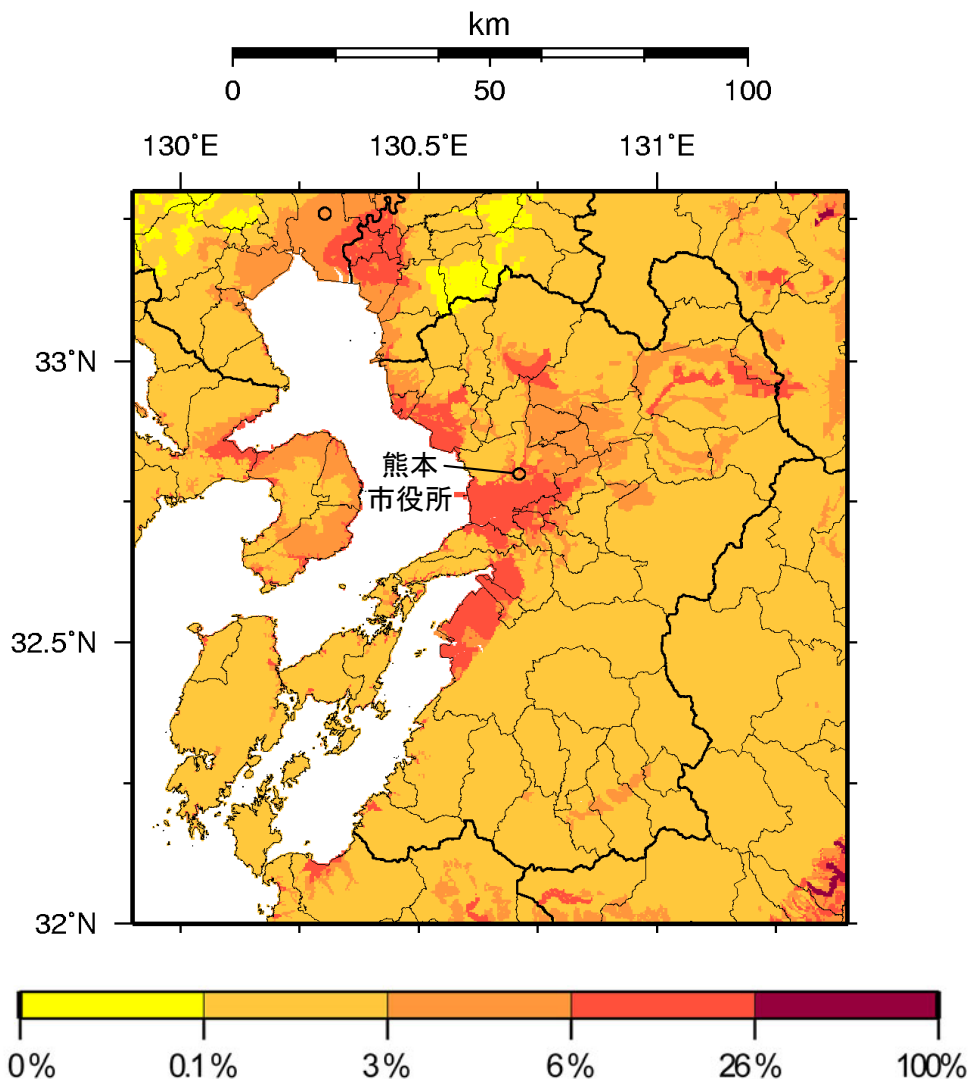


カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

長崎市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



熊本県



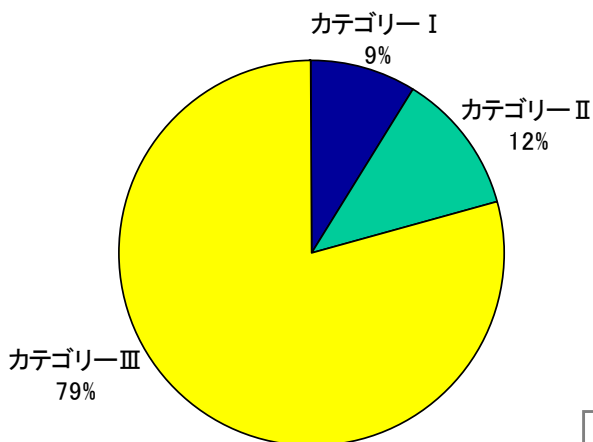
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

沿岸の平野部（熊本平野、八代平野、菊池平野など）や盆地（人吉盆地）、河川沿いでは、周囲の山地に比べると地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

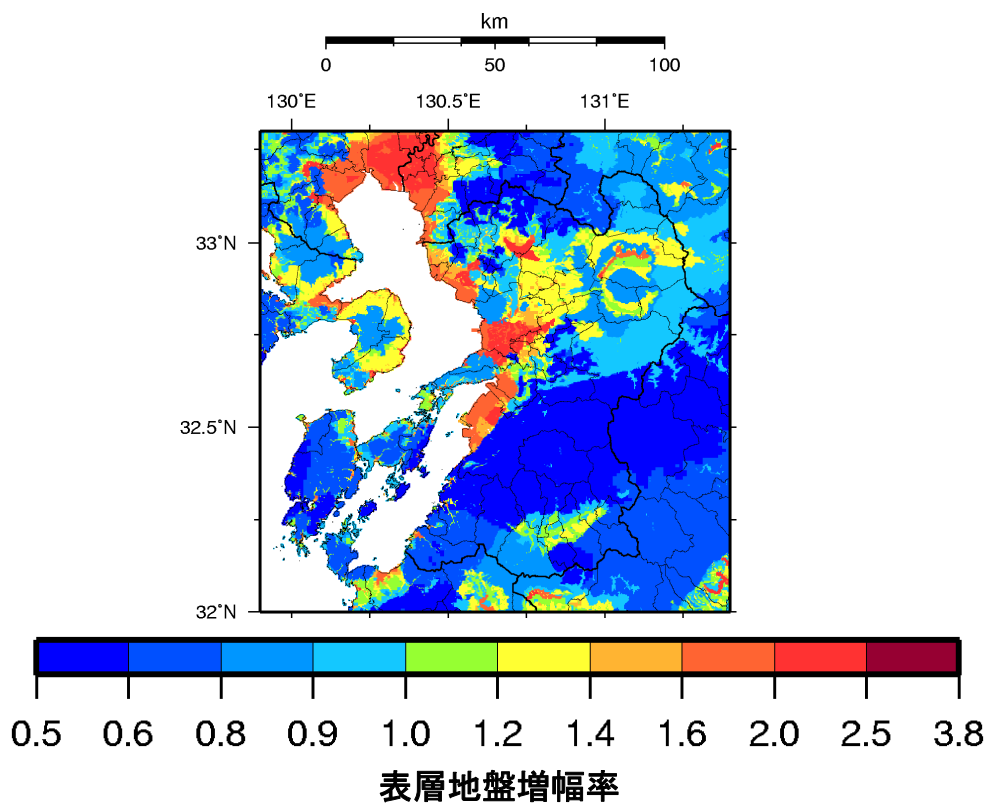
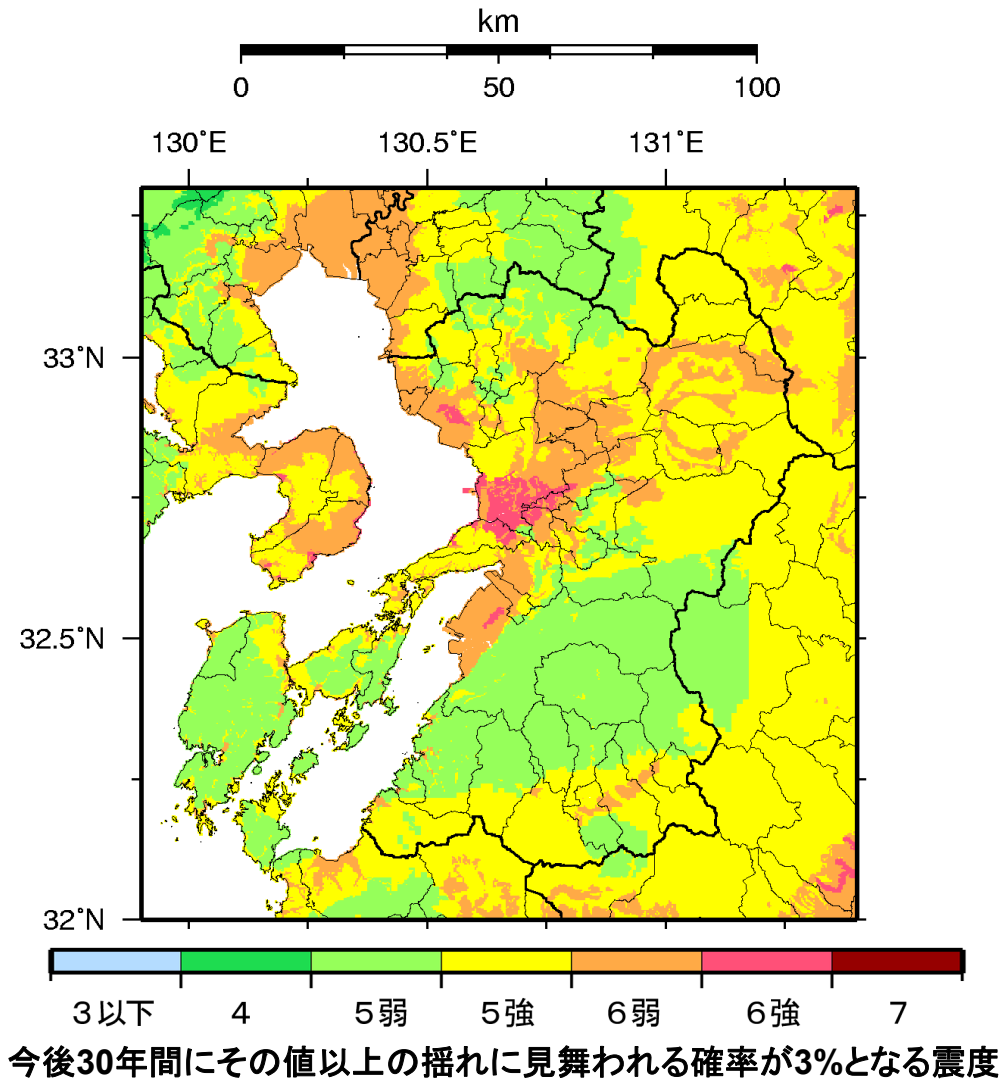
熊本市役所：高い。

活断層が特定されていない場所で発生する地震（カテゴリーⅢ）の影響度が最も高くなっていますが、主要活断層帯の地震（カテゴリーⅡ）の影響も見られます。これは近傍にある布田川・日奈久断層帯の地震によるものであると考えられます。また、沈み込むフィリピン海プレート内の震源を予め特定しにくい地震（カテゴリーⅠ）の影響も見られます。

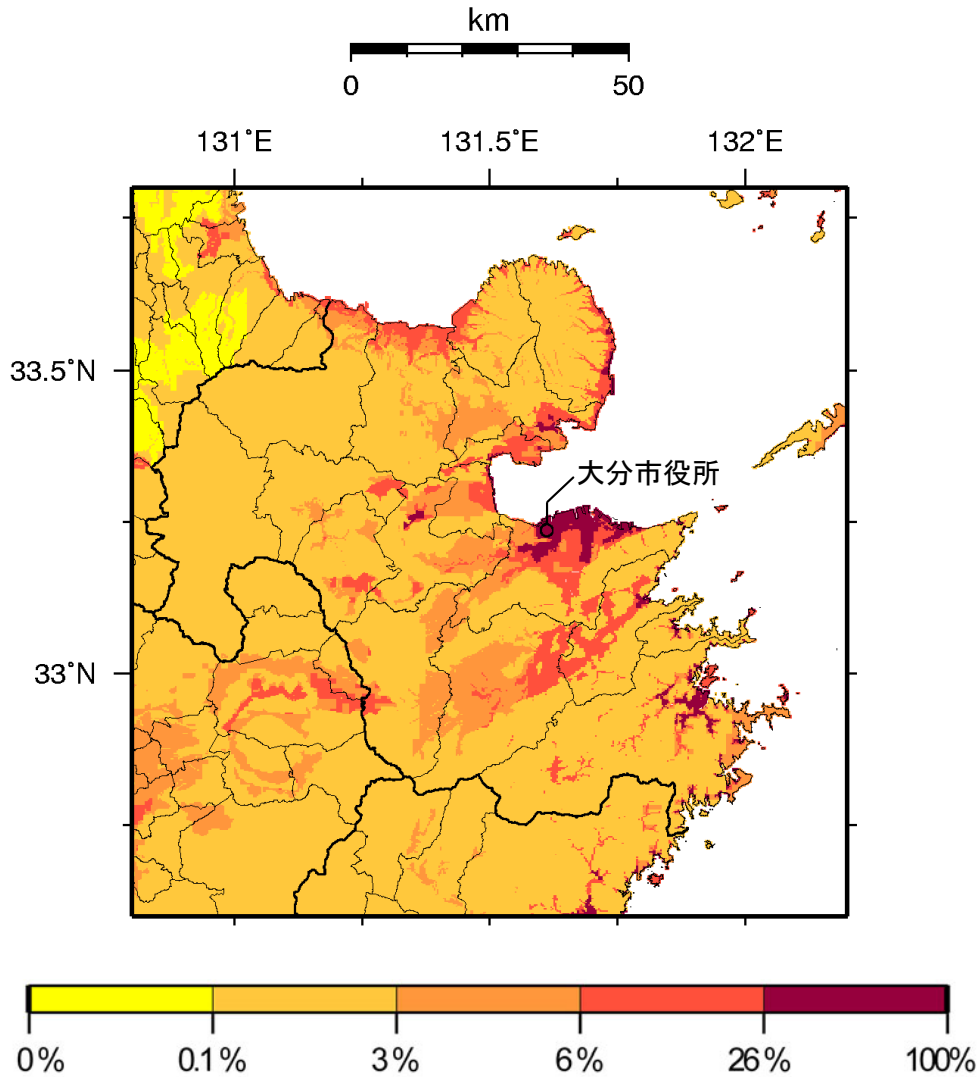


カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

熊本市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



大分県



今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

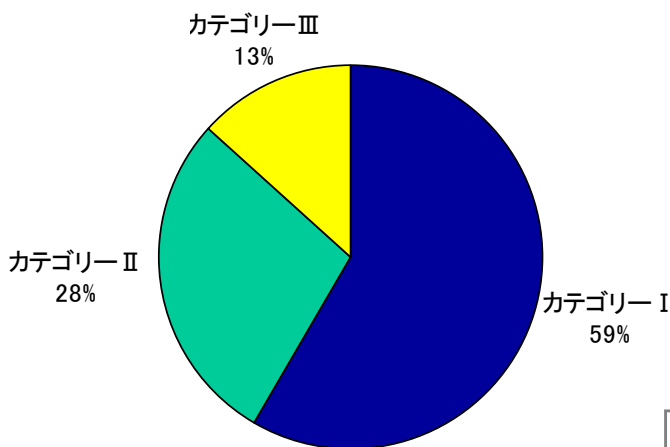
地図概況

沿岸の平野部（大分平野、中津平野など）や山間の河川沿いなどでは、周囲の山地に比べると地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

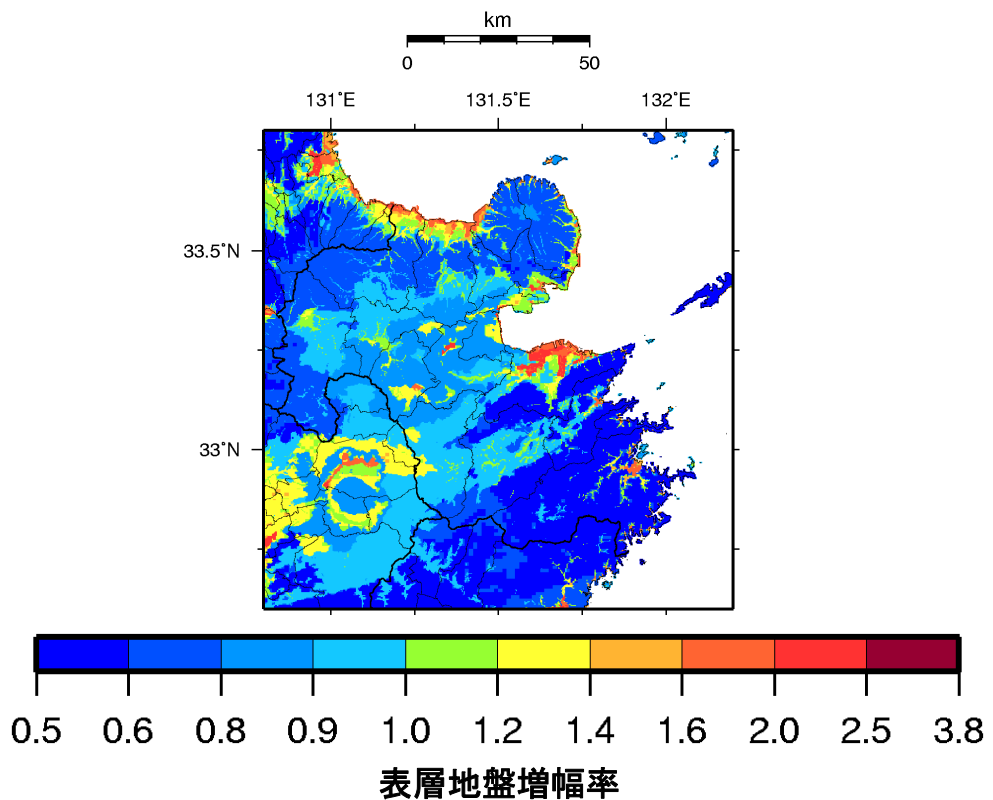
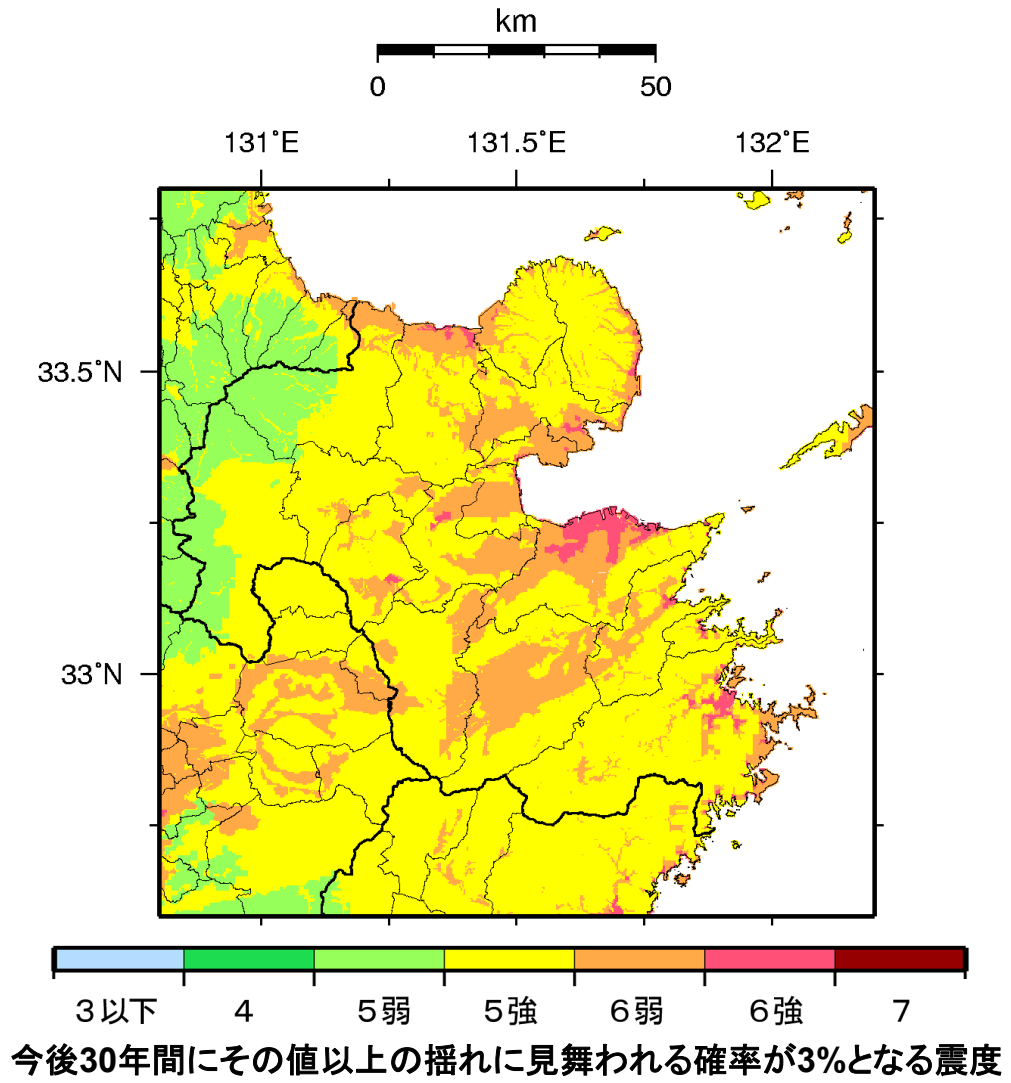
大分市役所：高い。

最も影響度が高いのは南海トラフの地震（カテゴリーⅠ）です。安芸灘～伊予灘～豊後水道のプレート内地震や、沈み込むフィリピン海プレート内の震源を予め特定しにくい地震（ともにカテゴリーⅡ）の影響も見られます。また、活断層が特定されていない場所で発生する地震や、別府～万年山断層帯の地震（ともにカテゴリーⅢ）の影響も見られます。

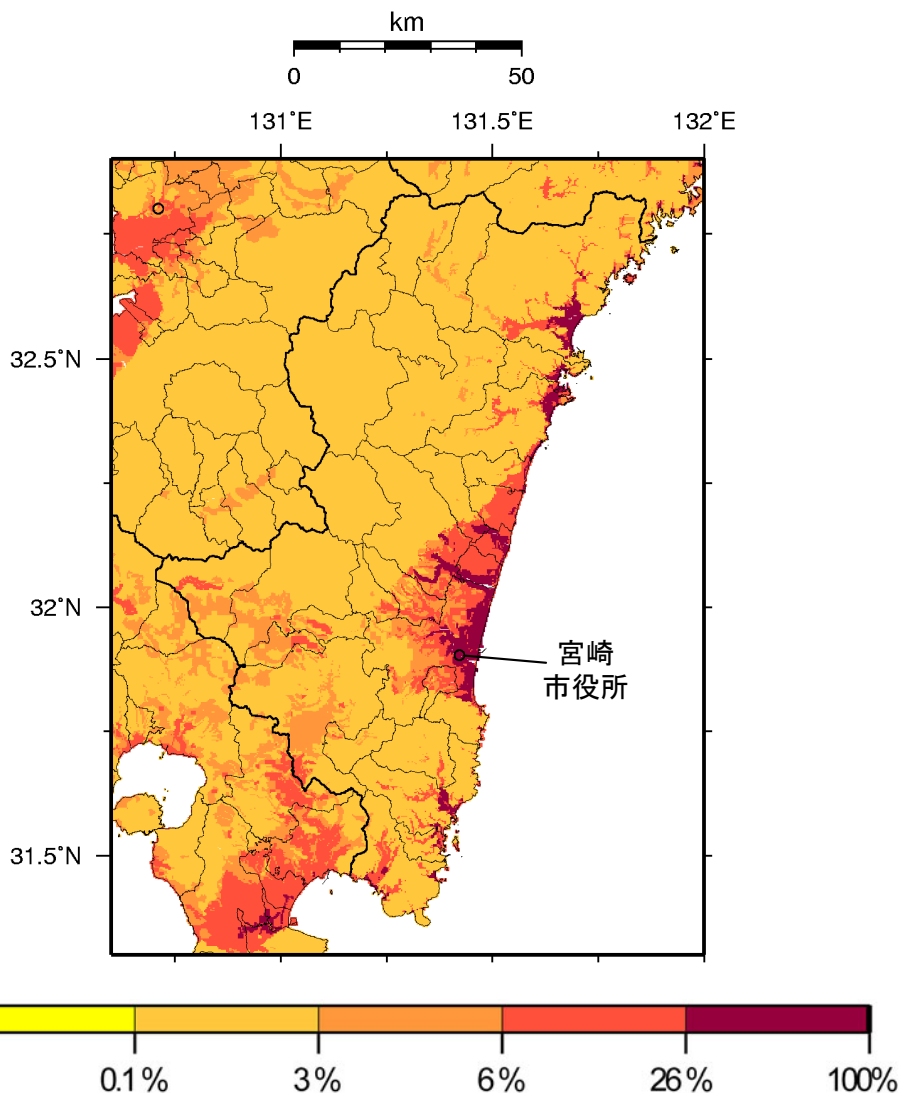
カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震



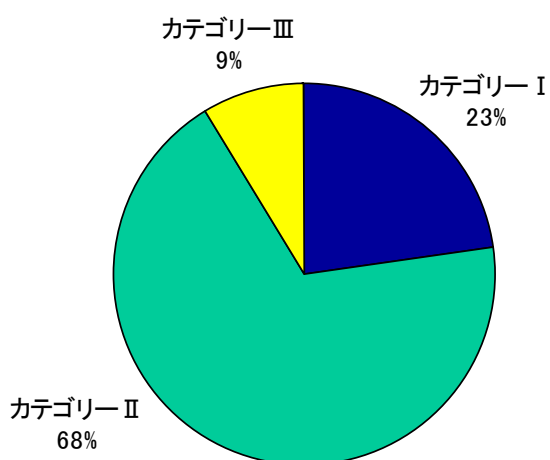
大分市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する地震カテゴリー別の影響度



宮崎県



今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）



地図概況

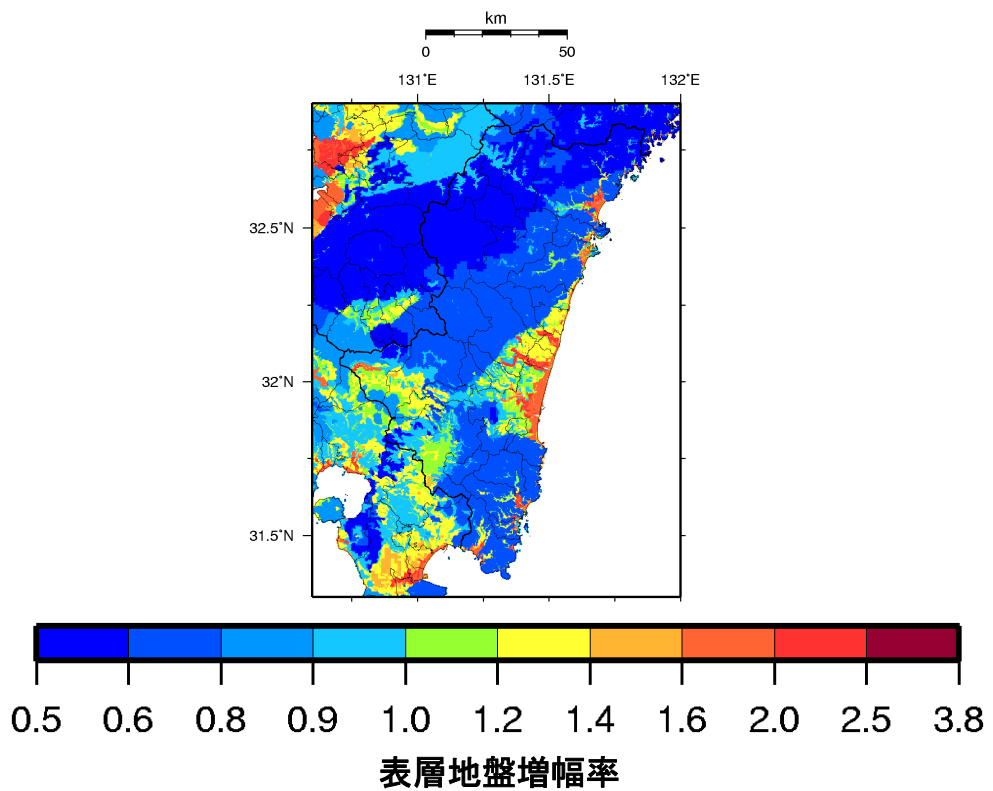
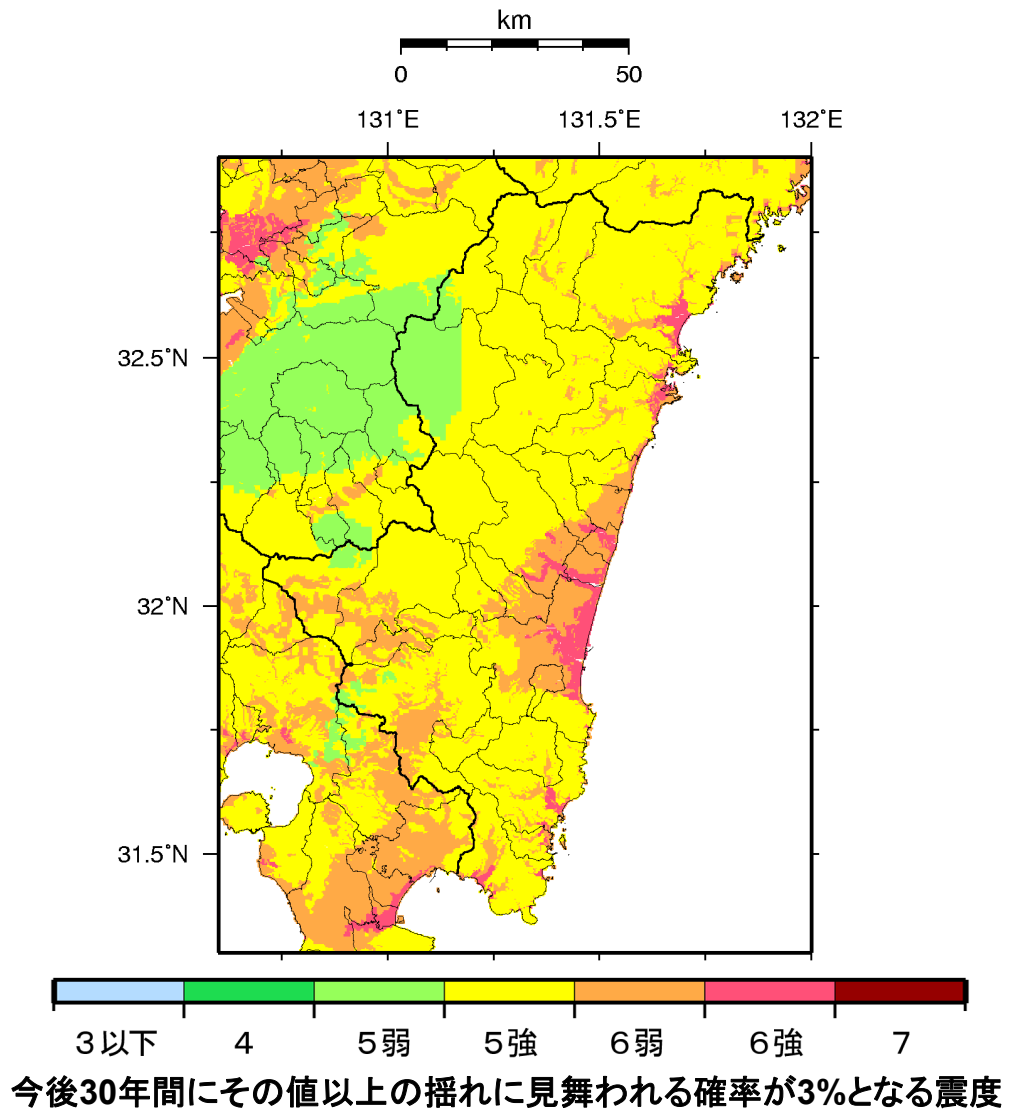
沿岸の平野部（宮崎平野、延岡平野など）や盆地（小林盆地、都城盆地）、河川沿いでは、周囲の山地に比べると地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

宮崎市役所：高い。

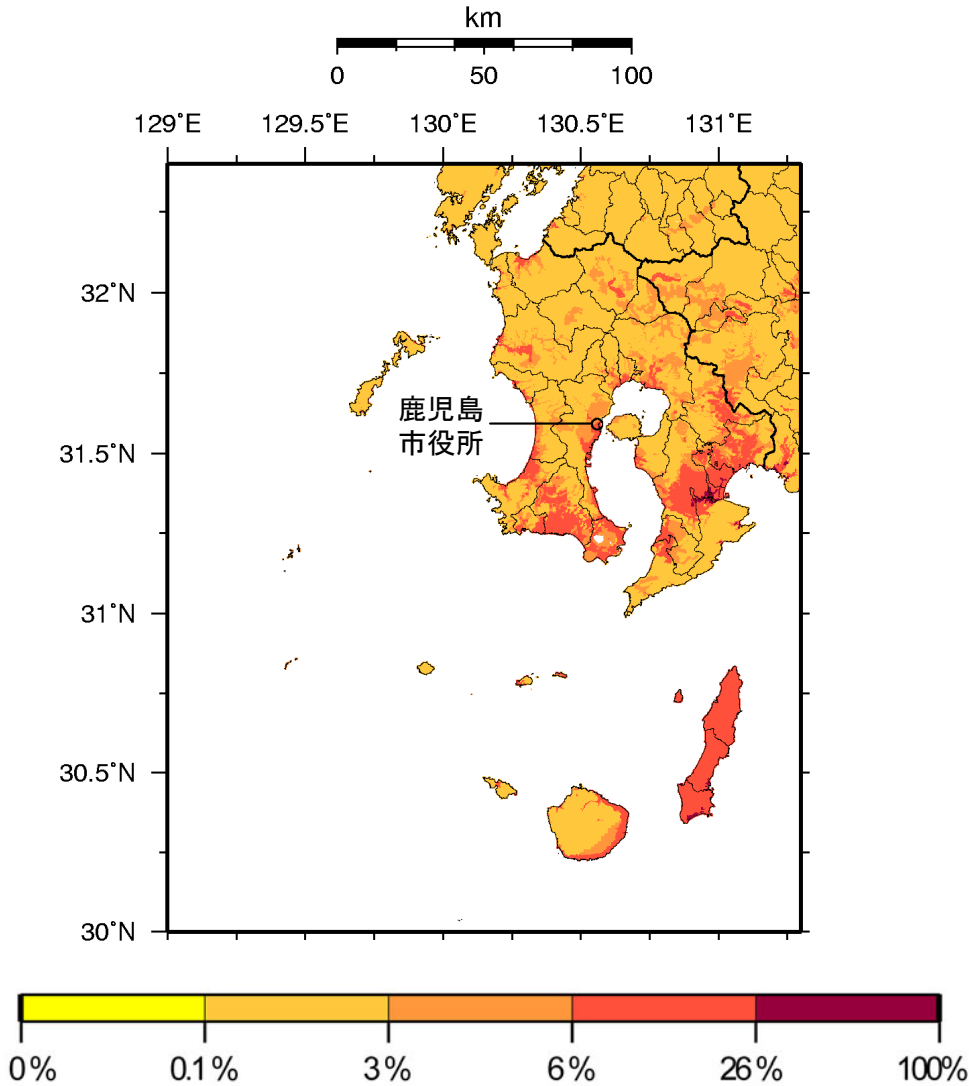
カテゴリーⅡの地震の影響度が最も高くなっています。主に、日向灘のひとまわり小さいプレート間地震や、沈み込むフィリピン海プレート内の震源を予め特定しにくい地震によるものと考えられます。南海トラフの地震（カテゴリーⅠ）の影響度も相対的に高くなっています。

カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

宮崎市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する地震カテゴリー別の影響度



鹿児島県(奄美地方を除く)



今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

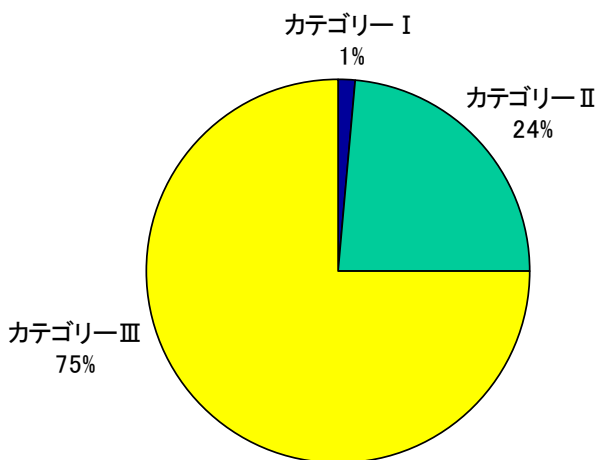
地図概況

島嶼も含めた沿岸の平野部（肝属平野、川内平野など）や盆地（大口盆地など）、河川沿いでは、周囲の山地に比べると地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。

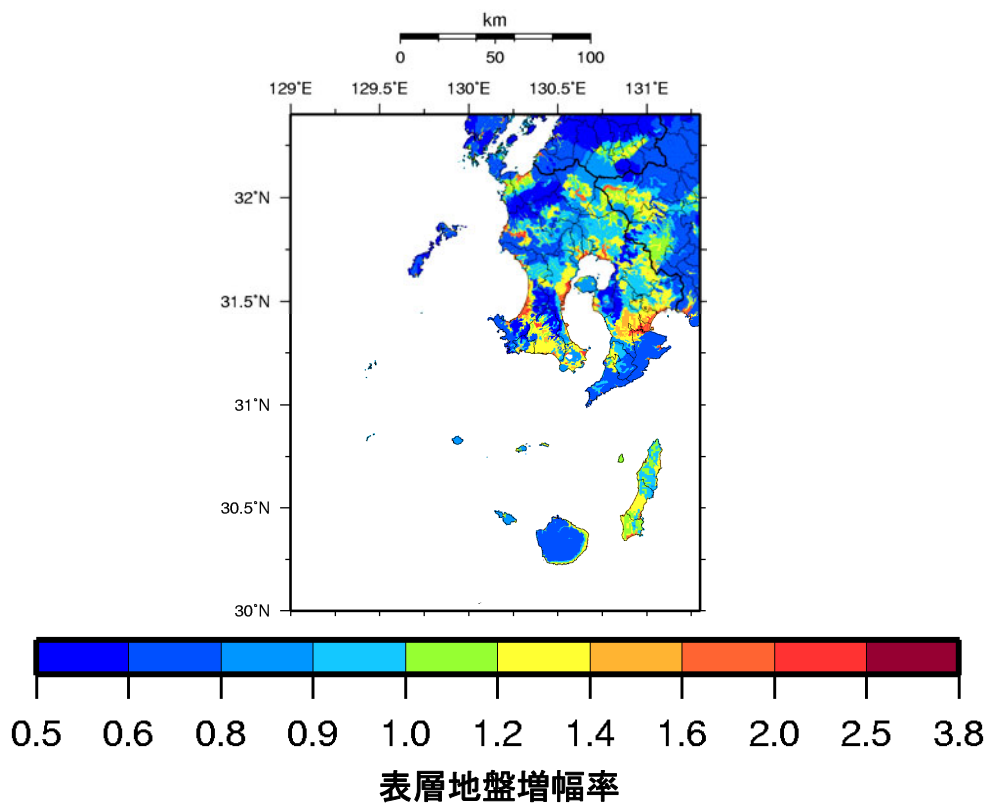
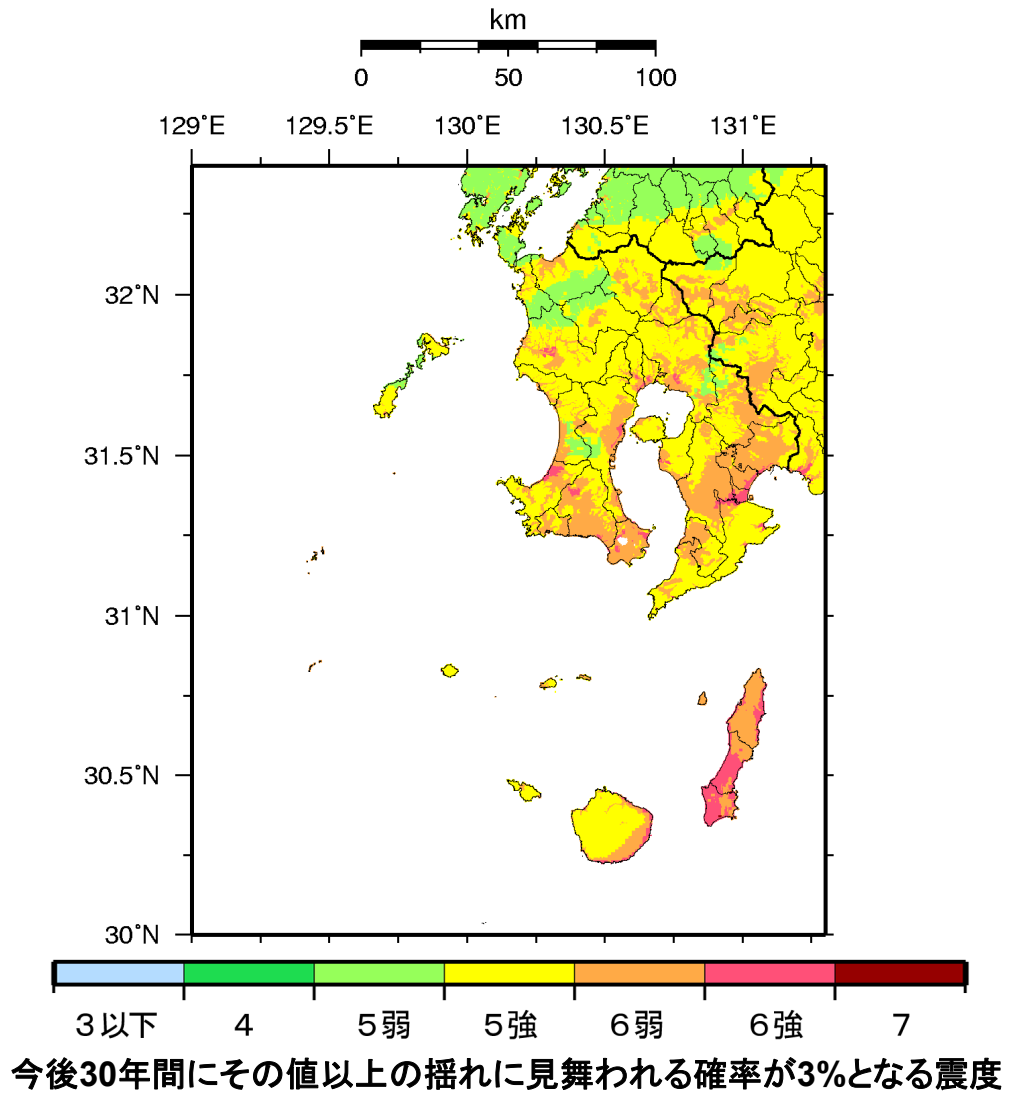
鹿児島市役所：高い。

南西諸島付近の震源断層を予め特定しにくい地震（カテゴリーⅢ）の影響度が最も高くなっています。次いで、沈み込むフィリピン海プレート内の震源を予め特定しにくい地震（カテゴリーⅡ）や、活断層が特定されていない場所で発生する地震（カテゴリーⅢ）の影響が見られます。

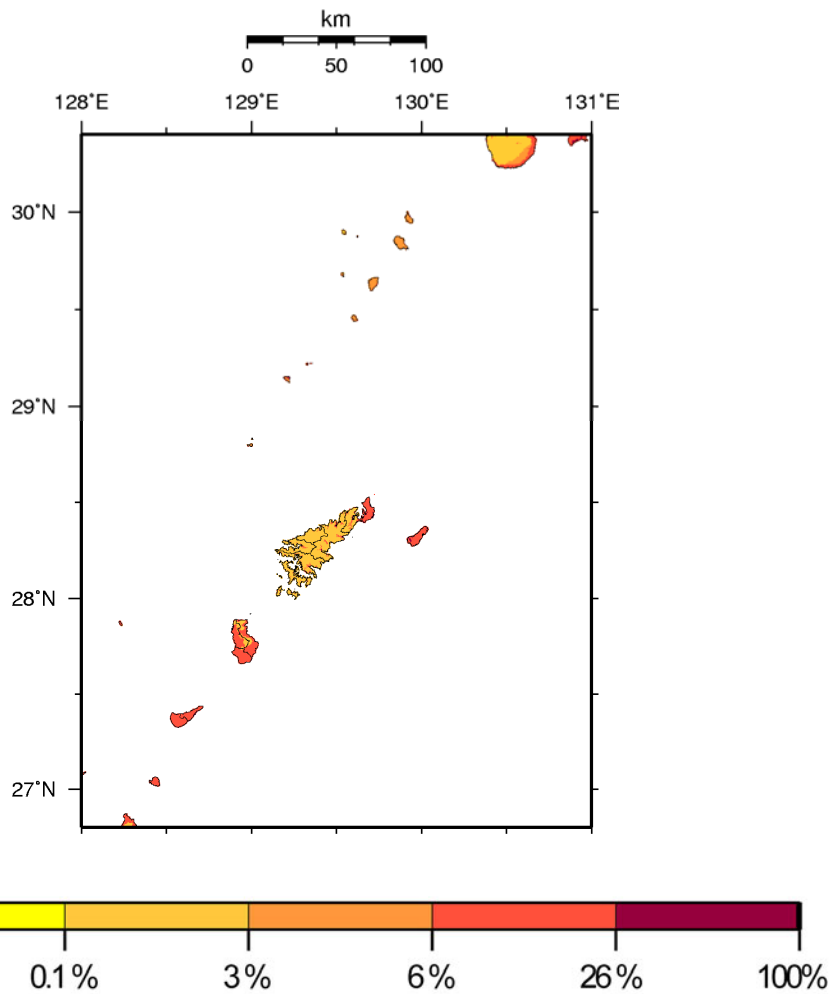
カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震



鹿児島市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



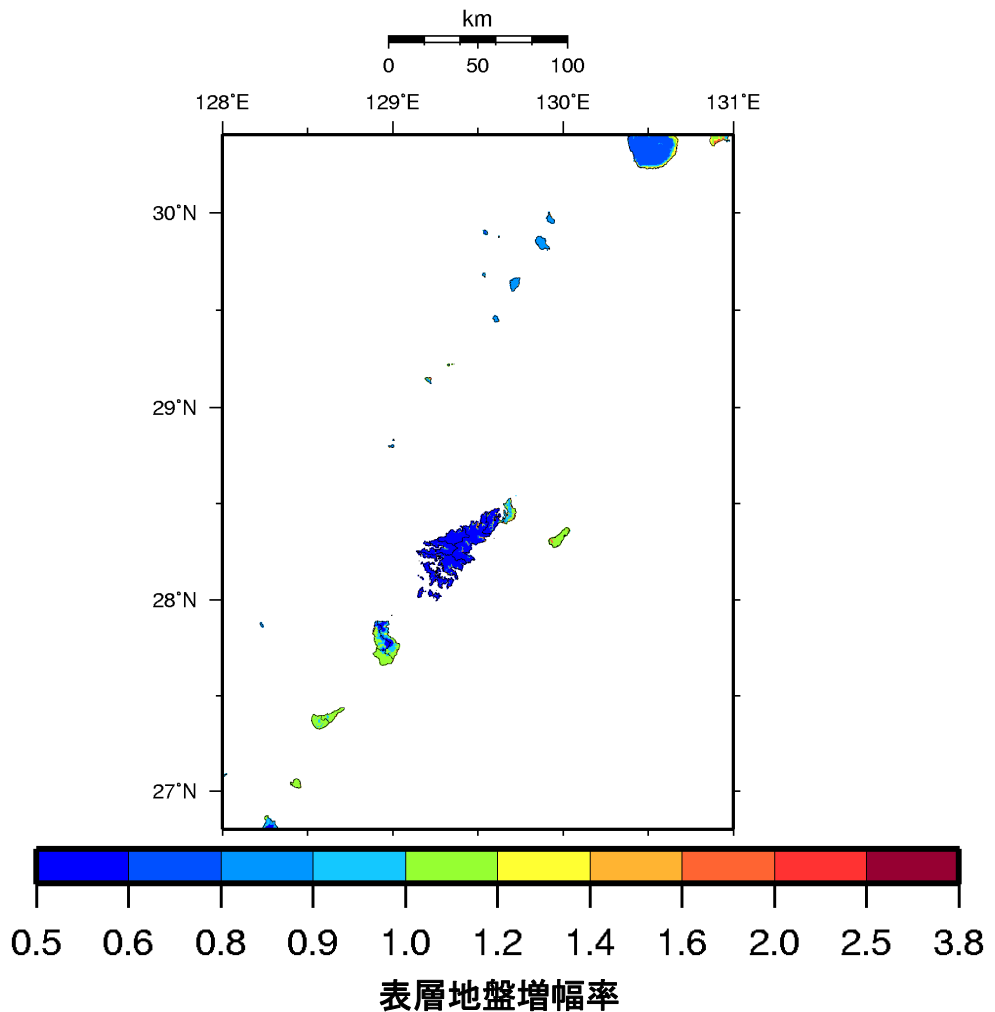
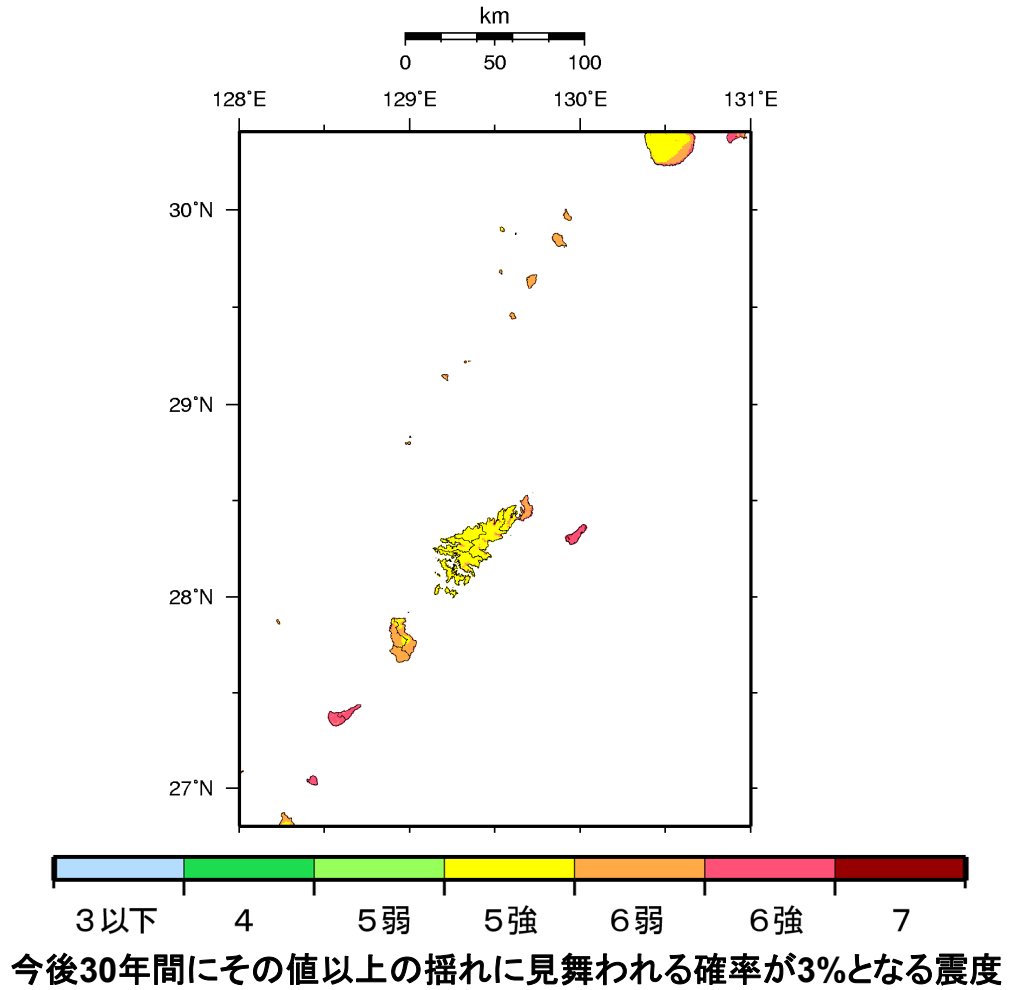
鹿児島県(奄美地方)



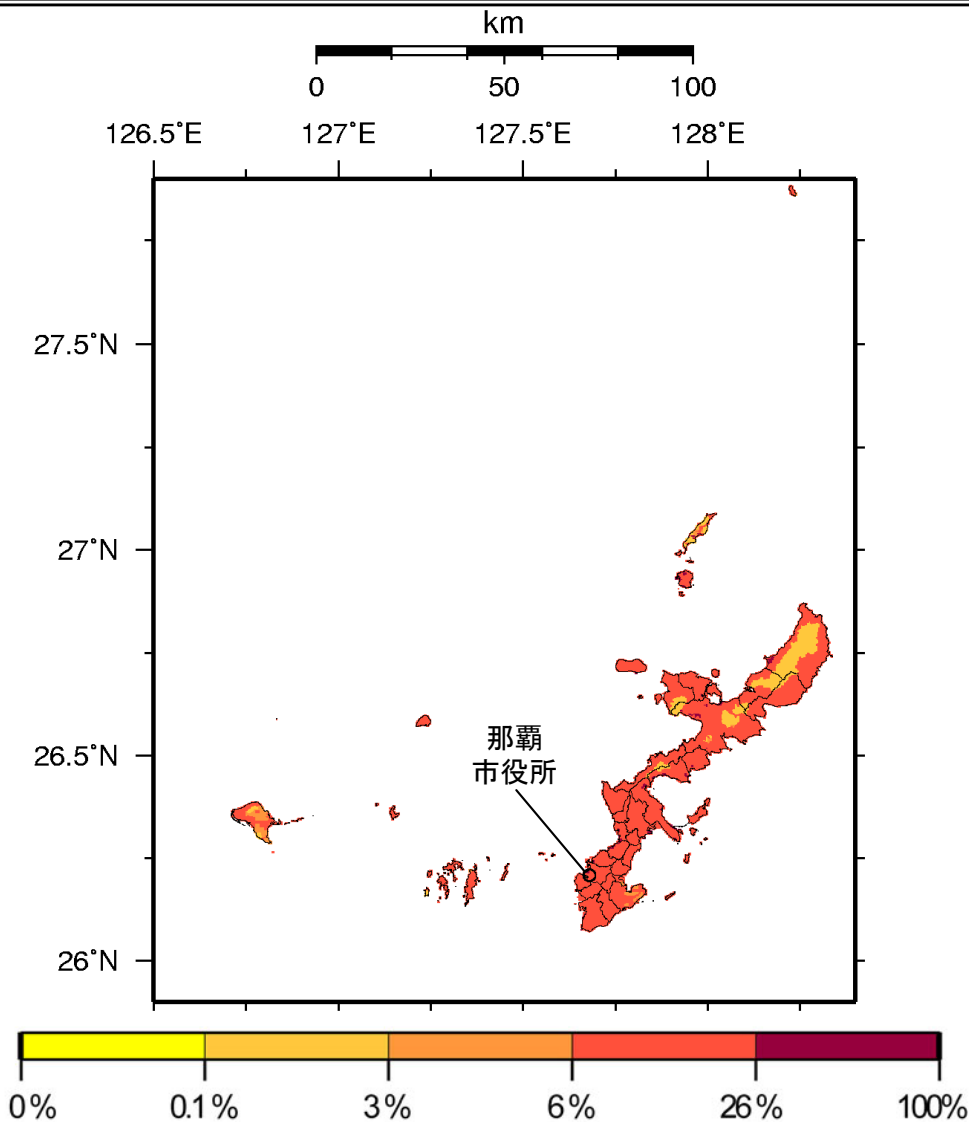
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

沿岸の低地などでは、山地に比べると地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。



沖縄県(宮古島・八重山地方、大東島地方を除く)



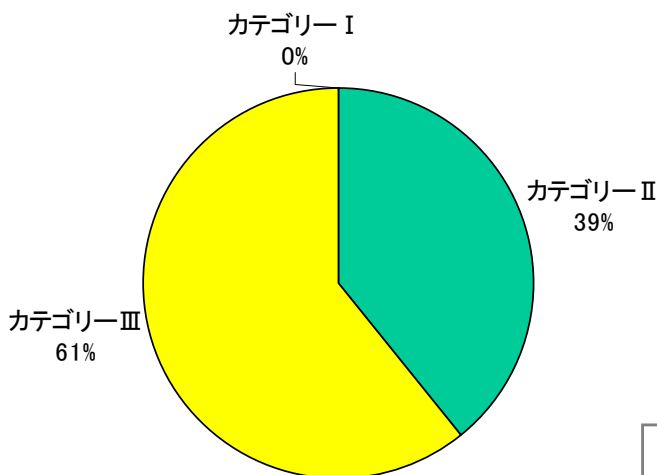
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

沿岸の低地の地盤増幅率は高く、確率・震度ともに大きくなります。山地がある島嶼では、山地の地盤増幅率は低く、沿岸の低地に比べると確率や震度がやや小さくなっています。

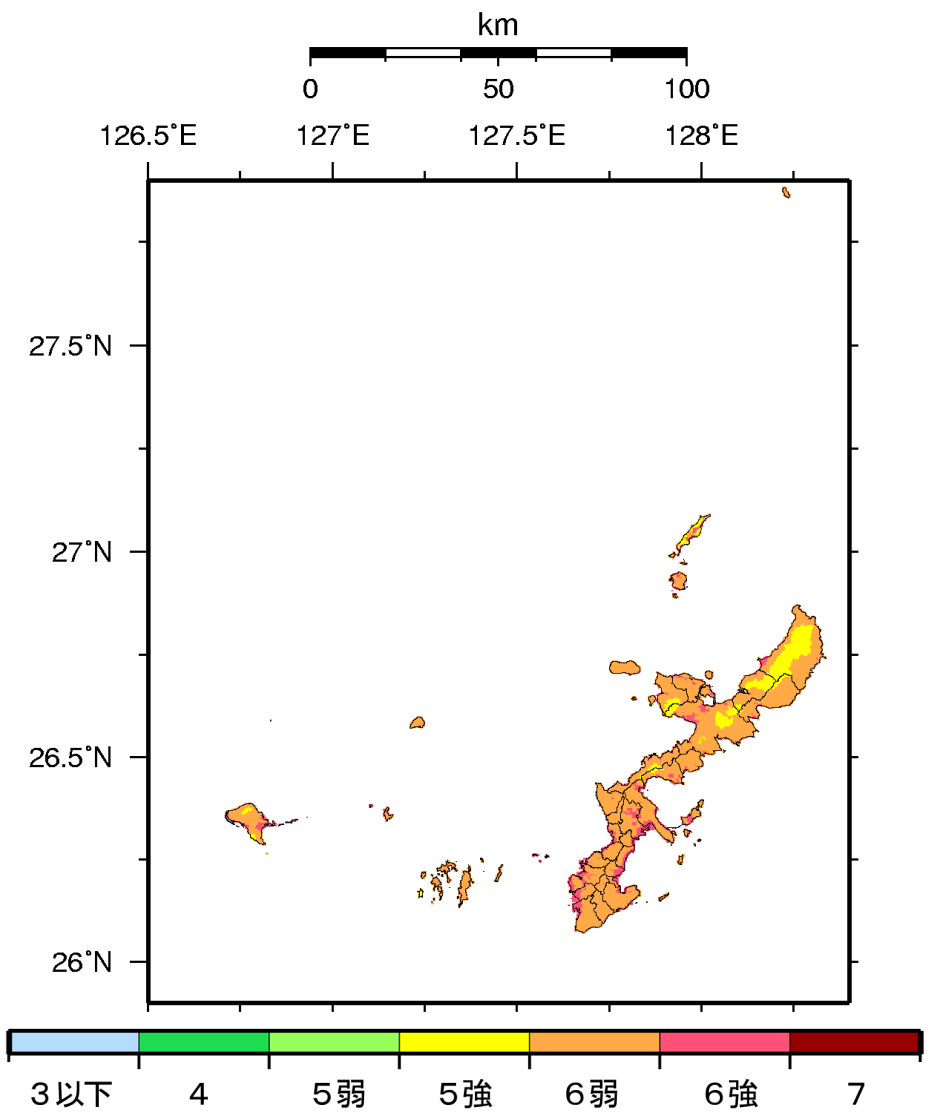
那覇市役所：高い。

南西諸島付近の震源断層を予め特定しにくい地震(カテゴリーⅢ)の影響度が最も高くなっています。次いで、沈み込むフィリピン海プレート内の震源を予め特定しにくい地震(カテゴリーⅡ)の影響度が高くなっています。

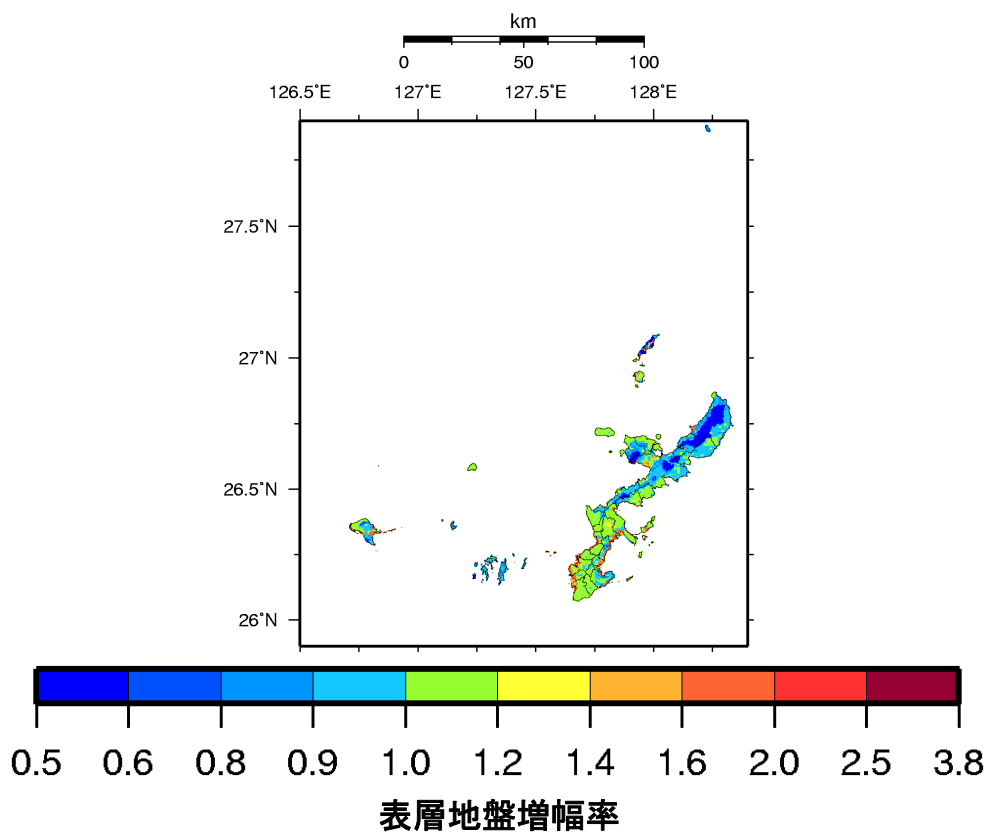


カテゴリーⅠ：海溝型地震のうち震源断層を特定できる地震
 カテゴリーⅡ：海溝型地震のうち震源断層を特定しにくい地震
 カテゴリーⅢ：活断層など陸域と海域の浅い地震

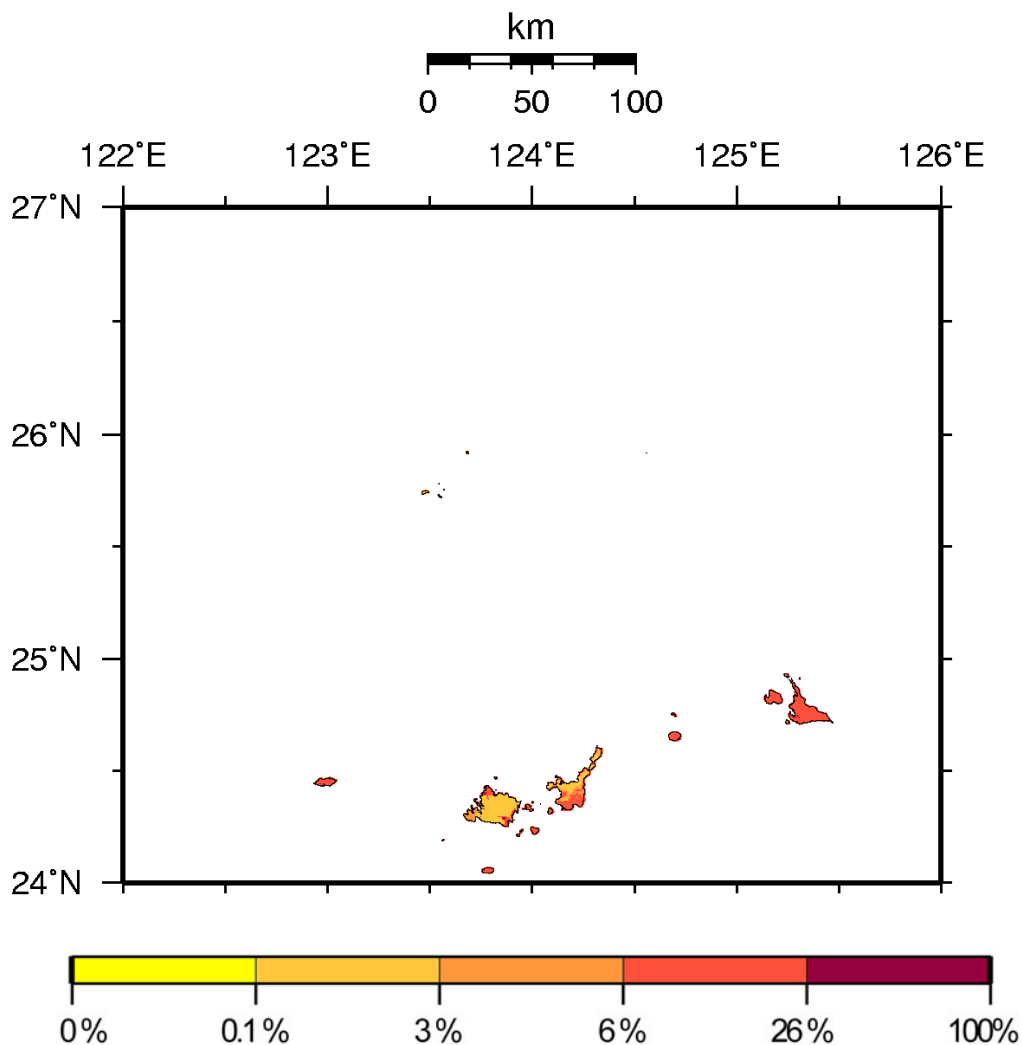
那覇市役所の位置における 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率に対する 地震カテゴリー別の影響度



今後30年間にその値以上の揺れに見舞われる確率が3%となる震度



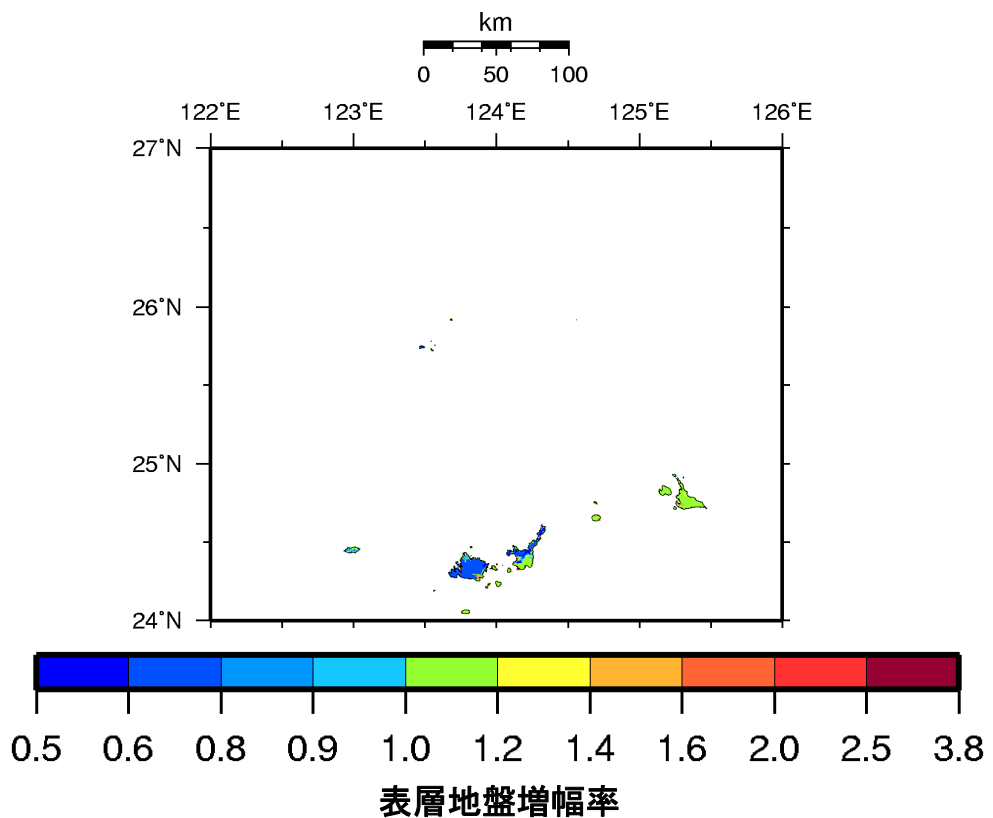
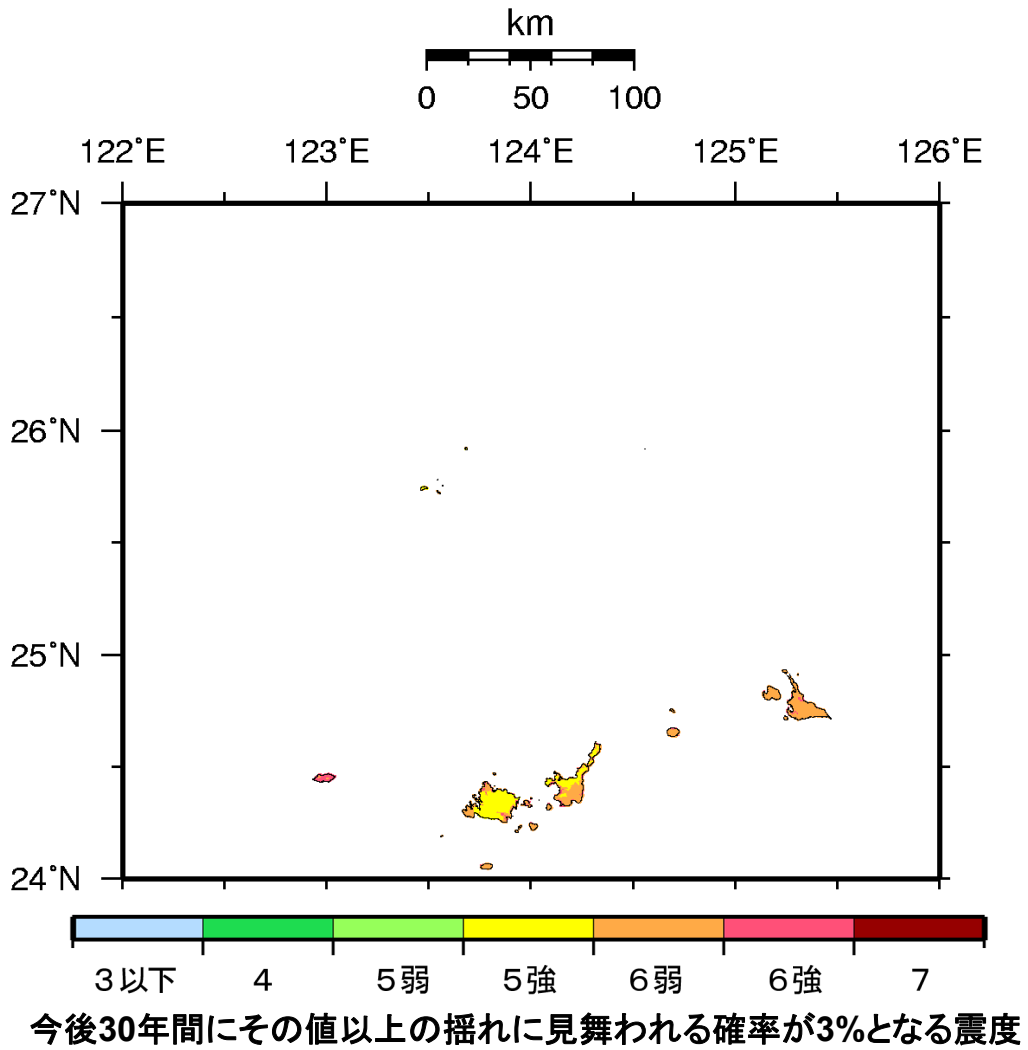
沖縄県(宮古島・八重山地方)



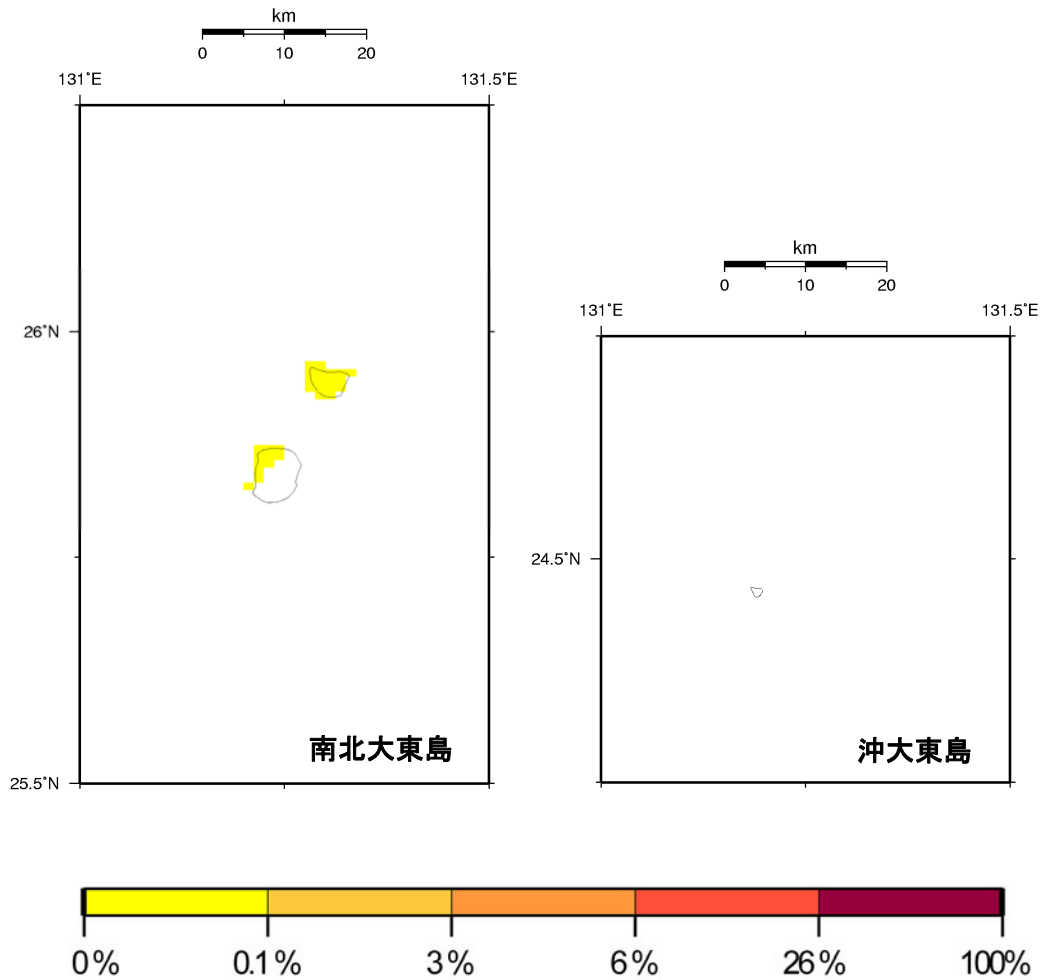
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

沿岸の低地などでは、山地に比べると地盤増幅率が高く、確率・震度ともに大きくなります。



沖縄県(大東島地方)



今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率（30年超過確率）

地図概況

島内の地盤増幅率は概ね一様と考えられています。確率・震度は小さくなっています。

なお、モデル計算条件により確率がゼロのメッシュは、白色に表示されています。

